

徳島市
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
結果報告書

令和8年3月
徳島市

目次

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査設計	1
3	報告書の見方	1
4	評価項目の判定について	1
II	回答者の属性	2
1	性別	2
2	年齢構成	2
3	認定状況	3
4	日常生活圏域	4
5	記入者	4
III	調査結果	5
1	あなたのご家族や生活状況について	5
	（1）家族構成について	5
	（2）介護・介助の状況について	7
	（3）現在の経済状況	13
	（4）現在の住まいについて	14
2	からだを動かすことについて	16
	（1）運動器の機能について	16
	（2）転倒について	17
	（3）外出について	18
3	食べることについて	22
	（1）BMI 算出	22
	（2）口腔機能について	22
	（3）体重減少について	26
	（4）孤食の状況について	26
	（5）オーラルフレイル（口腔の虚弱）の認知度	27
4	毎日の生活について	28
	（1）認知機能について	28
	（2）＜IADL：手段的日常生活動作＞について（老研式活動能力指標）	29
	（3）＜知的能動性＞について（老研式活動能力指標）	32
	（4）＜社会的役割＞について（老研式活動能力指標）	34
	（5）趣味・生きがいについて	36
5	地域での活動について	37
	（1）社会参加の状況	37
	（2）地域づくりへの参加意向	42
6	就労について	48

(1) 現在の就労状態	48
7 たすけあいについて	49
(1) 心配事や愚痴（ぐち）について.....	49
(2) 看病や世話について	53
(3) 家族以外に頼れる人の有無について.....	57
(4) 友人・知人との関係性.....	59
8 健康について	61
(1) 現在の健康状態について.....	61
(2) 主観的幸福感	65
(3) うつ傾向について	67
(4) 飲酒の習慣	68
(5) 喫煙の習慣	69
(6) 現在治療中、後遺症のある病気について.....	70
9 認知症にかかる相談窓口の把握などについて.....	72
(1) 認知症の症状の有無について.....	72
(2) 認知症に関する相談窓口認知度について.....	73
(3) 認知症の把握状況	74
(4) 認知症と地域生活の関わりについて.....	77
10 相談窓口について	81
(1) 介護予防等に関する相談窓口や医療機関について.....	81
11 介護予防について	84
(1) 介護予防等に関する取り組み状況.....	84
(2) 介護予防事業に関する情報の入手先.....	92
12 成年後見制度について	94
(1) 成年後見制度の認知度.....	94
(2) 成年後見制度の利用希望.....	96
13 地域での支え合いの体制について	101
(1) 住民同士の支え合いによる地域づくりの現状.....	101
(2) 生活支援コーディネーターの認知度.....	102
(3) 地域にあれば良いと思う支え合い活動について.....	103
14 終末期の療養について	105
(1) 終末期の療養場所について.....	105
(2) 終末期に関する話し合いについて.....	111
15 介護予防事業で特に力を入れてほしい高齢者施策について.....	114
16 福祉・介護予防などに関係する名称、用語について.....	117
17 評価項目別の判定結果	118
(1) 運動器の機能低下	119
(2) 転倒リスク	121
(3) 閉じこもり傾向	123

(4) 低栄養状態	125
(5) 口腔機能低下	127
(6) 認知機能の低下	129
(7) うつ傾向	131
(8) IADL－手段的日常生活動作.....	134
(9) 知的能動性	136
(10) 社会的役割	138

I 調査概要

1 調査目的

本調査は「第10期徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」の策定に向けて、高齢者の皆さまの日頃の生活や介護の状況などを把握し、基礎資料とするために実施するものです。

2 調査設計

- (1) 調査対象 65歳以上の徳島市在住の高齢者より無作為抽出（要介護1～5以外の方）
- (2) 実施期間 令和7年12月1日～12月22日
- (3) 調査方法 郵送による配布・回収
- (4) 配布・回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回答率
3,395	2,110	2,095	61.7%

3 報告書の見方

- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回ることがあります。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。
- (4) クロス集計等での件数（母数）の少ない集計結果についても、参考までに記載しています。
- (5) 0%については表示を省略している場合があります。
- (6) 一般高齢者とは、「総合事業対象者」、「要支援1・2」に該当しない方のことをいいます。

4 評価項目の判定について

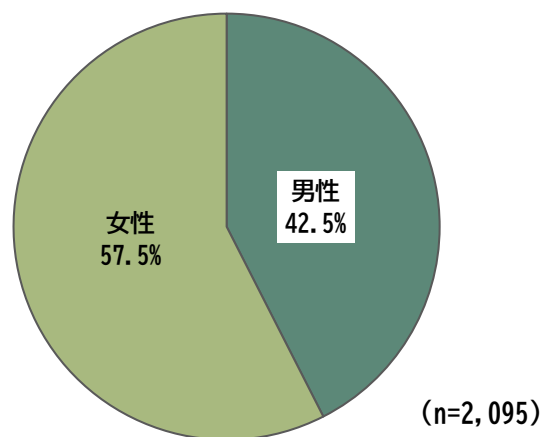
評価項目別の判定結果については、国が配布した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」実施の手引き、及び老研式活動能力指標に基づき集計したものです。

各種リスク判定の「非該当」には判定不能の場合も含まれます。

Ⅱ 回答者の属性

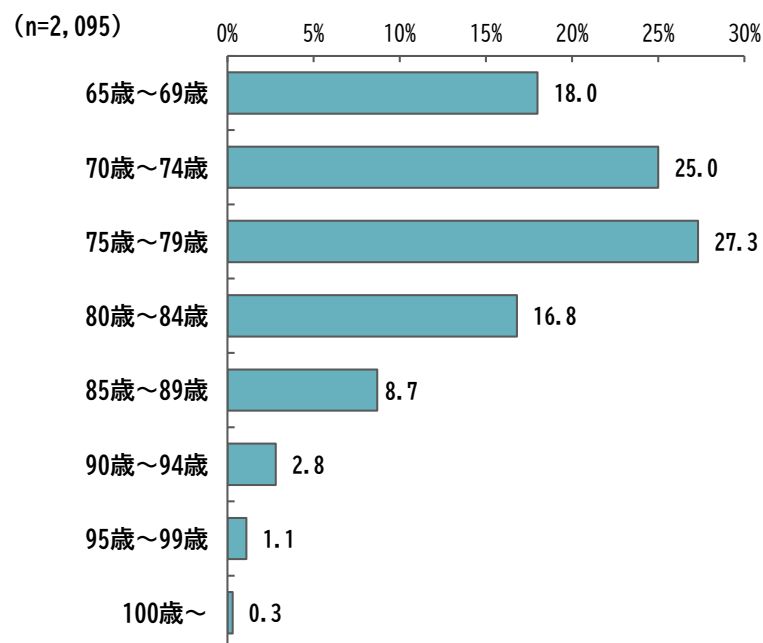
1 性別

回答者の性別は、「男性」が42.5%、「女性」が57.5%となっており、女性が15.0ポイント上回っています。

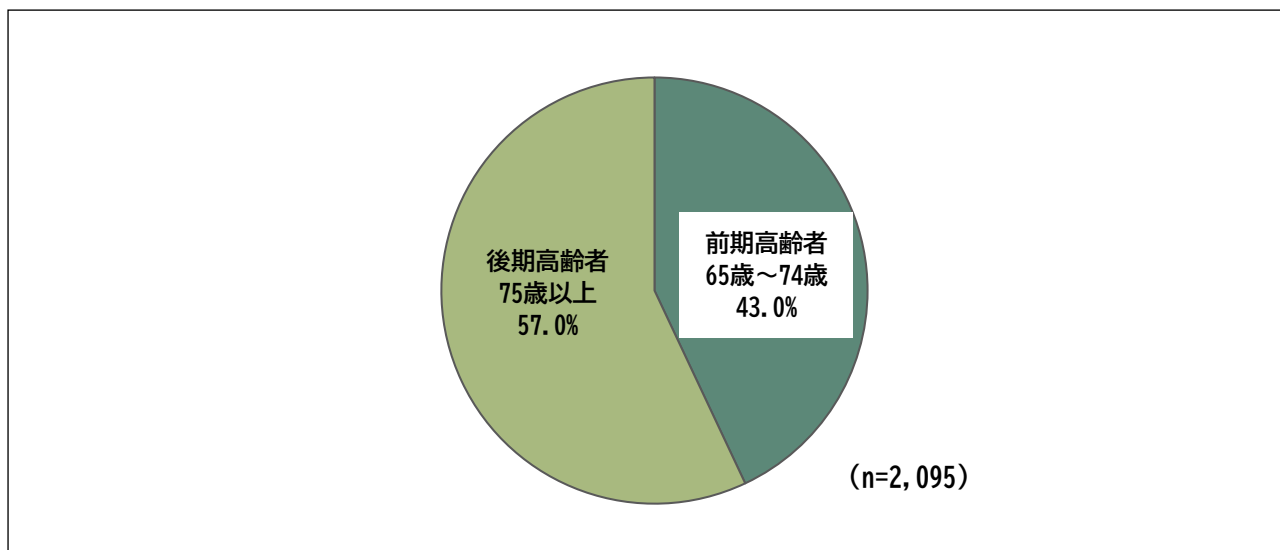


2 年齢構成

回答者の年齢は、「75歳～79歳」が27.3%と最も高く、次いで「70歳～74歳」(25.0%)、「65歳～69歳」(18.0%)となっています。

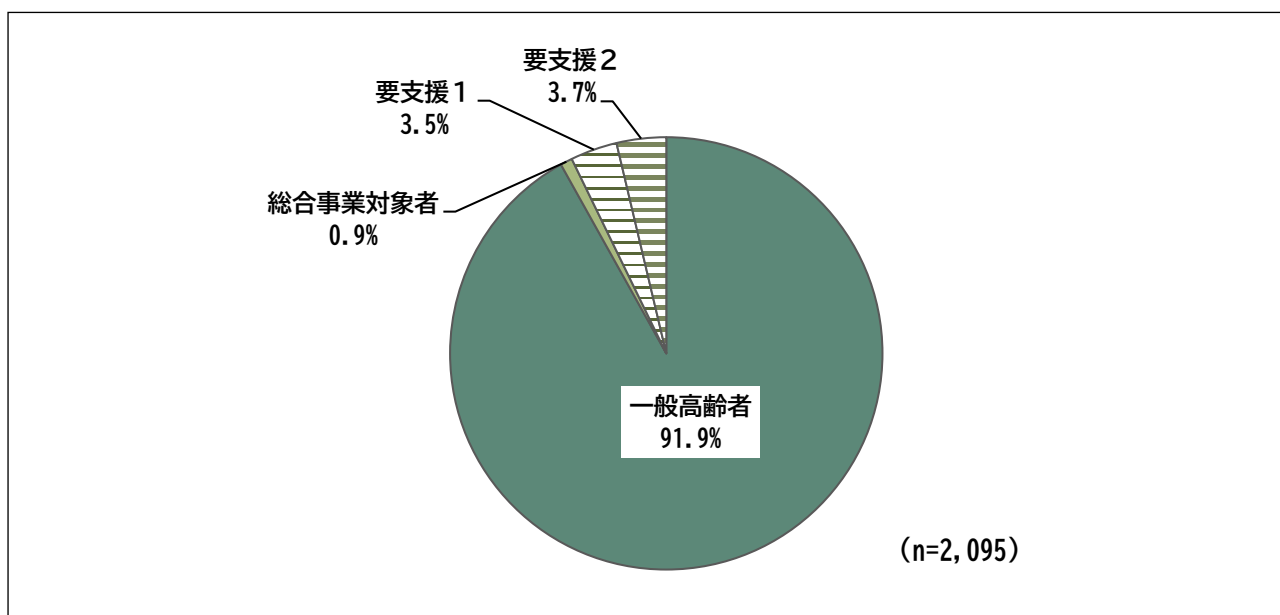


年齢を 65～74 歳の前期高齢者と 75 歳以上の後期高齢者とに分類してみると、前期高齢者が 43.0%、後期高齢者は 57.0%となっています。



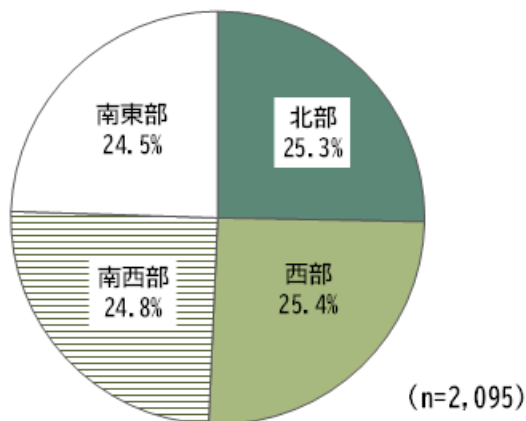
3 認定状況

回答者の認定状況をみると、「一般高齢者」が 91.9%を占めており、「総合事業対象者」が 0.9%、「要支援 1」が 3.5%、「要支援 2」が 3.7%となっています。



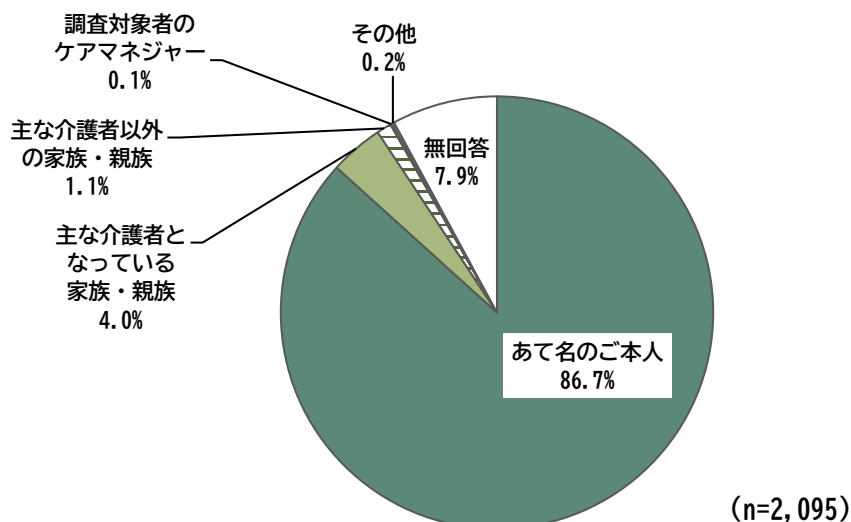
4 日常生活圏域

日常生活圏域をみると、「西部」が 25.4%と最も高く、次いで「北部」(25.3%)、「南西部」(24.8%)、「南東部」(24.5%)となっています。



5 記入者

記入者をみると、「あて名のご本人」が 86.7%を占めており、「主な介護者となっている家族・親族」が 4.0%、「主な介護者以外の家族・親族」が 1.1%、「調査対象者のケアマネジャー」が 0.1%、「その他」が 0.2%となっています。



Ⅲ 調査結果

1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成について

問1 (1) 家族構成をお教えてください。(1つだけ)

【全体の傾向】

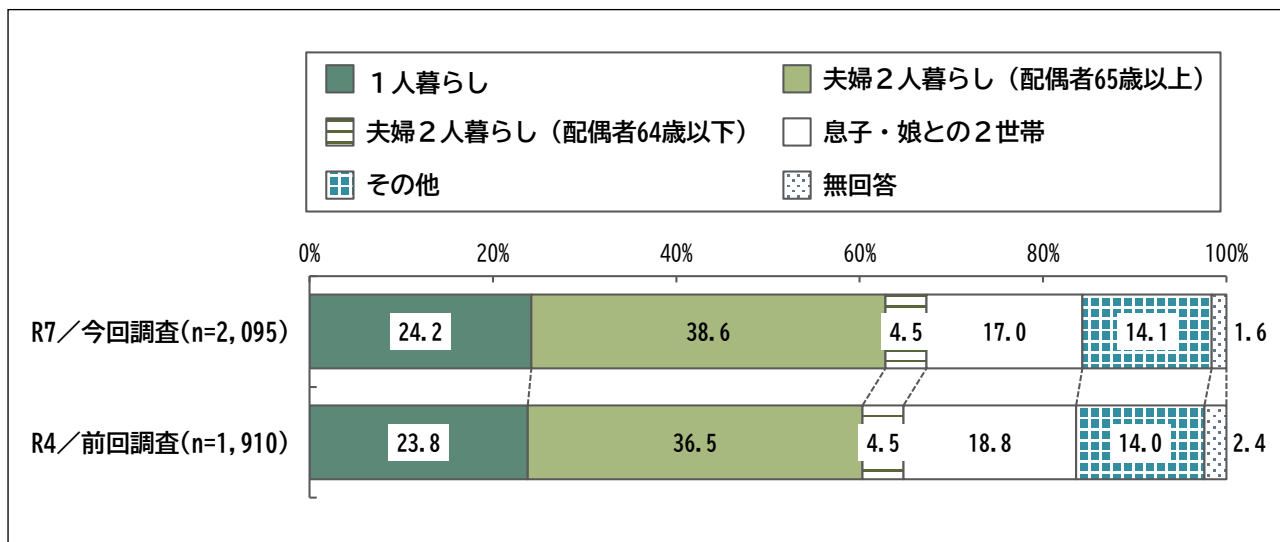
家族構成をみると、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 38.6%と最も高く、次いで「1人暮らし」（24.2%）、「息子・娘との2世帯」（17.0%）となっています。

前回調査と比較すると、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 2.1 ポイント増加しています。

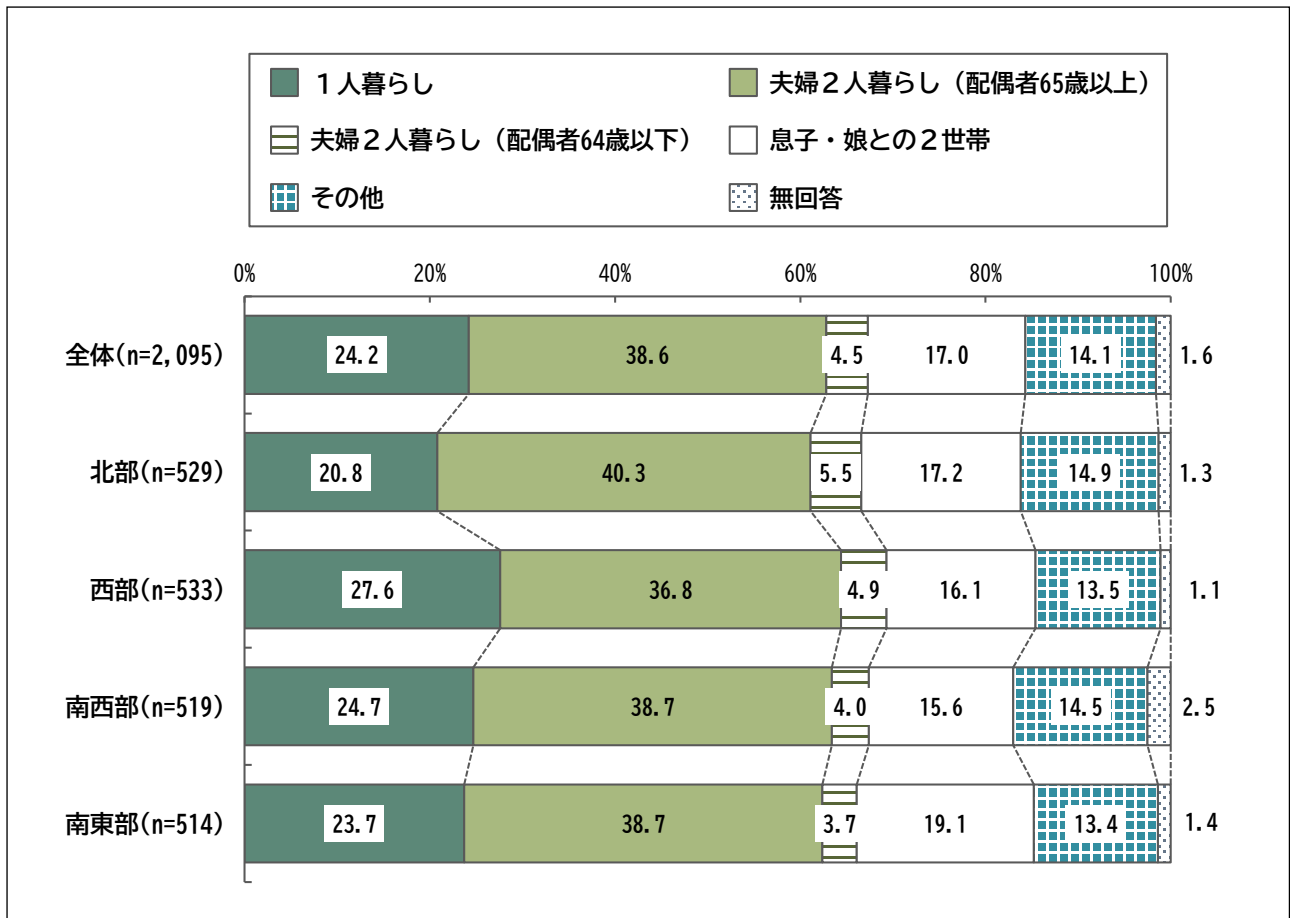
【属性別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域においても「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が最も高く、次いで「1人暮らし」、「息子・娘との2世帯」の順となっています。

図表 1 家族構成について（全体、前回比較）



図表 2 家族構成について（全体、圏域別）



（２）介護・介助の状況について

問１（２）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。（１つだけ）

【全体の傾向】

普段の生活における介護の必要性についてみると、全体の 80.9%が「介護・介助は必要ない」と回答しています。

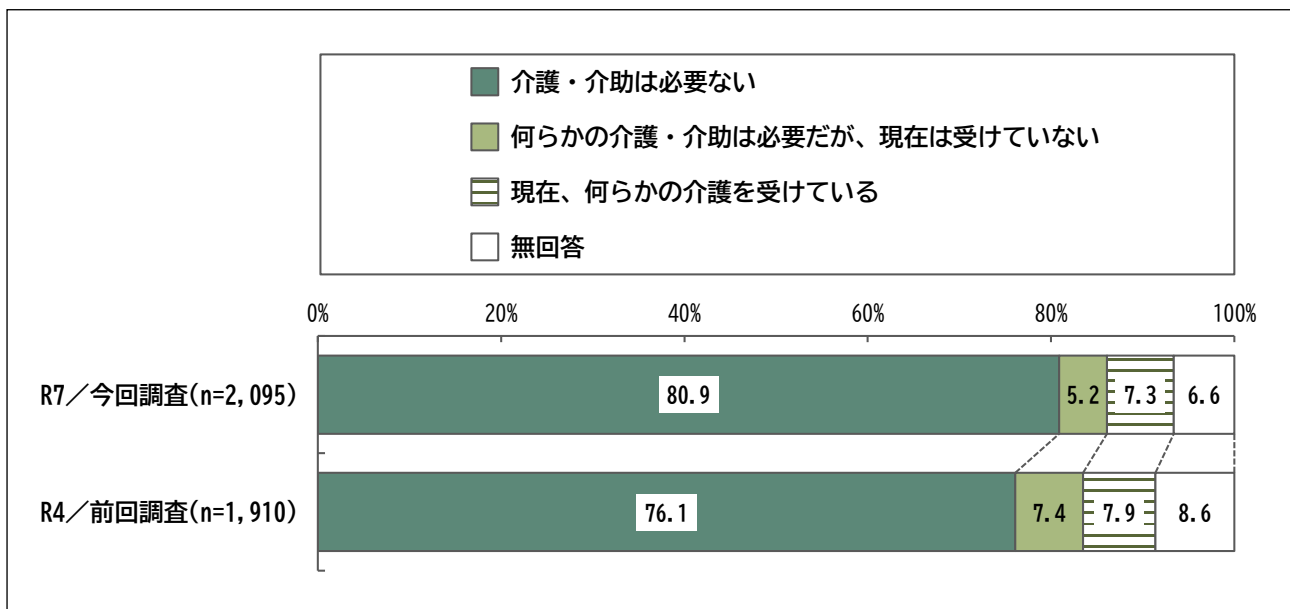
前回調査と比較すると、「介護・介助は必要ない」が 4.8 ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

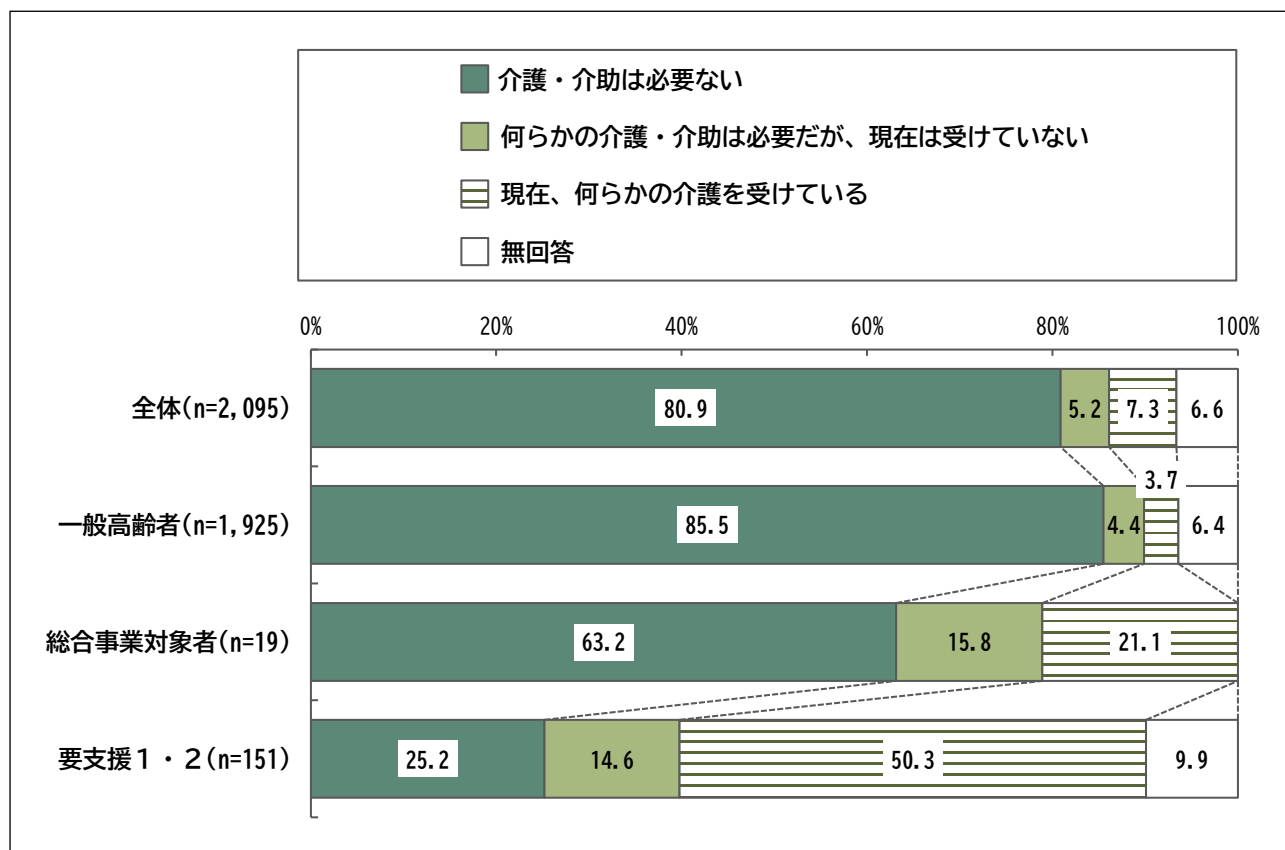
認定状況別にみると、一般高齢者では「介護・介助は必要ない」が 8 割以上を占めています。

また、要支援 1・2 では「現在、何らかの介護を受けている」が 5 割を超えています。

図表 3 介護・介助の必要性（全体、前回比較）



図表 4 介護・介助の必要性（全体、認定状況別）



※問１（２）で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と答えた方のみ

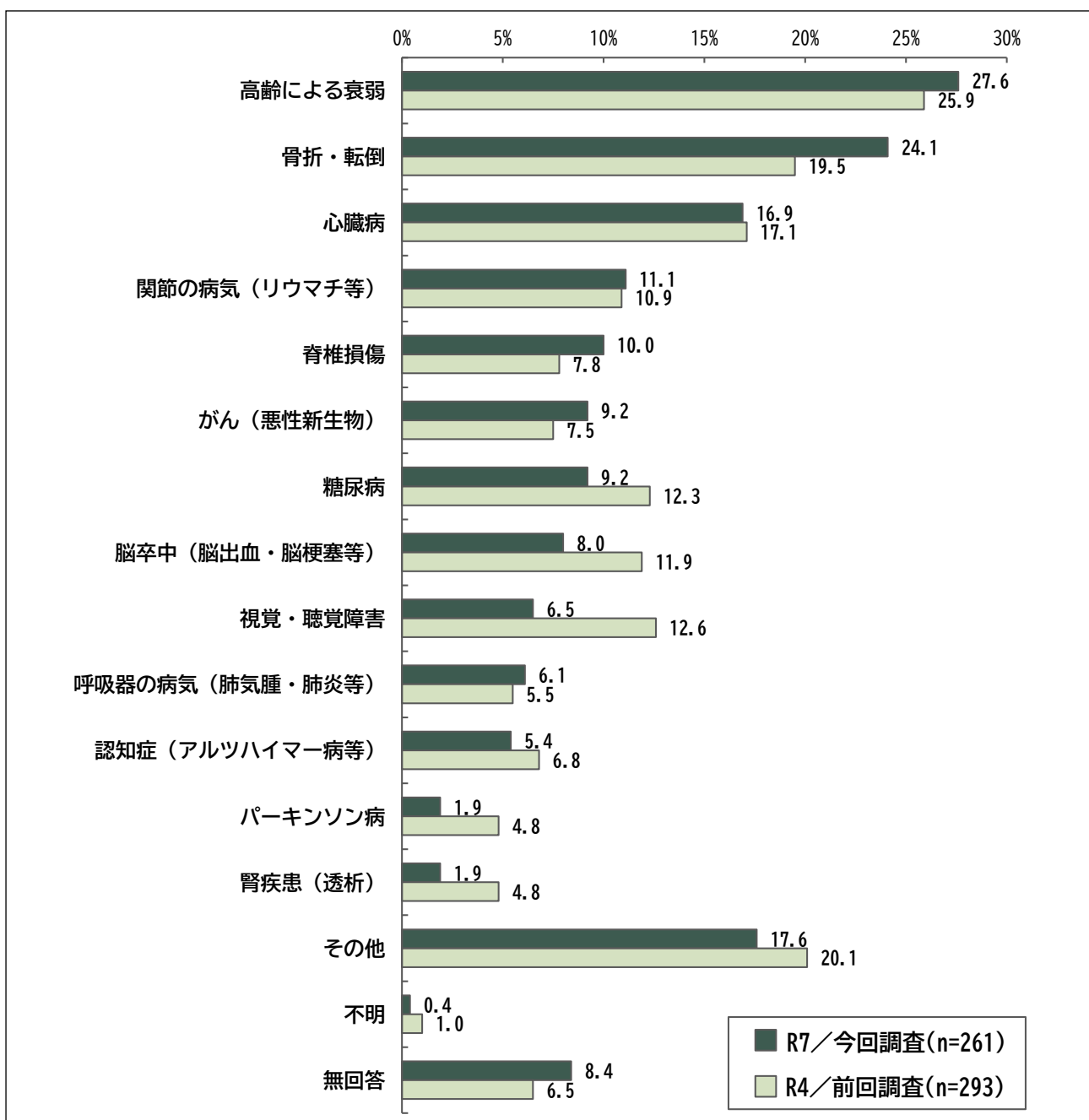
問１（２－１）介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（いくつでも）

【全体の傾向】

介護・介助が必要になった原因についてみると、「高齢による衰弱」が27.6%と最も多く、「骨折・転倒」（24.1%）、「心臓病」（16.9%）などとなっています。一方で、「その他」が17.6%と第3位となっています。

前回調査と比較すると、「視覚・聴覚障害」が6.1ポイント減少しています。

図表５ 介護・介助の主な原因（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

認定状況別にみると、一般高齢者では「高齢による衰弱」が第1位となっており、「がん（悪性新生物）」が第4位に挙がっています。要支援1・2では「骨折・転倒」が第1位、「脊椎損傷」が第4位となっています。

図表 6 介護・介助の主な原因（全体、認定状況別／複数回答）

<上位5位/単位%>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体(n=261)		高齢による衰弱	骨折・転倒	心臓病	関節の病気（リウマチ等）	脊椎損傷
		27.6	24.1	16.9	11.1	10.0
認定状況別	一般高齢者(n=156)	高齢による衰弱	骨折・転倒	心臓病	がん（悪性新生物）	関節の病気（リウマチ等）
		21.8	17.9	16.7	12.8	10.3
	総合事業対象者(n=7)	高齢による衰弱	心臓病／関節の病気（リウマチ等）		がん（悪性新生物）／糖尿病／呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）	
		57.1	28.6		14.3	
	要支援1・2(n=98)	骨折・転倒	高齢による衰弱	心臓病	脊椎損傷	関節の病気（リウマチ等）
		35.7	34.7	16.3	12.2	11.2

※問１（２）で「現在、何らかの介護を受けている」と答えた方のみ

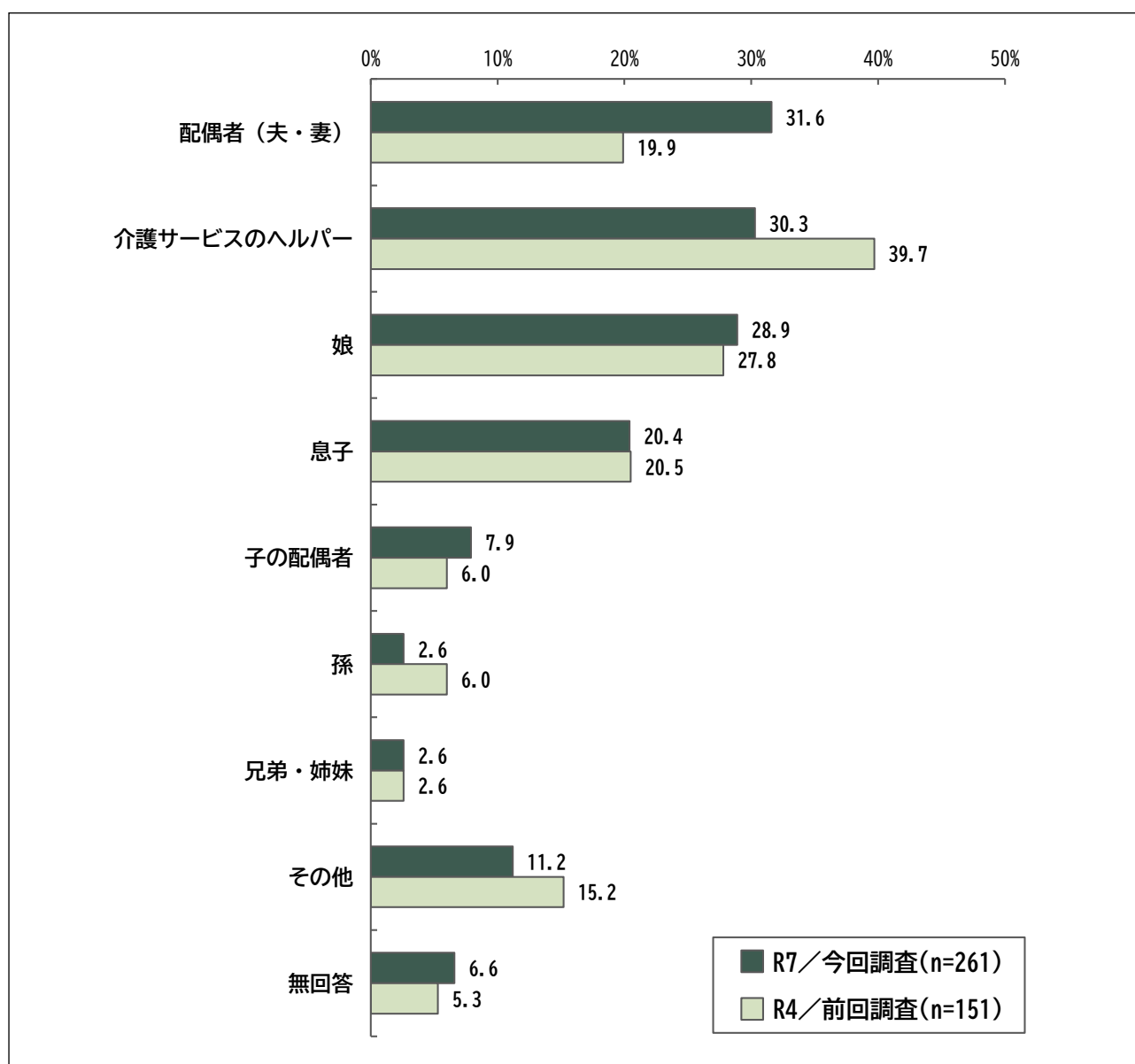
問１（２－２）主にどなたの介護・介助を受けていますか。（いくつでも）

【全体の傾向】

主にどなたの介護を受けているかについてみると、「配偶者（夫・妻）」が31.6%と最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」（30.3%）、「娘」（28.9%）、「息子」（20.4%）、「子の配偶者」（7.9%）と続いています。

前回調査と比較すると、「配偶者（夫・妻）」が11.7ポイント増加し、順位が前回の第4位から第1位となっています。

図表 7 主な介護・介助者（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは「介護サービスのヘルパー」、夫婦2人暮らしでは配偶者の年齢に関わらず「配偶者（夫・妻）」、息子・娘との2世帯では「娘」がそれぞれ第1位となっています。

図表 8 主な介護・介助者（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=152)		配偶者（夫・妻）	介護サービスのヘルパー	娘
		31.6	30.3	28.9
家族構成別	1人暮らし(n=49)	介護サービスのヘルパー	娘	息子
		46.9	30.6	20.4
	夫婦2人暮らし （配偶者65歳以上） （n=41）	配偶者（夫・妻）	介護サービスのヘルパー	娘
		78.0	29.3	14.6
	夫婦2人暮らし （配偶者64歳以下） （n=4）	配偶者（夫・妻）		
		50.0		
	息子・娘との 2世帯(n=41)	娘	息子	配偶者（夫・妻）
		46.3	36.6	19.5
	その他(n=17)	介護サービスのヘルパー／息子		配偶者（夫・妻）／娘
		29.4		23.5

(3) 現在の経済状況

問1 (3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

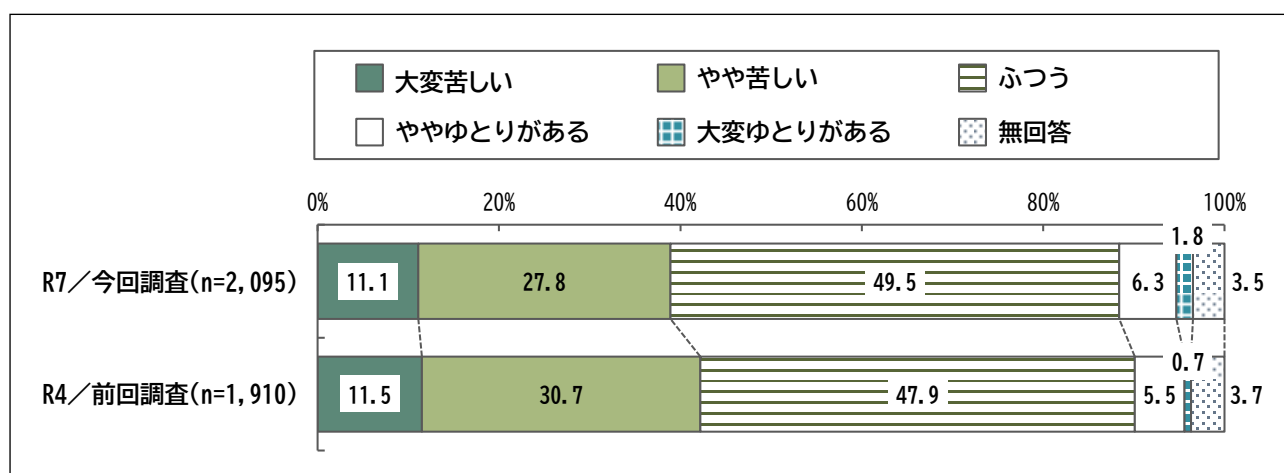
現在の暮らしの経済状況をみると、「ふつう」が49.5%と最も高くなっています。

また、「大変苦しい」(11.1%)と「やや苦しい」(27.8%)を合計した『苦しい』は38.9%であるのに対し、「ややゆとりがある」(6.3%)と「大変ゆとりがある」(1.8%)を合わせた『ゆとりがある』は8.1%にとどまっています。前回調査と比較すると、「大変苦しい」、「やや苦しい」がいずれも減少し、『苦しい』と感じる人が3.3ポイント減少しています。

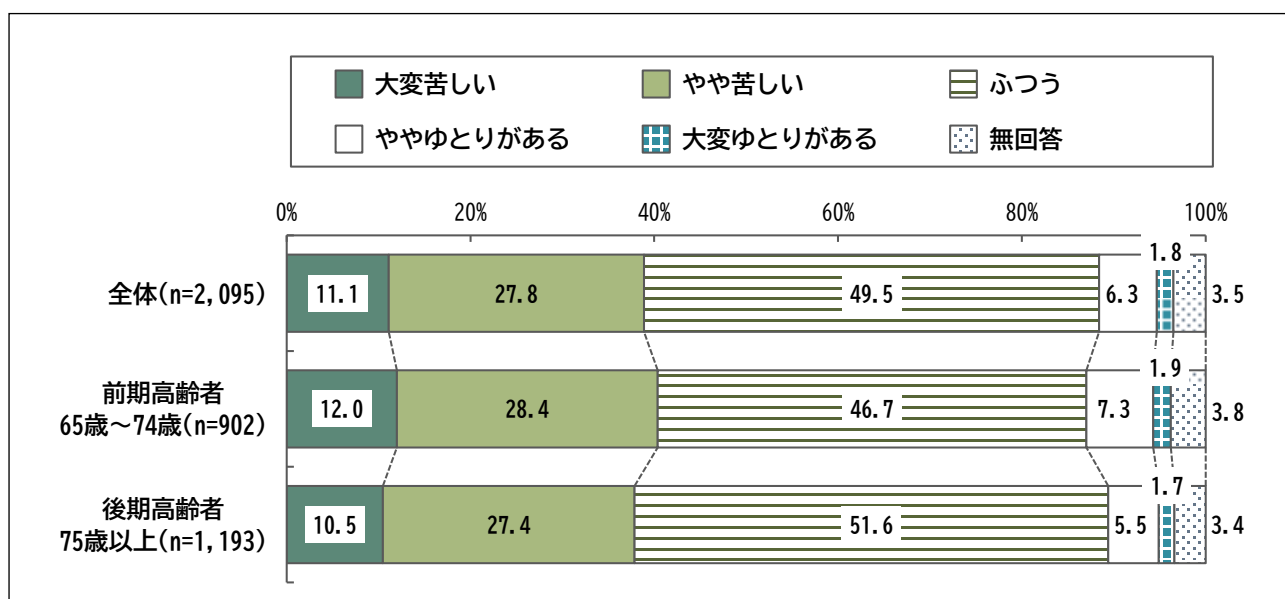
【属性別の傾向】

年齢構成別にみると、『苦しい』と感じている人は、前期高齢者(40.4%)が後期高齢者(37.9%)を2.5ポイント上回っています。

図表 9 現在の経済状況について（全体、前回比較）



図表 10 現在の経済状況について（全体、年齢構成別）



（４）現在の住まいについて

問１（４）お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。（１つだけ）

【全体の傾向】

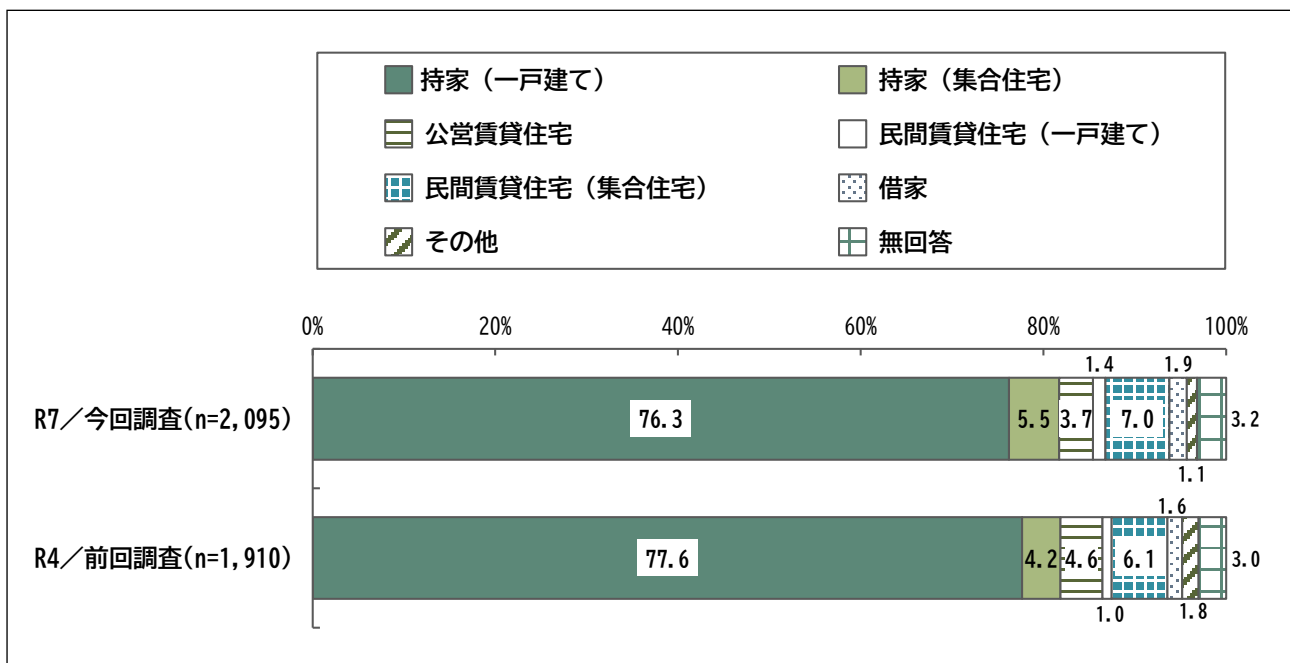
現在の住まいについてみると、「持家（一戸建て）」が76.3%を占めています。

前回調査と比較すると、「持家（一戸建て）」が1.3ポイント減少しています。

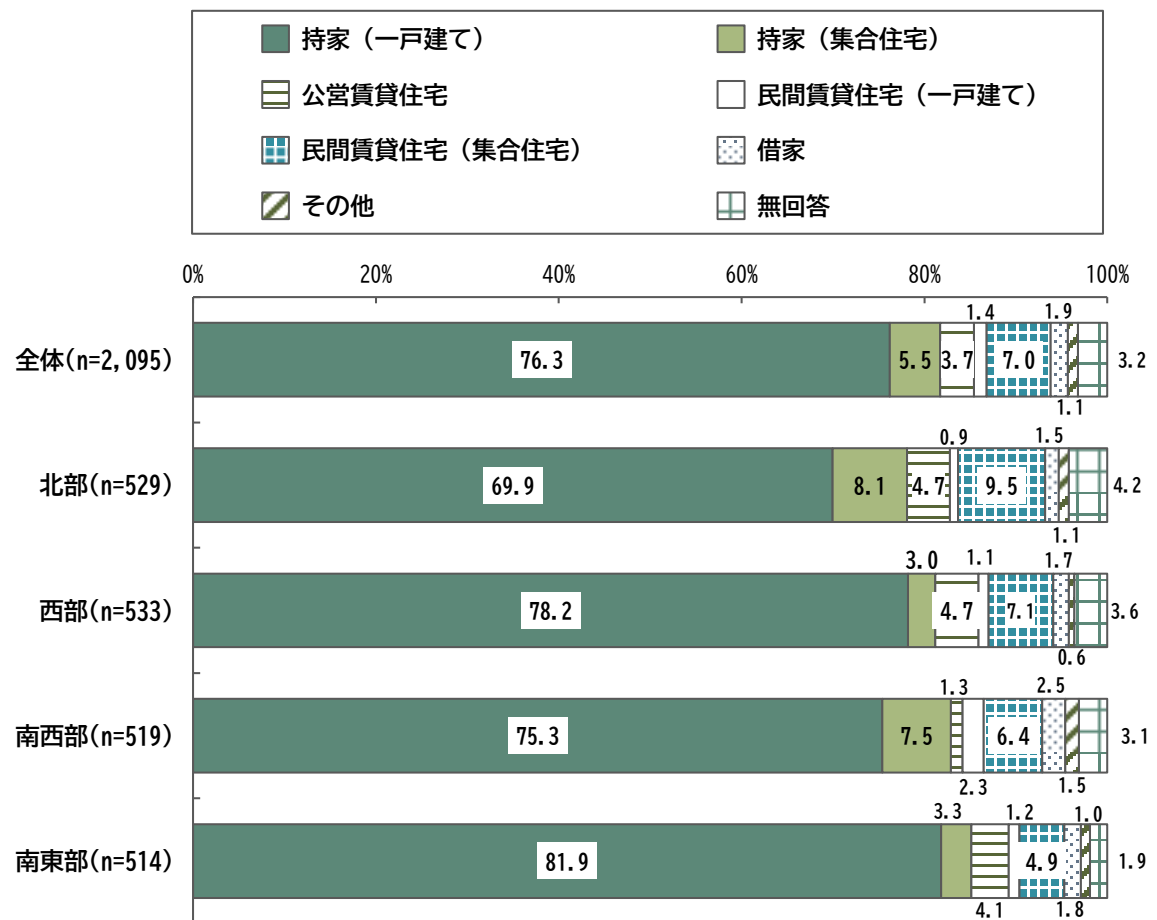
【属性別の傾向】

圏域別にみると、北部を除くすべての圏域で「持家（一戸建て）」が7割以上を占めており、特に南東部では81.9%と8割を超えています。

図表 11 現在の住まいについて（全体、前回比較）



図表 12 現在の住まいについて（全体、圏域別）



2 からだを動かすことについて

(1) 運動器の機能について

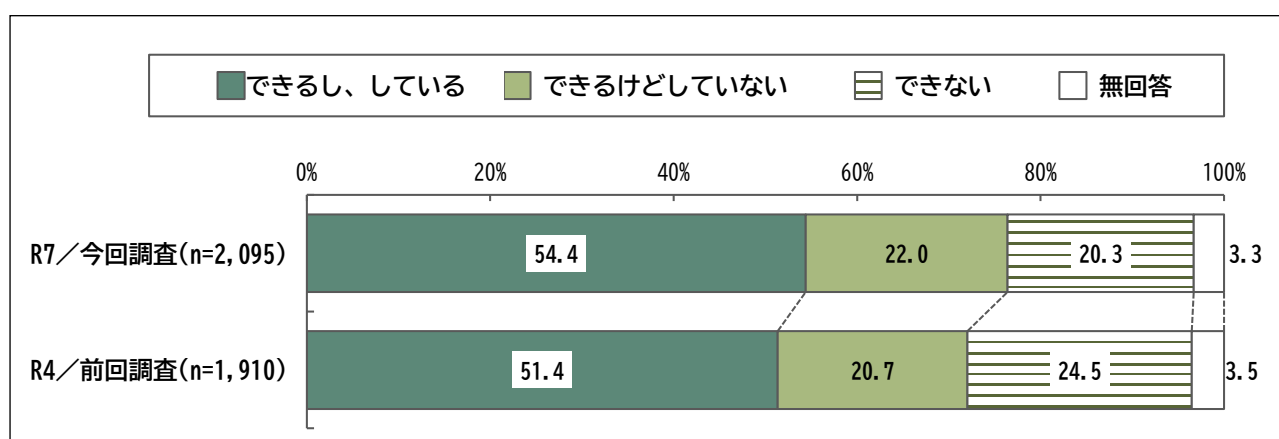
問2 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

階段を手すりや壁をつたわずに昇れるかどうかについてみると、「できるし、している」が54.4%と最も高く、5割以上の方が自分の力のみで昇ることができています。

前回調査と比較すると、「できない」が4.2ポイント減少しています。

図表 13 階段を手すり等を使用せずに昇れるか（全体、前回比較）



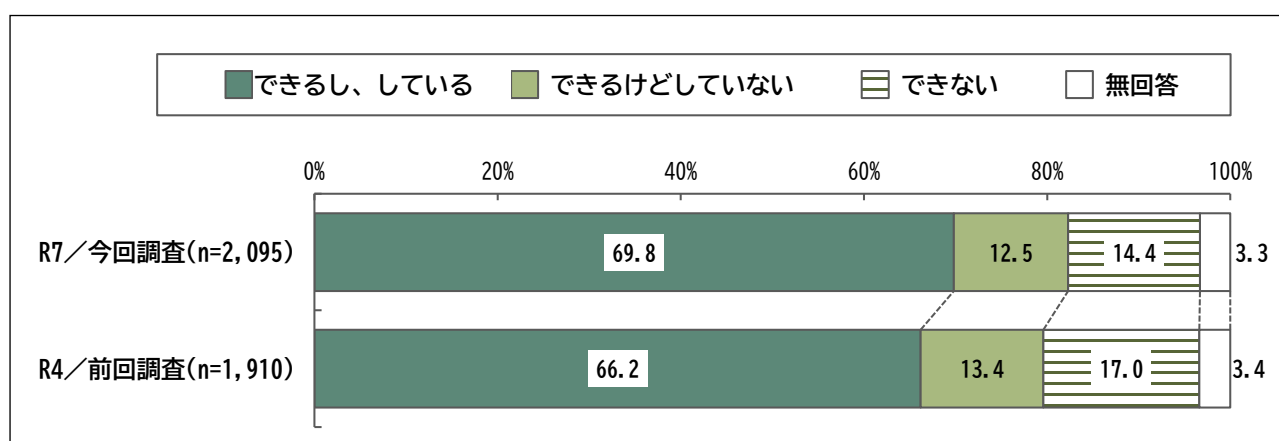
問2 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

椅子から何もつかまらずに立ち上がれるかどうかについてみると、「できるし、している」が69.8%と最も高く、6割以上が自分一人で立ち上がることができています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が3.6ポイント増加しています。

図表 14 椅子に座った状態から立ち上がれるか（全体、前回比較）

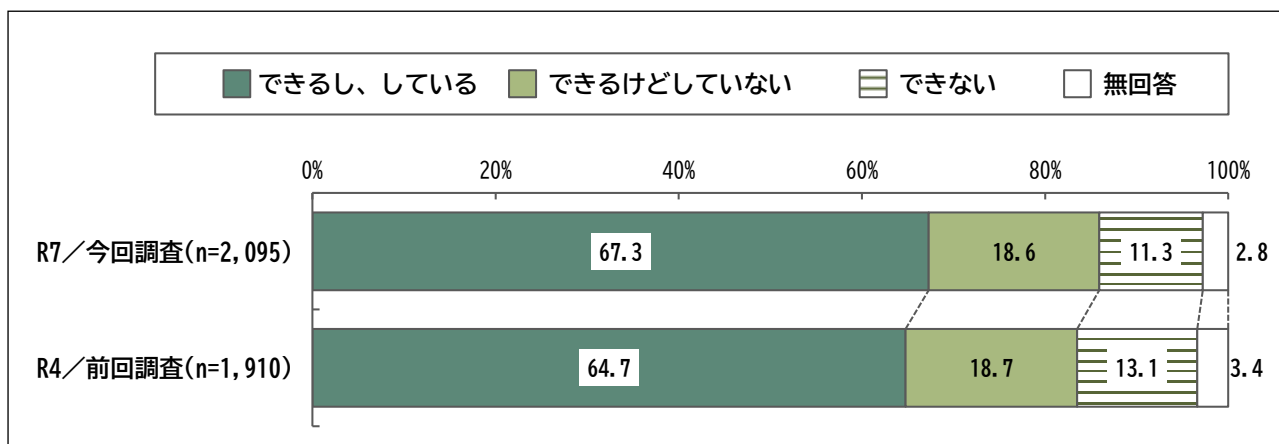


問2（3）15分位続けて歩いていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

15分位続けて歩いているかどうかについてみると、「できるし、している」が67.3%と最も高くなっています。前回調査と比較すると、「できるし、している」が2.6ポイント増加しています。

図表 15 15分位続けて歩いているか（全体、前回比較）



（2）転倒について

問2（4）過去1年間に転んだ経験がありますか。（1つだけ）

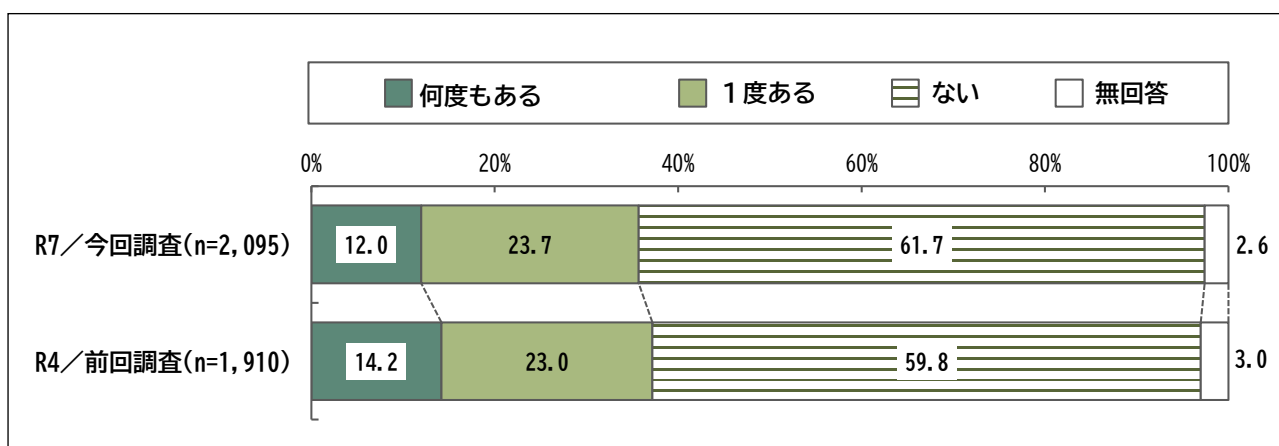
【全体の傾向】

過去1年間における転倒経験の有無についてみると、全体の61.7%が「ない」と回答しています。

一方、「何度もある」（12.0%）と「1度ある」（23.7%）を合計すると、35.7%が『転倒経験が1度以上ある』と回答しています。

前回調査と比較すると、「何度もある」が2.2ポイント減少しています。

図表 16 転倒の経験（全体、前回比較）



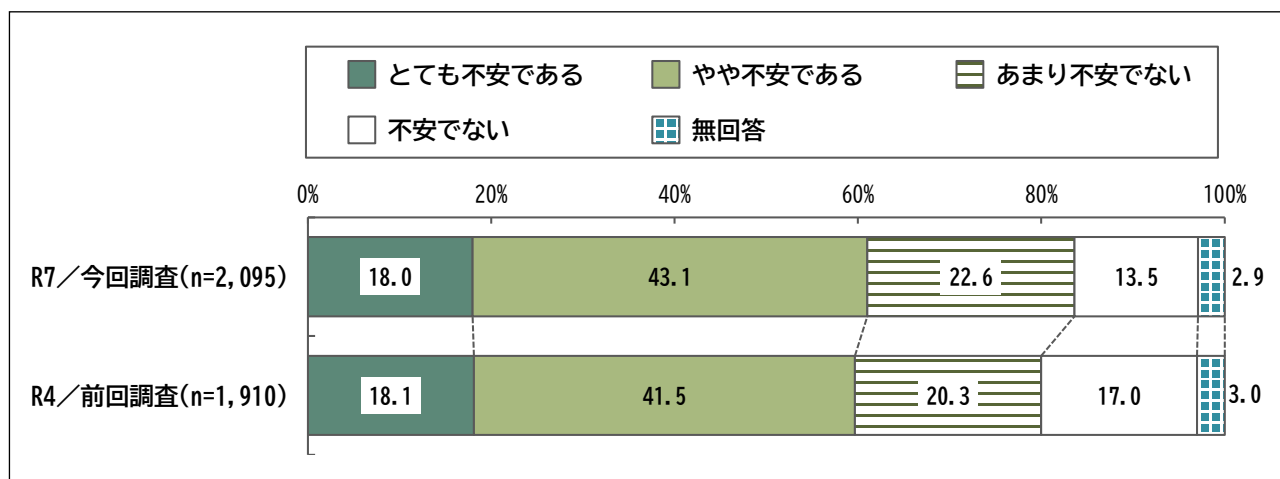
問2（5）転倒に対する不安は大きいですか。（1つだけ）

【全体の傾向】

転倒に対する不安についてみると、全体の43.1%が「やや不安である」と回答しており、「とても不安である」（18.0%）を合計すると、6割以上の方が『転倒への不安を抱えている』という結果になっています。

前回調査と比較すると、『転倒への不安を抱えている』人は1.5ポイント増加しています。

図表 17 転倒に対する不安（全体、前回比較）



（3）外出について

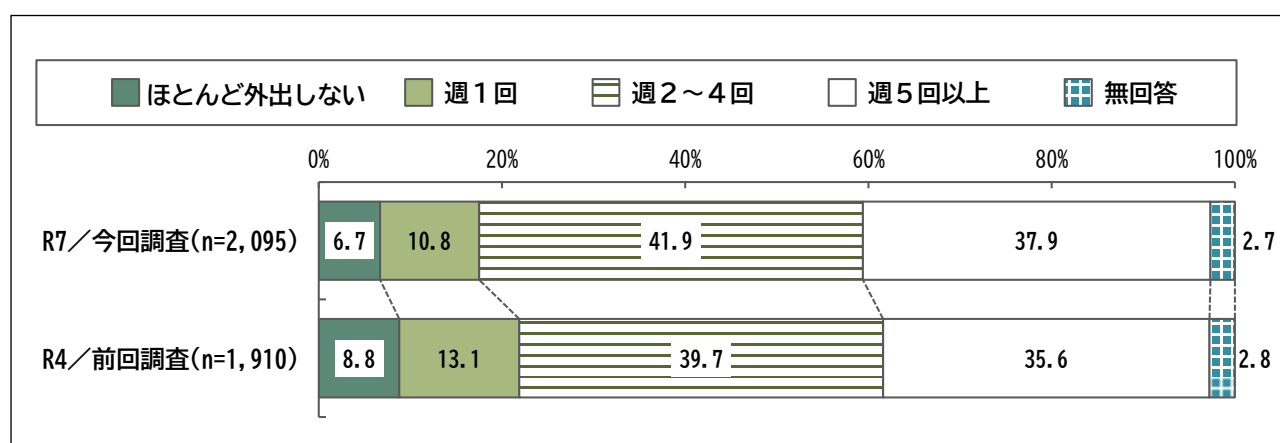
問2（6）週に1回以上は外出していますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

1週間当たりの外出回数についてみると、「週2～4回」が41.9%と最も高く、次いで「週5回以上」（37.9%）、「週1回」（10.8%）となっています。一方、「ほとんど外出しない」は6.7%となっています。

前回調査と比較すると、「ほとんど外出しない」、「週1回」が減少し、「週2～4回」、「週5回以上」が増加しています。

図表 18 1週間当たりの外出回数について（全体、前回比較）



問2（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか。（1つだけ）

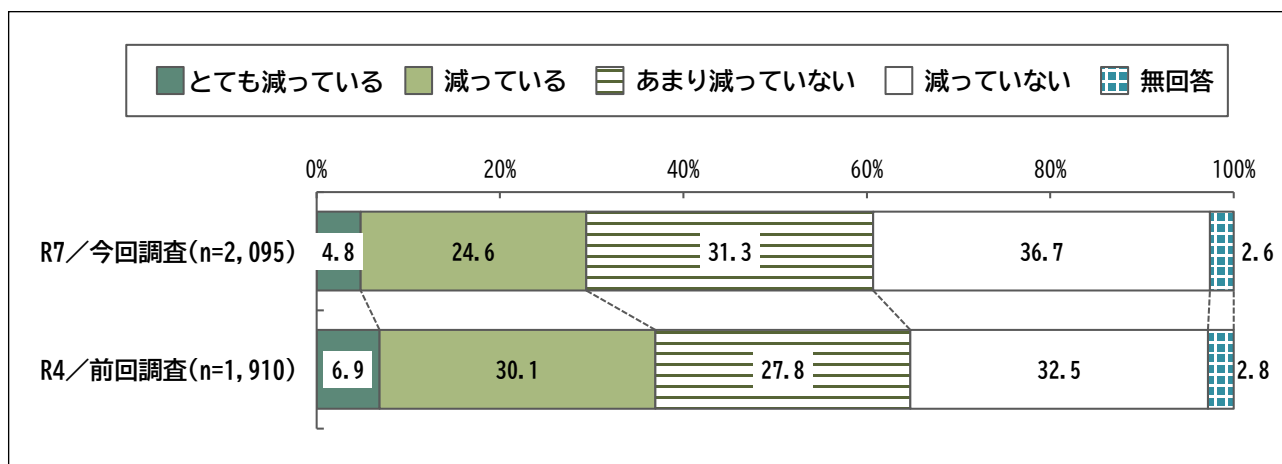
【全体の傾向】

昨年と比べて外出回数が減っているかどうかをみると、「減っていない」が36.7%と最も高くなっています。

一方、「とても減っている」（4.8%）と「減っている」（24.6%）を合計すると全体の29.4%が外出回数について『減っている』と回答しています。

前回調査と比較すると、『減っている』が7.6ポイント減少しています。

図表 19 昨年と比較した外出回数について（全体、前回比較）



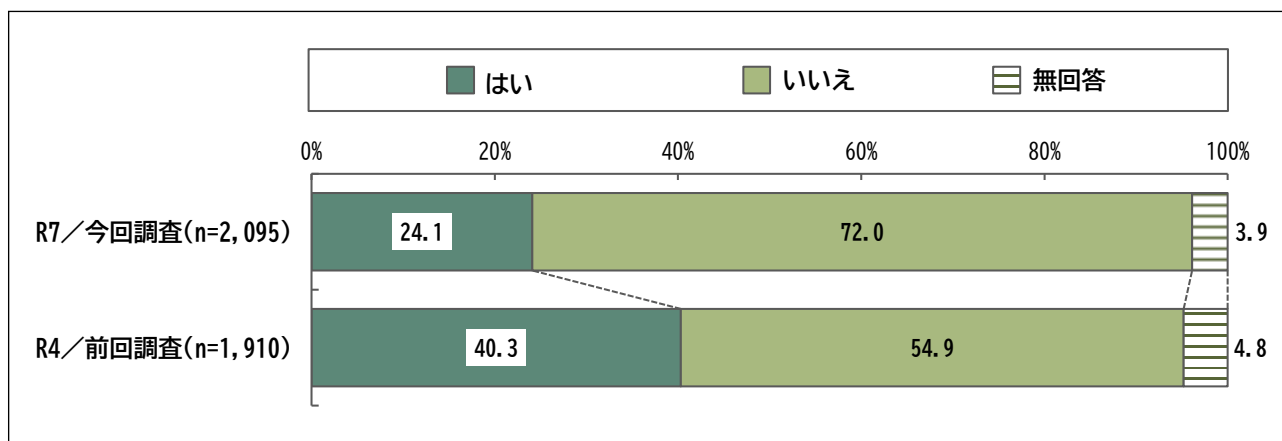
問2（8）外出を控えていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

外出を控えているかどうかをみると、「はい」が24.1%、「いいえ」が72.0%となっています。

前回調査と比較すると、「いいえ」が17.1ポイント増加しています。

図表 20 外出を控えているか（全体、前回比較）



※問2（8）で「はい（控えている）」と答えた方のみ

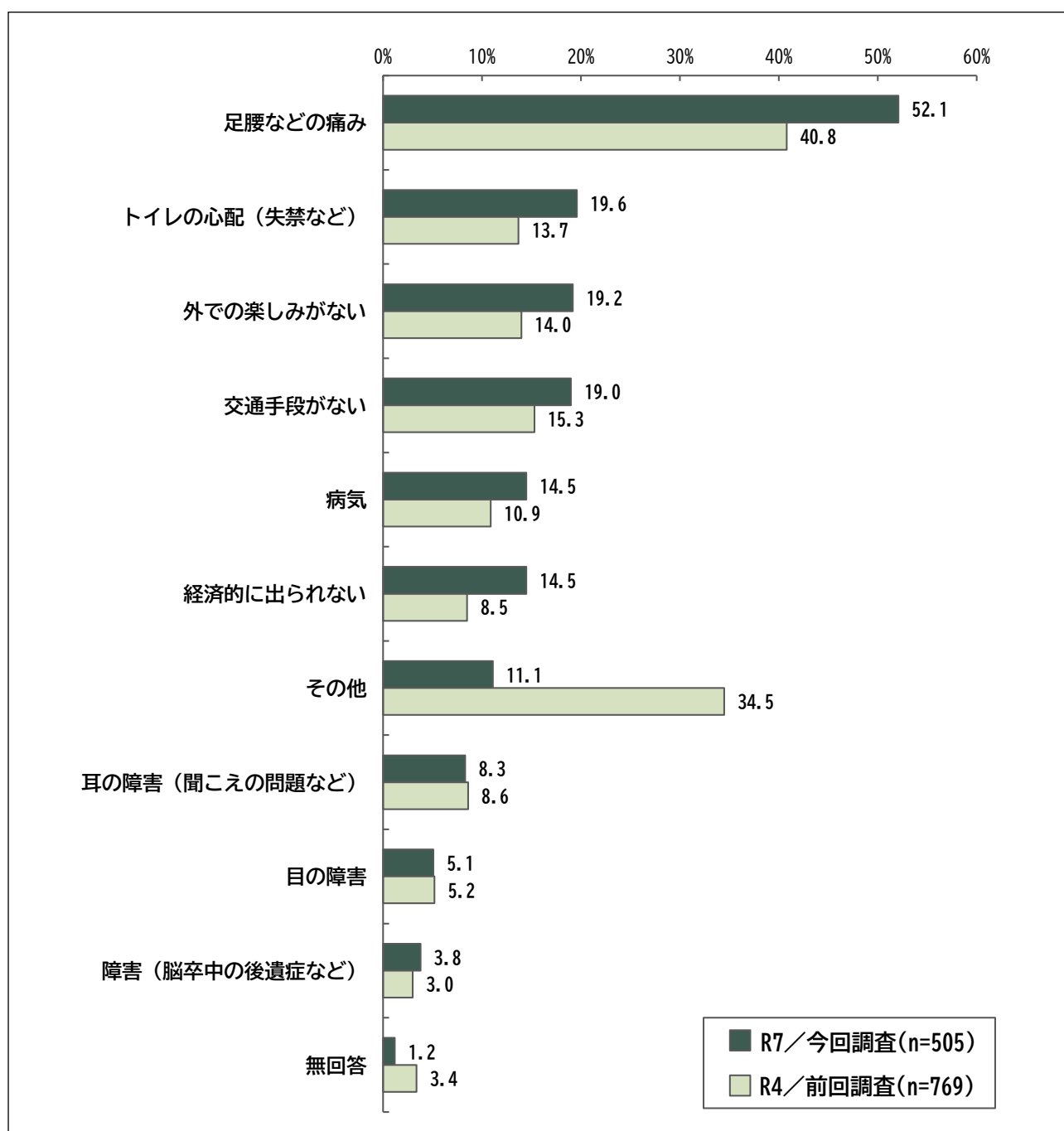
問2（8－1）外出を控えている理由は、次のどれですか。（いくつでも）

【全体の傾向】

外出を控えている理由についてみると、「足腰などの痛み」が52.1%と最も高く、次いで「トイレの心配（失禁など）」（19.6%）、「外での楽しみがない」（19.2%）、「交通手段がない」（19.0%）、「病気」（14.5%）となっています。

前回調査と比較すると、「その他（前は約9割が新型コロナウイルス対策と回答）」が23.4ポイント減少しています。

図表 21 外出を控えている理由（全体、前回比較／複数回答）



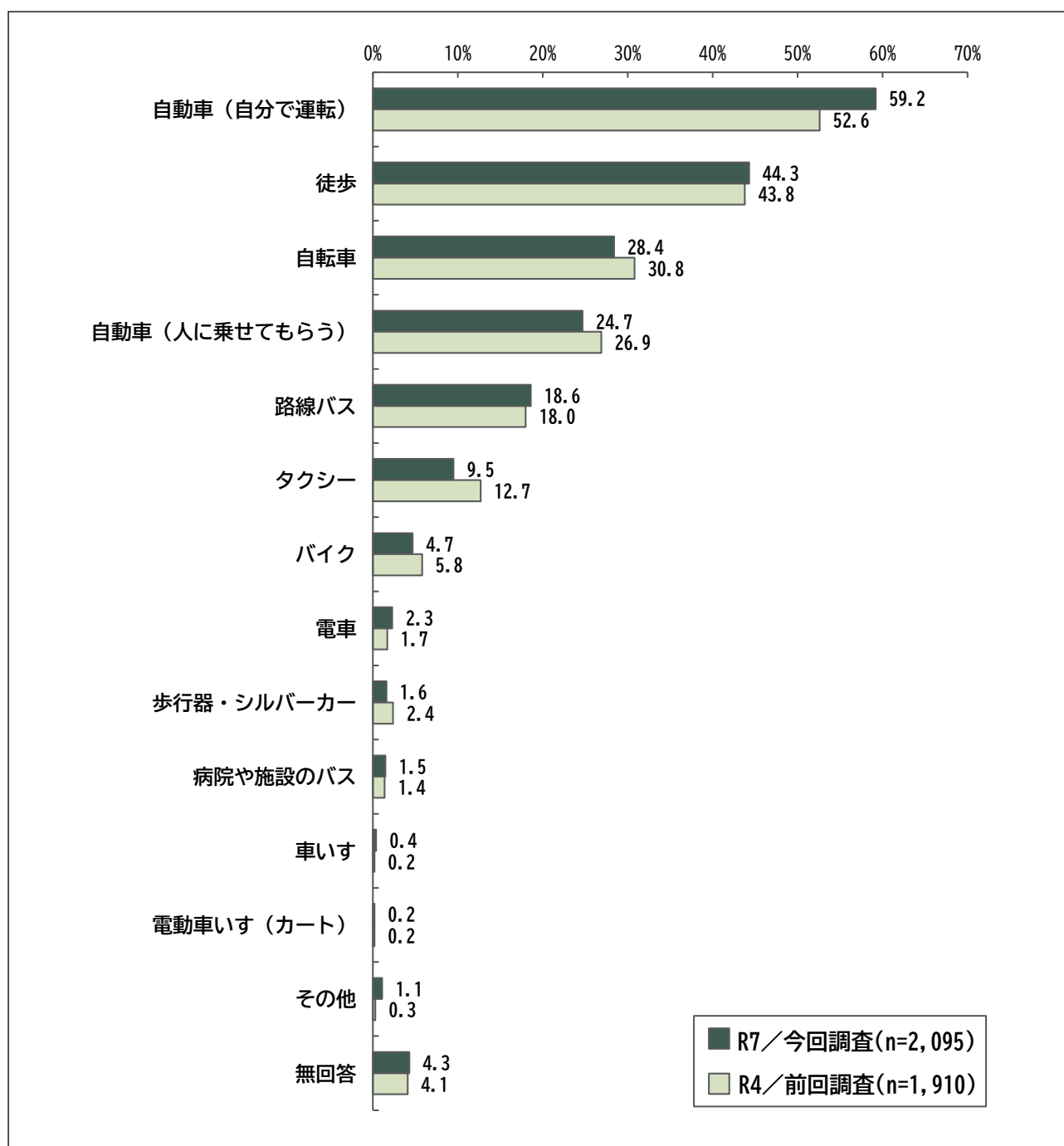
問2（9）外出する際の移動手段は何ですか。（いくつでも）

【全体の傾向】

外出する際の移動手段についてみると、「自動車（自分で運転）」が59.2%と最も高く、次いで、「徒歩」（44.3%）、「自転車」（28.4%）「自動車（人に乗せてもらう）」（24.7%）、「路線バス」（18.6%）と続いています。

前回調査と比較すると、「自動車（自分で運転）」が6.6ポイント増加しています。

図表 22 外出する際の移動手段（全体、前回比較／複数回答）



3 食べることについて

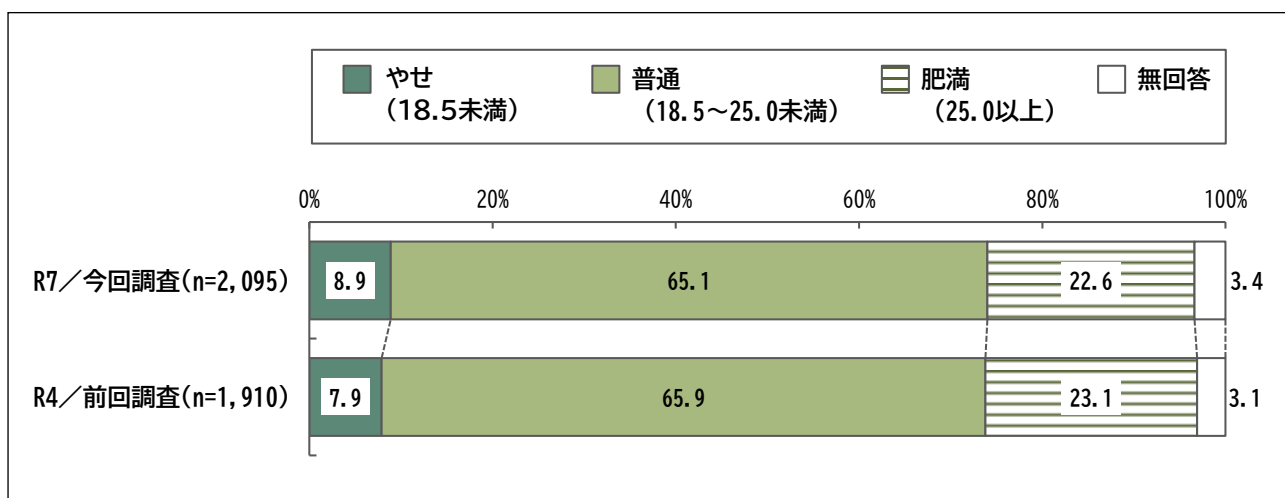
(1) BMI 算出

問3 (1) 身長・体重を教えてください。

【全体の傾向】

身長及び体重の記載から算出したBMI値については、「普通（18.5～25.0未満）」が65.1%と6割を超えています。一方、「やせ（18.5未満）」は8.9%、「肥満（25.0以上）」は22.6%となっています。

図表 23 BMI 値（全体、前回比較）



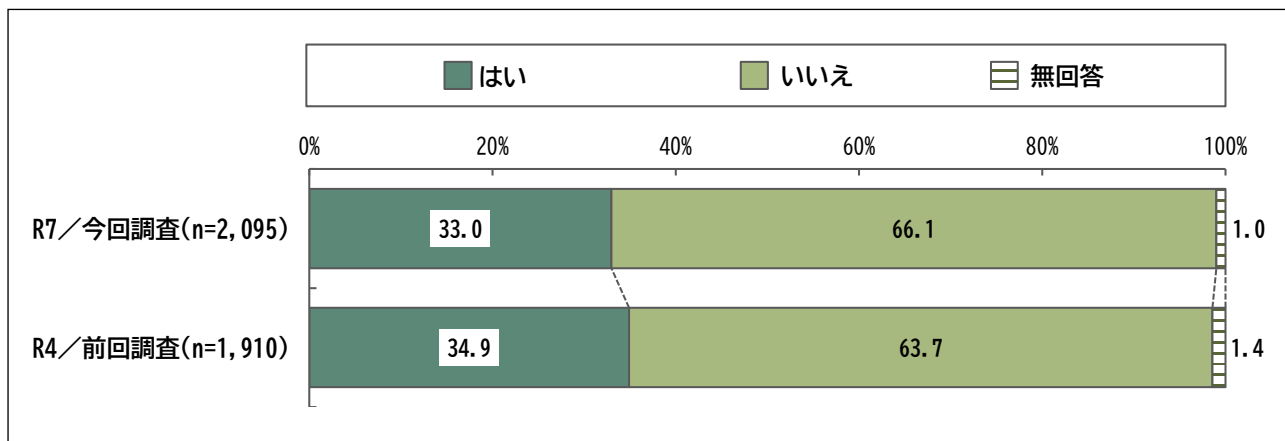
(2) 口腔機能について

問3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(1つだけ)

【全体の傾向】

半年前に比べて固いものが食べにくいかどうかをみると、「はい」が33.0%となっています。前回調査と比較すると「はい」が1.9ポイント減少しています。

図表 24 固いものが食べにくくなったか（全体、前回比較）

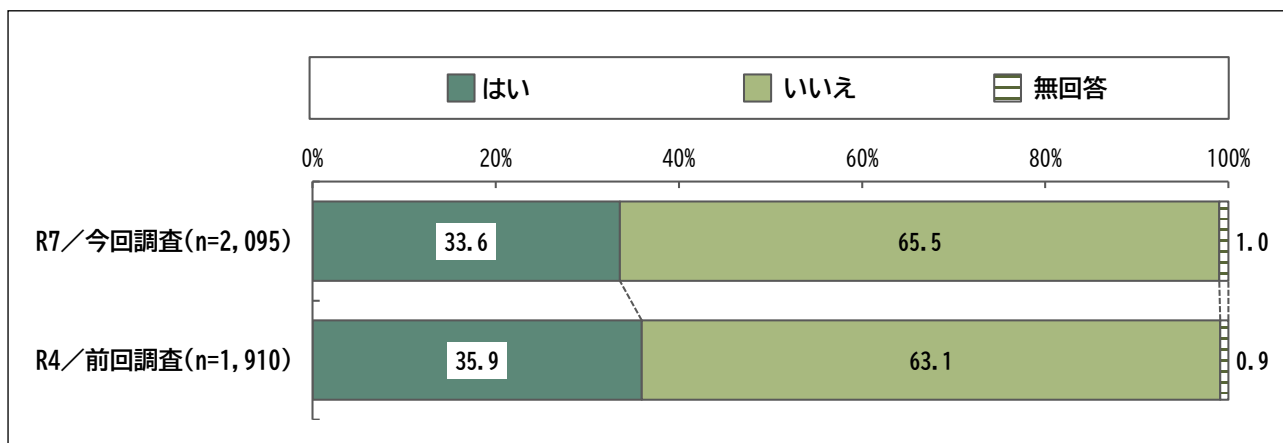


問3（3）お茶や汁物等でむせることがありますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

お茶や汁物等でむせることがあるかをみると、「はい」が33.6%、「いいえ」が65.5%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が2.3ポイント減少しています。

図表 25 お茶や汁物等でむせることがあるか（全体、前回比較）

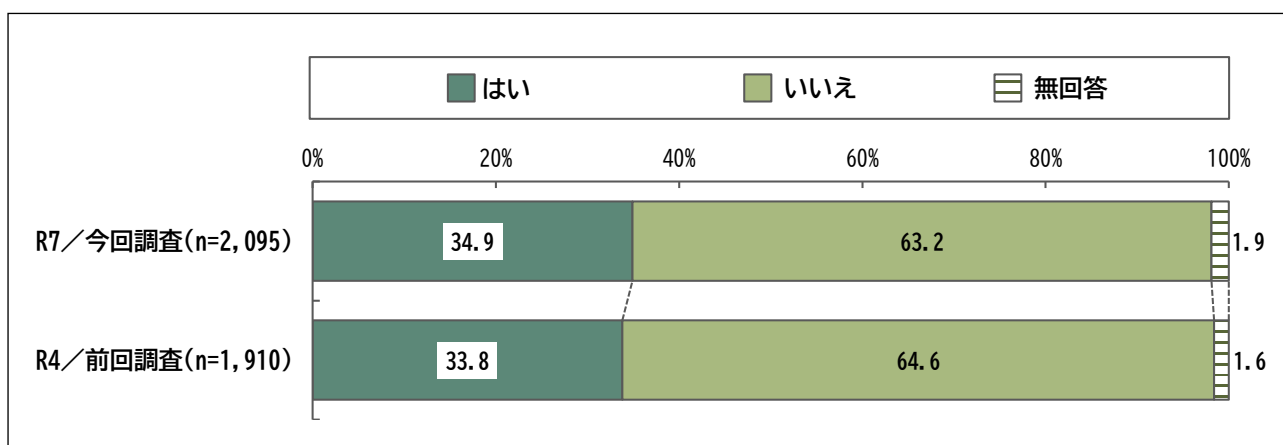


問3（4）口の渇きが気になりますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

口の渇きが気になるかをみると、「はい」が34.9%、「いいえ」が63.2%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が1.1ポイント増加しています。

図表 26 口の渇きが気になるか（全体、前回比較）

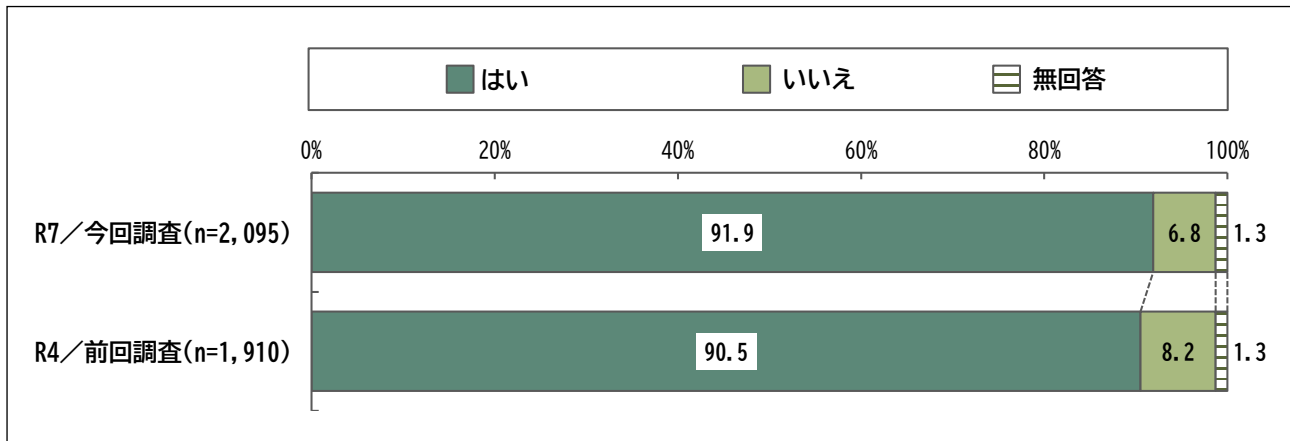


問3（5）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

歯磨きを毎日しているかをみると、「はい」が91.9%、「いいえ」が6.8%となっています。
前回調査と比較すると、「はい」が1.4ポイント増加しています。

図表 27 歯磨きを毎日しているか（全体、前回比較）



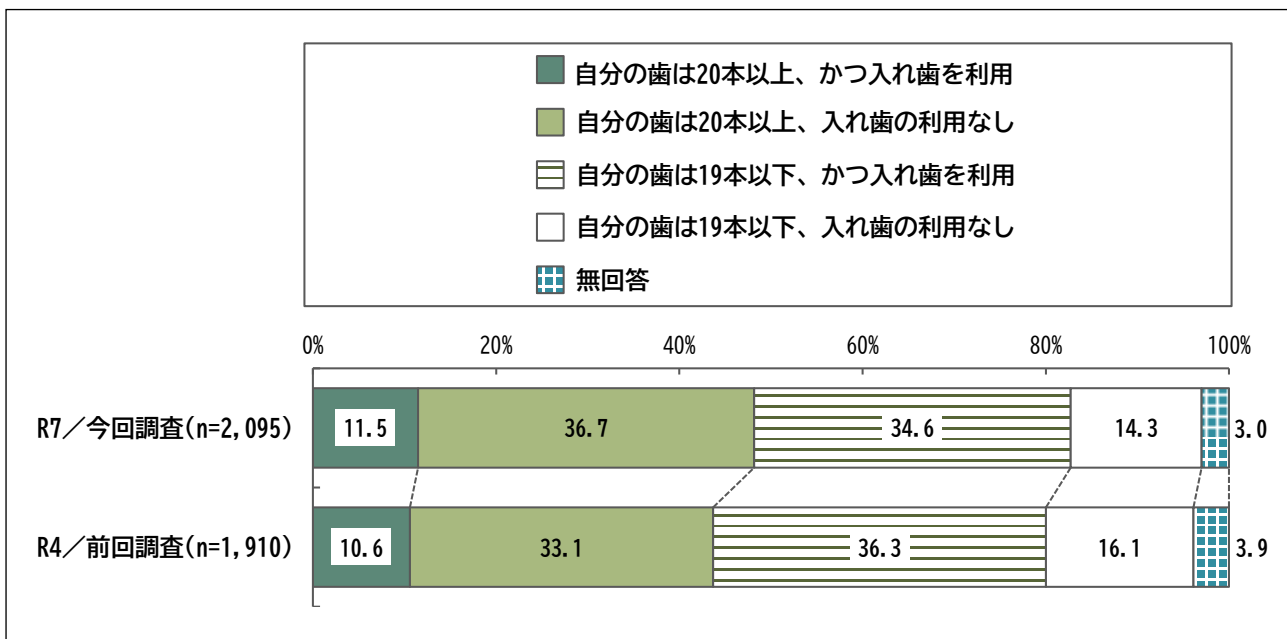
問3（6）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。（1つだけ）

（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）

【全体の傾向】

歯の本数と、入れ歯の利用状況をみると、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯の利用なし」が36.7%と最も高くなっています。前回調査と比較すると、自分の歯が20本以上残っている人が増加しています。

図表 28 歯の本数と入れ歯の利用状況（全体、前回比較）



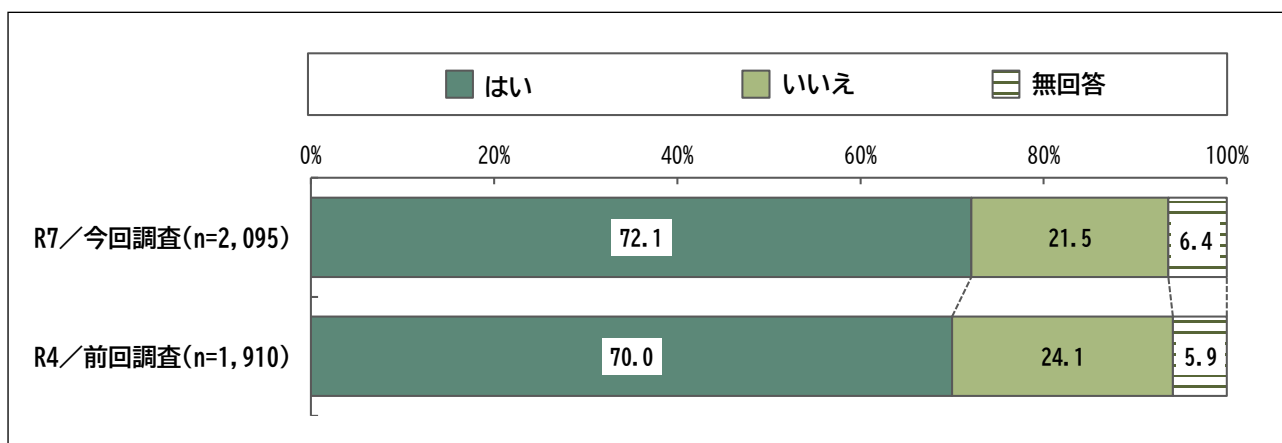
問3（6－1）噛み合わせは良いですか。（1つだけ）

【全体の傾向】

噛み合わせが良いかをみると、「はい」が72.1%、「いいえ」が21.5%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が2.1ポイント増加しています。

図表 29 噛み合わせが良いか（全体、前回比較）



※問3（6）で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と答えた方のみ

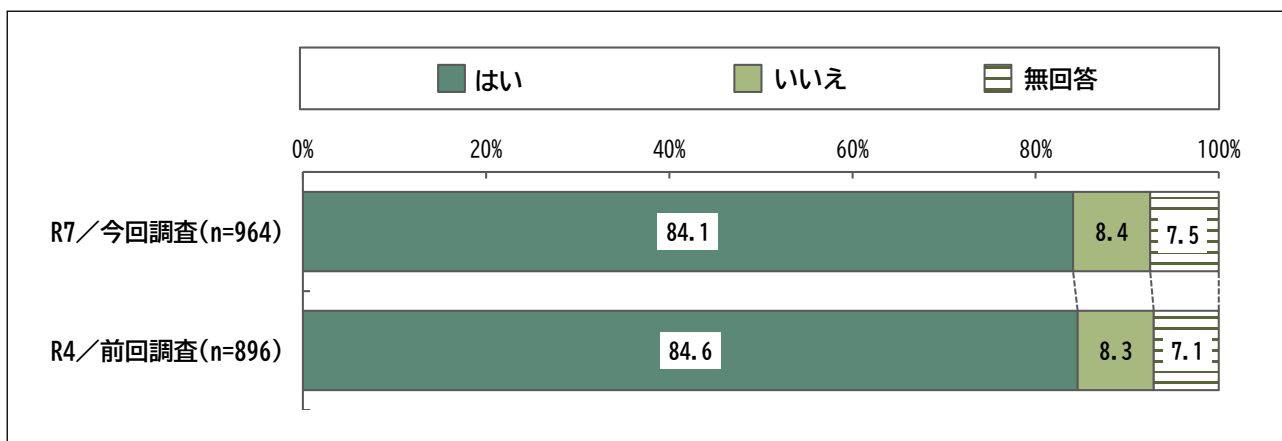
問3（6－2）毎日入れ歯の手入れをしていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

毎日入れ歯の手入れをしているかについてみると、「はい」が84.1%、「いいえ」が8.4%となっています。

前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 30 毎日入れ歯の手入れをしているか（全体、前回比較）



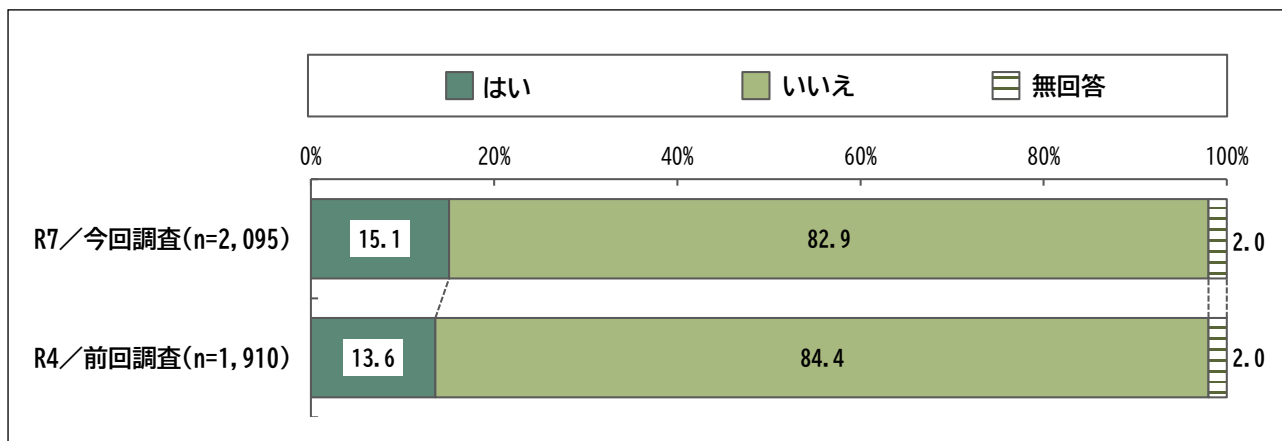
(3) 体重減少について

問3 (7) 6か月間で2～3 kg以上の体重減少がありましたか。(1つだけ)

【全体の傾向】

6か月間で体重減少があったかについてみると、「はい」が15.1%、「いいえ」が82.9%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が1.5ポイント増加しています。

図表 31 6か月間で2～3 kg以上の体重減少があったか（全体、前回比較）



(4) 孤食の状況について

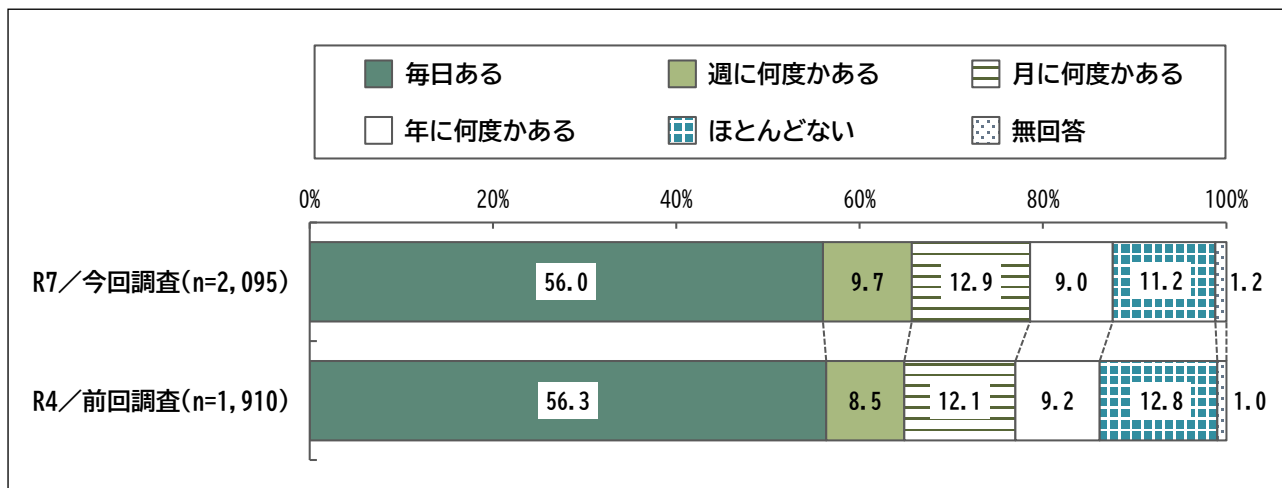
問3 (8) どなたかと食事をとる機会がありますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

誰かと食事をとる機会の有無についてみると、「毎日ある」が56.0%を占めており、次いで「月に何度かある」(12.9%)、「ほとんどない」(11.2%)、「年に何度かある」(9.0%)となっています。

前回調査と比較すると、「ほとんどない」が1.6ポイント減少しています。

図表 32 誰かと食事をとる機会の有無について（全体、前回比較）



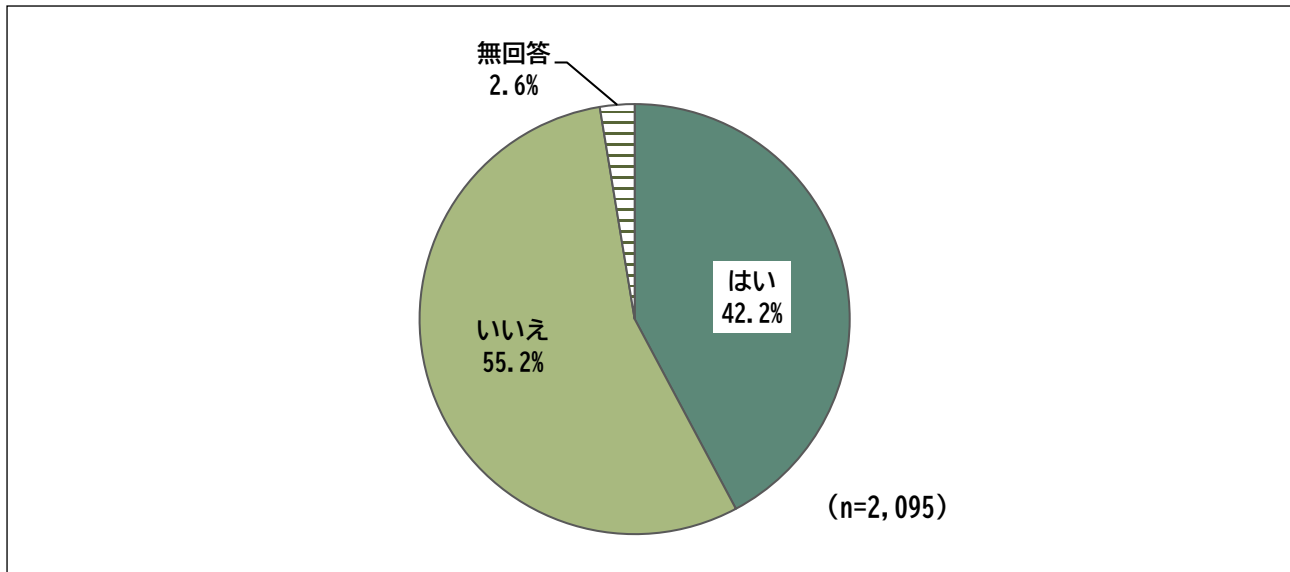
(5) オーラルフレイル（口腔の虚弱）の認知度

問3（9）オーラルフレイル（口腔の虚弱）を知っていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

オーラルフレイル（口腔の虚弱）を知っているかについてみると、「はい」が42.2%、「いいえ」が55.2%となっています。

図表 33 オーラルフレイル（口腔の虚弱）の認知度（全体）



4 毎日の生活について

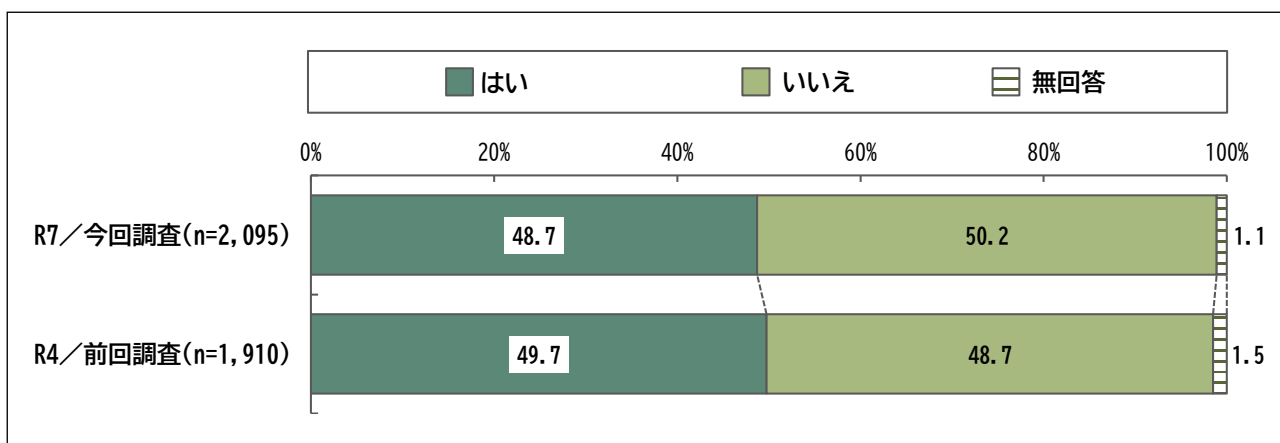
(1) 認知機能について

問4 (1) 物忘れが多いと感じますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

物忘れが多いと感じるかどうかにしてみると、「はい」が48.7%、「いいえ」が50.2%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が1.0ポイント減少しています。

図表 34 物忘れが多いと感じるか（全体、前回比較）



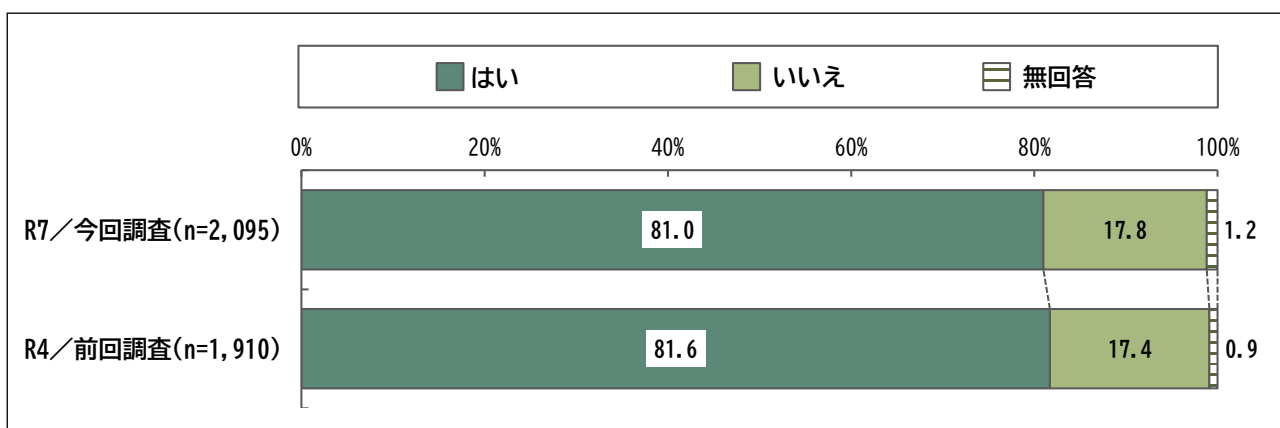
問4 (2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

自分で電話番号を調べて、電話をかけているかにしてみると、「はい」が81.0%、「いいえ」が17.8%となっています。

前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 35 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか（全体、前回比較）



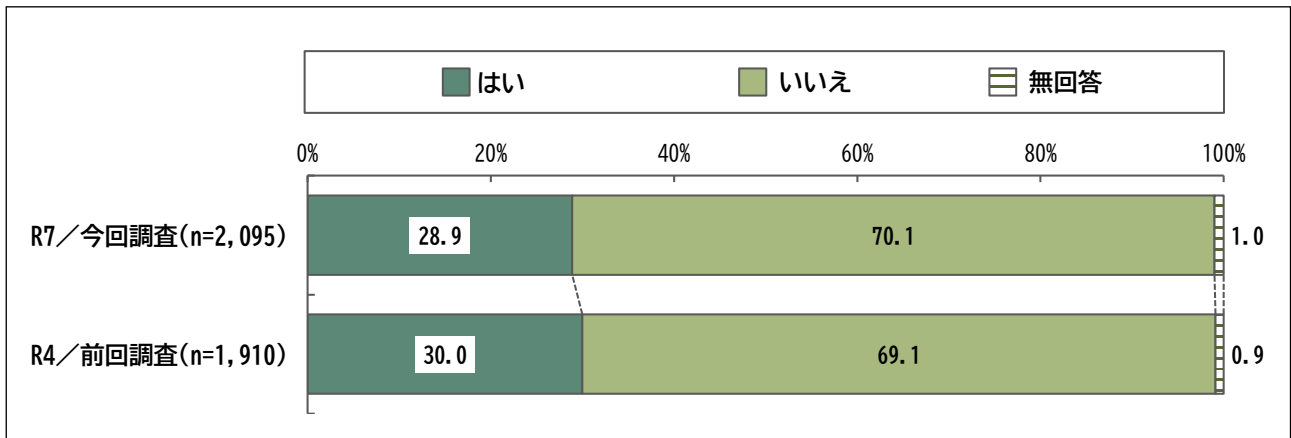
問4（3）今日が何月何日かわからない時がありますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

今日が何月何日かわからない時があるかについてみると、「はい」が28.9%、「いいえ」が70.1%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が1.1ポイント減少しています。

図表 36 今日が何月何日かわからない時があるか（全体、前回比較）



（2）＜IADL：手段的日常生活動作＞について（老研式活動能力指標）

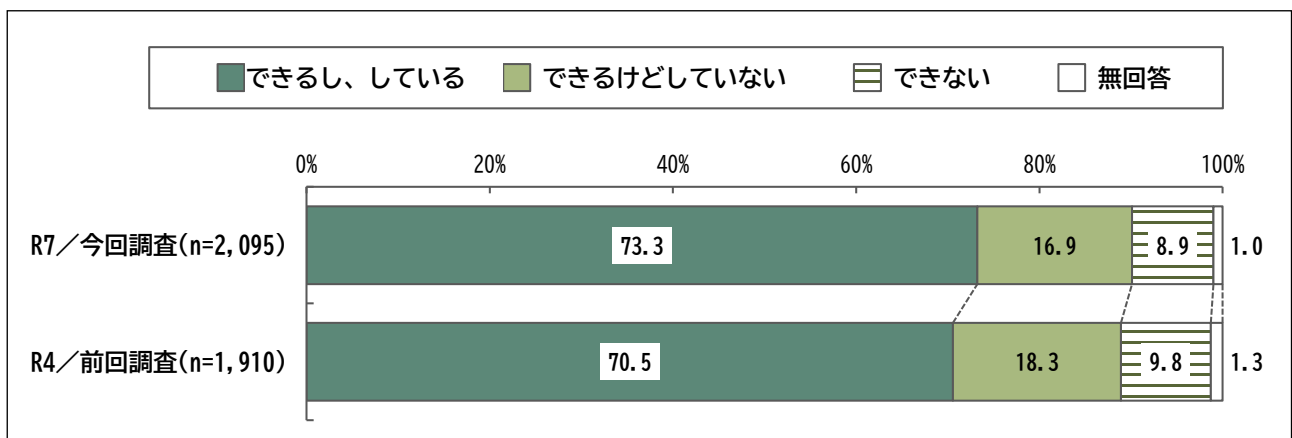
問4（4）バスや電車を使って1人で外出していますか。【自家用車でも可】（1つだけ）

【全体の傾向】

バスや電車を使って1人で外出しているかどうかをみると、「できるし、している」が73.3%に対し、「できない」は8.9%となっています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が2.8ポイント増加しています。

図表 37 1人で外出をしているか（全体、前回比較）



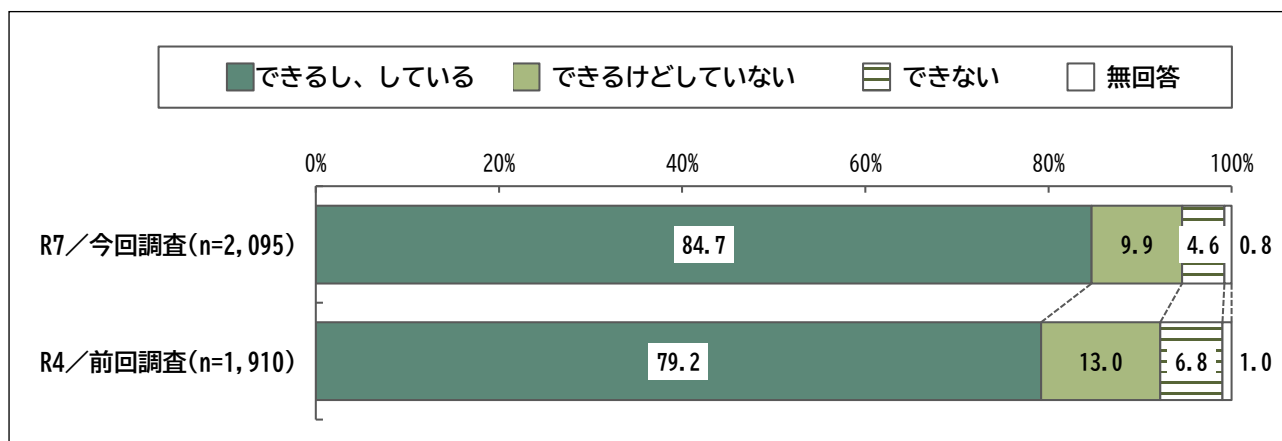
問4（5）自分で食品・日用品の買物をしていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

自分で食品や日用品の買物をしているかどうかをみると、「できるし、している」が84.7%に対し、「できない」は4.6%となっています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が5.5ポイント増加しています。

図表 38 自分で食品・日用品の買物をしているか（全体、前回比較）



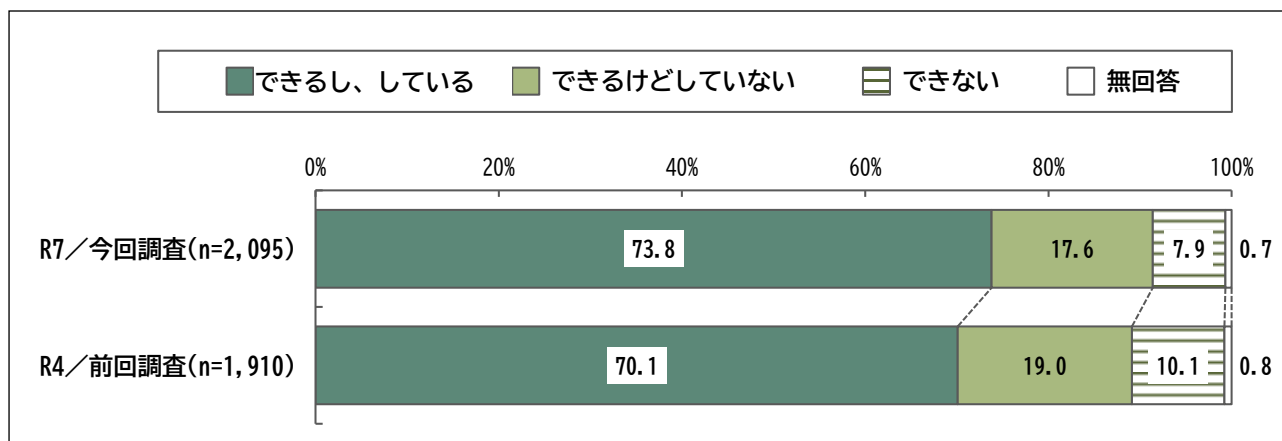
問4（6）自分で食事の用意をしていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

自分で食事の用意をしているかどうかをみると、「できるし、している」が73.8%に対し、「できない」は7.9%となっています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が3.7ポイント増加しています。

図表 39 自分で食事の用意をしているか（全体、前回比較）



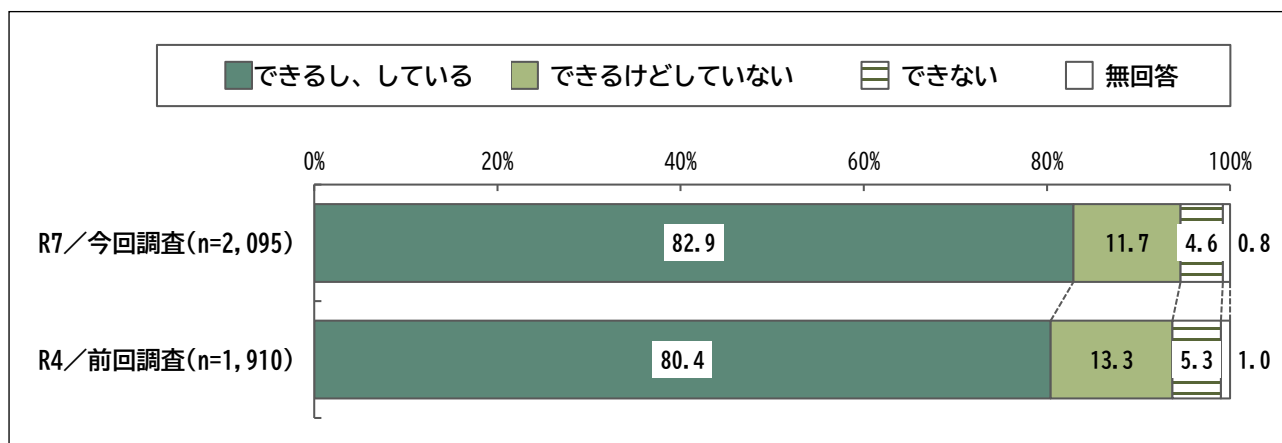
問4（7）自分で請求書の支払いをしていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

自分で請求書の支払いをしているかどうかをみると、「できるし、している」が82.9%に対し、「できない」は4.6%となっています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が2.5ポイント増加しています。

図表 40 自分で請求書の支払いをしているか（全体、前回比較）



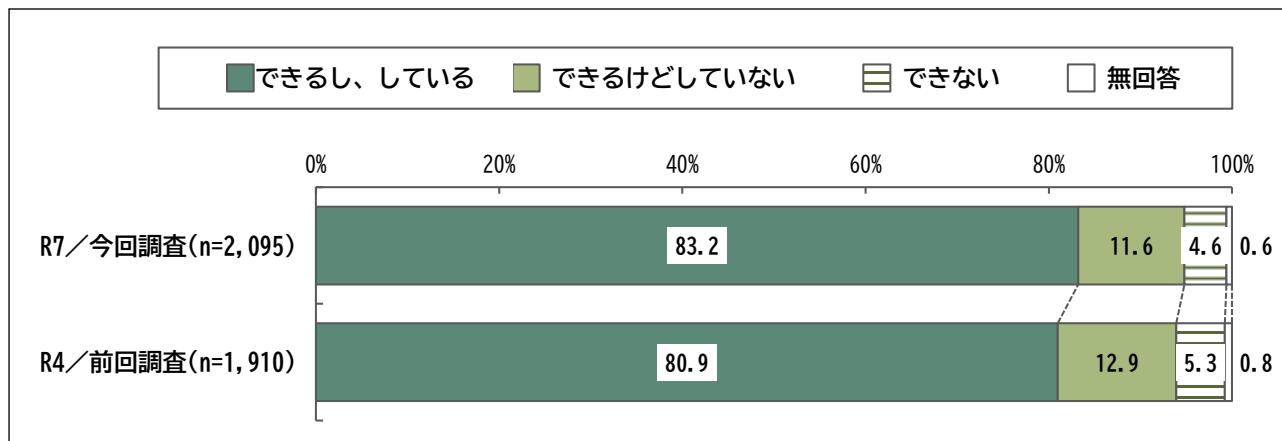
問4（8）自分で預貯金の出し入れをしていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

自分で預貯金の出し入れをしているかどうかをみると、「できるし、している」が83.2%に対し、「できない」は4.6%となっています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が2.3ポイント増加しています。

図表 41 自分で預貯金の出し入れをしているか（全体、前回比較）



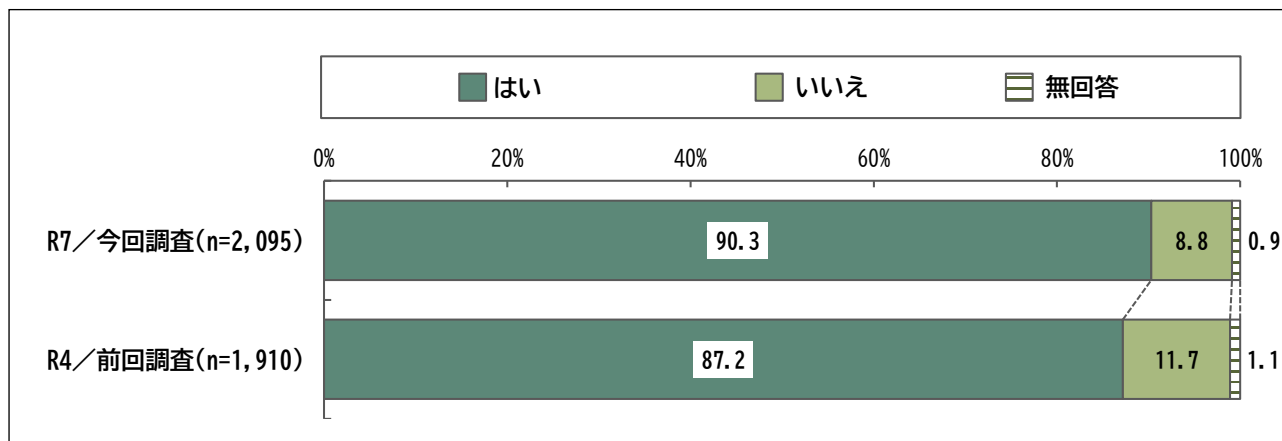
(3) <知的能動性>について（老研式活動能力指標）

問4（9）年金などの書類（役所や病院に出す書類）が書けますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

年金などの書類が書けるかどうかをみると、「はい」が90.3%、「いいえ」が8.8%となっています。
前回調査と比較すると、「はい」が3.1ポイント増加しています。

図表 42 年金などの書類が書けるか（全体、前回比較）

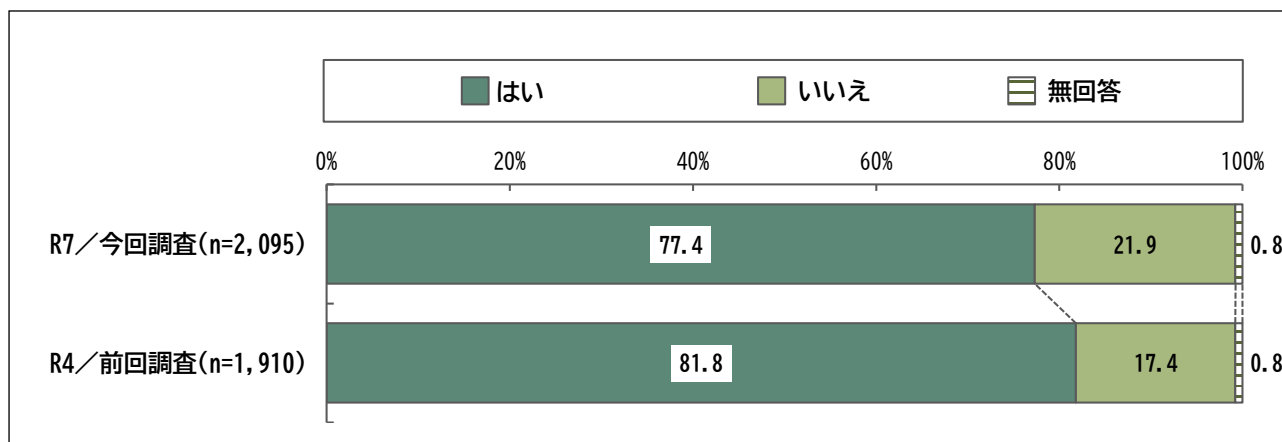


問4（10）新聞を読んでいますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

新聞を読んでいるかどうかをみると、「はい」が77.4%、「いいえ」が21.9%となっています。
前回調査と比較すると、「はい」が4.4ポイント減少しています。

図表 43 新聞を読んでいるか（全体、前回比較）

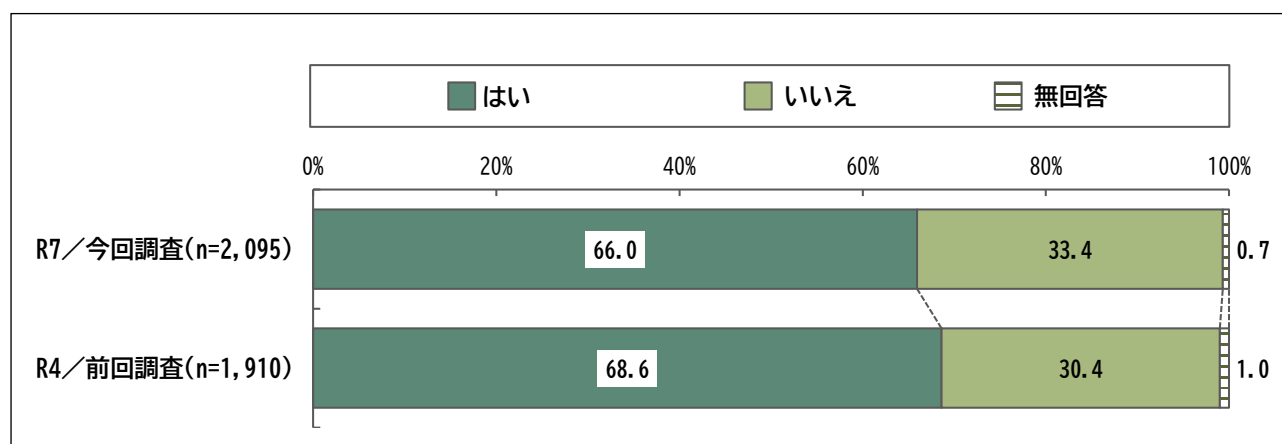


問4（11）本や雑誌を読んでいますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

本や雑誌を読んでいるかどうかをみると、「はい」が66.0%、「いいえ」が33.4%となっています。
前回調査と比較すると、「はい」が2.6ポイント減少しています。

図表 44 本や雑誌を読んでいるか（全体、前回比較）



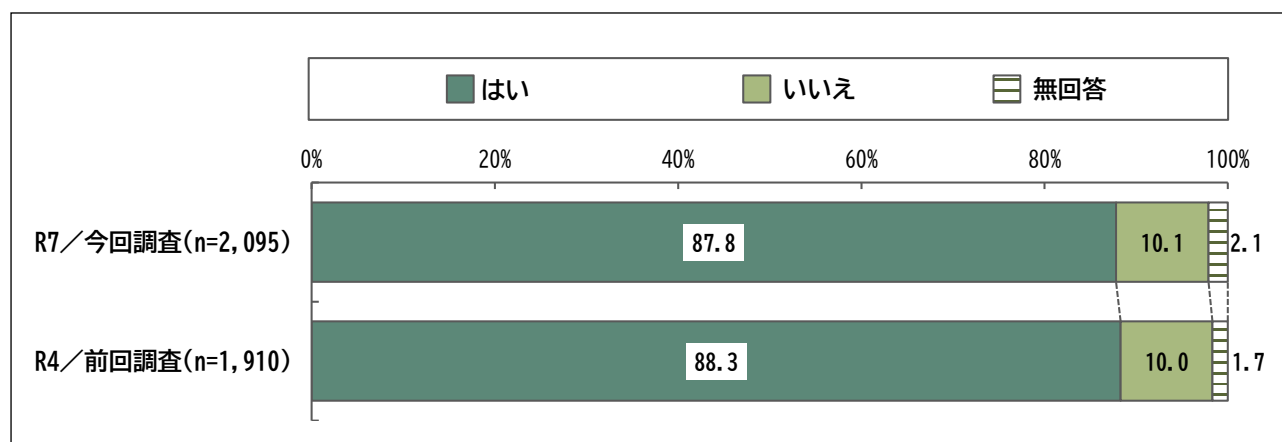
問4（12）健康についての記事や番組に関心がありますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

健康についての記事や番組に関心があるかをみると、「はい」が87.8%、「いいえ」が10.1%となっています。

前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 45 健康についての記事や番組に関心があるか（全体、前回比較）



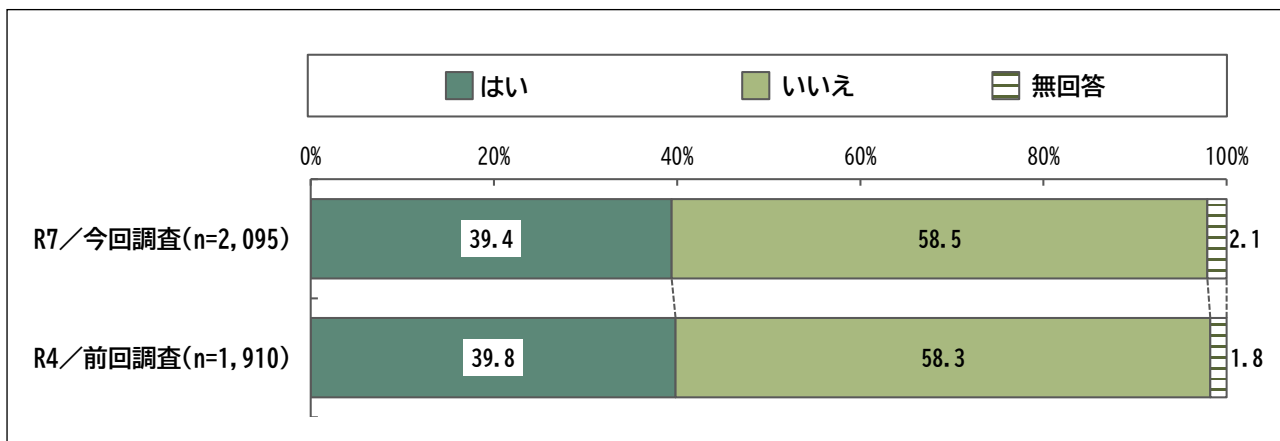
(4) <社会的役割>について（老研式活動能力指標）

問4（13）友人の家を訪ねていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

友人の家を訪ねているかどうかをみると、「はい」が39.4%、「いいえ」が58.5%となっています。
前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 46 友人の家を訪ねているか（全体、前回比較）



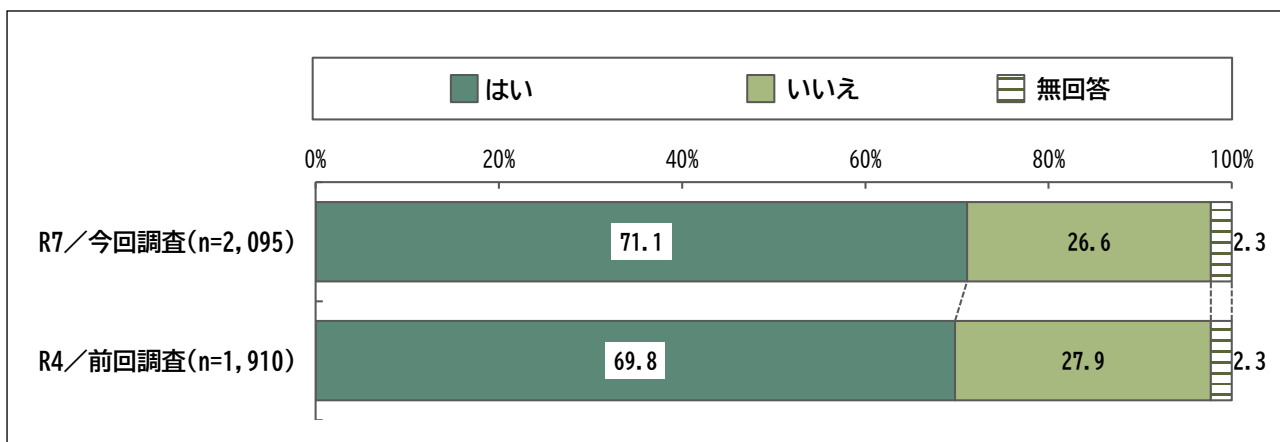
問4（14）家族や友人の相談にのっていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

家族や友人の相談にのっているかどうかをみると、「はい」が71.1%、「いいえ」が26.6%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が1.3ポイント増加しています。

図表 47 家族や友人の相談にのっているか（全体、前回比較）

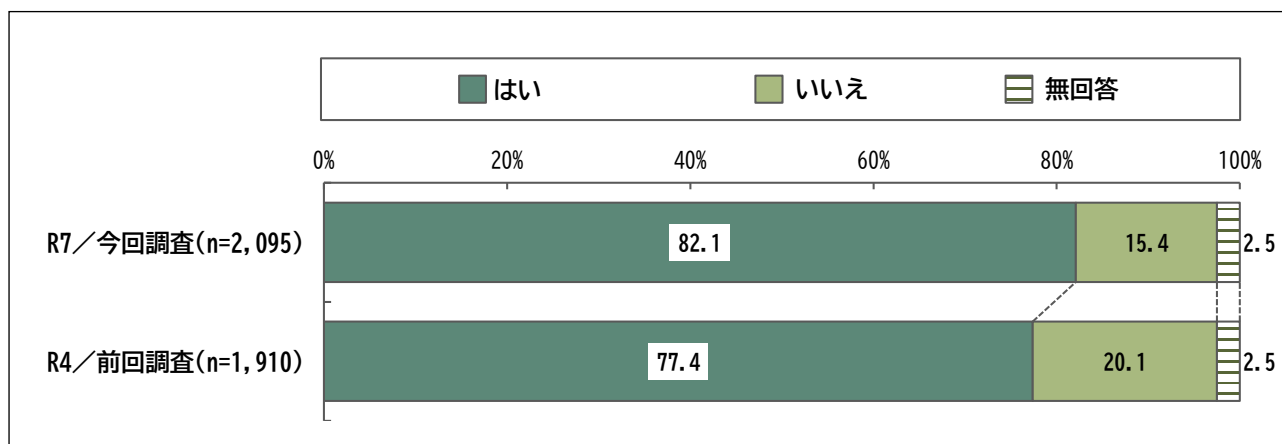


問4（15）病人を見舞うことができますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

病人を見舞うことができるかどうかをみると、「はい」が82.1%、「いいえ」が15.4%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が4.7ポイント増加しています。

図表 48 病人を見舞うことができますか（全体、前回比較）



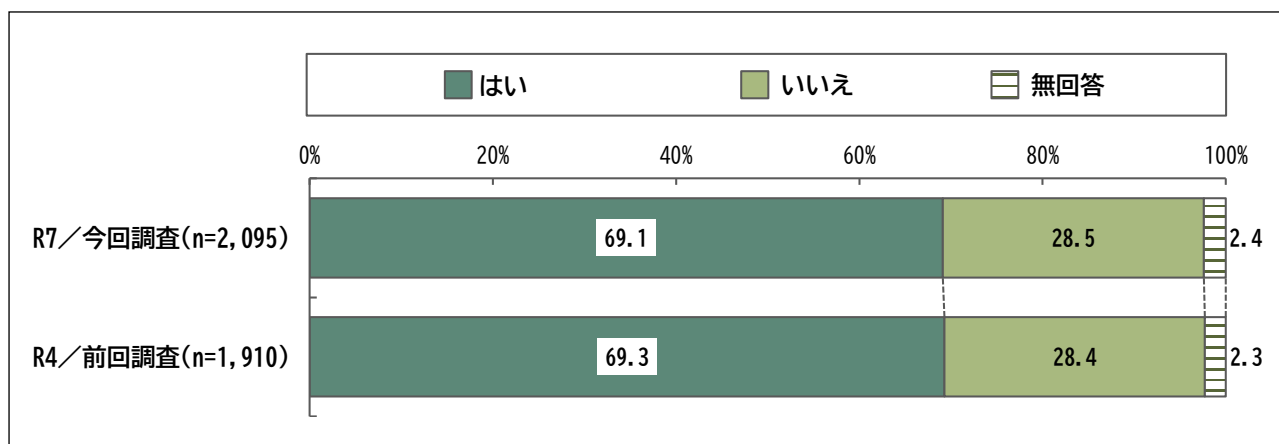
問4（16）若い人に自分から話しかけることがありますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

若い人に自分から話しかけることがあるかどうかをみると、「はい」が69.1%、「いいえ」が28.5%となっています。

前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 49 若い人に自分から話しかけることがあるか（全体、前回比較）



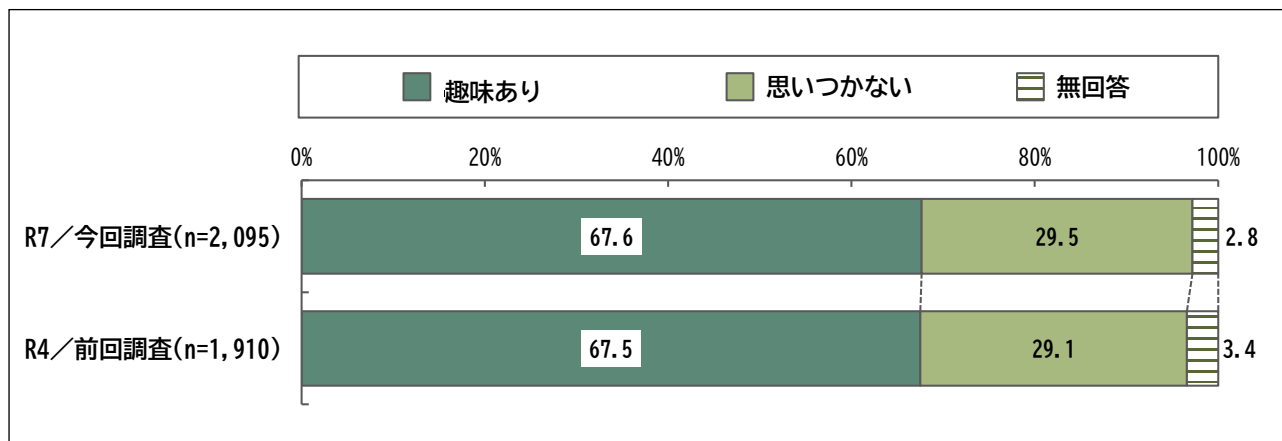
(5) 趣味・生きがいについて

問4（17）趣味はありますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

趣味があるかどうかをみると、「趣味あり」が67.6%、「思いつかない」が29.5%となっています。
前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 50 趣味があるか（全体、前回比較）



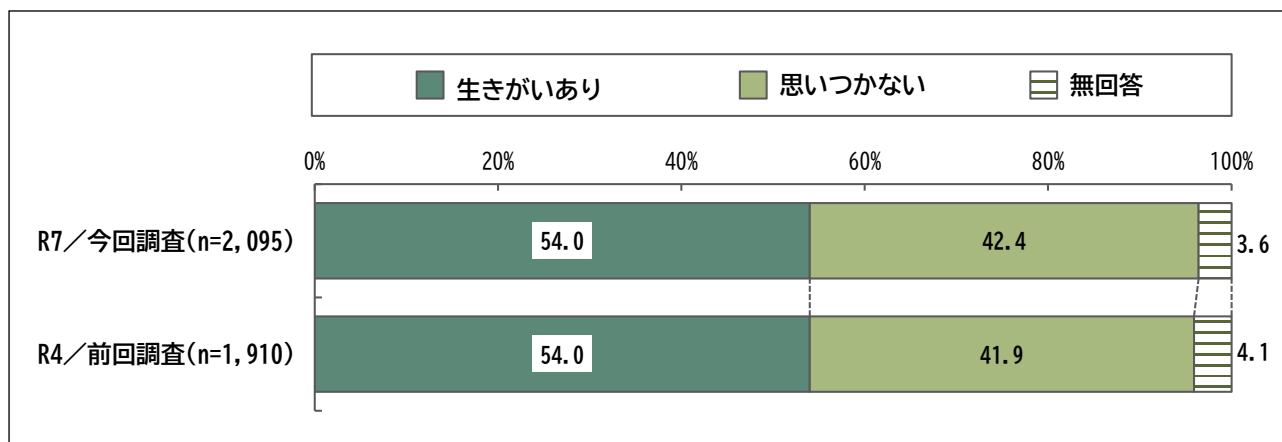
問4（18）生きがいはありますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

生きがいがあるかどうかをみると、「生きがいあり」が54.0%、「思いつかない」が42.4%となっています。

前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 51 生きがいはあるか（全体、前回比較）



5 地域での活動について

(1) 社会参加の状況

問5 (1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

(①～⑧それぞれに1つ)

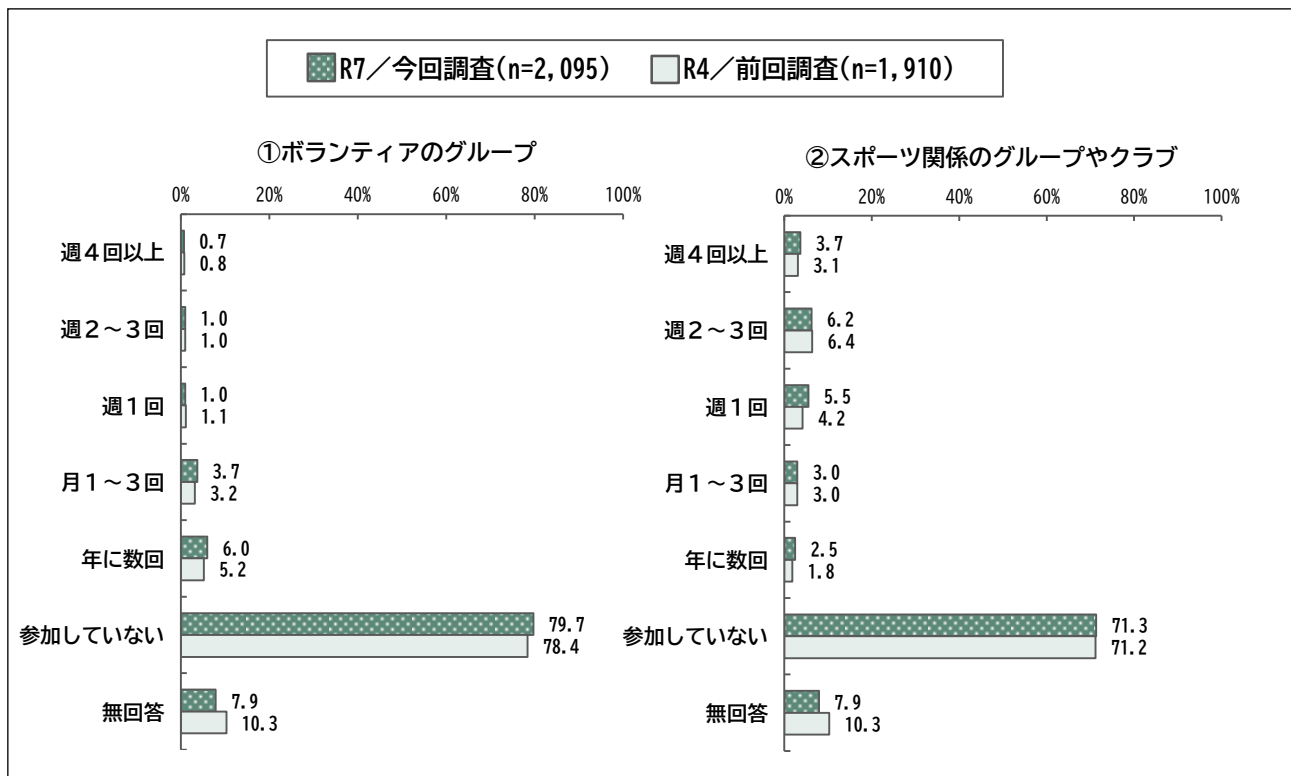
【全体の傾向】

社会参加の頻度についてみると、①ボランティアのグループ、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会では「年に数回」、②スポーツ関係のグループやクラブでは「週2～3回」、③趣味関係のグループでは「月1～3回」、④学習・教養サークルでは「月1～3回」および「年に数回」、⑤いきいき百歳体操など介護予防のための通いの場では「週1回」、⑧収入のある仕事では「週4回以上」が、それぞれ最も高くなっています。

また、「週4回以上」から「年に数回」までを合計した『参加率』をみると、最も高いグループは、③趣味関係グループ(26.6%)で、次いで、⑧収入のある仕事(26.4%)、⑦町内会・自治会(24.4%)となっています。

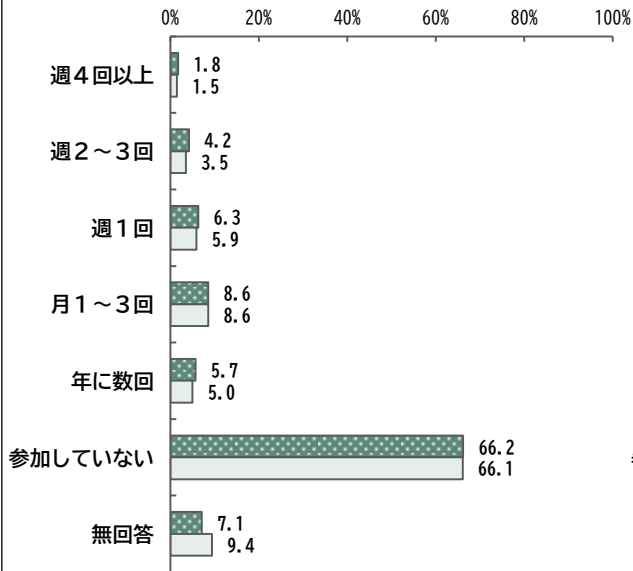
それぞれの『参加率』を前回調査と比較してみると、①ボランティアのグループでは1.1ポイント増加、②スポーツ関係のグループやクラブでは2.4ポイント増加、③趣味関係のグループでは2.1ポイント増加、④学習・教養サークルでは0.6ポイント減少、⑤いきいき百歳体操など介護予防のための通いの場では1.5ポイント増加、⑥老人クラブでは0.8ポイント増加、⑦町内会・自治会では4.0ポイント増加、⑧収入のある仕事では0.9ポイント増加となっており、④学習・教養サークル以外の活動で増加という結果になっています。

図表 52 社会参加の状況（全体、前回比較）

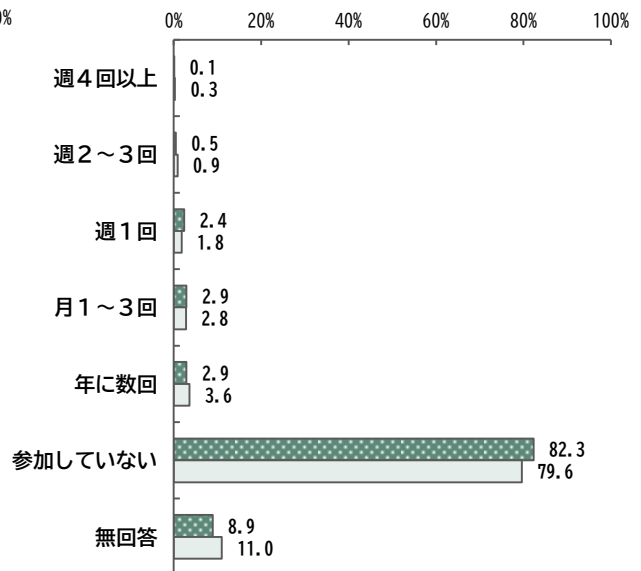


■ R7／今回調査(n=2,095) □ R4／前回調査(n=1,910)

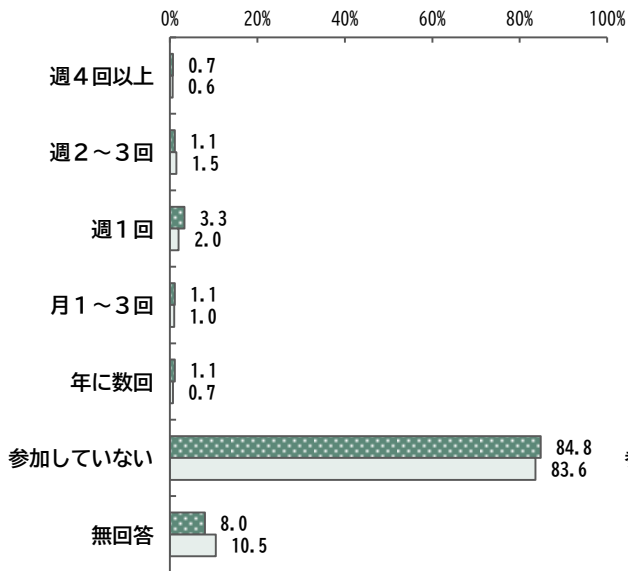
③趣味関係のグループ



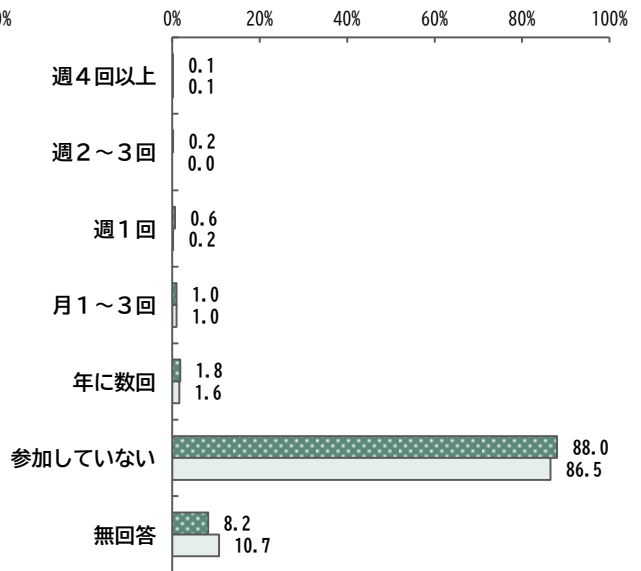
④学習・教養サークル



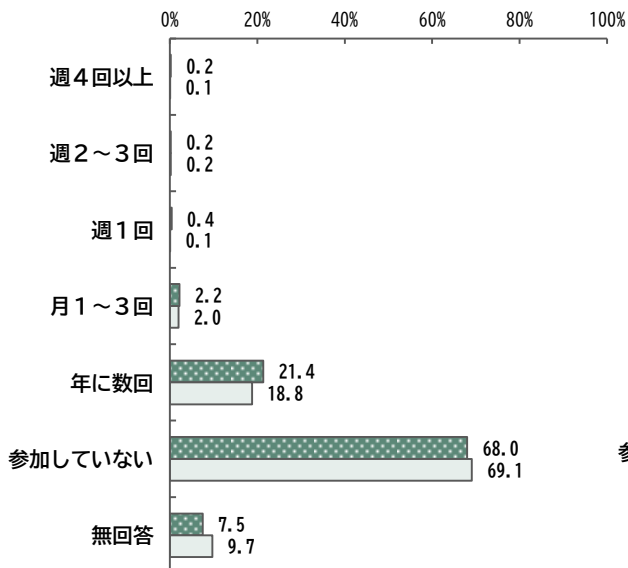
⑤介護予防のためなどの通いの場



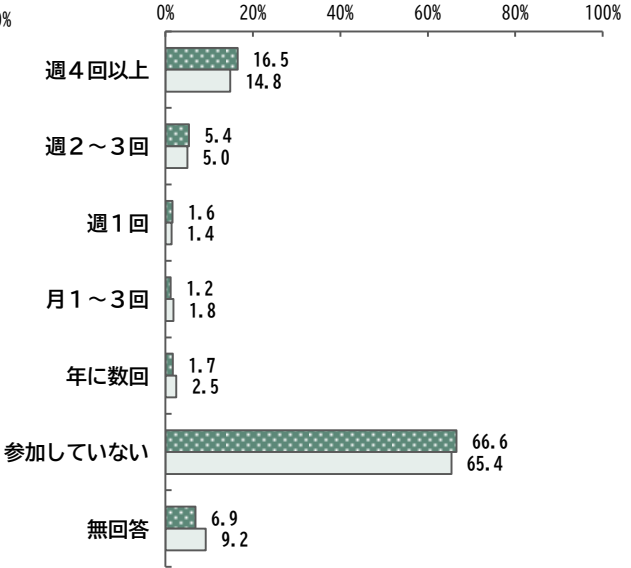
⑥老人クラブ



⑦町内会・自治会



⑧収入のある仕事

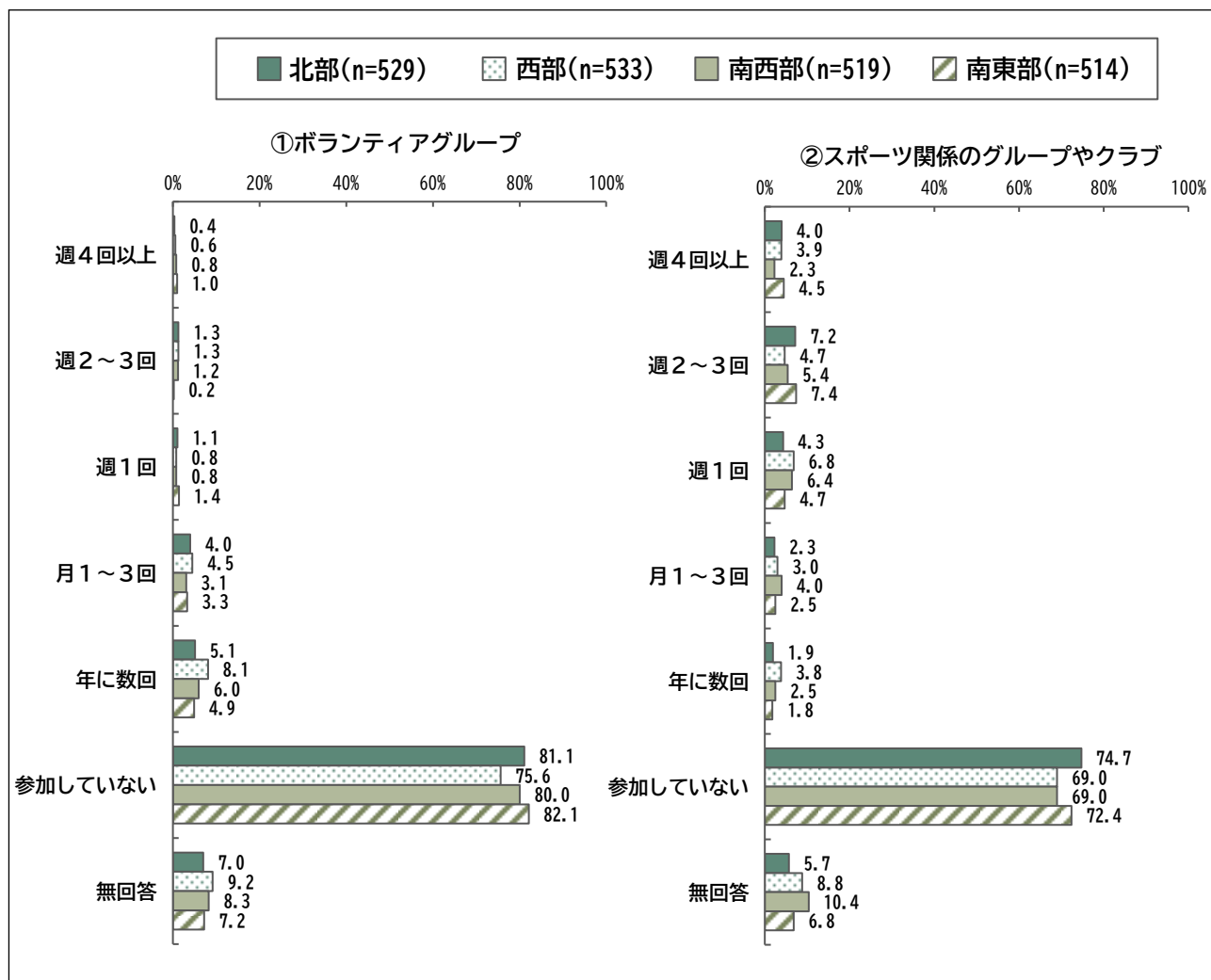


【属性別の傾向】

圏域別に参加頻度をみると、いずれの圏域でも①ボランティアグループ、⑦町内会・自治会は「年に数回」、③趣味関係グループは「月1～3回」、⑤いきいき百歳体操など介護予防のための通いの場合は「週1回」、⑧収入のある仕事は「週4回以上」がそれぞれ最も高くなっています。

それぞれの『参加率』を圏域別にみると、⑤いきいき百歳体操など介護予防のための通いの場では北部、⑦町内会・自治会では南西部、それ以外の活動は西部の『参加率』が最も高くなっています。

図表 53 社会参加の状況（圏域別）



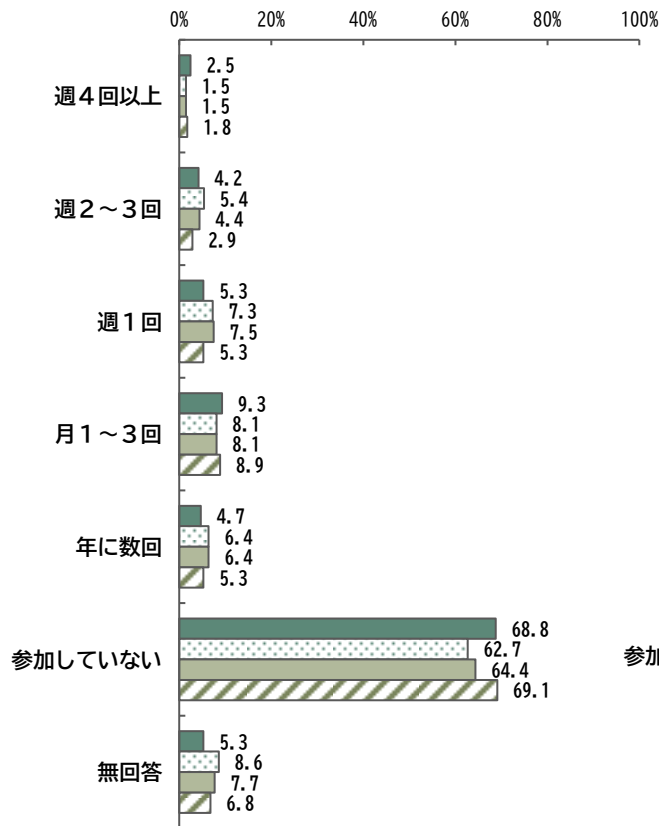
■ 北部(n=529)

▨ 西部(n=533)

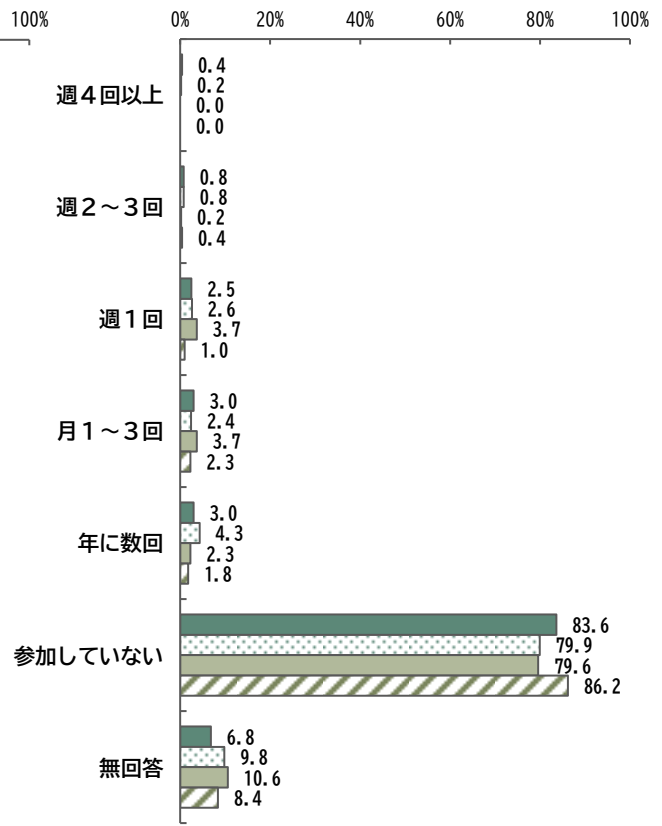
■ 南西部(n=519)

▨ 南東部(n=514)

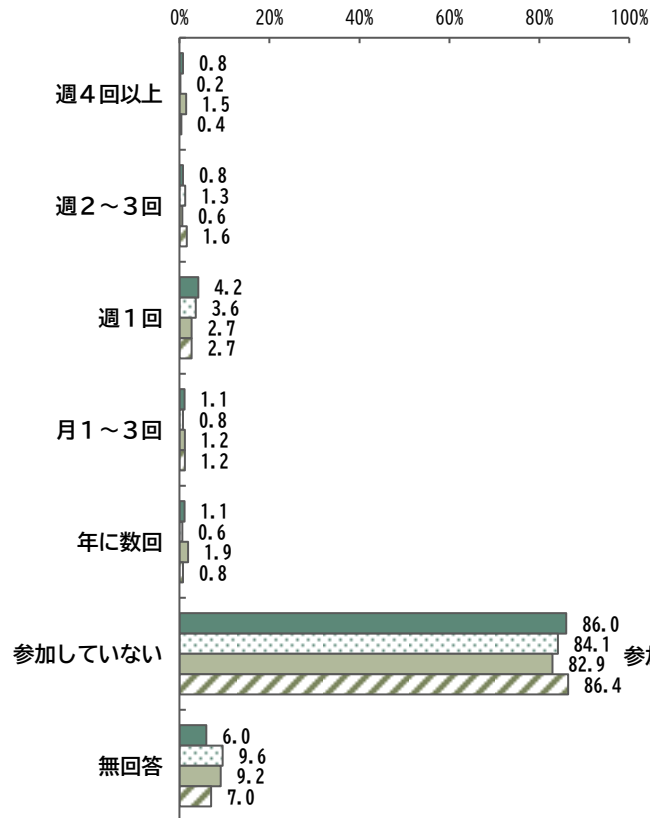
③趣味関係のグループ



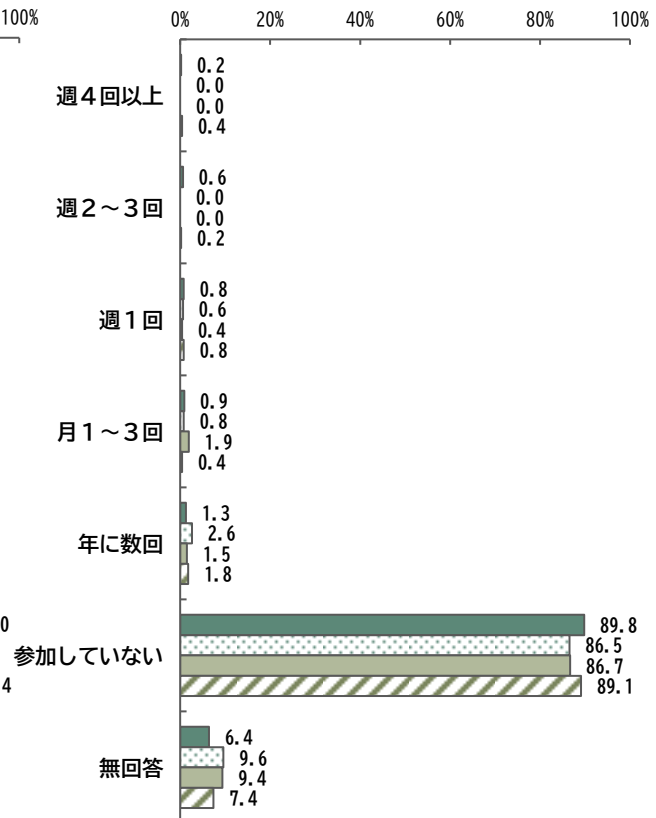
④学習・教養サークル



⑤介護予防のためなどの通いの場

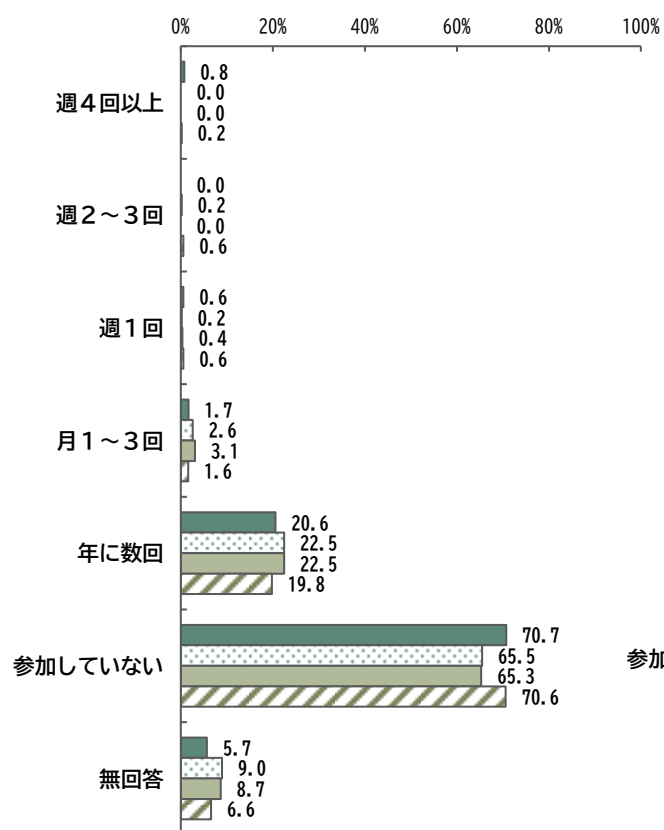


⑥老人クラブ

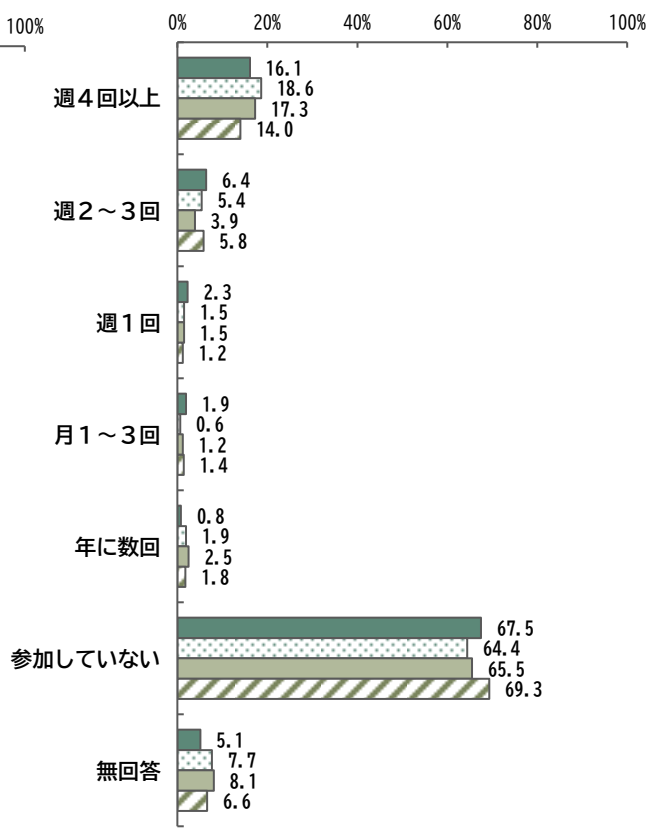


■ 北部(n=529) ▨ 西部(n=533) ■ 南西部(n=519) ▩ 南東部(n=514)

⑦町内会・自治会



⑧収入のある仕事



(2) 地域づくりへの参加意向

問5 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。
(1つだけ)

【全体の傾向】

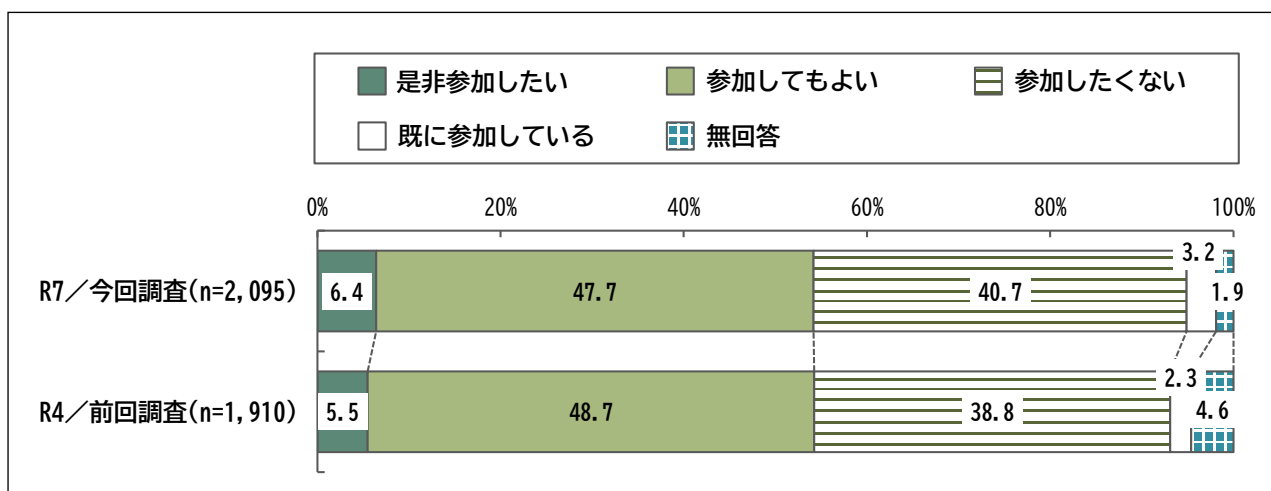
地域づくり活動に参加者として参加してみたいかどうかをみると、「参加してもよい」が 47.7%と最も高く、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加者として参加してもよい』は 54.1%と5割以上を占めています。また、「既に参加している」は 3.2%となっています。

前回調査と比較すると、『参加者として参加してもよい』の割合に大きな違いはみられません。

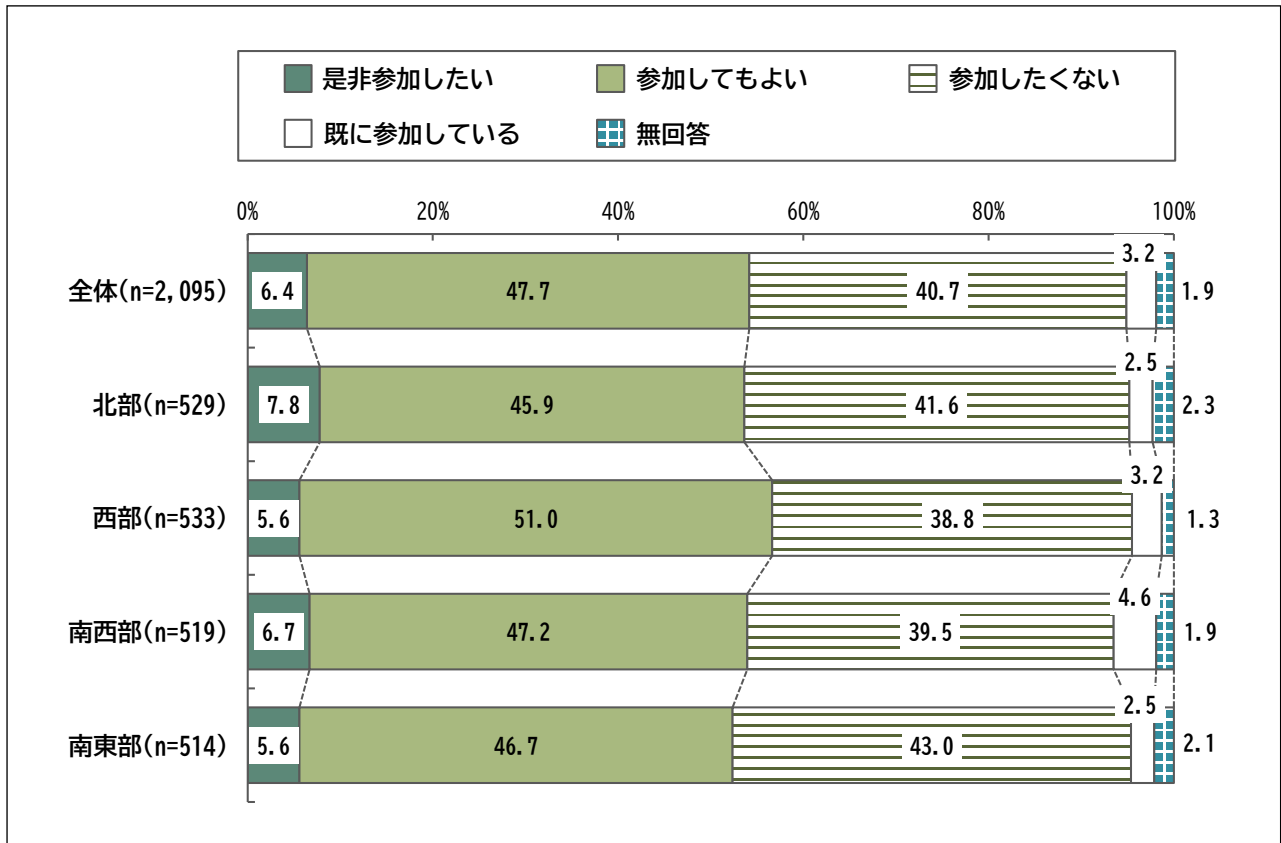
【属性別の傾向】

圏域別にみると、西部では「参加してもよい」が5割を超えており、『参加者として参加してもよい』が 56.6%となっています。また、西部以外の圏域においても『参加者として参加してもよい』は5割を超えていますが、南東部では 52.3%と西部と比べて 4.3 ポイント低くなっています。

図表 54 地域づくりへの参加意向（参加者）（全体、前回比較）



図表 55 地域づくりへの参加意向（参加者）（全体、圏域別）



問5（3）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

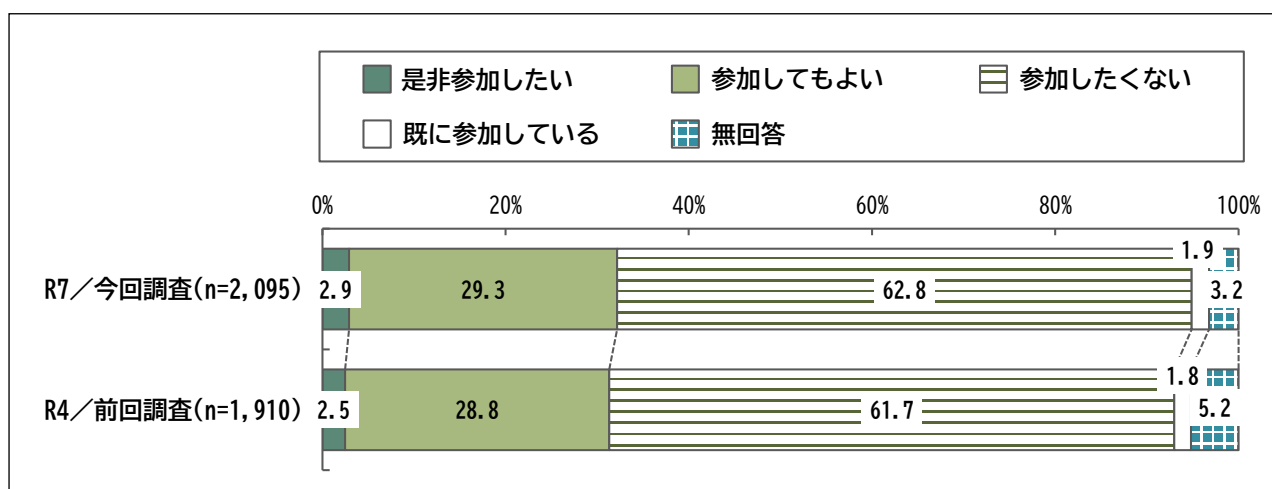
地域づくり活動に企画・運営として参加してみたいかどうかをみると、「参加したくない」が62.8%と6割を超えています。一方、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『企画・運営として参加してもよい』は32.2%にとどまり、前問の『参加者として参加してもよい』（54.1%）に比べて21.9ポイント下回っています。また「既に参加している」は1.9%となっています。

前回調査と比較すると、「参加したくない」が1.1ポイント増加しています。

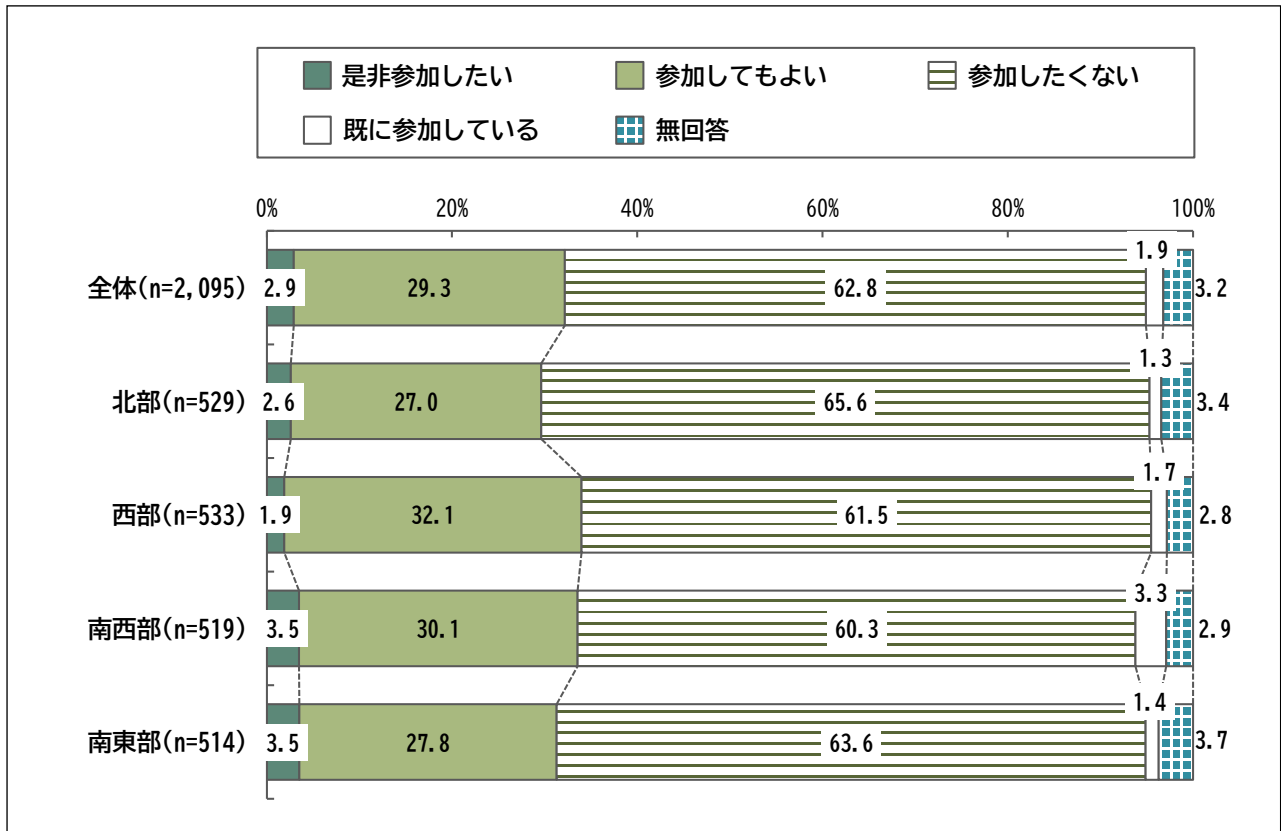
【属性別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域においても「参加したくない」が6割以上を占めており、『企画・運営として参加してもよい』は、前問の『参加者として参加してもよい』よりも低くなっています。また、西部では「是非参加したい」、「参加してもよい」が他の圏域よりも高くなっており『企画・運営として参加してもよい』は34.0%となっています。

図表 56 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（全体、前回比較）



図表 57 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（全体、圏域別）



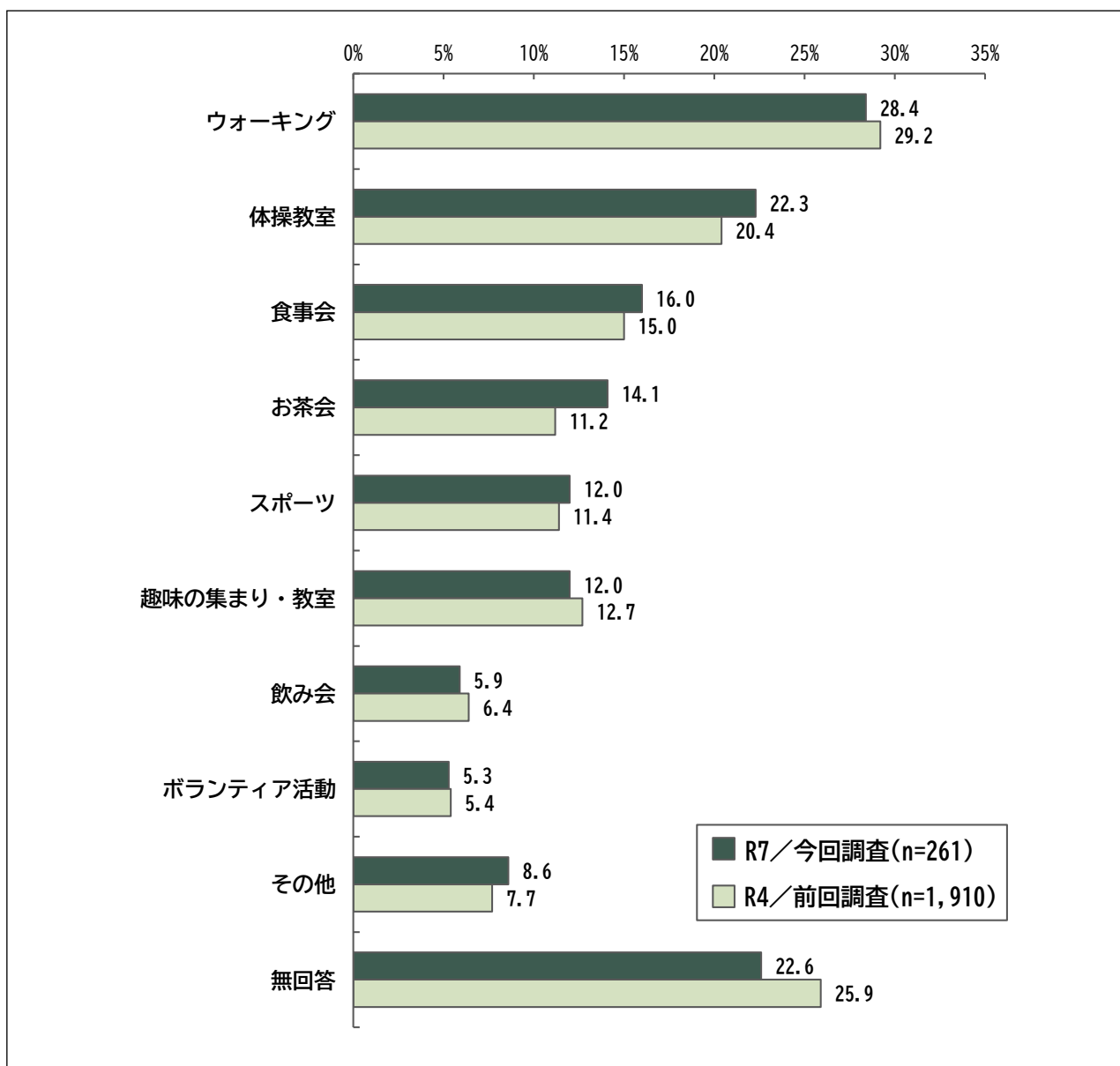
問5（4）どのような集まりが地域にあれば、参加してみたいと思いますか。（いくつでも）

【全体の傾向】

参加してみたい地域の行事についてみると、「ウォーキング」が28.4%と最も高く、次いで「体操教室」（22.3%）、「食事会」（16.0%）、「お茶会」（14.1%）、「スポーツ」（12.0%）となっています。

前回調査と比較すると、「お茶会」が2.9ポイント増加しています。

図表 58 参加してみたい地域の行事（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、男性では「ウォーキング」が第1位、女性では「体操教室」が第1位となっています。

年齢構成別にみると、前期高齢者では「スポーツ」、後期高齢者では「食事会」が上位に挙がっています。

認定状況別にみると、一般高齢者では「ウォーキング」、総合事業対象者では「体操教室」、要支援1・2では「食事会」がそれぞれ第1位となっています。

図表 59 参加してみたい地域の行事
(全体、性別、年齢構成別、認定状況別／複数回答)

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=2,095)		ウォーキング	体操教室	食事会
		28.4	22.3	16.0
性別	男性(n=890)	ウォーキング	スポーツ	食事会
		31.9	18.7	12.6
	女性(n=1,205)	体操教室	ウォーキング	お茶会
		30.0	25.7	19.4
年齢構成別	前期高齢者 65歳～74歳(n=902)	ウォーキング	体操教室	スポーツ
		33.4	23.7	16.1
	後期高齢者 75歳以上(n=1,193)	ウォーキング	体操教室	食事会
		24.6	21.3	19.1
認定状況別	一般高齢者 (n=1,925)	ウォーキング	体操教室	食事会
		29.9	22.6	15.0
	総合事業対象者 (n=19)	体操教室	食事会／お茶会	
		47.4	26.3	
	要支援1・2 (n=151)	食事会	お茶会	体操教室
		27.8	17.9	15.9

6 就労について

(1) 現在の就労状態

問6 (1) 現在のあなたの就労状態はどれですか。(1つだけ)

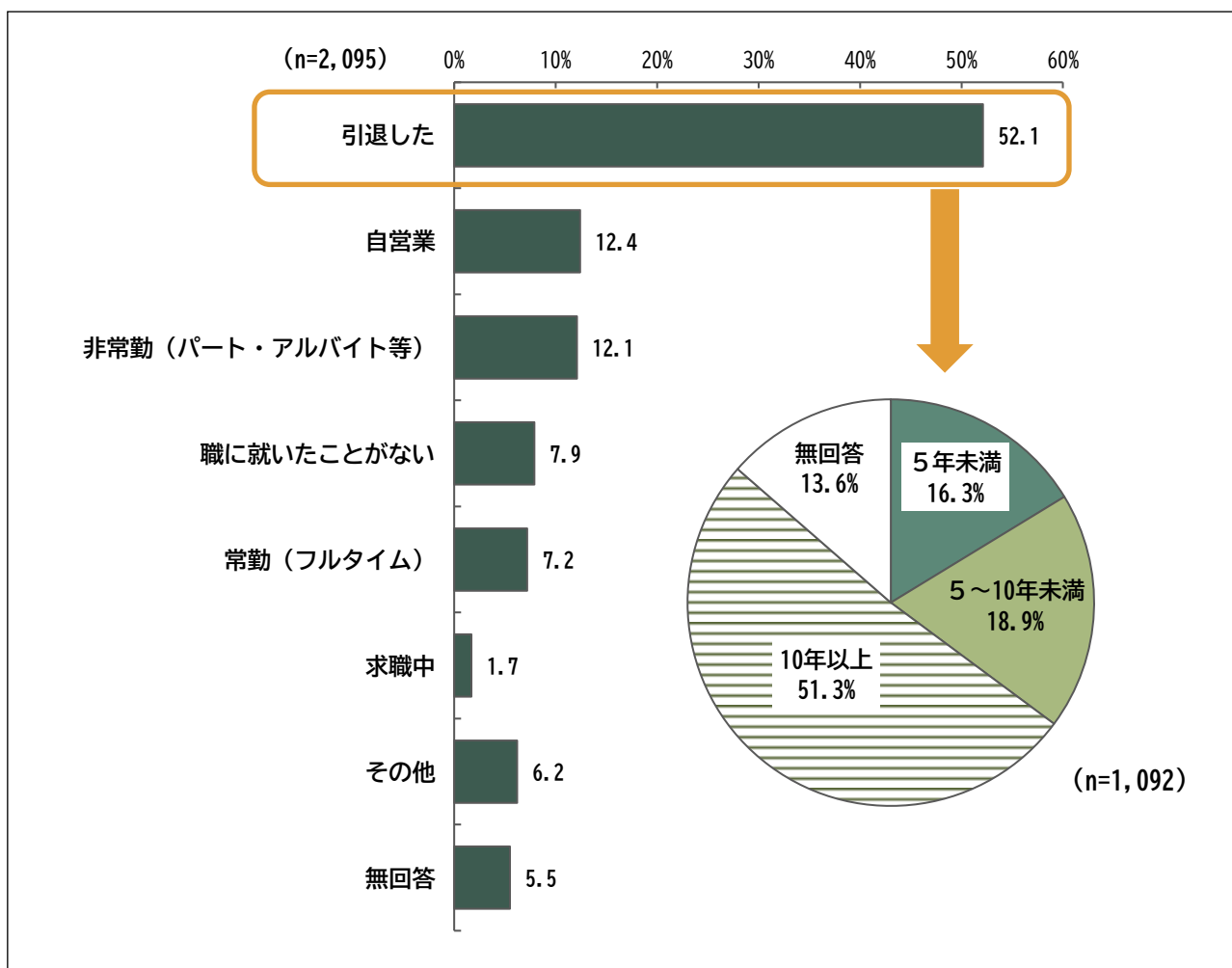
①「引退した」方は、いつ引退しましたか。

【全体の傾向】

現在の就労状態についてみると、「引退した」が52.1%と最も多く、次いで「自営業」(12.4%)、「非常勤(パート・アルバイト等)」(12.1%)となっています。

また、「引退した」と回答した方の引退時期についてみると、「10年以上」が51.3%と最も多く、5割を超えています。

図表 60 現在の就労状態(全体/複数回答)・引退後の経過年数



7 たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴（ぐち）について

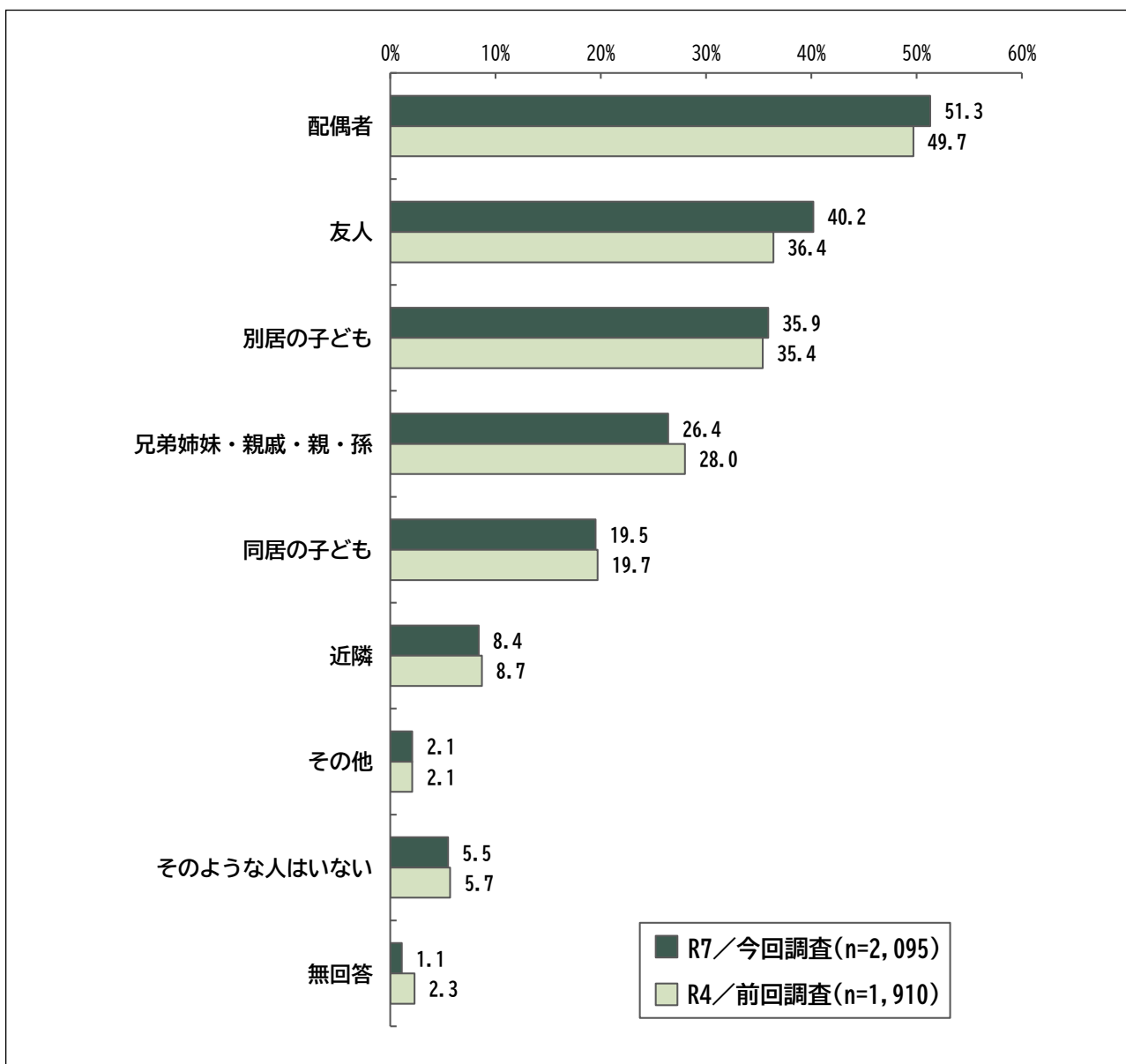
問7（1）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人。（いくつでも）

【全体の傾向】

心配事や愚痴を聞いてくれる相手についてみると、「配偶者」が51.3%と最も高く、次いで「友人」(40.2%)、「別居の子ども」(35.9%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(26.4%)、「同居の子ども」(19.5%)、「近隣」(8.4%)となっています。

前回調査と比較すると、「友人」が3.8ポイント増加しています。

図表 61 心配事や愚痴を聞いてくれる人（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは「友人」が第1位、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が第3位となっています。

夫婦2人暮らしでは配偶者の年齢に関わらず「配偶者」が第1位となっており、その割合は8割を超えています。

息子・娘との2世帯では「同居の子ども」が第1位となっています。

図表 62 心配事や愚痴を聞いてくれる人（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=2,095)		配偶者	友人	別居の子ども
		51.3	40.2	35.9
家族構成別	1人暮らし(n=507)	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫
		46.5	43.2	31.8
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=809)	配偶者	別居の子ども	友人
		80.0	43.1	37.2
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=95)	配偶者	友人	別居の子ども
		82.1	32.6	20.0
	息子・娘との 2世帯(n=356)	同居の子ども	配偶者	友人
		64.9	50.6	38.5
	その他(n=295)	配偶者	同居の子ども	友人
		48.8	45.1	42.7

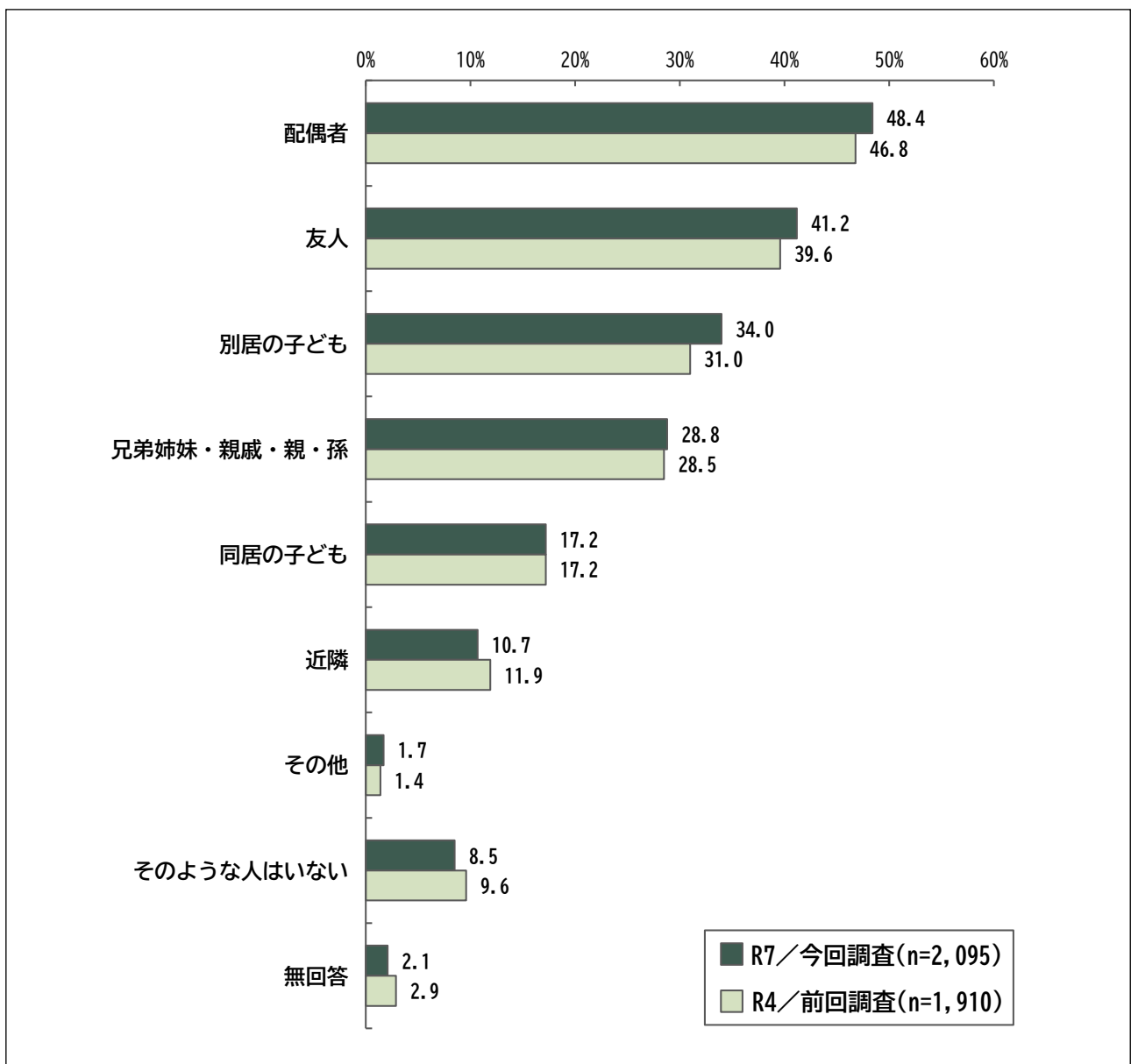
問7（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人。（いくつでも）

【全体の傾向】

心配事や愚痴を聞いてあげる人についてみると、「配偶者」が48.4%と最も高く、次いで「友人」(41.2%)、「別居の子ども」(34.0%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(28.8%)、「同居の子ども」(17.2%)、「近隣」(10.7%)となっています。

前回調査と比較すると、「近隣」、「そのような人はいない」が減少しています。

図表 63 心配事や愚痴を聞いてあげる人（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは「友人」が第1位、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が第3位となっています。

夫婦2人暮らしでは配偶者の年齢に関わらず「配偶者」が第1位となっています。

息子・娘との2世帯では「同居の子ども」が第1位となっています。

図表 64 心配事や愚痴を聞いてあげる人（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=2,095)		配偶者	友人	別居の子ども
		48.4	41.2	34.0
家族構成別	1人暮らし(n=507)	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫
		47.9	34.1	31.8
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=809)	配偶者	別居の子ども	友人
		75.8	42.0	37.6
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=95)	配偶者	友人	別居の子ども
		76.8	31.6	30.5
	息子・娘との 2世帯(n=356)	同居の子ども	配偶者	友人
		55.3	48.3	41.6
	その他(n=295)	配偶者	友人	同居の子ども
		45.4	43.1	41.4

(2) 看病や世話について

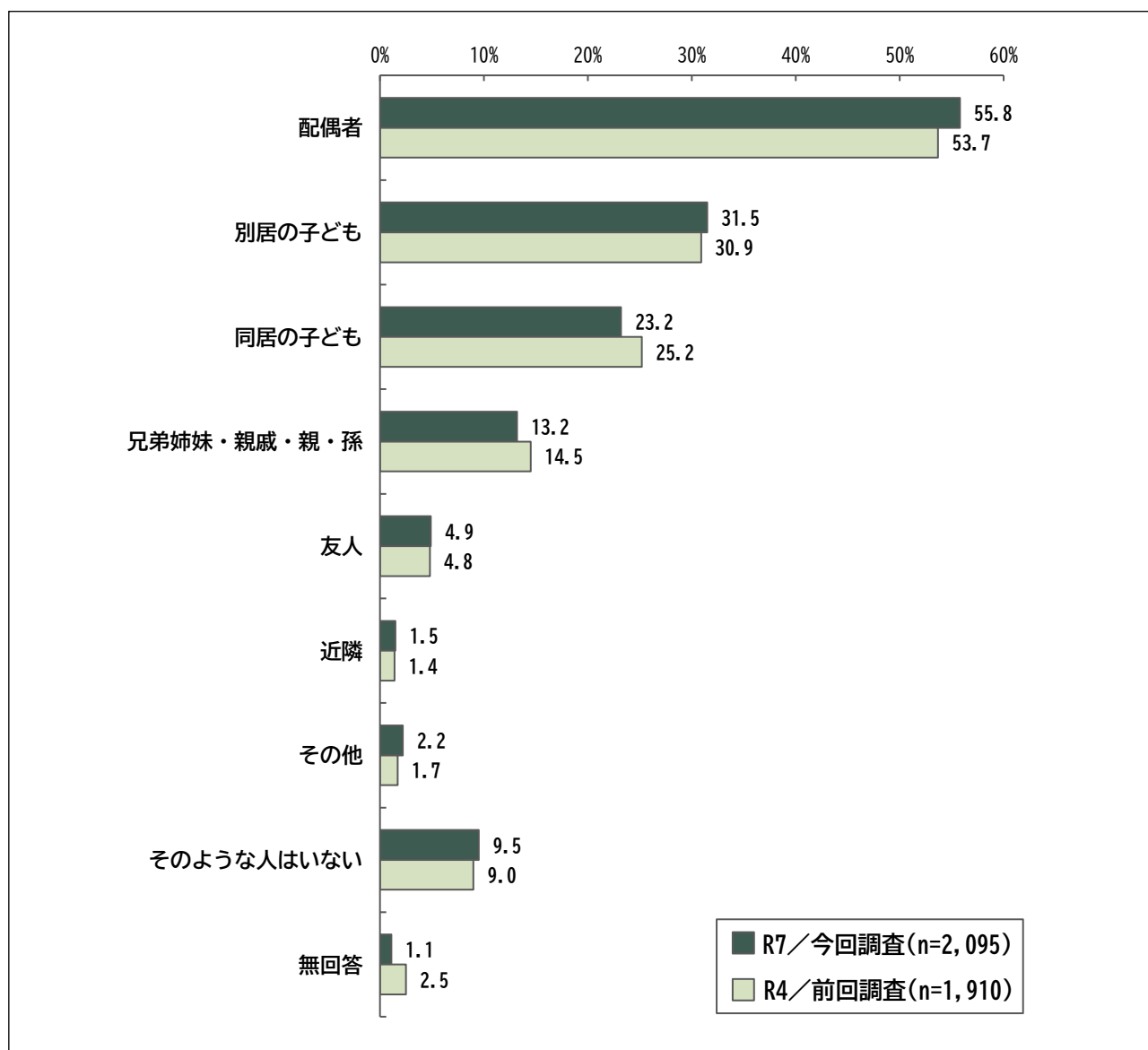
問7 (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。(いくつでも)

【全体の傾向】

病気で寝込んだ際に看病してくれる人についてみると、「配偶者」が55.8%と最も高く、次いで「別居の子ども」(31.5%)、「同居の子ども」(23.2%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(13.2%)と、上位4位までは、すべて親族となっています。さらに「友人」(4.9%)、「近隣」(1.5%)と続いています。親族と比較すると割合に差がみられます。一方、「そのような人はいない」は9.5%となっています。

前回調査と比較すると、「配偶者」が2.1ポイント増加しています。

図表 65 看病や世話をしてくれる人（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは、「別居の子ども」が第1位、「そのような人はいない」が第2位となっています。

夫婦2人暮らしでは、配偶者の年齢に関わらず、「配偶者」が第1位となっています。

息子・娘との2世帯では「同居の子ども」が第1位となっています。

図表 66 看病や世話をしてくれる人（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=2,095)		配偶者	別居の子ども	同居の子ども
		55.8	31.5	23.2
家族構成別	1人暮らし(n=507)	別居の子ども	そのような人はいない	兄弟姉妹・親戚・親・孫
		45.0	26.6	22.7
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=809)	配偶者	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫
		88.6	35.7	7.9
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=95)	配偶者	別居の子ども	同居の子ども
		89.5	18.9	12.6
	息子・娘との 2世帯(n=356)	同居の子ども	配偶者	別居の子ども
		73.9	54.2	19.1
	その他(n=295)	同居の子ども	配偶者	別居の子ども
		55.3	52.5	17.3

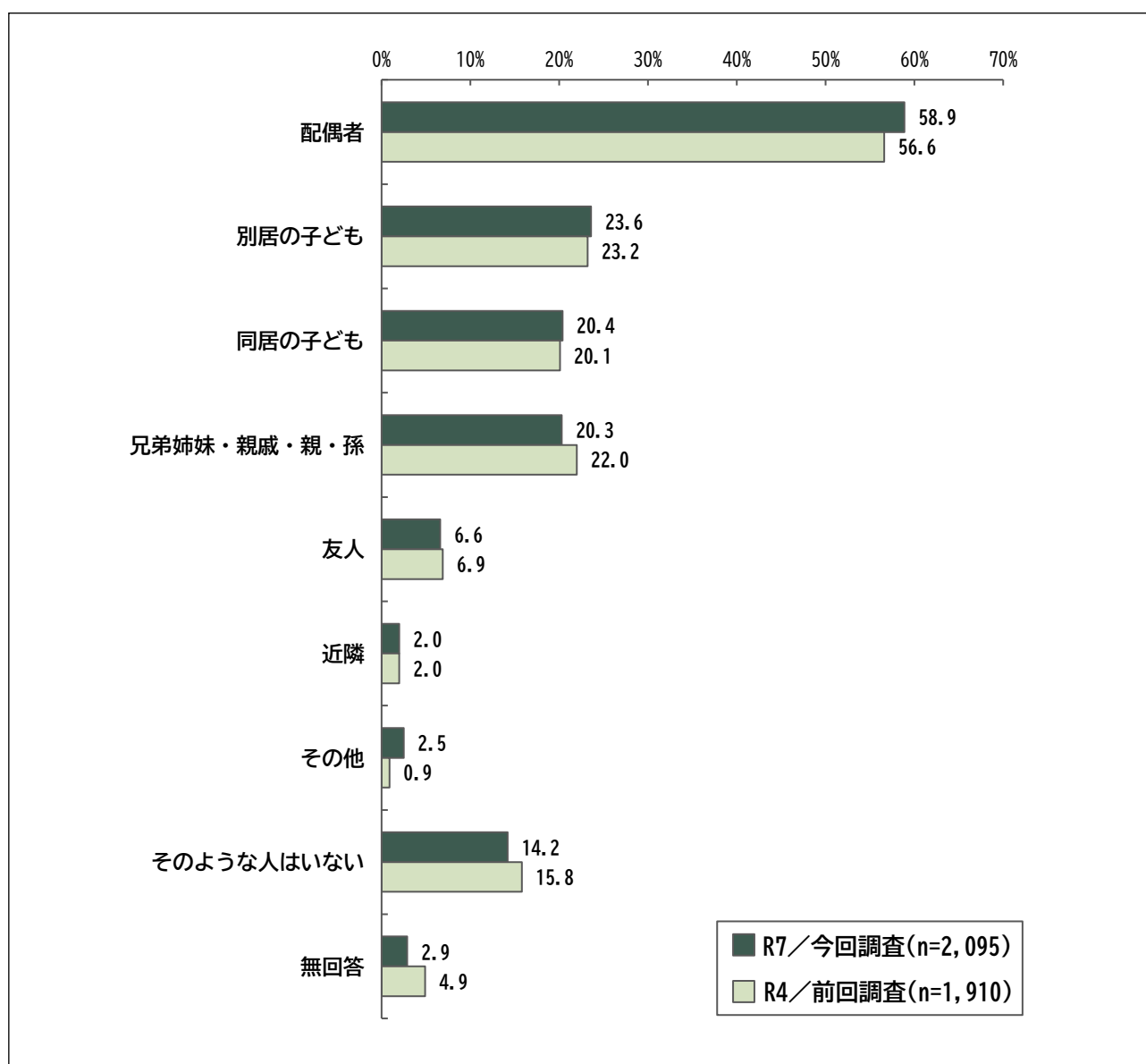
問7（4）反対に、看病や世話をしあける人。（いくつでも）

【全体の傾向】

病気の際に看病や世話をしあける人についてみると、「配偶者」が58.9%と最も高く、その割合は突出しています。次いで、「別居の子ども」（23.6%）、「同居の子ども」（20.4%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（20.3%）、「友人」（6.6%）、「近隣」（2.0%）となっています。一方、「そのような人はいない」は14.2%となっています。

前回調査と比較すると、「配偶者」が2.3ポイント増加しています。

図表 67 看病や世話をしあける人（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは「そのような人はいない」が第1位となっており、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が第2位となっています。

夫婦2人暮らしでは配偶者の年齢に関わらず「配偶者」が第1位となっています。

息子・娘との2世帯では「同居の子ども」が第1位となっています。

図表 68 看病や世話をしあける人（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=2,095)		配偶者	別居の子ども	同居の子ども
		58.9	23.6	20.4
家族構成別	1人暮らし(n=507)	そのような人はいない	兄弟姉妹・親戚・親・孫	別居の子ども
		37.7	25.0	24.5
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=809)	配偶者	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫
		91.3	29.5	16.7
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=95)	配偶者	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫
		93.7	21.1	14.7
	息子・娘との 2世帯(n=356)	同居の子ども	配偶者	兄弟姉妹・親戚・親・孫
		62.6	58.1	20.5
	その他(n=295)	配偶者	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫
		57.6	54.2	24.1

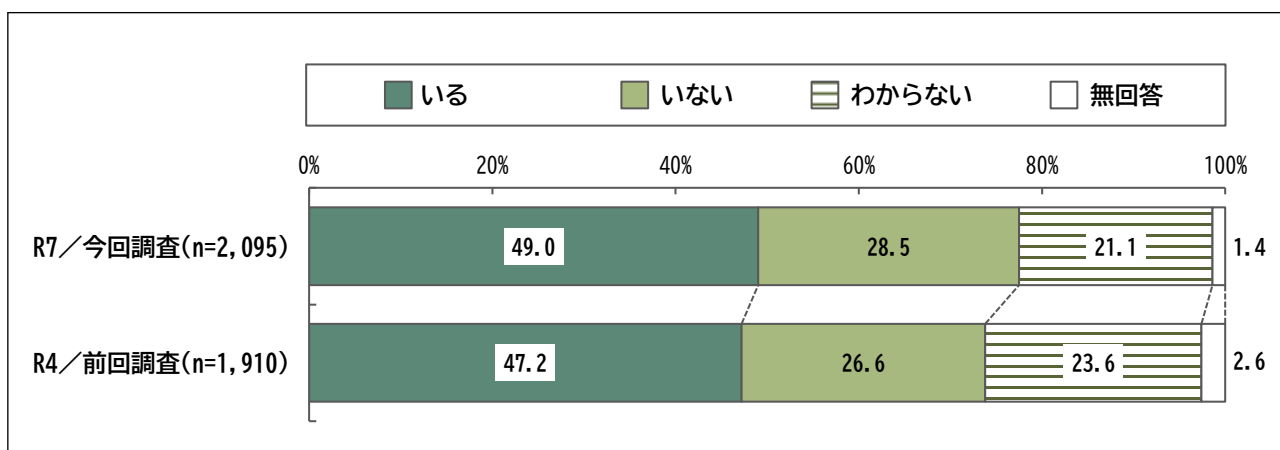
（３）家族以外に頼れる人の有無について

問７（５）困った時に「助けて」といえる人は家族以外の人でいますか。（１つだけ）

【全体の傾向】

家族以外で困った時に頼れる人の有無についてみると、「いる」が 49.0%、「いない」が 28.5%、「わからない」が 21.1%となっています。前回調査と比較すると「いる」が 1.8 ポイント増加しています。

図表 69 家族以外に困った時に頼れる人の有無について（全体、前回比較）



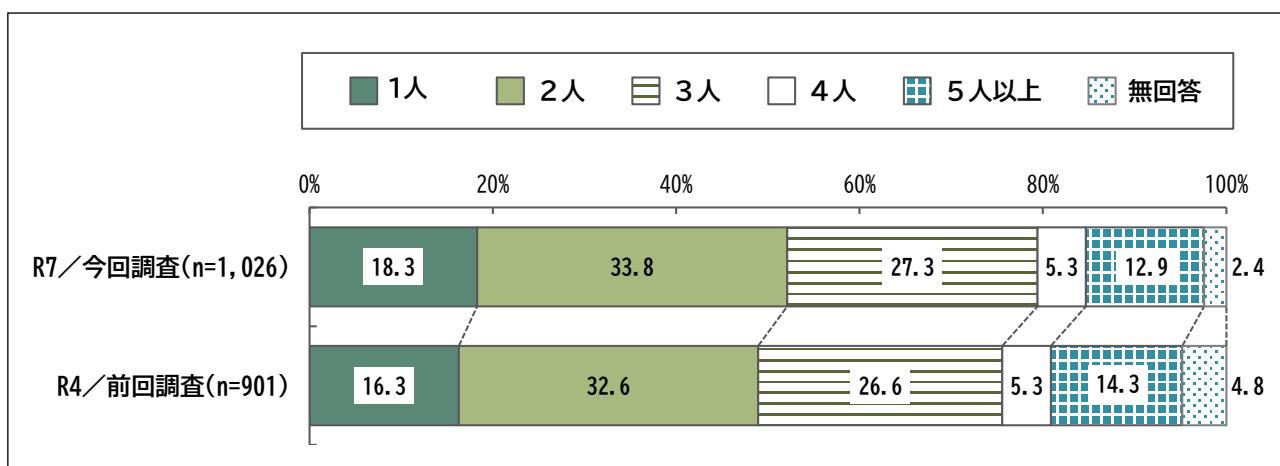
※問７（５）で「いる」と答えた方のみ

問７（５－１）何人いますか。（人数を記入）

【全体の傾向】

家族以外で困った時に頼れる人の人数についてみると、「２人」が 33.8%と最も高く、次いで「３人」（27.3%）、「１人」（18.3%）、「５人以上」（12.9%）、「４人」（5.3%）となっています。前回調査と比較すると、「１人」が 2.0 ポイント増加しています。

図表 70 家族以外に困った時に頼れる人の人数（全体、前回比較）



問7（6）家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（いくつでも）

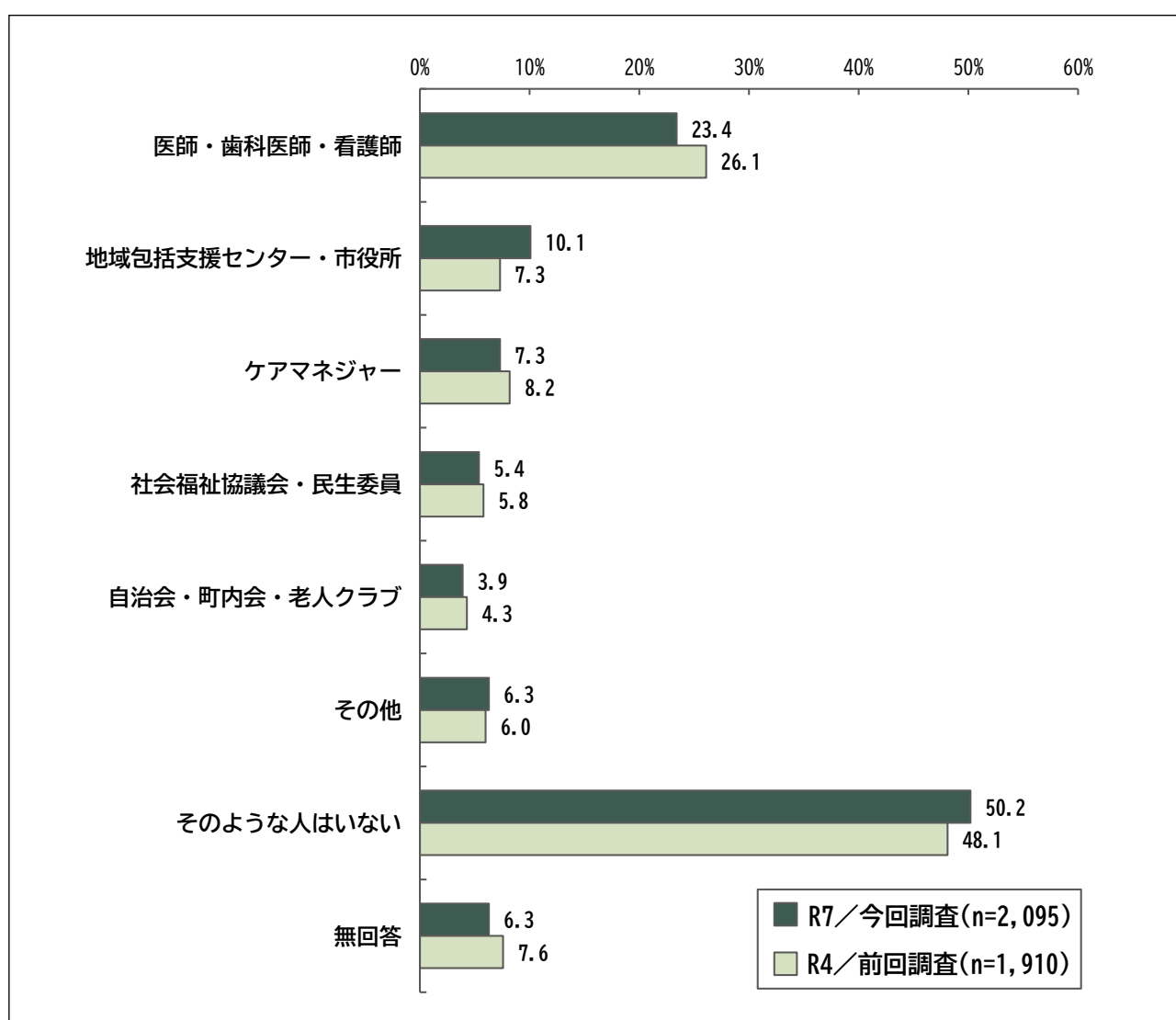
【全体の傾向】

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手についてみると、「医師・歯科医師・看護師」（23.4%）、「地域包括支援センター・市役所」（10.1%）、「ケアマネジャー」（7.3%）、「社会福祉協議会・民生委員」（5.4%）、「自治会・町内会・老人クラブ」（3.9%）の順となっています。

一方、「そのような人はいない」は50.2%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「地域包括支援センター・市役所」が2.8ポイント増加しています。

図表 71 家族や友人・知人以外の相談相手（全体、前回比較／複数回答）



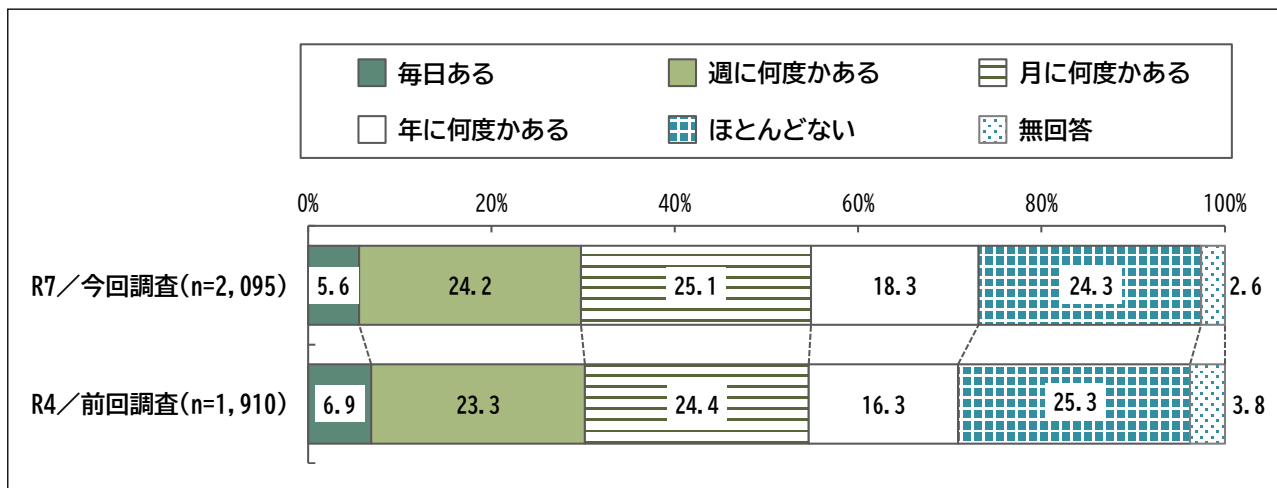
(4) 友人・知人との関係性

問7（7）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。（1つだけ）

【全体の傾向】

友人・知人と会う頻度をみると、「月に何度かある」が25.1%と最も高くなっており、次いで「ほとんどない」（24.3%）、「週に何度かある」（24.2%）となっています。前回調査と比較すると、「年に何度かある」が2.0ポイント増加しています。

図表 72 友人・知人と会う頻度（全体、前回比較）

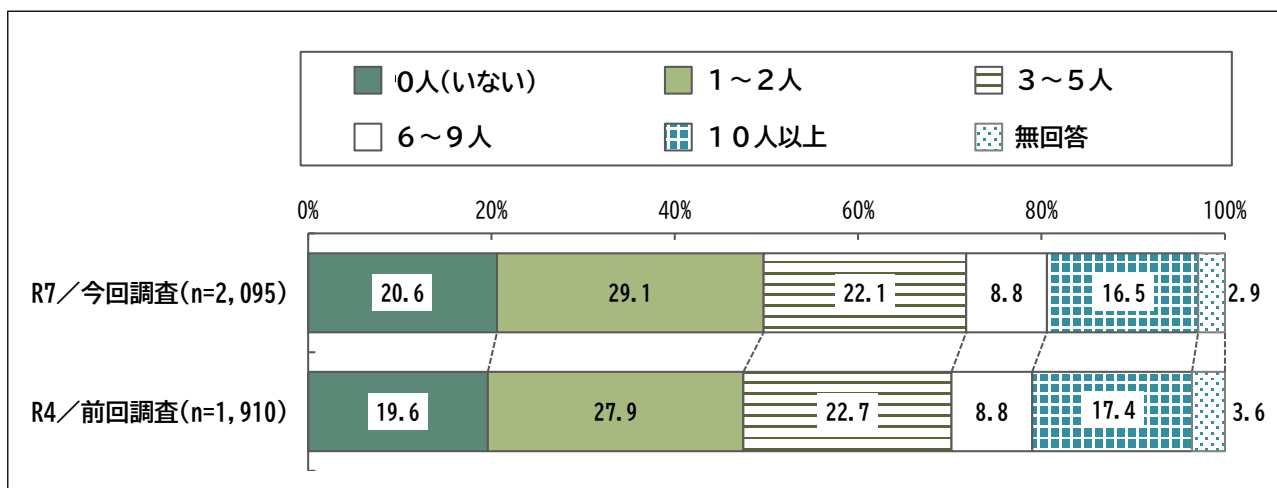


問7（8）この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。（1つだけ）

【全体の傾向】

1か月間で何人の友人・知人と会ったかをみると、「1～2人」が29.1%と最も高く、次いで「3～5人」（22.1%）、「0人（いない）」（20.6%）となっています。前回調査と比較すると、「1～2人」が1.2ポイント増加しています。

図表 73 1か月間で何人の友人・知人と会ったか（全体、前回比較）



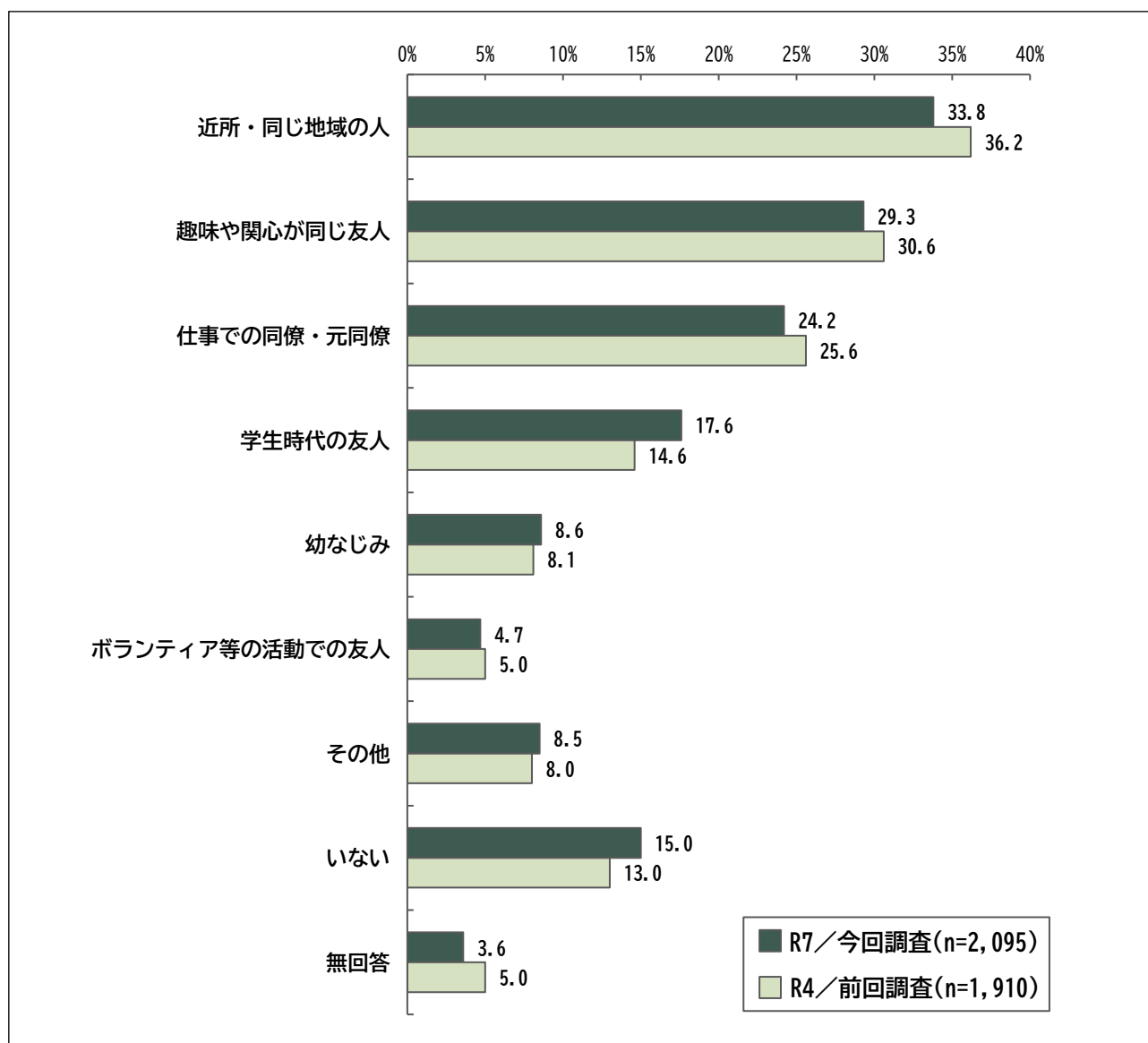
問7（9）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（いくつでも）

【全体の傾向】

よく会う友人・知人との関係についてみると、「近所・同じ地域の人」が33.8%と最も高く、「趣味や関心と同じ友人」（29.3%）、「仕事での同僚・元同僚」（24.2%）、「学生時代の友人」（17.6%）、「幼なじみ」（8.6%）、「ボランティア等の活動での友人」（4.7%）となっています。一方、「いない」は15.0%となっています。

前回調査と比較すると、「学生時代の友人」が3.0ポイント増加しています。

図表 74 よく会う友人・知人との関係（全体、前回比較／複数回答）



8 健康について

(1) 現在の健康状態について

問8 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つだけ)

【全体の傾向】

現在の健康状態についてみると、「まあよい」が65.4%と最も高く、「とてもよい」(7.2%)と合計すると、『健康状態はよい』が72.6%となっています。

前回調査と比較すると、『健康状態はよい』が2.1ポイント増加しています。

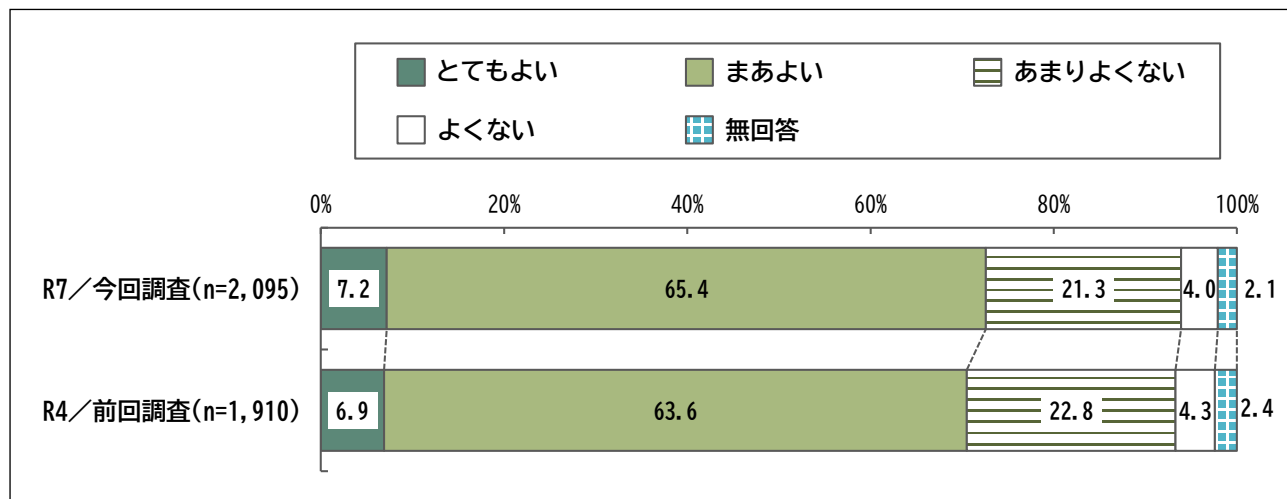
【属性別の傾向】

性別にみると、『健康状態はよい』は、女性(73.9%)が男性(70.7%)を3.2ポイント上回っています。

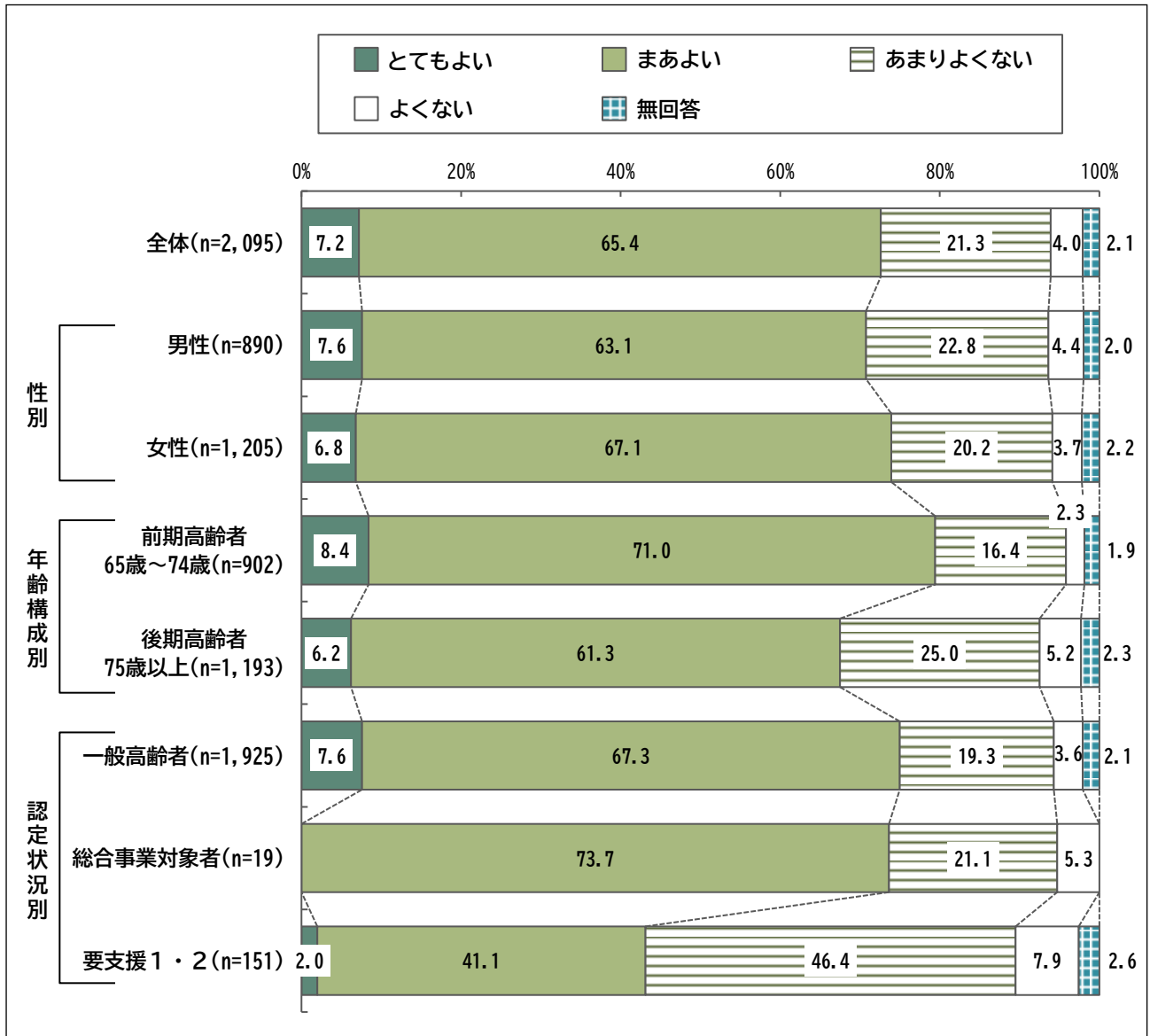
年齢構成別にみると、『健康状態はよい』は、前期高齢者(79.4%)が後期高齢者(67.5%)を11.9ポイント上回っています。

認定状況別にみると、『健康状態はよい』は、一般高齢者(74.9%)および総合事業対象者(73.7%)と、要支援1・2(43.1%)との間に差が見られます。また、要支援1・2では「あまりよくない」が最も高くなっており、「よくない」を合わせると54.3%が『健康状態はよくない』と回答しています。

図表 75 主観的健康感(全体、前回比較)



図表 76 主観的健康感（全体、性別、年齢構成別、認定状況別）

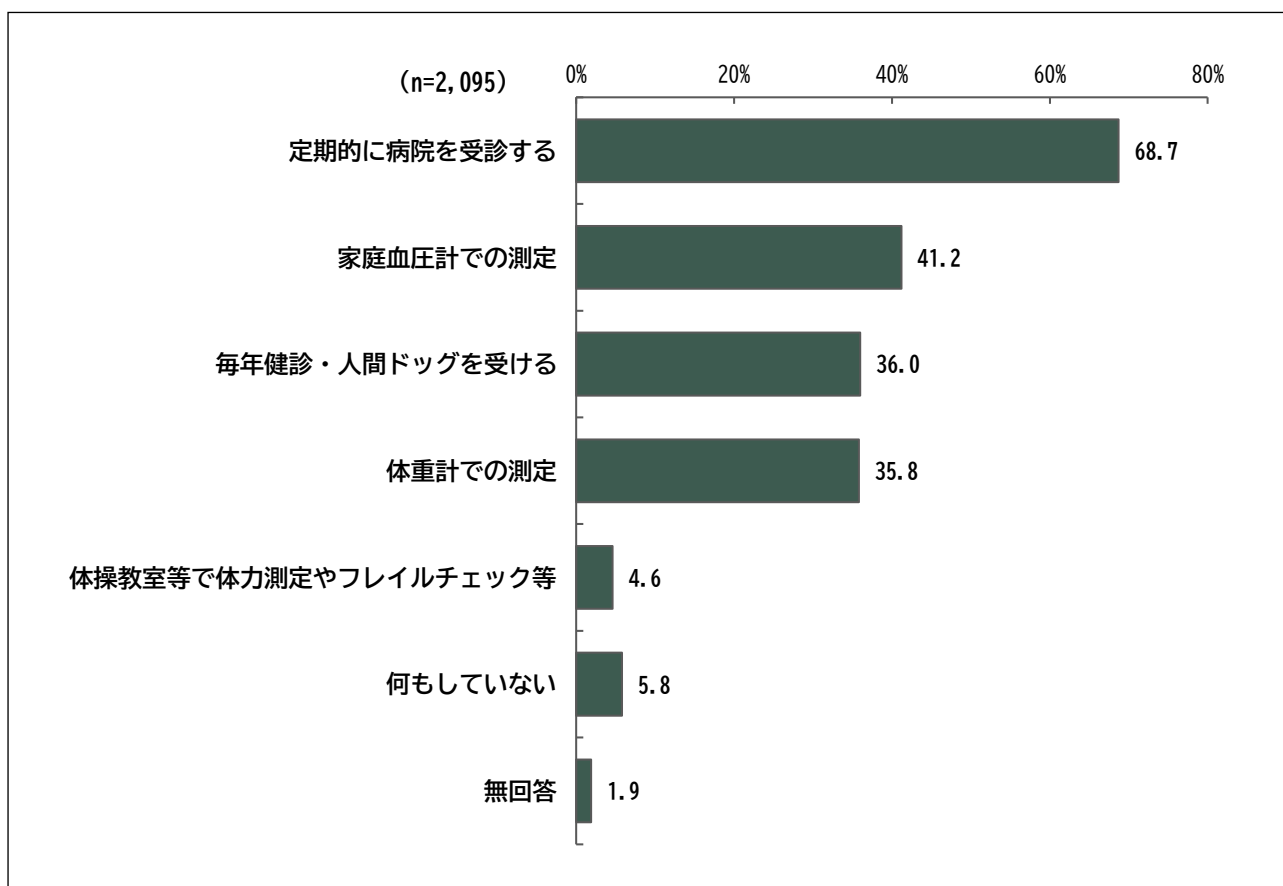


問8（2）あなたの健康状態を把握する手段は何ですか。（いくつでも）

【全体の傾向】

健康状態を把握する手段についてみると、「定期的に病院を受診する」が 68.7%と最も高く、次いで、「家庭血圧計での測定」(41.2%)、「毎年健診・人間ドッグを受ける」(36.0%)、「体重計での測定」(35.8%)、「体操教室等で体力測定やフレイルチェック等」(4.6%)となっています。

図表 77 健康状態を把握する手段（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、男女とも「定期的に病院を受診する」が第1位、「家庭血圧計での測定」が第2位となっており、男性では「毎年健診・人間ドッグを受ける」、女性では「体重計での測定」が第3位となっています。

年齢構成別にみると、前期高齢者・後期高齢者ともに「定期的に病院を受診する」が第1位、「体重計での測定」が第3位となっており、前期高齢者では「毎年健診・人間ドッグを受ける」、後期高齢者では「家庭血圧計での測定」が第2位となっています。

図表 78 健康状態を把握する手段（全体、性別、年齢構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=2,095)		定期的に病院を受診する	家庭血圧計での測定	毎年健診・人間ドッグを受ける
		68.7	41.2	36.0
性別	男性(n=890)	定期的に病院を受診する	家庭血圧計での測定	毎年健診・人間ドッグを受ける
		69.4	39.2	36.9
	女性(n=1,205)	定期的に病院を受診する	家庭血圧計での測定	体重計での測定
		68.2	42.7	38.7
年齢構成別	前期高齢者 65歳～74歳 (n=902)	定期的に病院を受診する	毎年健診・人間ドッグを受ける	体重計での測定
		61.3	45.8	36.4
	後期高齢者 75歳以上 (n=1,193)	定期的に病院を受診する	家庭血圧計での測定	体重計での測定
		74.4	45.3	35.4

(2) 主観的幸福感

問8（3）あなたは、現在どの程度幸せですか。

（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

【全体の傾向】

現在どの程度幸せかについて点数で評価したところ、「幸せ（7～9点）」が45.9%と最も高く、次いで「ふつう（4～6点）」（33.4%）、「とても幸せ（10点）」（9.9%）と続いています。また、「とても幸せ」と「幸せ」を合計した『幸せである』と感じている人は55.8%となっています。

前回調査と比較すると、『幸せである』と感じている人が1.5ポイント増加しています。

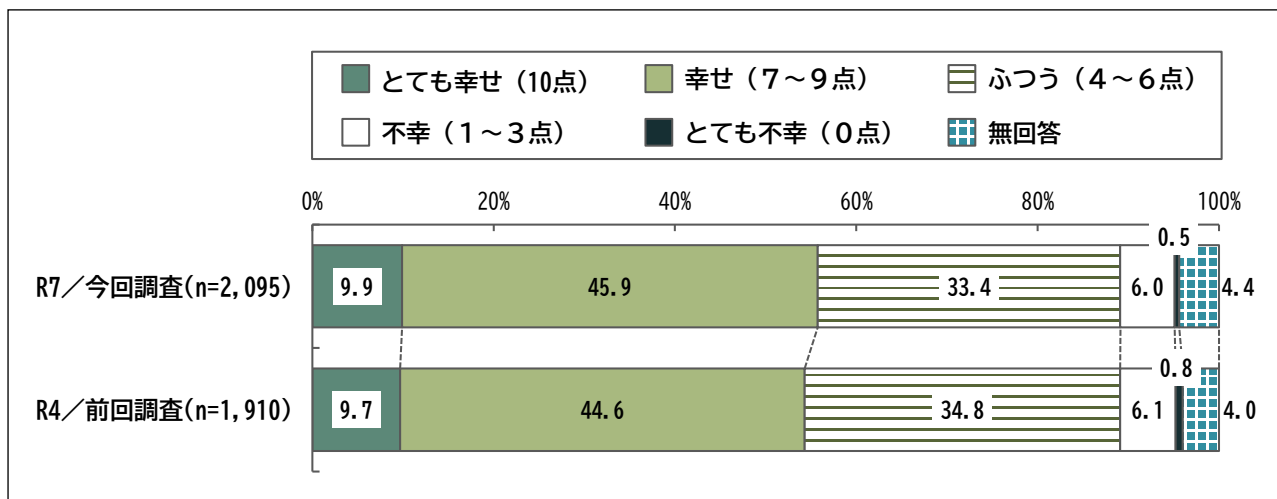
【属性別の傾向】

性別にみると、『幸せである』と感じている割合は、女性（58.1%）が男性（52.7%）を5.4ポイント上回っています。

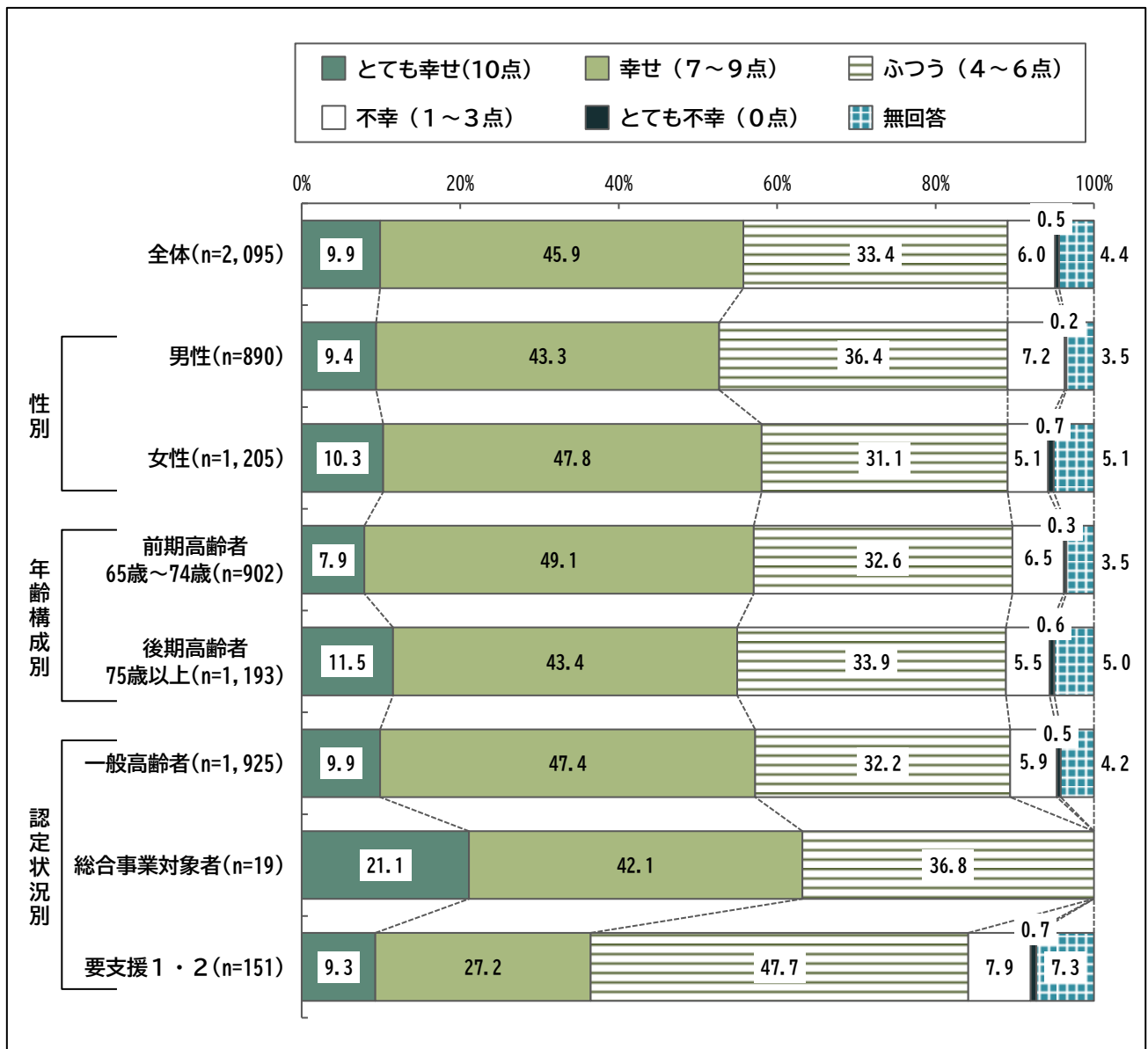
年齢構成別にみると、『幸せである』と感じている割合は、前期高齢者（57.0%）が後期高齢者（54.9%）を2.1ポイント上回っています。

認定状況別にみると、『幸せである』と感じている割合は、一般高齢者（57.3%）及び総合事業対象者（63.2%）が半数以上を占めているのに対して、要支援1・2では36.5%となっており、割合に差がみられます。

図表 79 主観的幸福感（全体、前回比較）



図表 80 主観的幸福感（全体、性別、年齢構成別、認定状況別）



(3) うつ傾向について

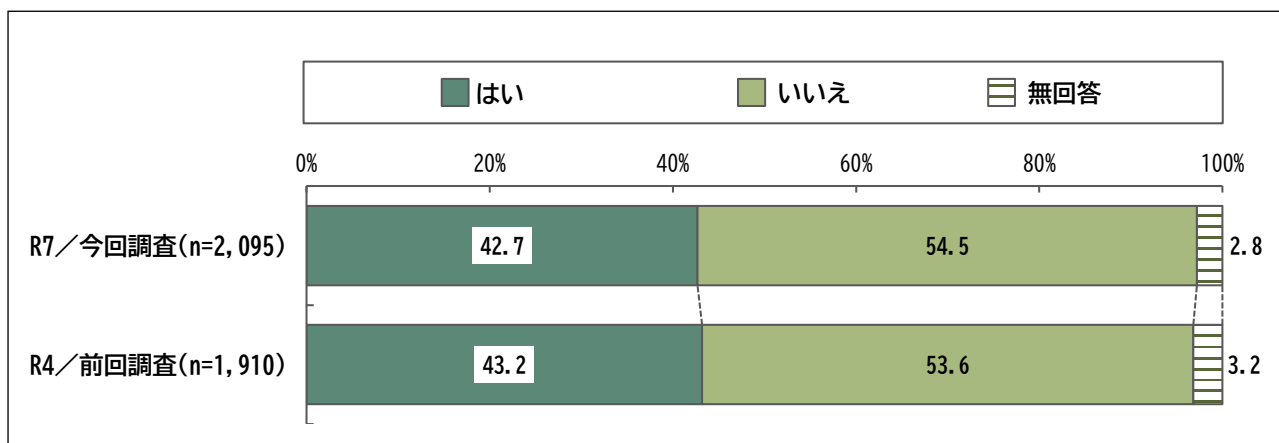
問8（4）この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。
（1つだけ）

【全体の傾向】

この1か月間で気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったかについてみると、「はい」が42.7%、「いいえ」が54.5%となっています。

前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 81 ゆううつな気持ちになることがあったか（全体、前回比較）



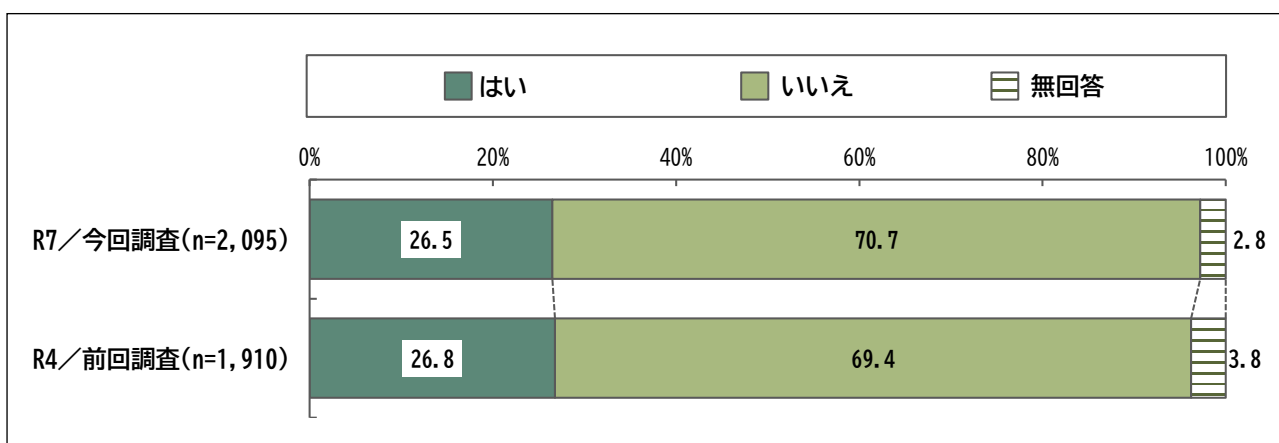
問8（5）この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。（1つだけ）

【全体の傾向】

この1か月間で物事に対して興味がわかない、楽しめないと感じたかについてみると、「はい」が26.5%、「いいえ」が70.7%となっています。

前回調査と比較すると、「いいえ」が1.3ポイント増加しています。

図表 82 物事に興味がわかない、楽しめないことがあったか（全体、前回比較）



(4) 飲酒の習慣

問7 (5) お酒は飲みますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

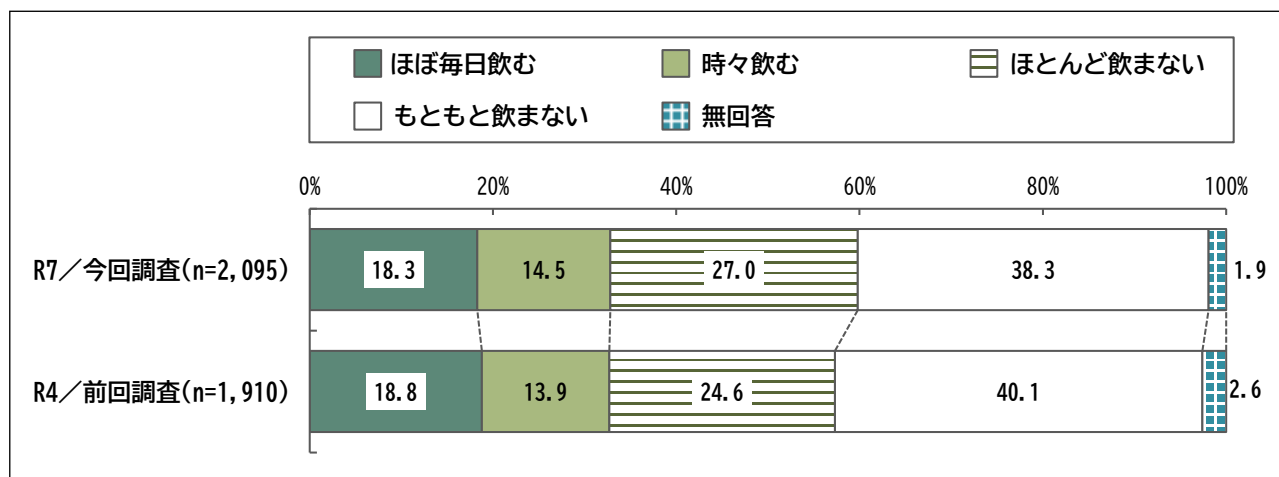
飲酒の習慣についてみると、「もともと飲まない」が38.3%と最も高く、「ほとんど飲まない」(27.0%)を合計すると、65.3%が『飲酒の習慣がない』と回答しています。一方、「ほぼ毎日飲む」(18.3%)と「時々飲む」(14.5%)を合計した『飲酒の習慣がある』は32.8%となっています。

前回調査と比較すると、「ほとんど飲まない」が2.4ポイント増加しています。

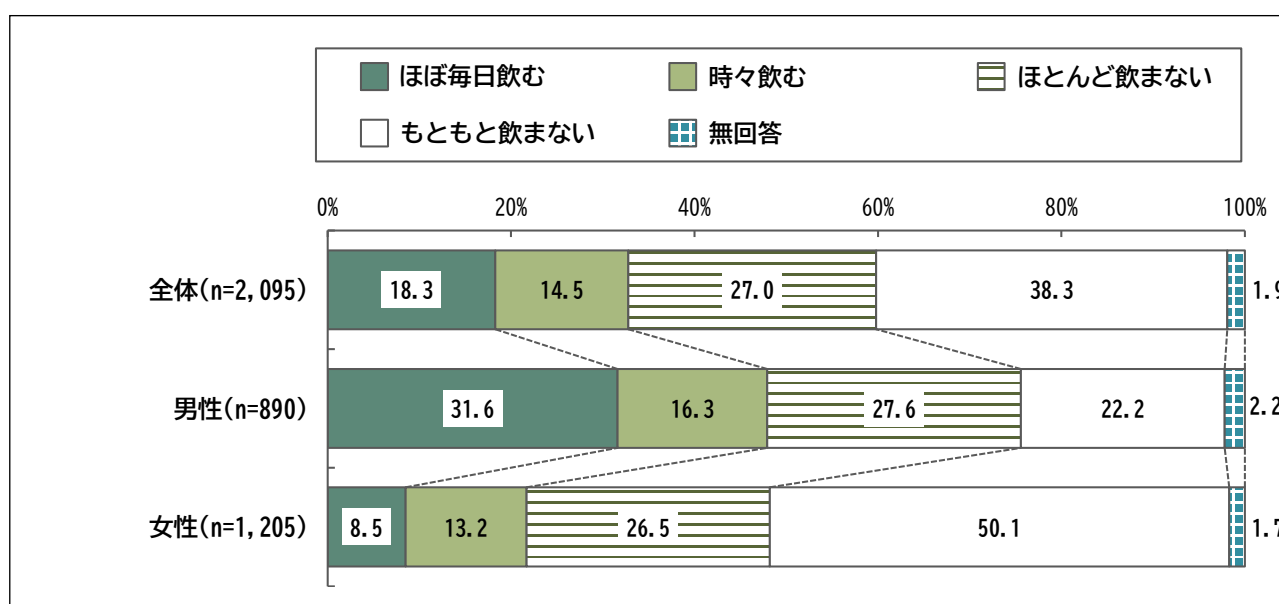
【属性別の傾向】

性別にみると、男性では『飲酒の習慣がある』が47.9%を占めており、そのうちの31.6%が「ほぼ毎日飲む」と回答しています。一方、女性では『飲酒の習慣がない』が76.6%を占めており、そのうち50.1%が「もともと飲まない」と回答しています。また、『飲酒の習慣がある』は21.7%にとどまっています。

図表 83 飲酒の習慣（全体、前回比較）



図表 84 飲酒の習慣（全体、性別）



(5) 喫煙の習慣

問7(6) タバコは吸っていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

喫煙の習慣についてみると、「もともと吸っていない」が61.6%となっており、「吸っていたがやめた」(29.2%)を合計すると、90.8%が『現在は吸っていない』と回答しています。

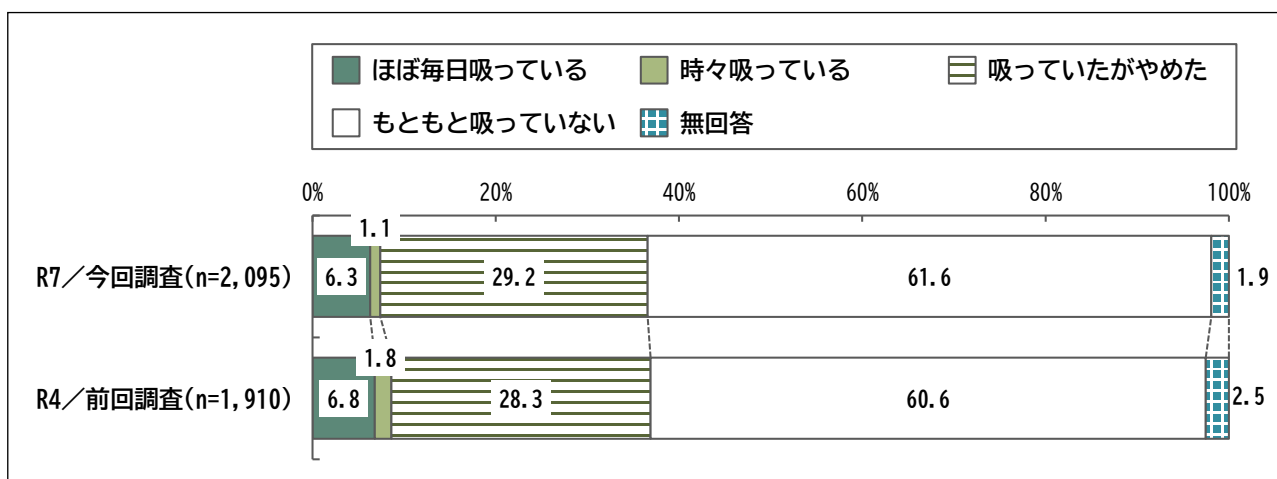
前回調査と比較すると、「もともと吸っていない」が1.0ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

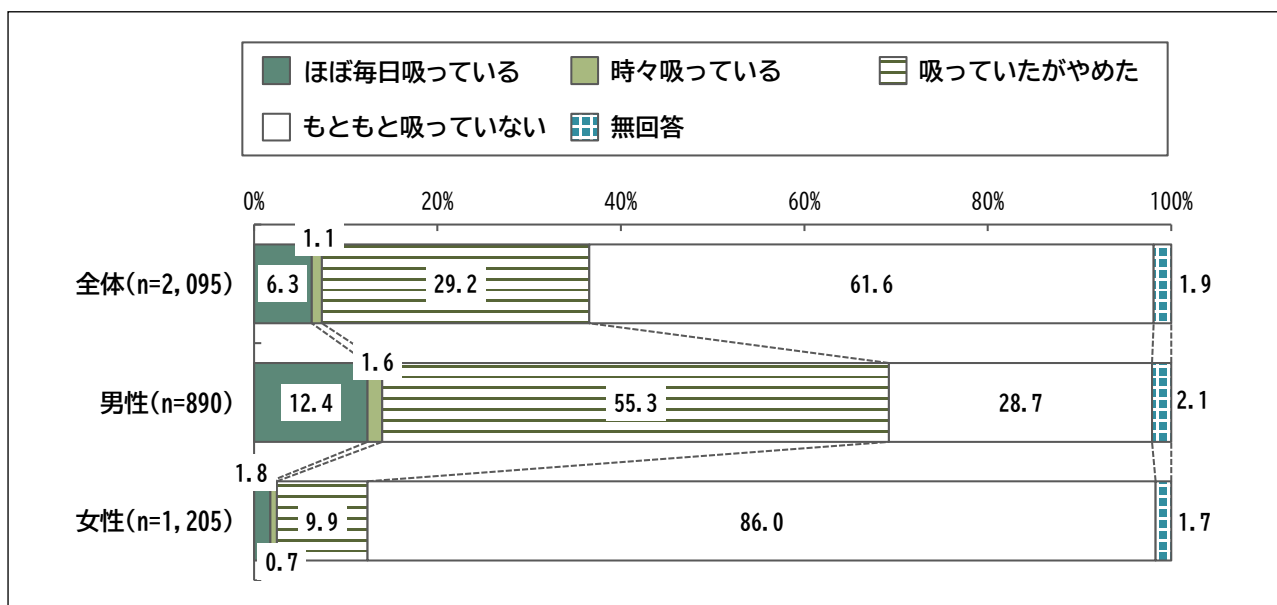
性別にみると、男性では『現在は吸っていない』が84.0%となっており、そのうちの55.3%が、「吸っていたがやめた」となっています。一方、女性では『現在は吸っていない』が95.9%と大半を占めており、そのうちの86.0%が「もともと吸っていない」となっています。

また、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合計した『現在も吸っている』では、男性が14.0%、女性が2.5%となっており、男性が11.5ポイント上回っています。

図表 85 喫煙の習慣（全体、前回比較）



図表 86 喫煙の習慣（全体、性別）



(6) 現在治療中、後遺症のある病気について

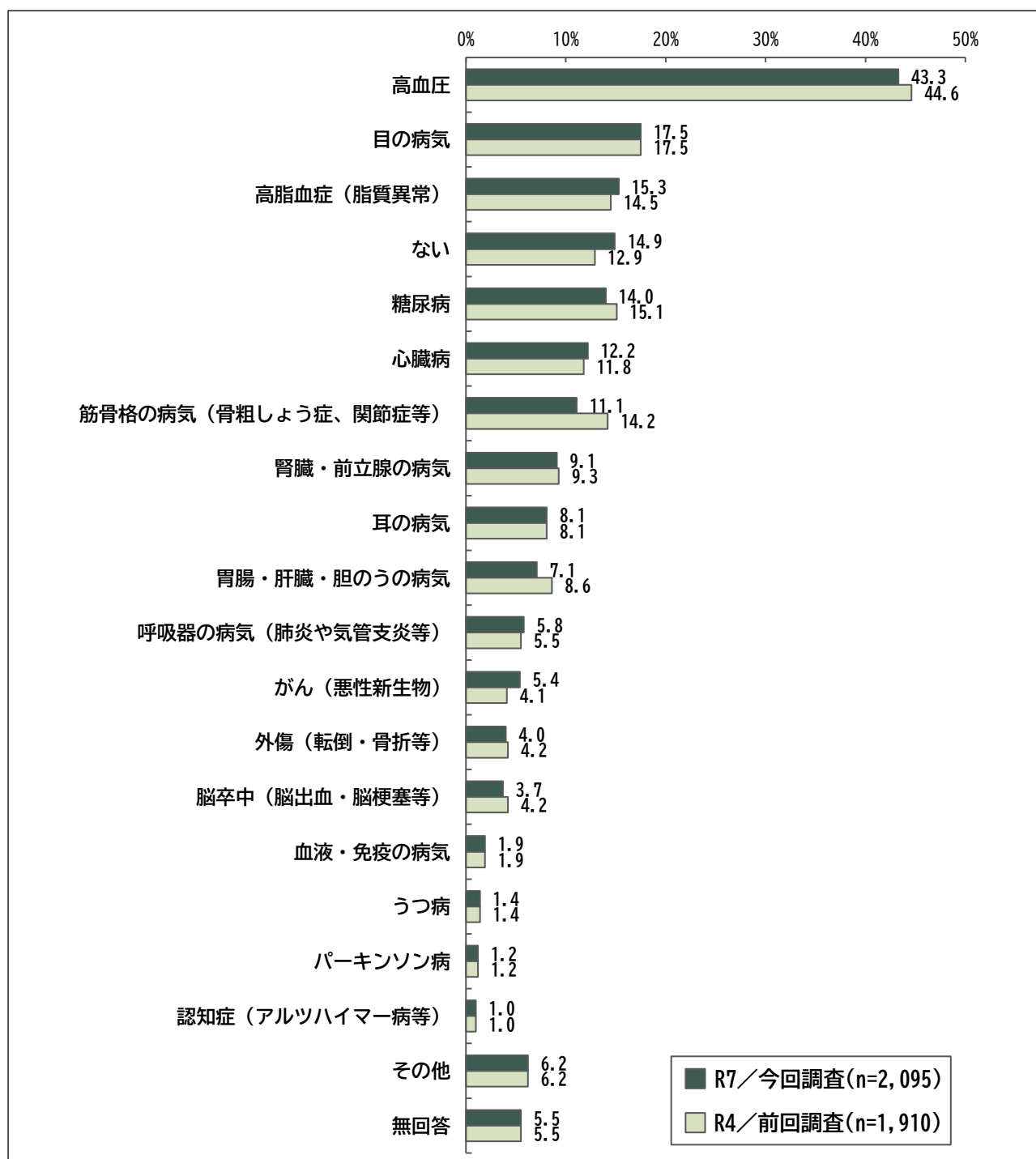
問7 (7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)

【全体の傾向】

現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、「高血圧」が43.3%と最も高く、その割合は突出しています。次いで「目の病気」(17.5%)、「高脂血症(脂質異常)」(15.3%)、「ない」(14.9%)、「糖尿病」(14.0%)となっています。

前回調査と比較すると、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が3.1ポイント減少しています。

図表 87 現在治療中、後遺症のある病気(全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

性別にみると、男性では「糖尿病」、「腎臓・前立腺の病気」が同率で第2位、「心臓病」が第4位、「目の病気」が第5位となっている一方で、女性では「目の病気」が第2位、「高脂血症（脂質異常）」が第3位、「ない」が第4位、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が第5位となっており、男女間で抱えている病気の種類などに差があることがわかります。

図表 88 現在治療中、後遺症のある病気（全体、性別／複数回答）

<上位5位/単位%>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体(n=2,095)		高血圧	目の病気	高脂血症（脂質異常）	ない	糖尿病
		43.3	17.5	15.3	14.9	14.0
性別	男性(n=890)	高血圧	糖尿病／腎臓・前立腺の病気	心臓病	目の病気	
		45.2	17.4	15.3	14.8	
	女性(n=1,205)	高血圧	目の病気	高脂血症（脂質異常）	ない	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）
		42.0	19.7	18.2	16.0	15.6

9 認知症にかかる相談窓口の把握などについて

(1) 認知症の症状の有無について

問9 (1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がありますか。(1つだけ)

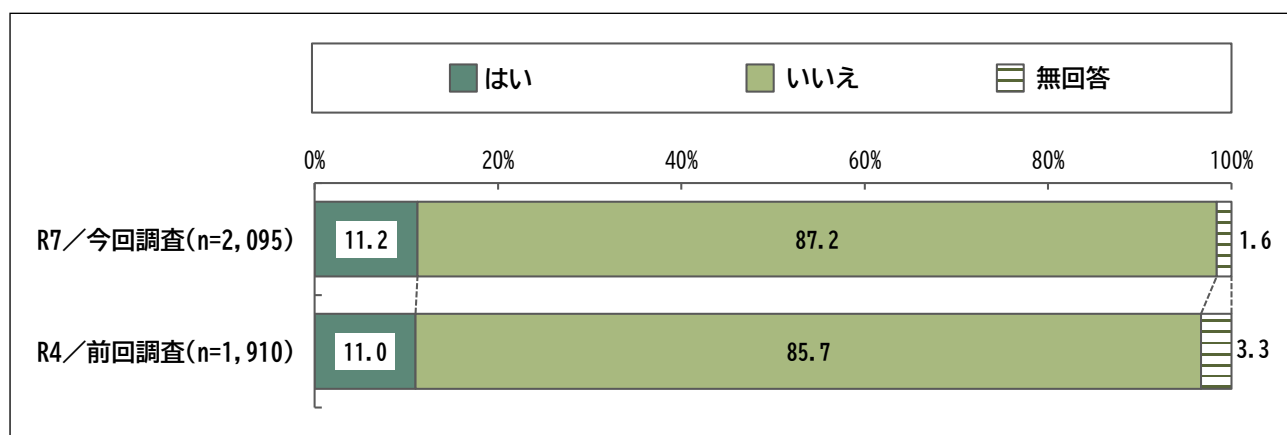
【全体の傾向】

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人があるかどうかをみると、「はい」は11.2%にとどまっています。前回調査と比較すると、「いいえ」が1.5ポイント増加しています。

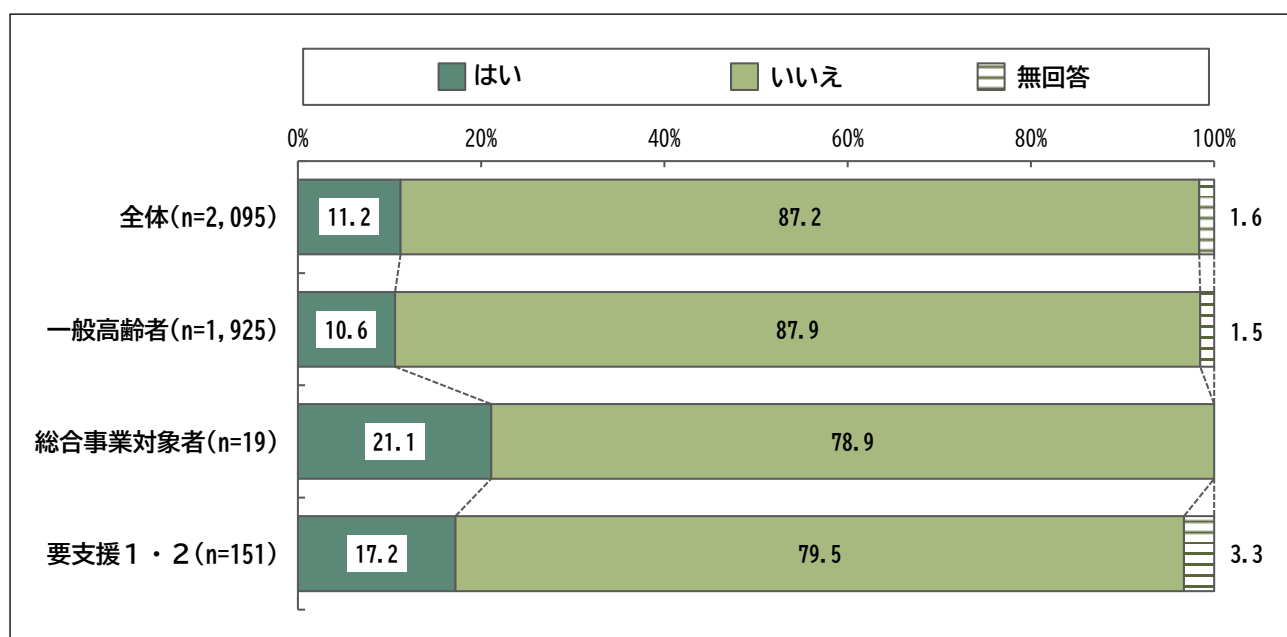
【属性別の傾向】

認定状況別にみると、総合事業対象者で「はい」が最も高くなっています。

図表 89 本人または家族の認知症の症状の有無について（全体、前回比較）



図表 90 本人または家族の認知症の症状の有無について（全体、認定状況別）



(2) 認知症に関する相談窓口認知度について

問9 (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

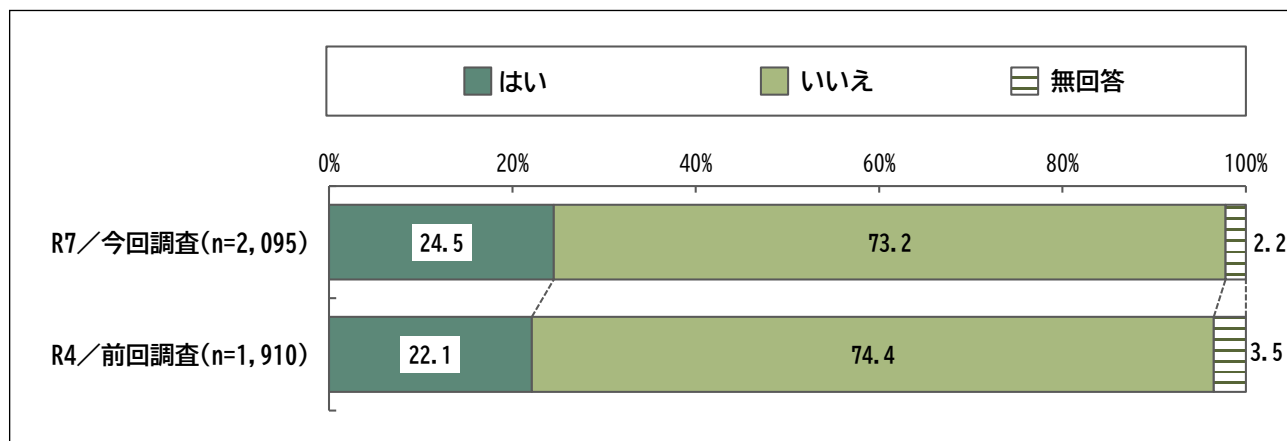
認知症に関する相談窓口の認知度についてみると、「はい」は24.5%、「いいえ」が73.2%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が2.4ポイント増加しています。

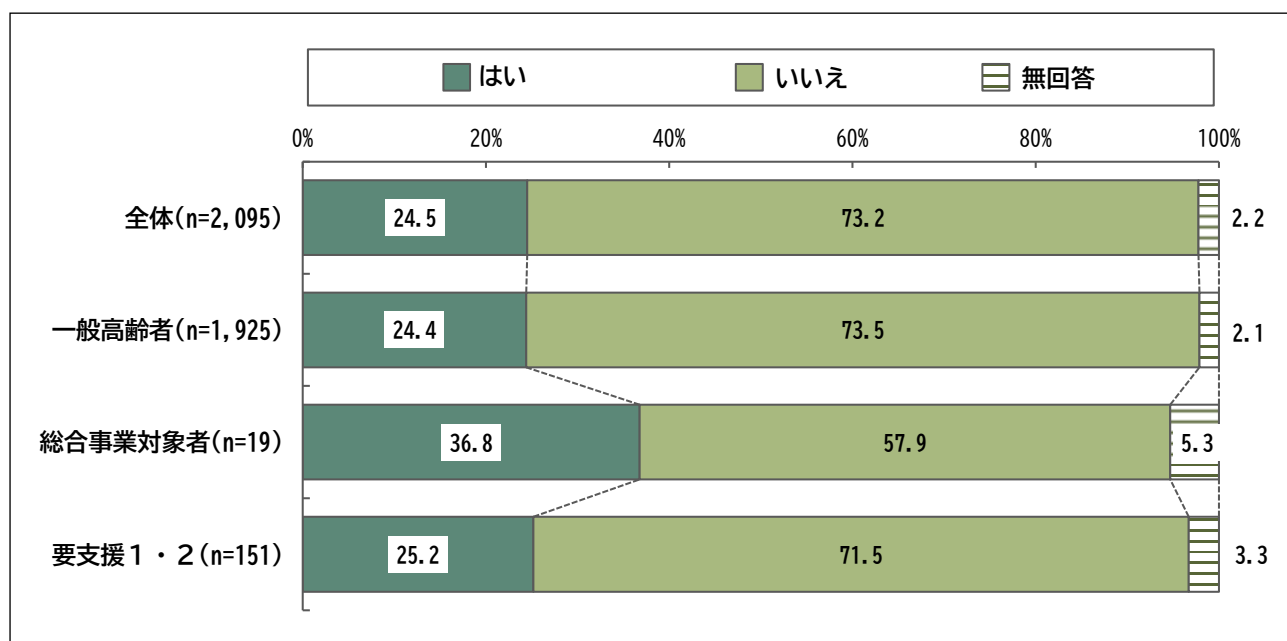
【属性別の傾向】

認定状況別にみると、「はい」の割合は、一般高齢者では24.4%、要支援1・2では25.2%となっているのに対し、総合事業対象者では36.8%と他よりも認知度は高くなっています。

図表 91 認知症に関する相談窓口の認知度（全体、前回比較）



図表 92 認知症に関する相談窓口の認知度（全体、認定状況別）



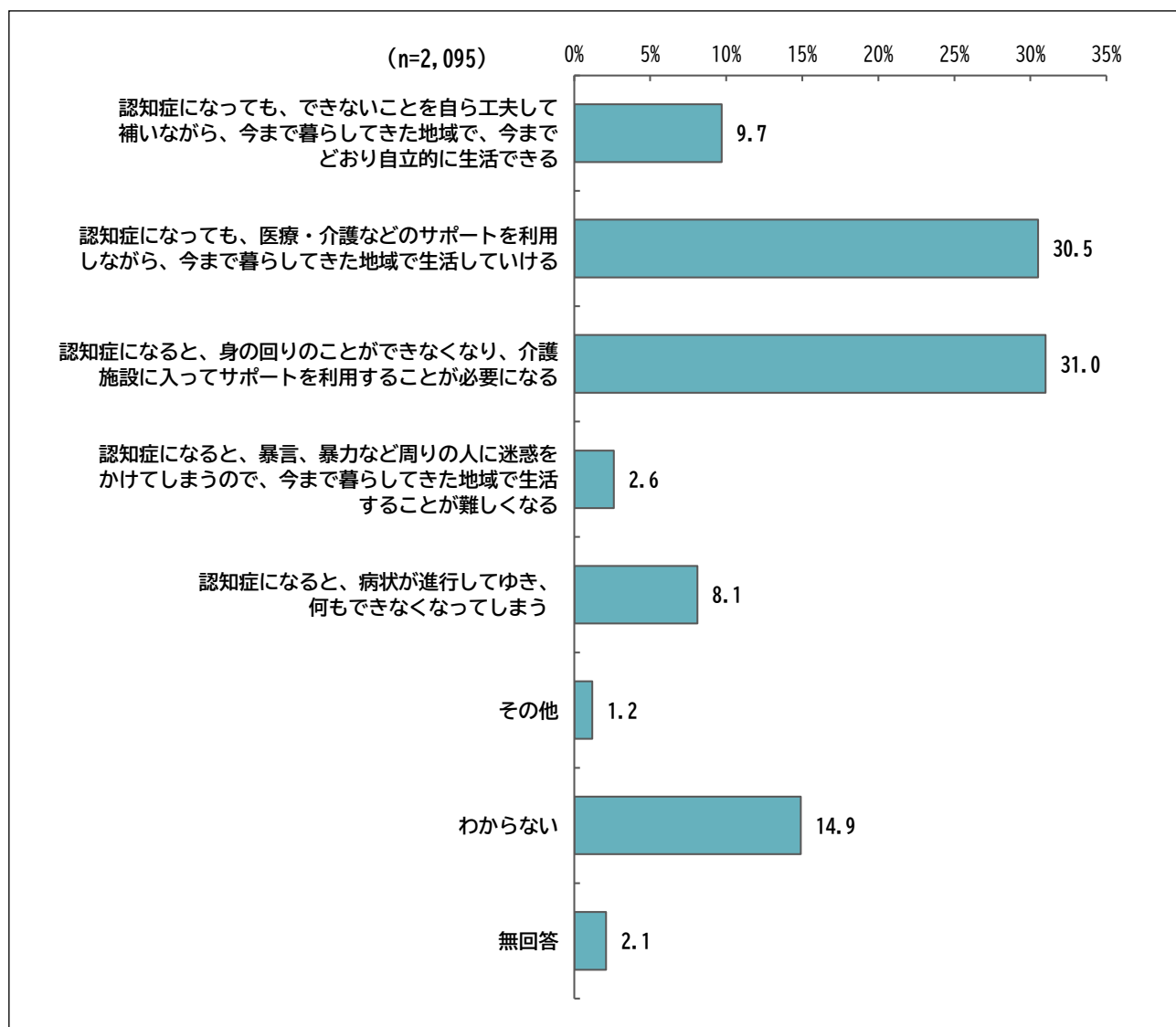
(3) 認知症の把握状況

問9 (3) あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

認知症に対するイメージについてみると、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が31.0%と最も高く、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」(30.5%)、「認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる」(9.7%)となっています。一方で、「わからない」が14.9%で第3位となっています。

図表 93 認知症に対するイメージ (全体)

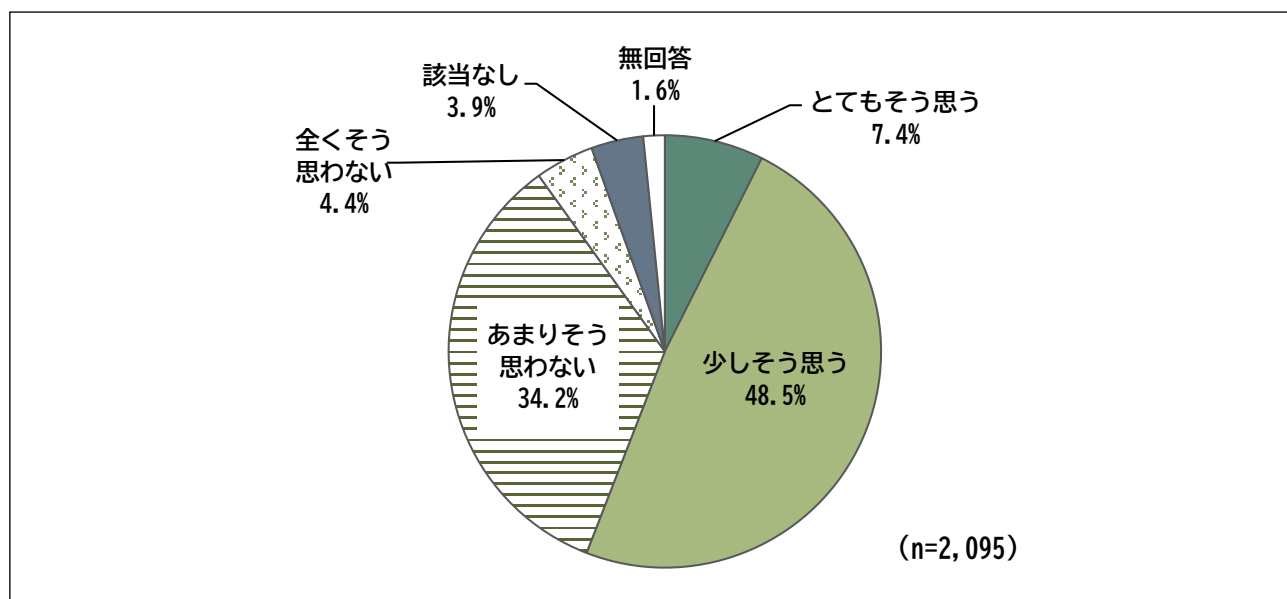


問9（4）あなたは「認知症」について正しく理解していると思いますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

認知症について正しく理解していると思うかについてみると、「少しそう思う」が48.5%と最も高く、次いで、「あまりそう思わない」(34.2%)、「とてもそう思う」(7.4%)、「全くそう思わない」(4.4%)となっています。

図表 94 認知症に対する理解度（全体）

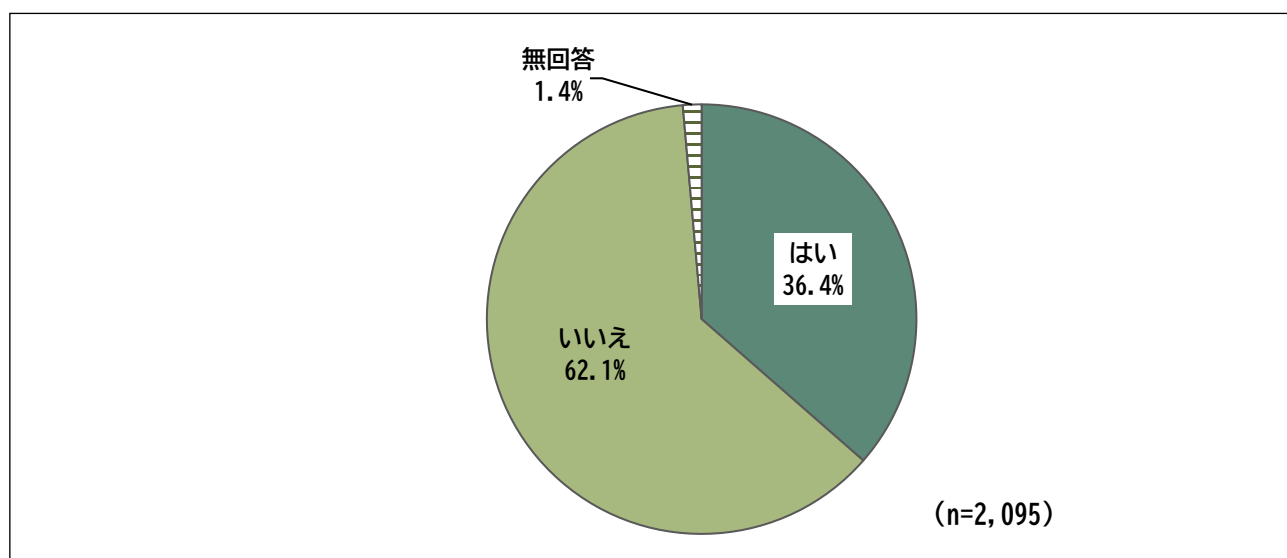


問9（5）MC I（軽度認知障害）を知っていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

MC I（軽度認知障害）を知っているかについてみると、「はい」は36.4%、「いいえ」が62.1%となっています。

図表 95 MC I（軽度認知障害）の認知度（全体）

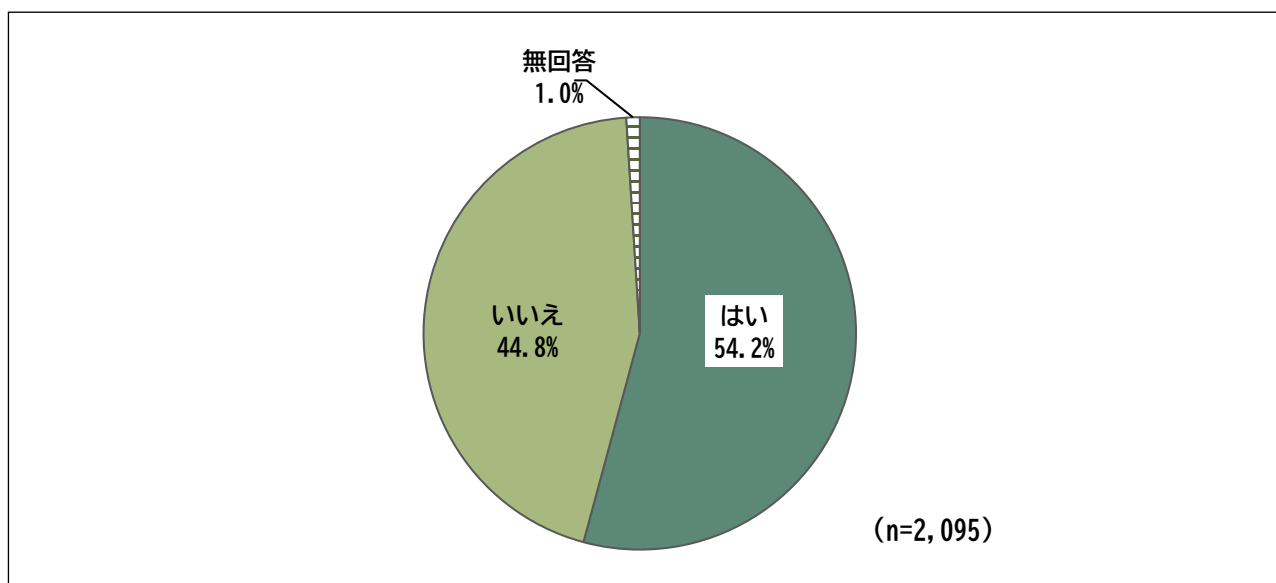


問9（6）認知症の予防方法や認知症の進行を遅らせることができる内服治療があることを知っていますか。1つだけ))

【全体の傾向】

認知症予防等の内服治療があることを知っているかについてみると、「はい」は 54.2%、「いいえ」が 44.8%となっています。

図表 96 認知症予防等の内服治療の認知度（全体）



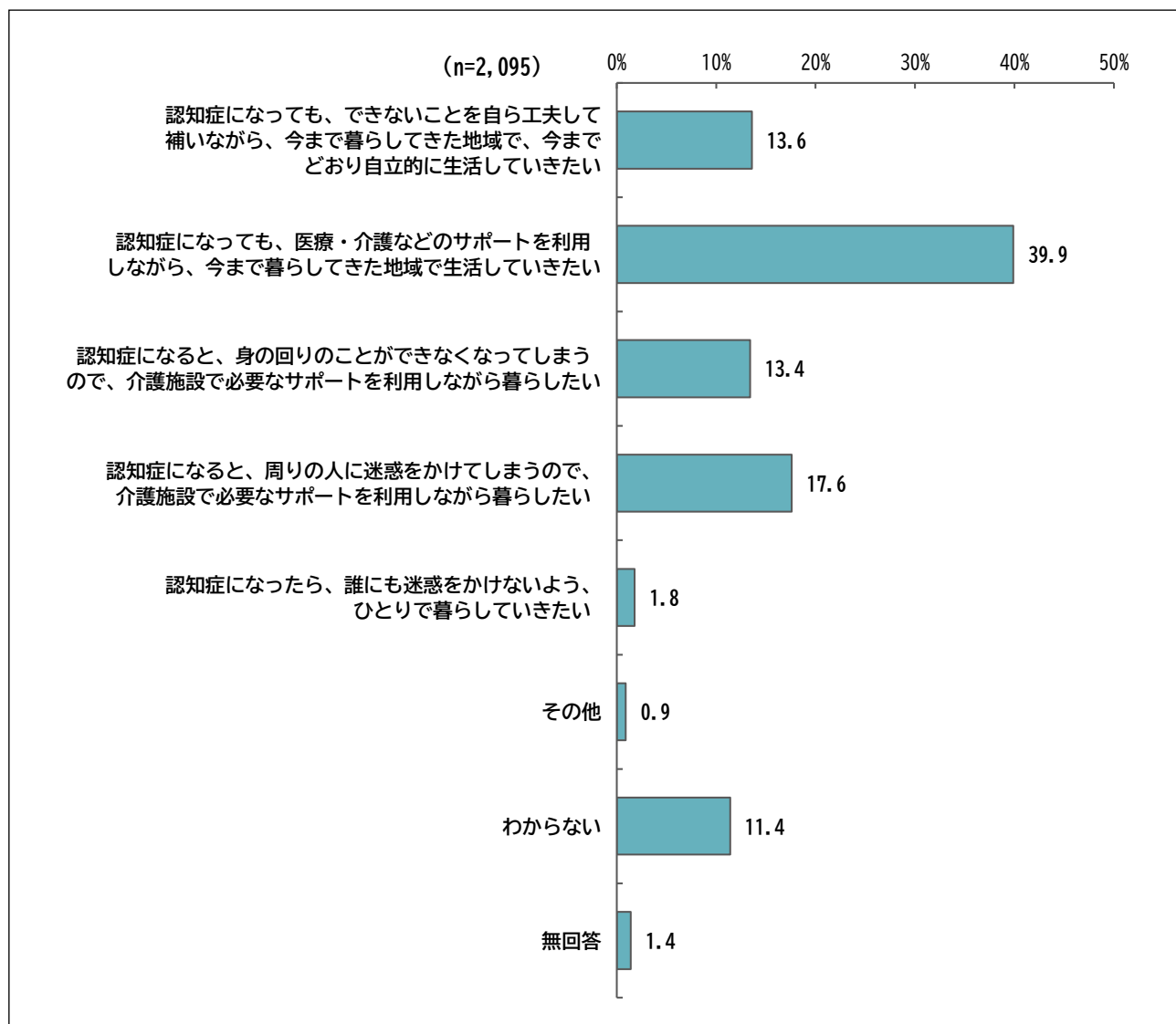
(4) 認知症と地域生活の関わりについて

問9 (7) もし、あなたが認知症になったら、どのように暮らしたいと思いますか。既にご自身が認知症である場合には、今後どのように暮らしたいと思いますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

認知症になった場合、どのように暮らしたいと思うかについてみると、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」が39.9%と最も高く、次いで、「認知症になると、周りの人に迷惑をかけてしまうので、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」(17.6%)、「認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活していきたい」(13.6%)となっています。

図表 97 認知症になったら希望する暮らし方 (全体)

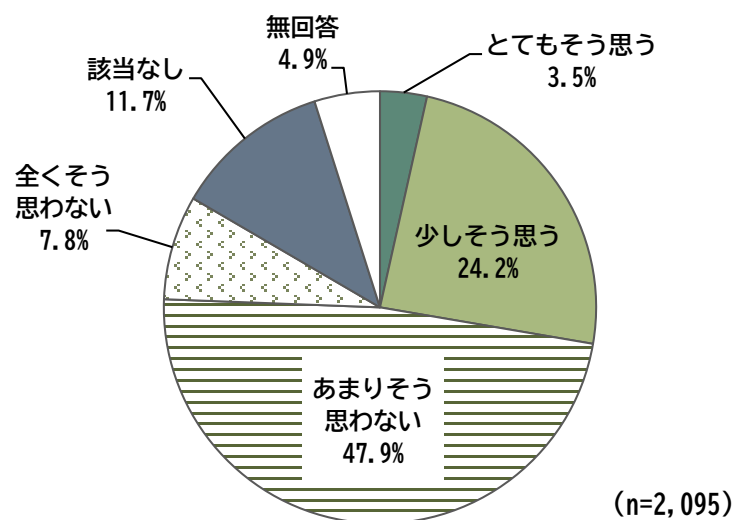


問9（8）地域生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重されるなど、これまでの生活が維持できていると思いますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

認知症の人のこれまでの生活が地域で維持されていると思うかについてみると、「あまりそう思わない」が47.9%と最も高く、次いで、「少しそう思う」（24.2%）、「該当なし」（11.7%）、「全くそう思わない」（7.8%）、「とてもそう思う」（3.5%）となっています。

図表 98 認知症の人のこれまでの生活が地域で維持されているか（全体）



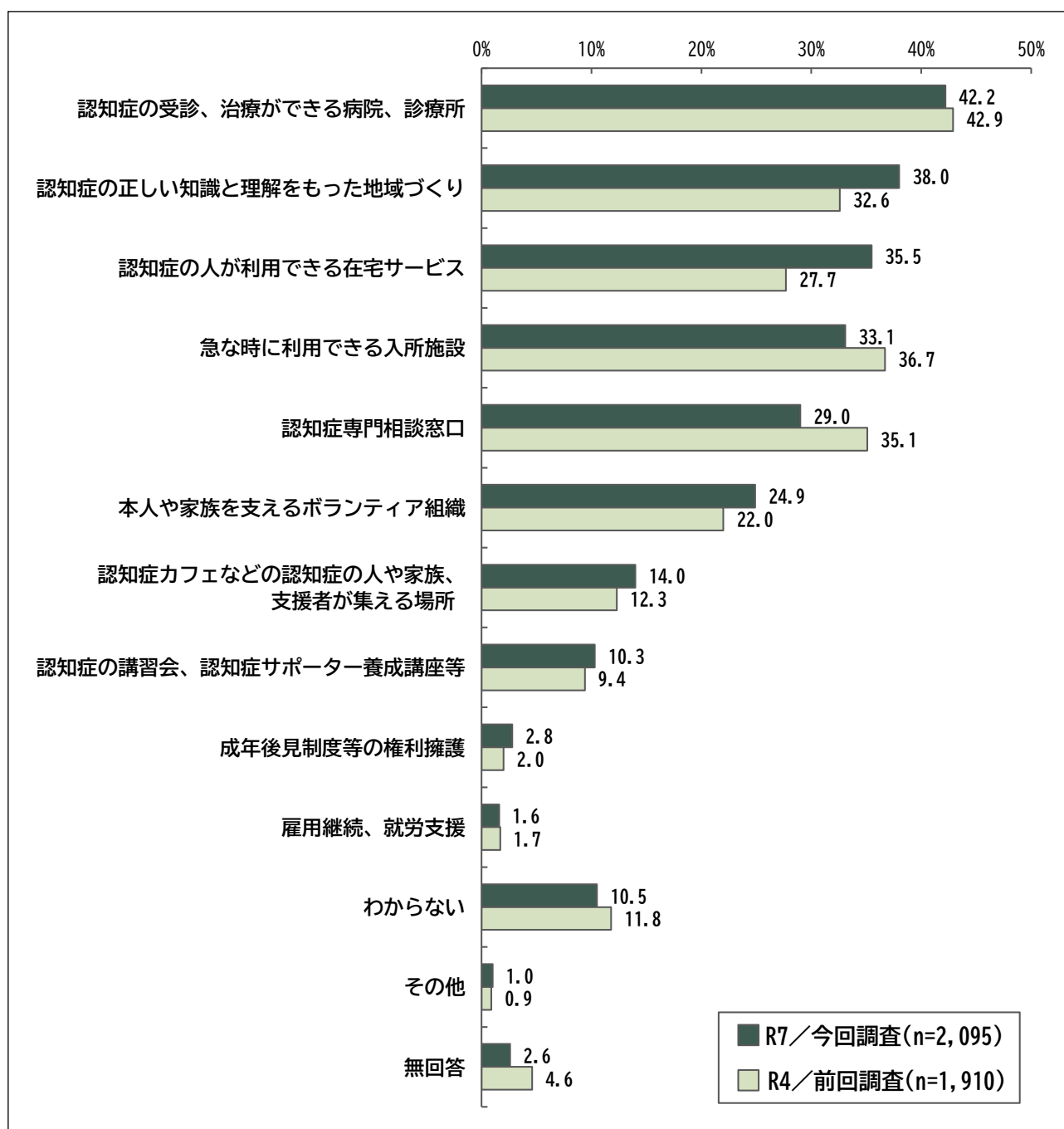
問9（9）今後どのようなことを充実すれば、認知症になっても住み慣れた街で安心して暮らしていくことができると思いますか。（特に必要と思うものを3つだけ）

【全体の傾向】

認知症になっても安心して暮らすために充実すべきことについてみると、「認知症の受診、治療ができる病院、診療所」が42.2%と最も高く、次いで「認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり」(38.0%)、「認知症の人が利用できる在宅サービス」(35.5%)となっています。

前回調査と比較すると、「認知症の人が利用できる在宅サービス」が7.8ポイント増加し、「認知症専門相談窓口」が6.1ポイント減少しています。

図表 99 認知症になっても安心して暮らすために充実すべきこと（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、第1位は男女共に「認知症の受診、治療ができる病院、診療所」となっていますが、男性で「認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり」、女性は「認知症の人が利用できる在宅サービス」が第2位に挙がるなどの違いがみられます。

認定状況別にみると、一般高齢者では「認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり」が第2位となっており、要支援1・2では「急な時に利用できる入所施設」が第2位と順位に違いが見られます。

図表 100 認知症になっても安心して暮らすために充実すべきこと
(全体、性別、認定状況別／複数回答)

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=2,095)		認知症の受診、治療ができる病院、診療所 42.2	認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり 38.0	認知症の人が利用できる在宅サービス 35.5
性別	男性(n=890)	認知症の受診、治療ができる病院、診療所 46.0	認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり 38.3	認知症の人が利用できる在宅サービス 30.4
	女性(n=1,205)	認知症の受診、治療ができる病院、診療所 39.5	認知症の人が利用できる在宅サービス 39.2	認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり 37.8
認定状況別	一般高齢者(n=1,925)	認知症の受診、治療ができる病院、診療所 42.1	認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり 39.0	認知症の人が利用できる在宅サービス 35.7
	総合事業対象者(n=19)	認知症の受診、治療ができる病院、診療所／認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり 47.4	急な時に利用できる入所施設 31.6	
	要支援1・2(n=151)	認知症の受診、治療ができる病院、診療所 43.0	急な時に利用できる入所施設 34.4	認知症の人が利用できる在宅サービス 33.1

10 相談窓口について

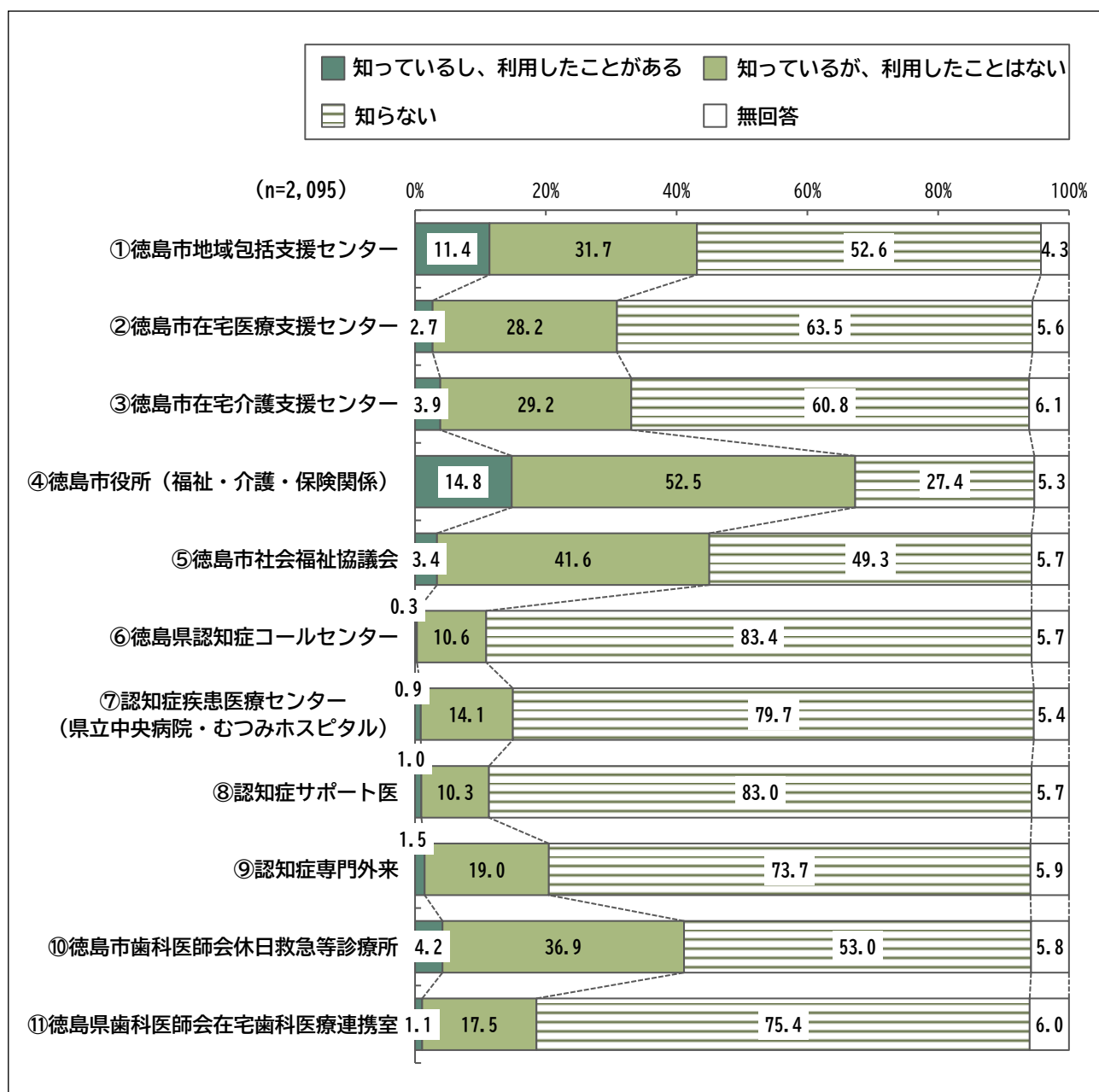
(1) 介護予防等に関する相談窓口や医療機関について

問 10 以下の介護予防の各種事業の相談・申請窓口及び在宅医療に関する相談窓口、認知症に関する相談窓口・医療機関をご存知ですか。また、利用したことはありますか。(①～⑪それぞれ1つ)

【全体の傾向】

介護予防事業等に関する申請・相談窓口や医療機関の認知度と利用状況についてみると、「知っているし、利用したことがある」では①徳島市地域包括支援センター(11.4%)や④徳島市役所(福祉・介護・保険関係)(14.8%)が他の機関等に比べて高くなっています。また、⑥徳島県認知症コールセンター、⑧認知症サポート医では「知らない」が8割を超えています。

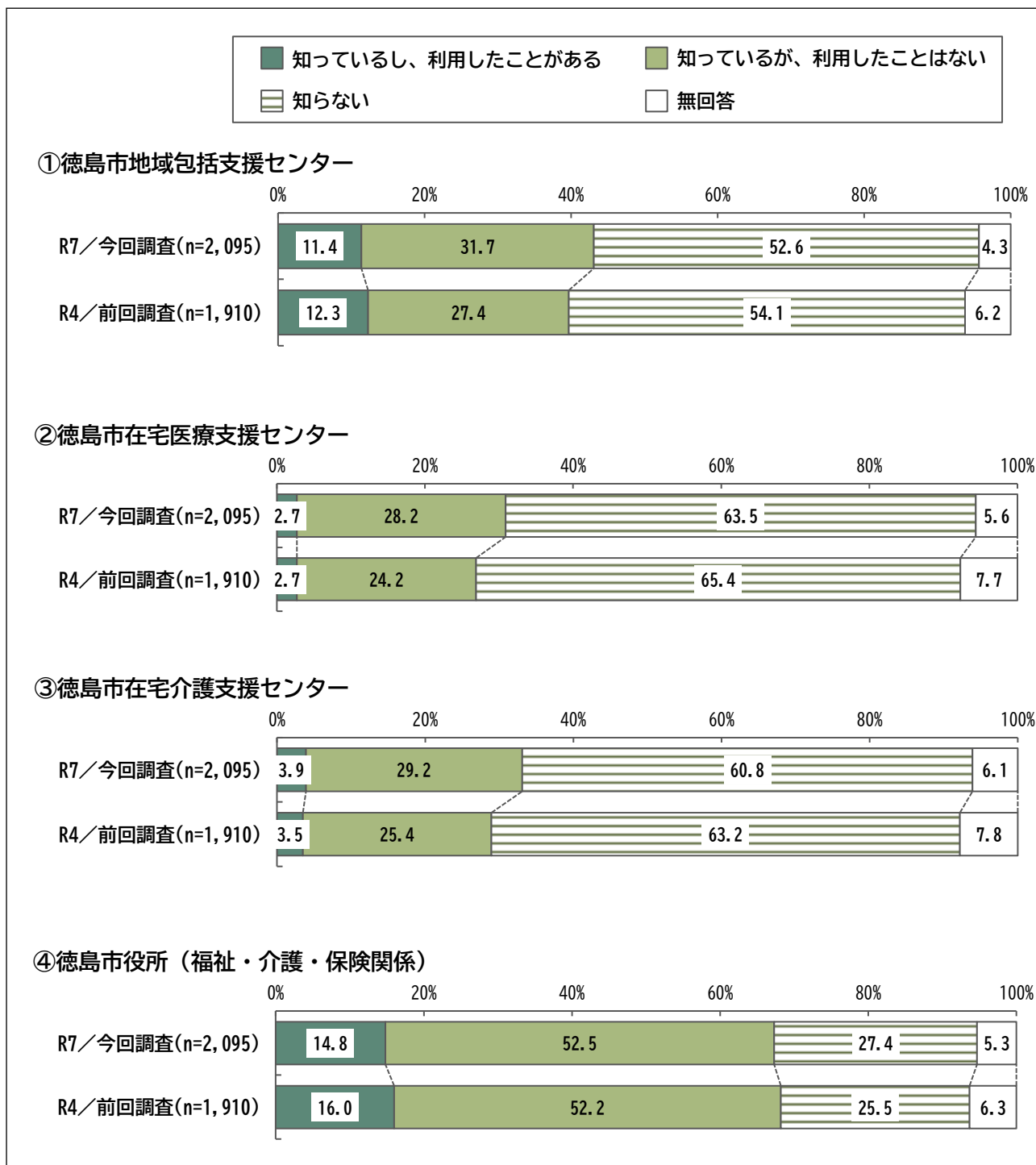
図表 101 介護予防事業等に関する申請・相談窓口や医療機関の認知度と利用状況(全体)

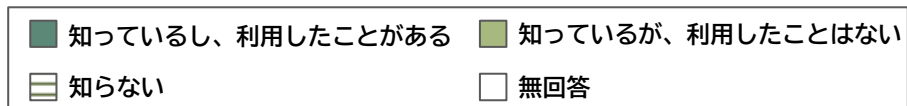


【前回調査との比較】

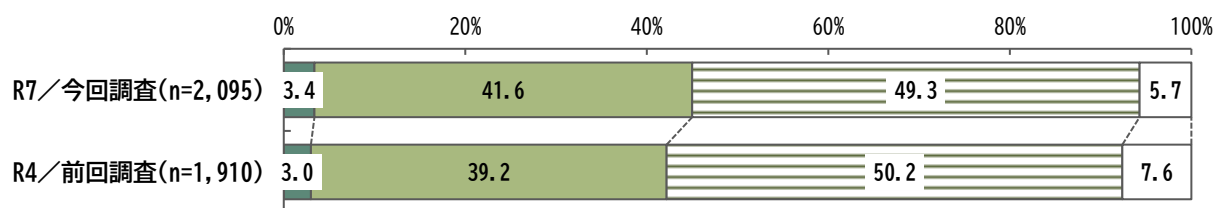
前回調査と比較すると、③徳島市在宅介護支援センター、⑤徳島市社会福祉協議会、⑦認知症疾患医療センター（県立中央病院・むつみホスピタル）では「知っているし、利用したことがある」がそれぞれ前回調査を上回っています。

図表 102 介護予防等に関する申請・相談窓口や医療機関の認知度と利用状況（全体、前回比較）

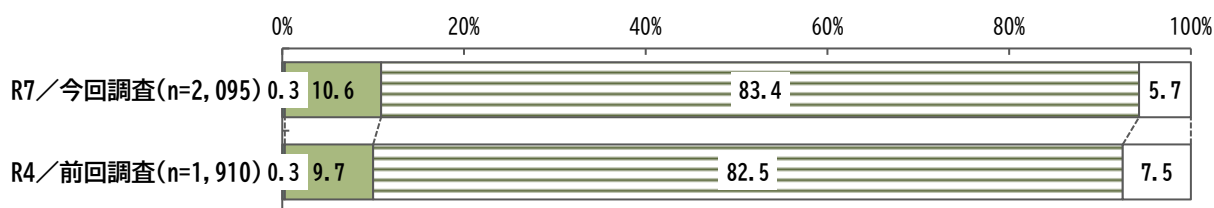




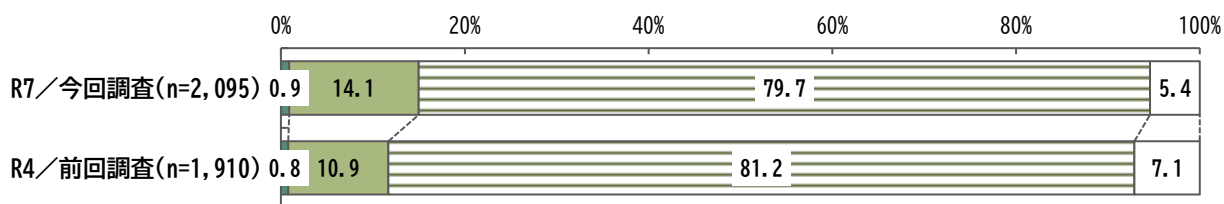
⑤徳島市社会福祉協議会



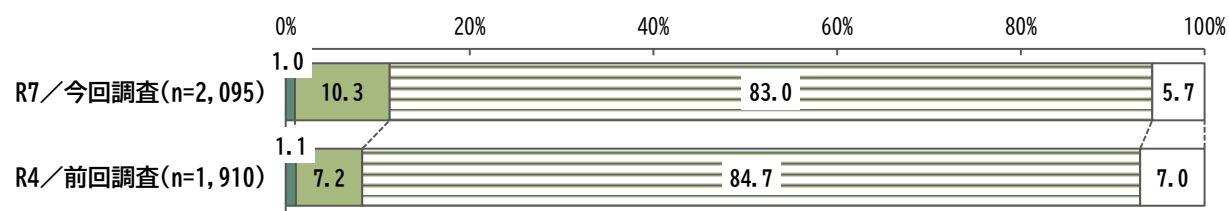
⑥徳島県認知症コールセンター



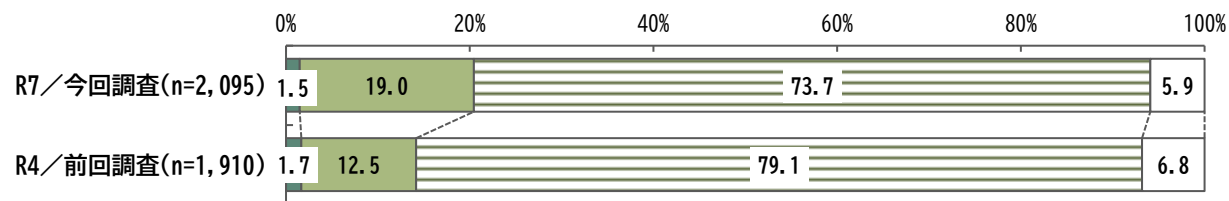
⑦認知症疾患医療センター（県立中央病院・むつみホスピタル）



⑧認知症サポート医



⑨認知症専門外来



※⑩徳島市歯科医師会休日救急等診療所、⑪徳島県歯科医師会在宅歯科医療連携室は今回新設のため、前回比較無し

11 介護予防について

(1) 介護予防等に関する取り組み状況

問 11 (1) 現在、介護予防に関する取り組みを行っていますか。(1 つだけ)

【全体の傾向】

介護予防に関する取り組み状況をみると、「介護予防に関する取り組みを6か月以内に行う気はない」が56.4%と半数以上を占めています。一方、「介護予防に関する取り組みを6か月以上継続している」は18.9%となっています。

前回調査と比較すると、「介護予防に関する取り組みを6か月以内に行う気はない」が2.8ポイント増加しています。

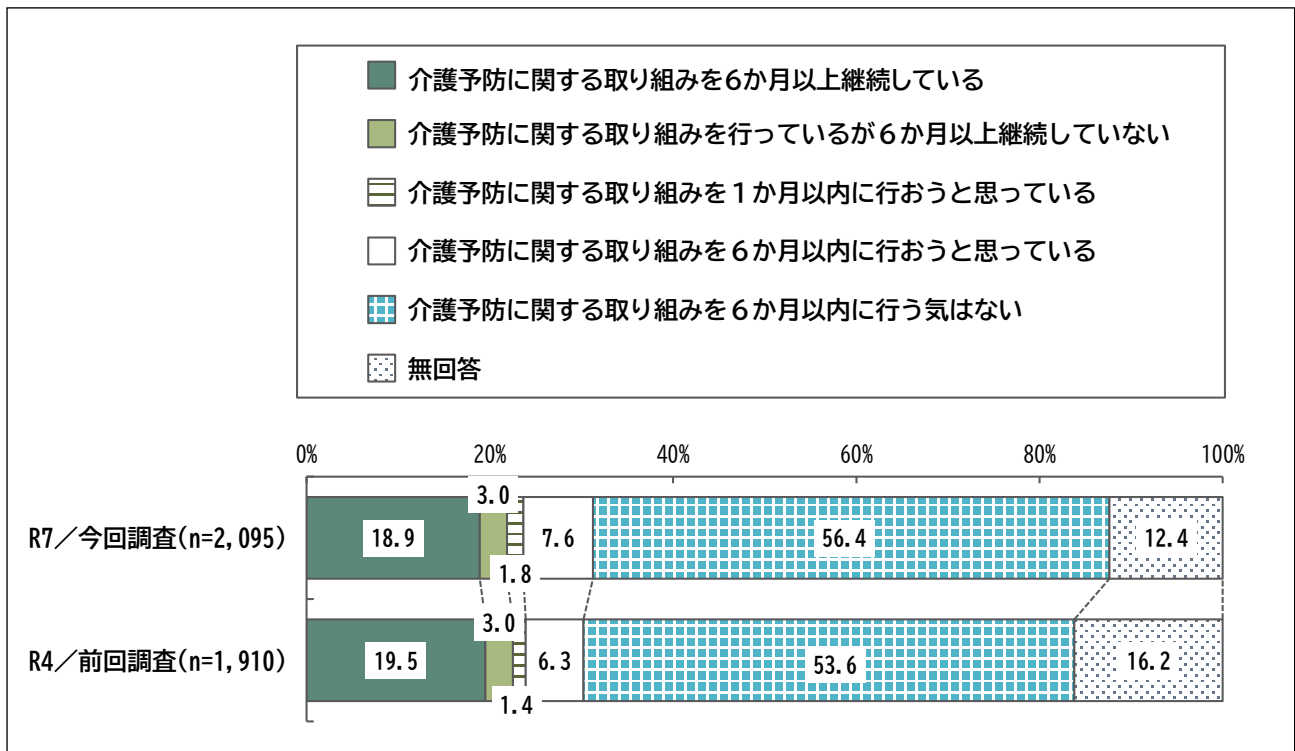
【属性別の傾向】

性別にみると、「介護予防に関する取り組みを6か月以上継続している」は女性(21.2%)が男性(15.6%)を5.6ポイント上回っています。

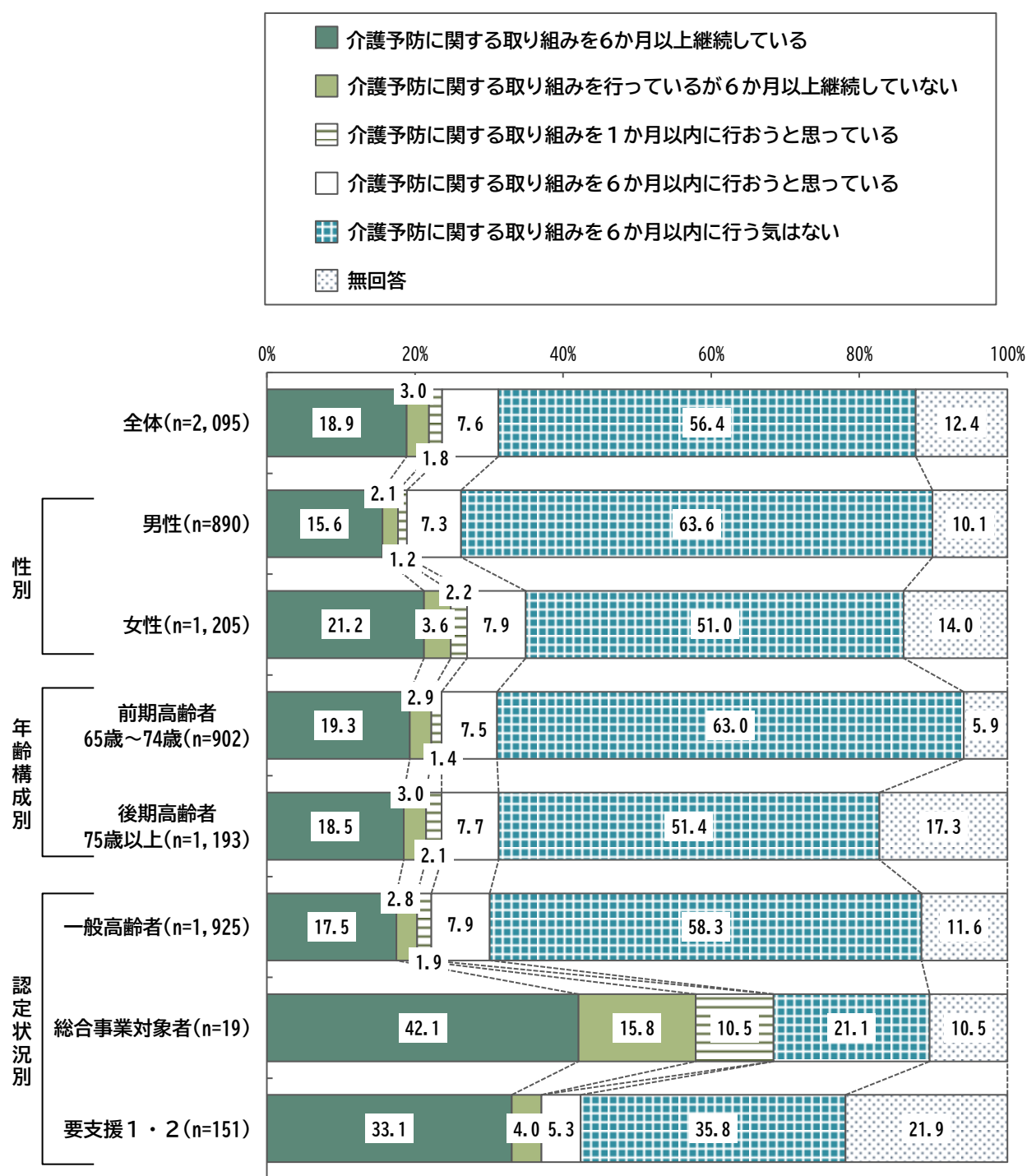
年齢構成別にみると、「介護予防に関する取り組みを6か月以上継続している」は前期高齢者(19.3%)が後期高齢者(18.5%)を0.8ポイント上回っています。

認定状況別にみると、「介護予防に関する取り組みを6か月以上継続している」は一般高齢者(17.5%)に比べて総合事業対象者(42.1%)、要支援1・2(33.1%)と割合に差が見られます。

図表 103 介護予防に関する取り組み状況（全体、前回比較）



図表 104 介護予防に関する取り組み状況（全体、性別、年齢構成別、認定状況別）



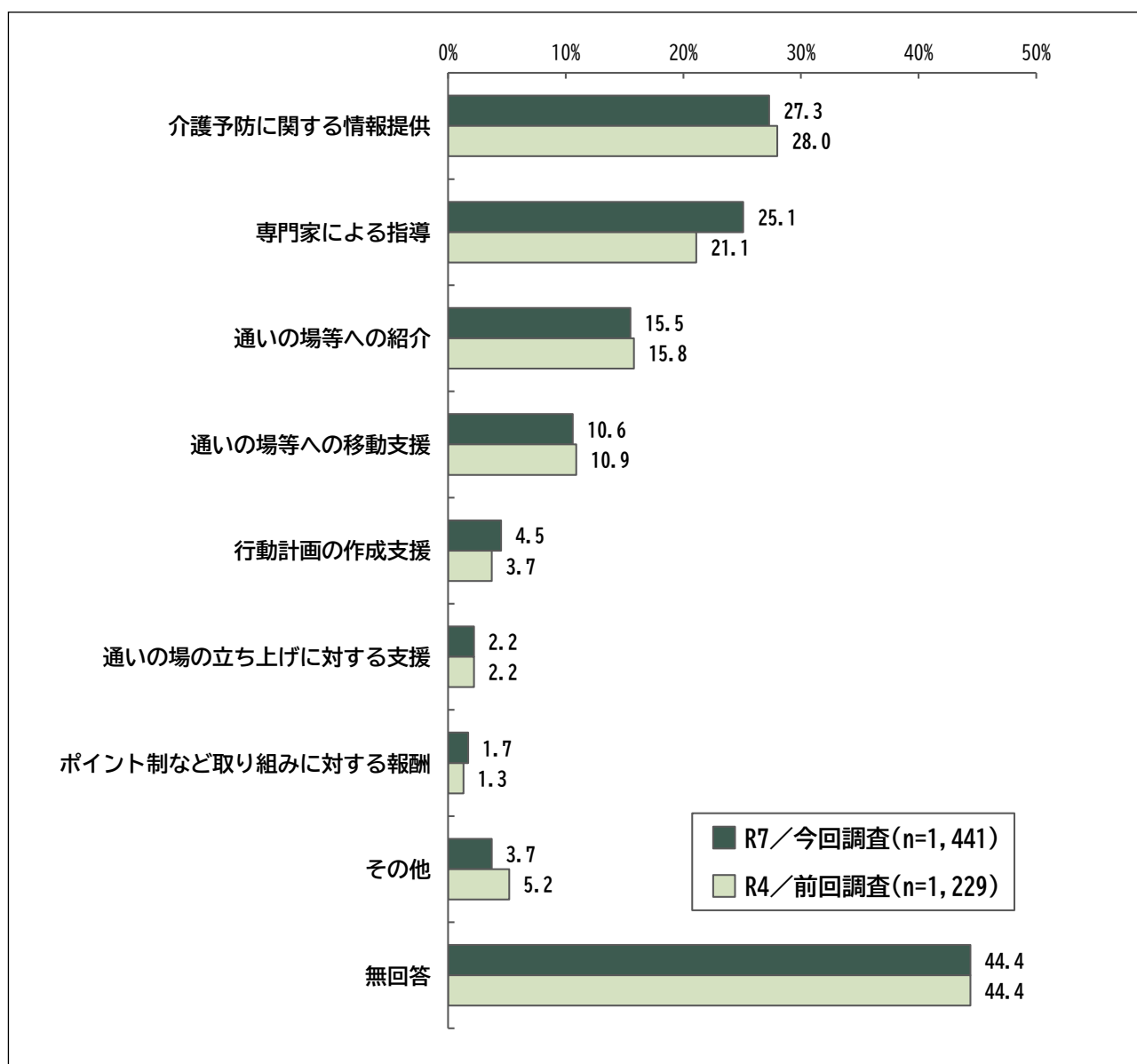
※問 11（１）で「取り組みを６か月以上継続している」以外に答えた方（継続していない、行っていない方）のみ
問 11（１－１）どのような支援があれば介護予防に関する取り組みを開始または継続できると思います
か。（いくつでも）

【全体の傾向】

介護予防に関する取り組みを開始、継続するために必要だと思う支援についてみると、「介護予防に関する情報提供」が 27.3%と最も高く、次いで「専門家による指導」(25.1%)、「通いの場等への紹介」(15.5%)、「通いの場等への移動支援」(10.6%)、「行動計画の作成支援」(4.5%)となっています。

前回調査と比較すると、「専門家による指導」が 4.0 ポイント増加しています。

図表 105 介護予防に関する取り組みを開始、継続するために必要な支援
(全体、前回比較／複数回答)



【属性別の傾向】

認定状況別にみると、一般高齢者では「介護予防に関する情報提供」、要支援１・２では「通いの場等への移動支援」が第１位となっています。また、総合事業対象者では「介護予防に関する情報提供」、「専門家による指導」、「通いの場等への紹介」がいずれも 22.2%となっています。

図表 106 介護予防に関する取り組みを開始、継続するために必要な支援
(全体、認定状況別／複数回答)

<上位３位/単位％>

		第１位	第２位	第３位
全体(n=1,441)		介護予防に関する情報提供	専門家による指導	通いの場等への紹介
		27.3	25.1	15.5
認定 状況 別	一般高齢者 (n=1,364)	介護予防に関する情報提供	専門家による指導	通いの場等への紹介
		27.6	25.3	15.4
	総合事業対象者 (n=9)	介護予防に関する情報提供／専門家による指導／通いの場等への紹介		
		22.2		
	要支援１・２(n=68)	通いの場等への移動支援	介護予防に関する情報提供／専門家による指導	
		23.5	22.1	

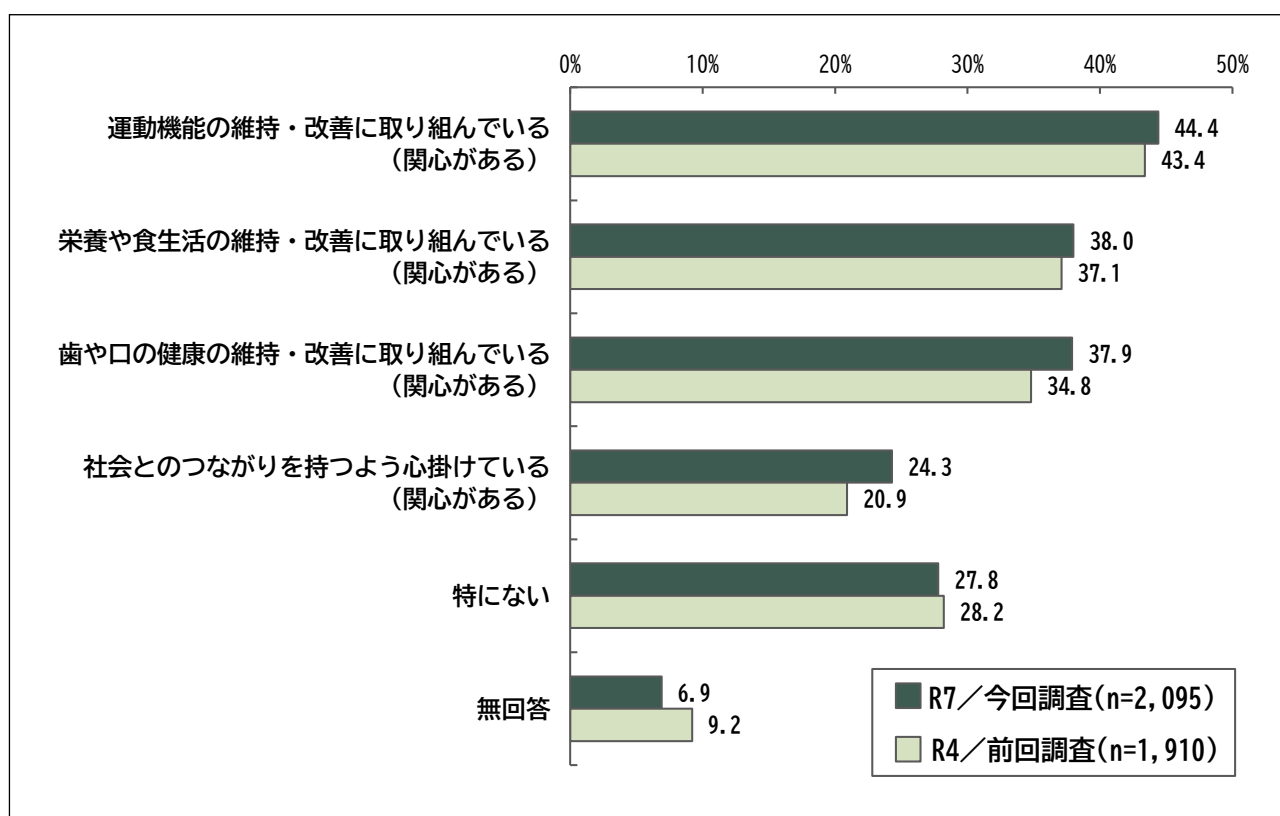
問 11（２）「フレイル」を予防するには栄養・運動・社会参加が重要とされていますが、取り組んでいる分野や関心がある分野はありますか。（いくつでも）

【全体の傾向】

フレイル予防に関する取り組み状況についてみると、「運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）」が 44.4%と最も高く、「栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）」が 38.0%、「歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）」が 37.9%、「社会とのつながりを持つよう心掛けている（関心がある）」が 24.3%となっています。一方、「特にない」は 27.8%で第４位となっています。

前回調査と比較すると、「特にない」を除くすべての項目で増加しています。

図表 107 フレイル予防に関する取り組み状況（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、男性では「特にない」、女性では「栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）」が上位に挙げられています。

年齢構成別にみると、前期高齢者では「歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）」、後期高齢者では「栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）」がそれぞれ第2位となっています。

図表 108 フレイル予防に関する取り組み状況（全体、性別、年齢構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=2,095)		運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）	栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）
		44.4	38.0	37.9
性別	男性(n=890)	運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）	特にない	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）
		43.1	32.6	32.1
	女性(n=1,205)	運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）	栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）
		45.3	44.0	42.1
年齢構成別	前期高齢者 65歳～74歳(n=902)	運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）	栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）
		47.2	38.7	37.6
	後期高齢者 75歳以上(n=1,193)	運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）	栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）
		42.2	38.4	37.2

問 11（3）フレイル予防のためのサポーターとして、フレイルの状態をチェックするボランティア活動が期待されていますが、住民主体のボランティア活動に対する、あなたの関心に近いものはどれですか。（1つだけ）

【全体の傾向】

フレイル予防のボランティア活動に対する関心度についてみると、「フレイルの状態をチェックする必要性は感じるが、積極的には考えていない」が41.4%と最も高く、次いで「関心はない」（29.4%）、「ボランティア活動までは考えていないがチェックは受けたい」（15.4%）となっています。

前回調査と比較すると、「ボランティア活動までは考えていないがチェックは受けたい」が3.2ポイント増加しています。

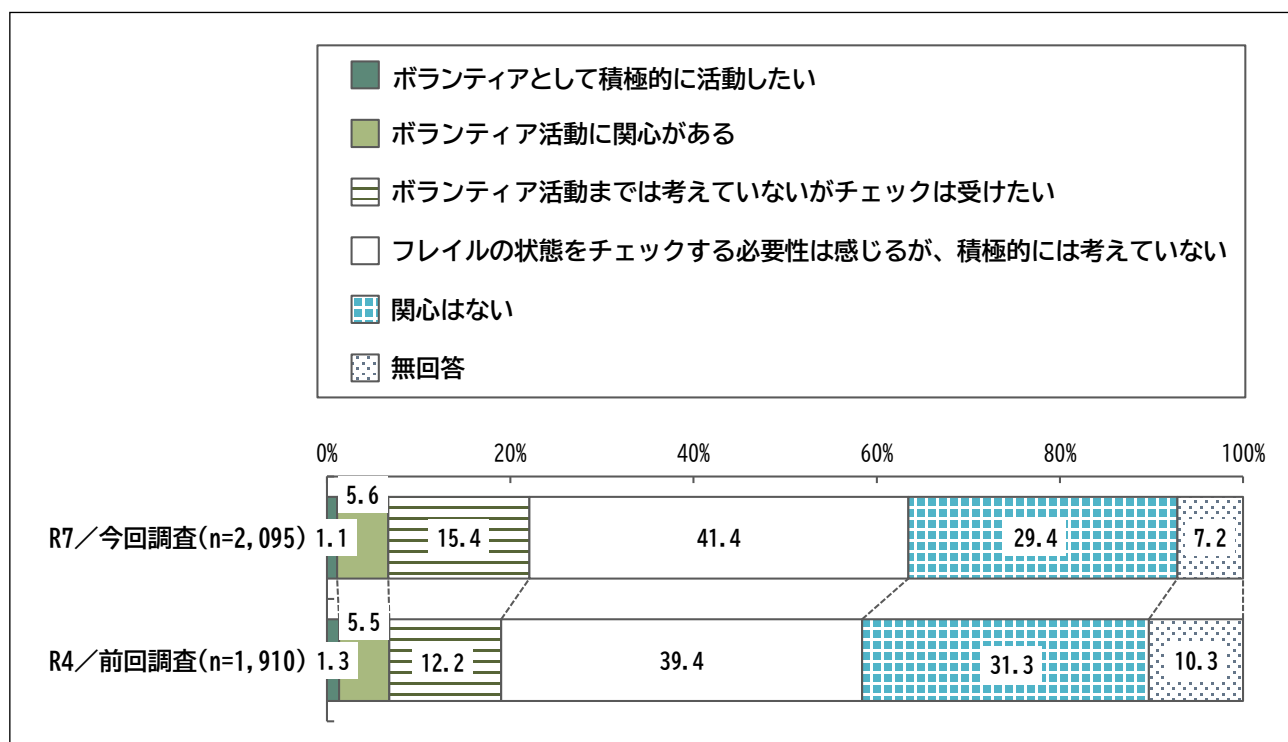
【属性別の傾向】

性別にみると、男性では「関心はない」が38.2%と最も高く、女性では「フレイルの状態をチェックする必要性は感じるが、積極的には考えていない」が45.0%と最も高くなっています。

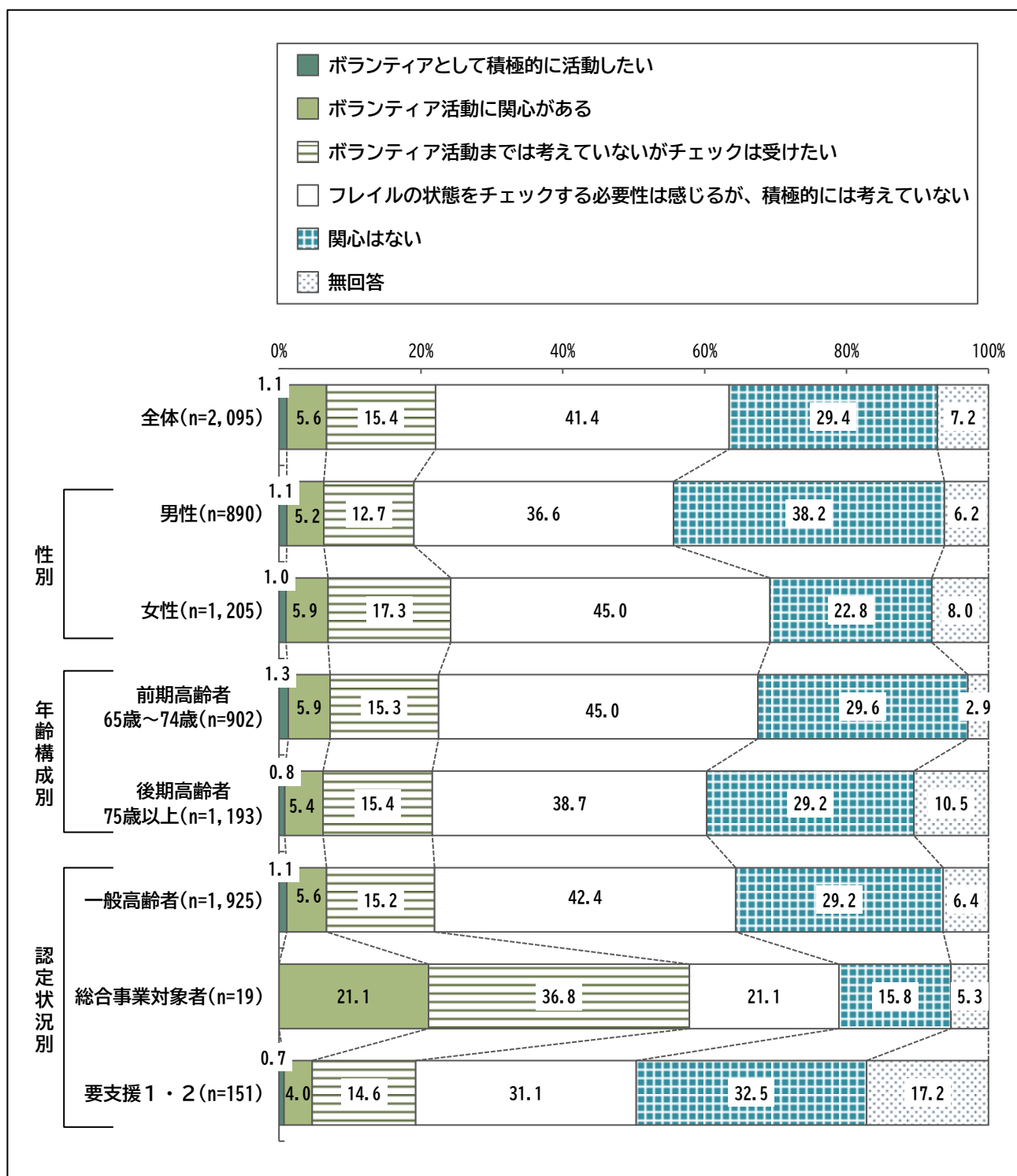
年齢構成別にみると、「フレイルの状態をチェックする必要性は感じるが、積極的には考えていない」は、前期高齢者（45.0%）が後期高齢者（38.7%）を6.3ポイント上回っています。

認定状況別にみると、「ボランティア活動に関心がある」は総合事業対象者が21.1%と他よりも関心度が高くなっています。

図表 109 フレイル予防のボランティア活動への関心度（全体、前回比較）



図表 110 フレイル予防のボランティア活動への関心度（全体、性別、年齢構成別、認定状況別）



(2) 介護予防事業に関する情報の入手先

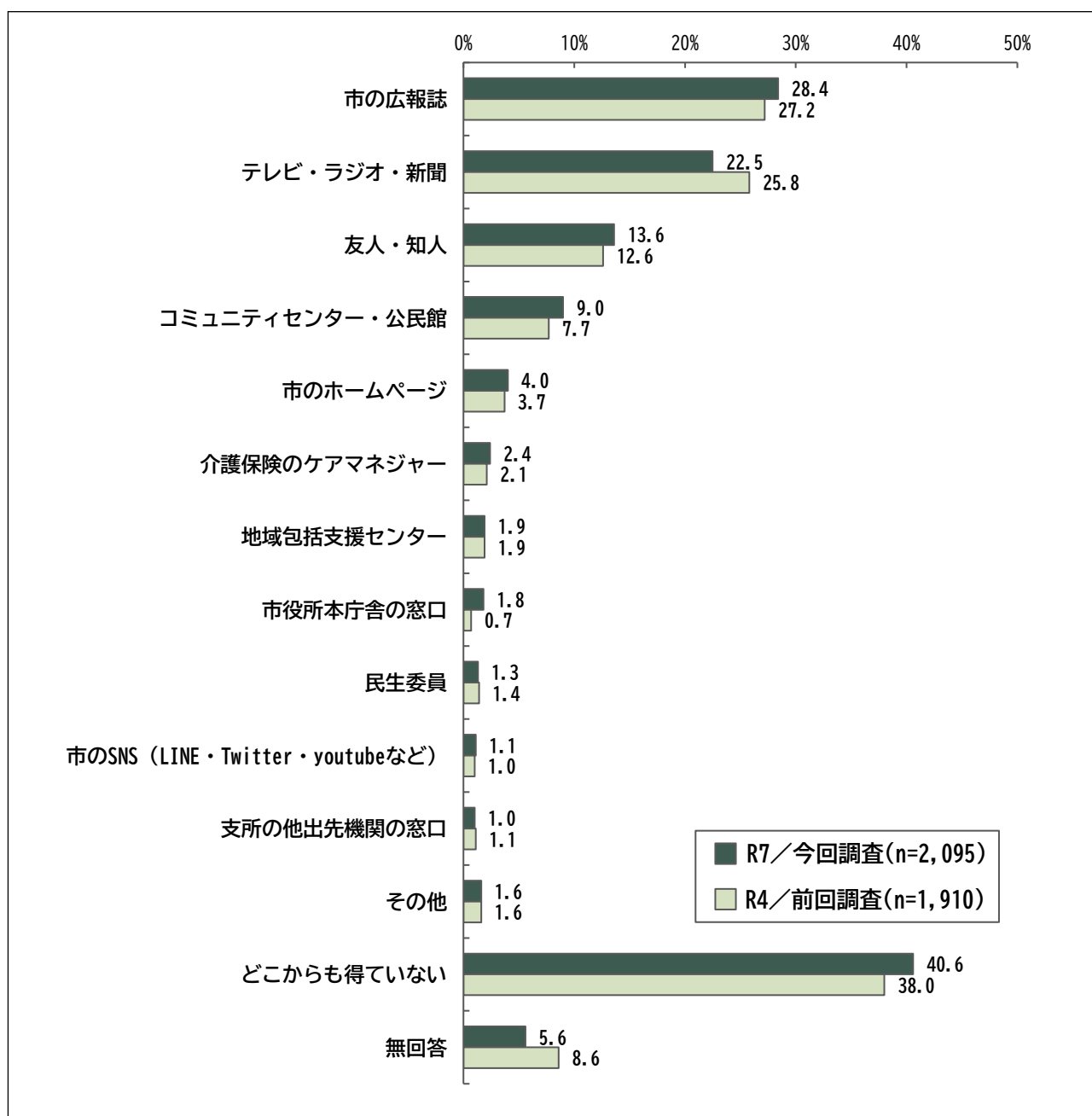
問 11 (4) 徳島市の体操教室などの介護予防事業についての情報はどこから入手していますか。
(いくつでも)

【全体の傾向】

介護予防事業に関する情報の入手先についてみると、入手先としては「市の広報誌」が28.4%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞」(22.5%)、「友人・知人」(13.6%)となっています。

前回調査と比較すると、「テレビ・ラジオ・新聞」が3.3ポイント減少しています。

図表 111 介護予防事業に関する情報の入手先（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

認定状況別にみると、「どこからも得ていない」では、一般高齢者、要支援１・２で第１位となっており、総合事業対象者は第５位となっています。また、総合事業対象者では「地域包括支援センター」、要支援１・２では「介護保険のケアマネジャー」がそれぞれ上位に挙がっています。

図表 112 介護予防事業に関する情報の入手先（全体、認定状況別／複数回答）

<上位５位/単位％>

		第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
全体(n=2,095)		どこからも得ていない	市の広報誌	テレビ・ラジオ・新聞	友人・知人	コミュニティセンター・公民館
		40.6	28.4	22.5	13.6	9.0
認定状況別	一般高齢者(n=1,925)	どこからも得ていない	市の広報誌	テレビ・ラジオ・新聞	友人・知人	コミュニティセンター・公民館
		41.4	29.1	22.9	13.8	9.0
	総合事業対象者(n=19)	市の広報誌／地域包括支援センター		テレビ・ラジオ・新聞／友人・知人		どこからも得ていない
			31.6		26.3	15.8
	要支援１・２(n=151)	どこからも得ていない	介護保険のケアマネジャー	市の広報誌	テレビ・ラジオ・新聞	友人・知人／コミュニティセンター・公民館
		33.8	19.2	18.5	17.2	9.3

12 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知度

問 12 (1) あなたは「成年後見制度」を知っていますか。(1 つだけ)

【全体の傾向】

成年後見制度の認知度についてみると、「名称のみ知っている」が 48.7%と最も高く、次いで「知らない」(27.4%)、「名称だけでなく制度の内容も知っている」(21.7%)となっています。また、「名称だけでなく制度の内容も知っている」と「名称のみ知っている」を合計した『成年後見制度を知っている』は 70.4%と7割を超えています。

前回調査と比較すると、『成年後見制度を知っている』は 2.3 ポイント増加しています。

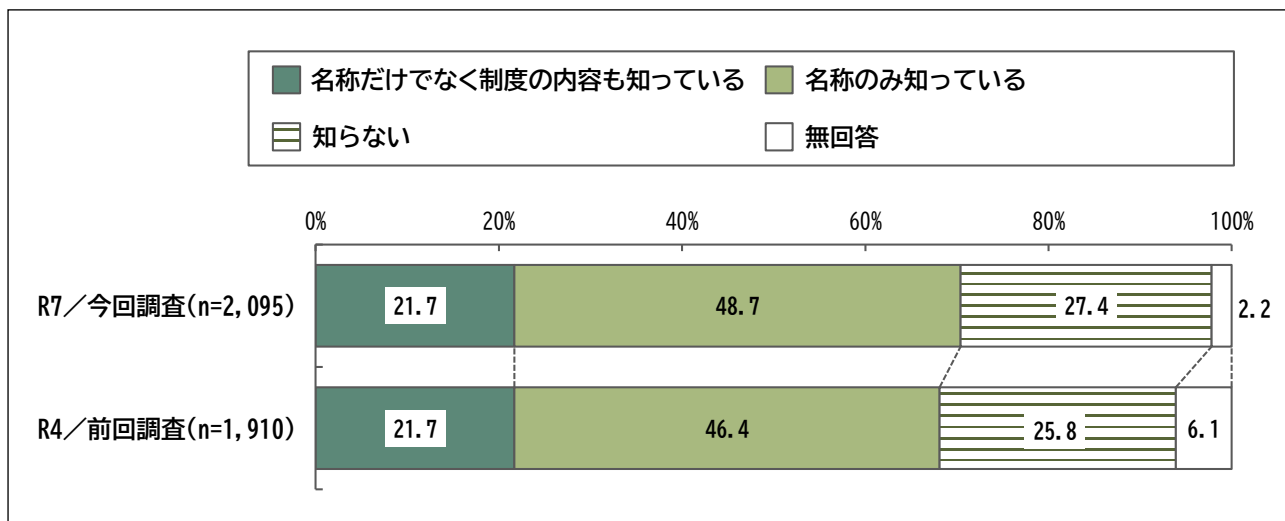
【属性別の傾向】

性別にみると、『成年後見制度を知っている』は女性(72.2%)が男性(68.0%)を 4.2 ポイント上回っています。

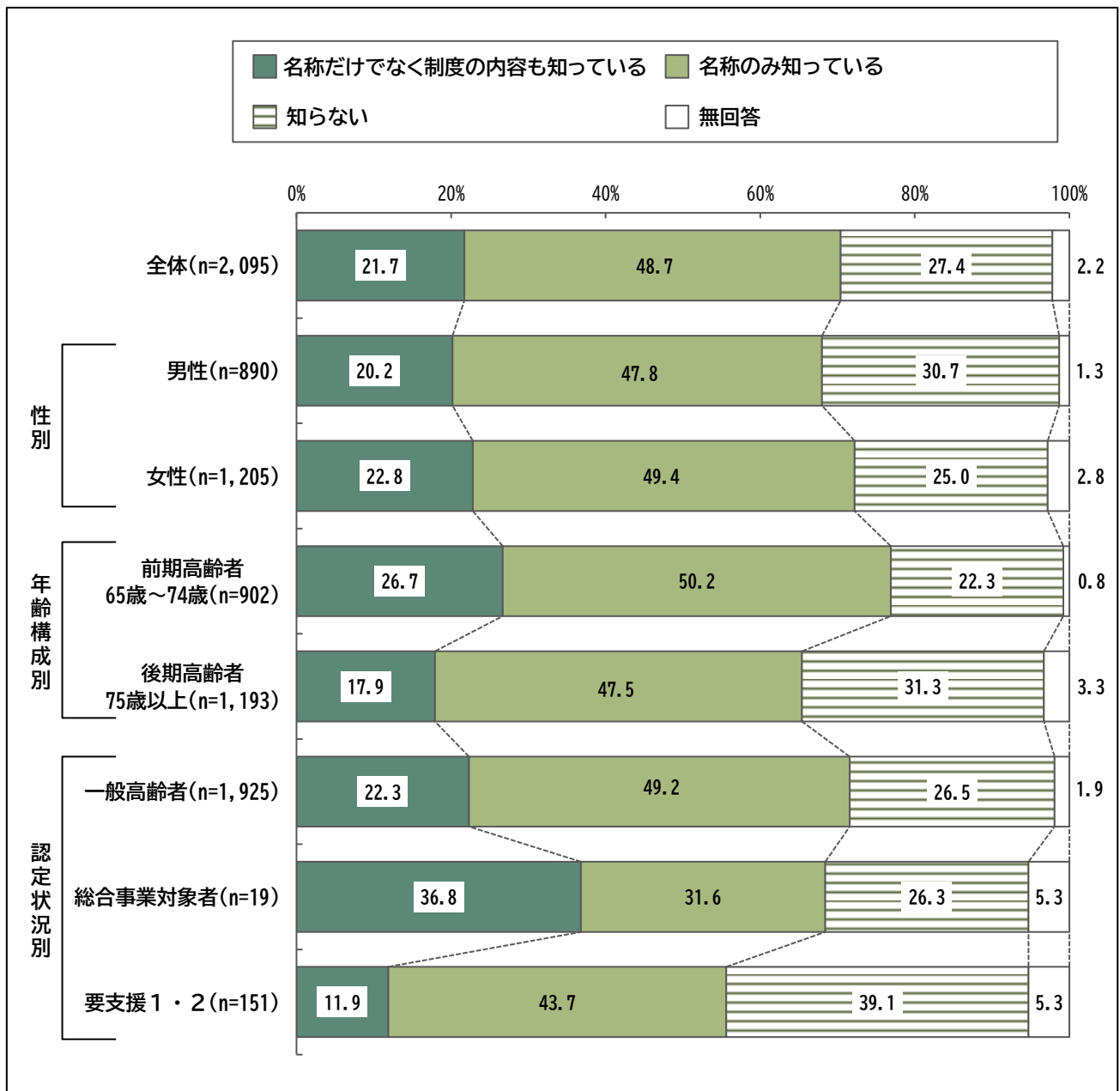
年齢構成別にみると、『成年後見制度を知っている』は前期高齢者(76.9%)、が後期高齢者(65.4%)を 11.5 ポイント上回っています。

認定状況別にみると、『成年後見制度を知っている』は、一般高齢者で 71.5%と最も高くなっており、総合事業対象者では 68.4%、要支援 1・2 では 55.6%となっています。

図表 113 成年後見制度の認知度（全体、前回比較）



図表 114 成年後見制度の認知度（全体、性別、年齢構成別、認定状況別）



(2) 成年後見制度の利用希望

問 12 (2) あなたは、あなた自身の判断能力が低下し、自分で身の回りの契約行為や財産管理などができなくなった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

成年後見制度の利用希望についてみると、「わからない」が44.2%と最も高く、「はい」は26.8%にとどまっています。

前回調査と比較すると、「はい」が4.2ポイント増加しています。

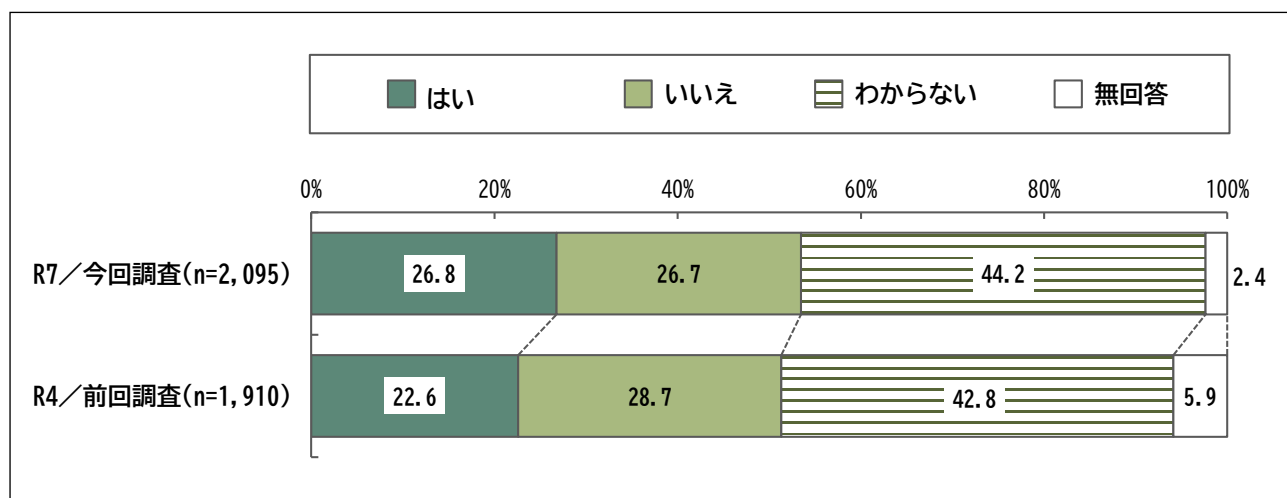
【属性別の傾向】

性別にみると、「はい」は男性(27.1%)が女性(26.6%)を0.5ポイント上回っています。また「わからない」は男性(46.9%)が女性(42.2%)を4.7ポイント上回っています。

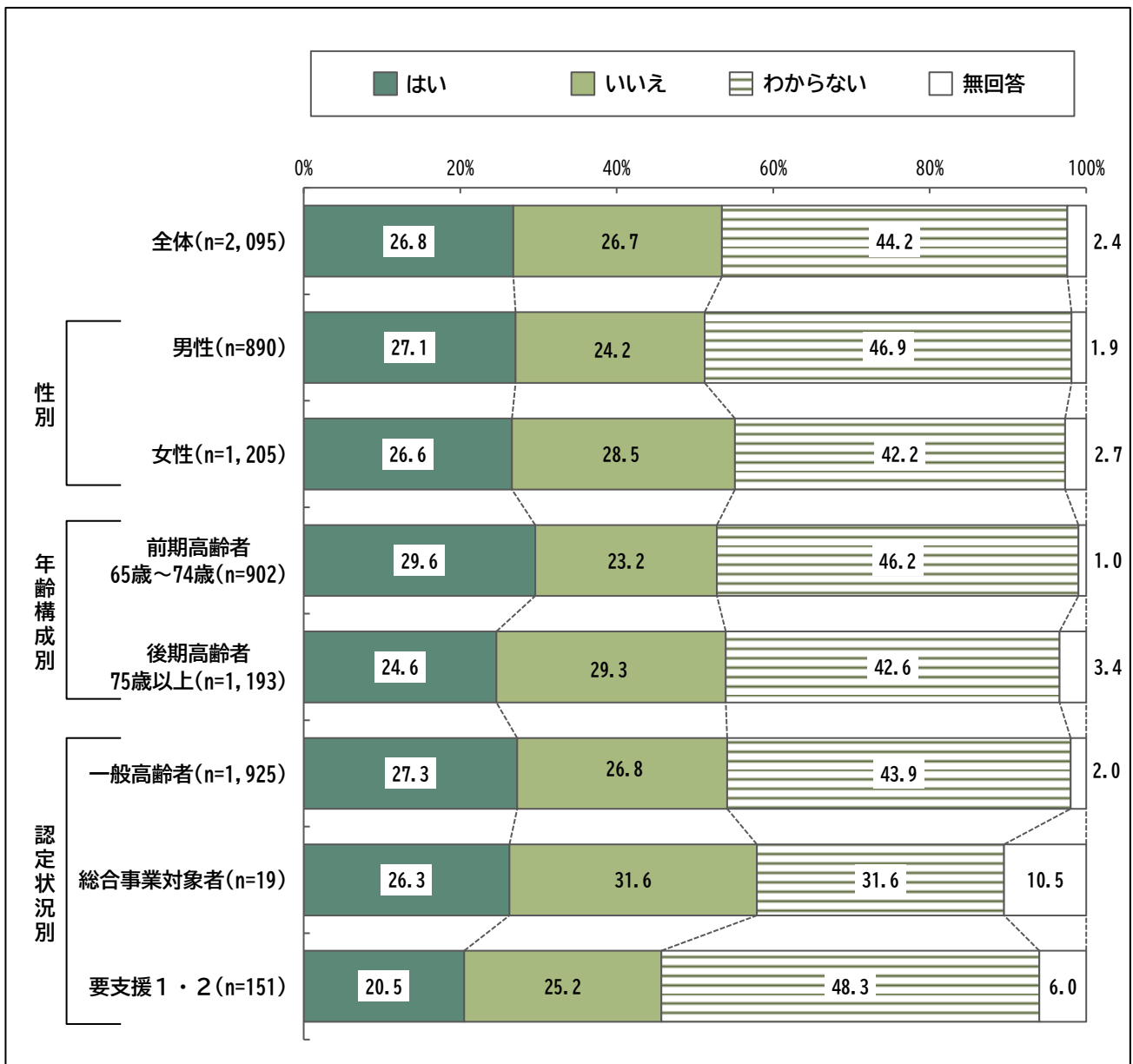
年齢構成別にみると、「はい」は前期高齢者(29.6%)が後期高齢者(24.6%)を5.0ポイント上回っています。

認定状況別にみると、総合事業対象者では「いいえ」が31.6%と3割を超えています。

図表 115 成年後見制度の利用希望（全体、前回比較）



図表 116 成年後見制度の利用希望（全体、性別、年齢構成別、認定状況別）



※問 12（2）で「はい」と回答した方のみ

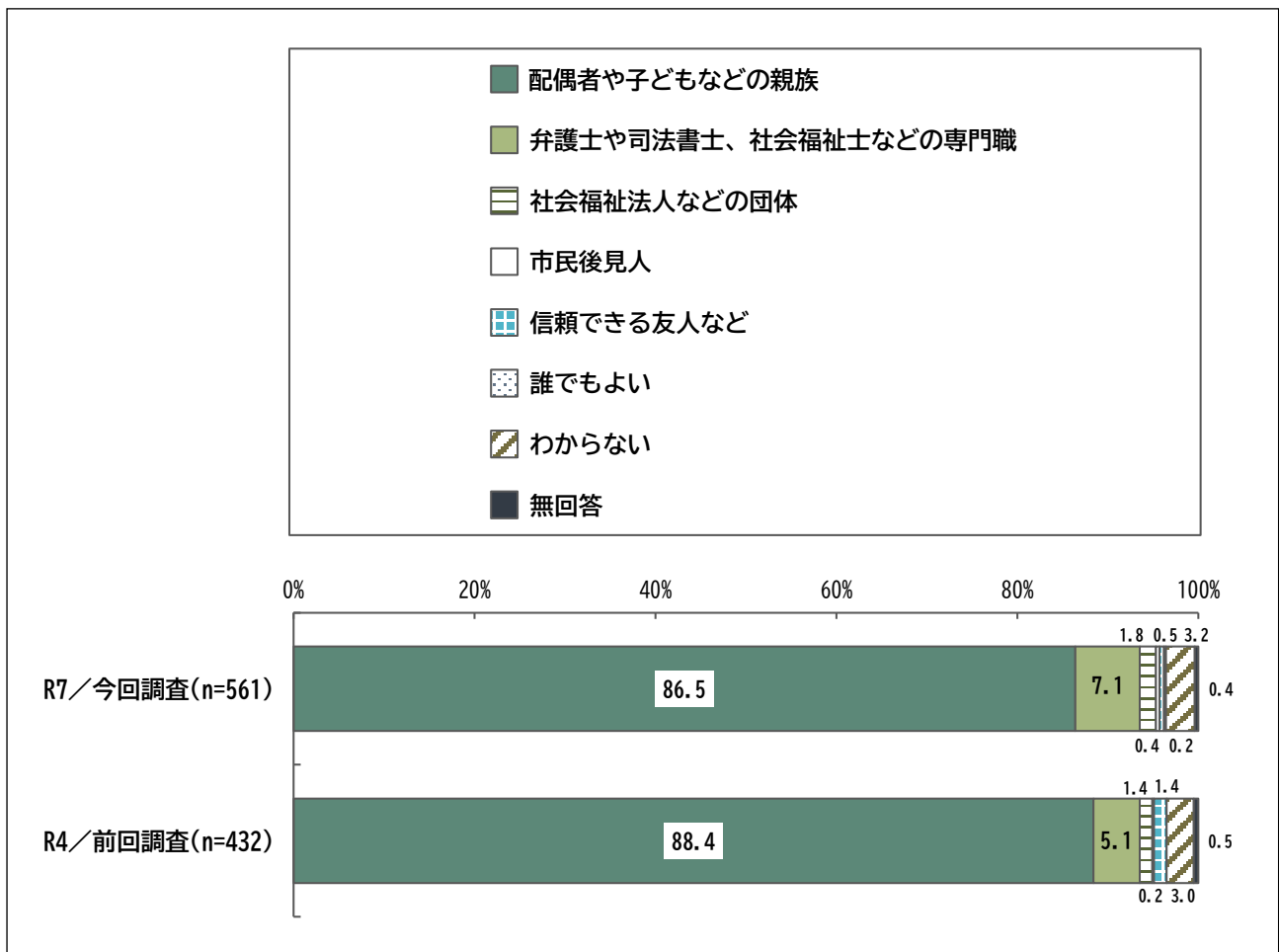
問 12（2-1）将来的にあなた自身の判断能力が不十分となった場合、だれに後見人となって支援してほしいですか。（1つだけ）

【全体の傾向】

成年後見制度を利用する場合に後見人となってほしい人を見ると、「配偶者や子どもなどの親族」が 86.5%を占めています。

前回調査と比較すると、「弁護士や司法書士、社会福祉士などの専門職」が 2.0 ポイント増加しています。

図表 117 成年後見制度を利用する場合に後見人となってほしい人（全体、前回比較）



※問12(2)で「いいえ」または「わからない」と回答した方のみ

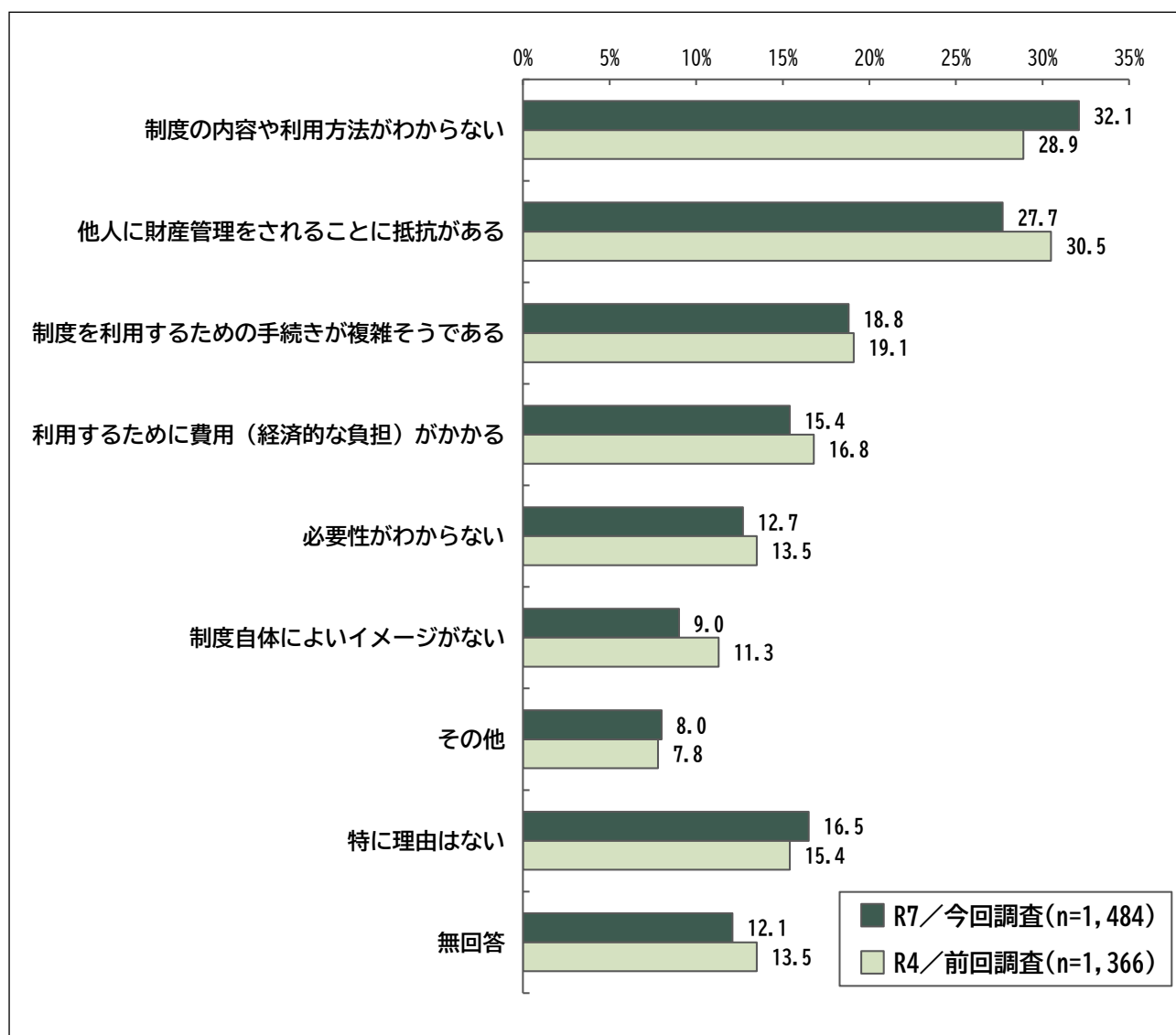
問12(2-2)あなたが、「利用したいと思わない」または「わからない」と回答した理由は何ですか。
(いくつでも)

【全体の傾向】

成年後見制度を利用したいと思わない、わからない理由をみると、「制度の内容や利用方法がわからない」が32.1%、次いで「他人に財産管理をされることに抵抗がある」(27.7%)、「制度を利用するための手続きが複雑そうである」(18.8%)などとなっています。

前回調査と比較すると、「制度の内容や利用方法がわからない」が3.2ポイント増加しています。

図表 118 成年後見制度を利用したいと思わない、わからない理由（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

認定状況別にみると、総合事業対象者、要支援１・２では「必要性がわからない」が上位に挙がっています。また、総合事業対象者では「制度自体によいイメージがない」も上位に挙がっています。

図表 119 成年後見制度を利用したいと思わない、わからない理由
(全体、認定状況別／複数回答)

<上位３位/単位％>

		第１位	第２位	第３位
全体(n=1,484)		制度の内容や利用方法がわからない	他人に財産管理をされることに抵抗がある	制度を利用するための手続きが複雑そうである
		32.1	27.7	18.8
認定 状況 別	一般高齢者 (n=1,361)	制度の内容や利用方法がわからない	他人に財産管理をされることに抵抗がある	制度を利用するための手続きが複雑そうである
		32.0	28.5	19.4
	総合事業対象者 (n=12)	制度の内容や利用方法がわからない	制度を利用するための手続きが複雑そうである／ 利用するために費用（経済的な負担）がかかる／ 必要性がわからない／制度自体によいイメージがない	
		58.3		16.7
	要支援１・２ (n=111)	制度の内容や利用方法がわからない	他人に財産管理をされることに抵抗がある	必要性がわからない
		31.5	19.8	14.4

13 地域での支え合いの体制について

(1) 住民同士の支え合いによる地域づくりの現状

問 13 (1) あなたのお住まいの地区では、住民同士による支え合いができる地域づくりができていますか。(1 つだけ)

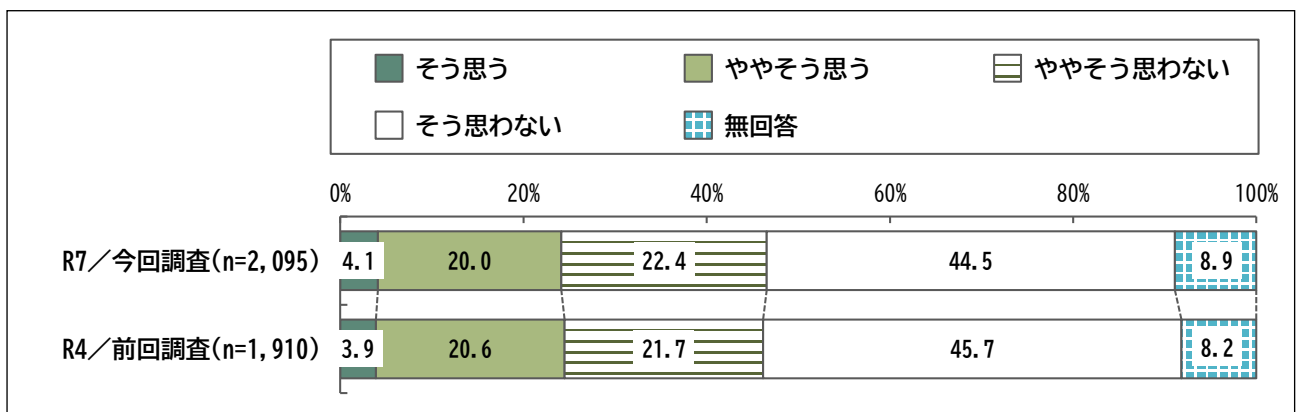
【全体の傾向】

住民同士の支え合いによる地域づくりができていると思うかについてみると、「そう思わない」が44.5%と最も高くなっています。できていると思う人の割合は、「そう思う」(4.1%)と「ややそう思う」(20.0%)を合計した24.1%となっています。前回調査と比較すると、「そう思わない」が1.2ポイント減少しています。

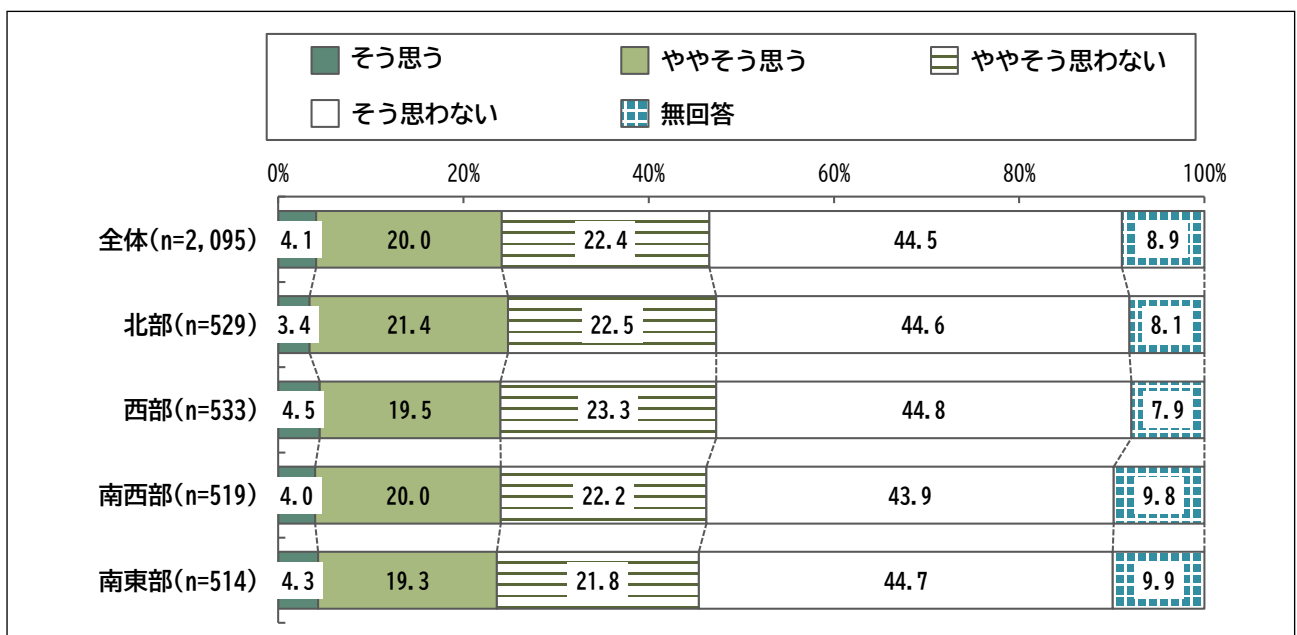
【属性別の傾向】

圏域別にみると、『できていると思う』は、北部で24.8%、西部および南西部で24.0%、南東部で23.6%となっており、いずれの圏域でも3割を下回っています。

図表 120 支え合いによる地域づくりができていると思うか（全体、前回比較）



図表 121 支え合いによる地域づくりができていると思うか（全体、圏域別）



(2) 生活支援コーディネーターの認知度

問13 (2) 地域と連携して、支え合い活動を支援する「生活支援コーディネーター」をご存知ですか。
(1つだけ)

【全体の傾向】

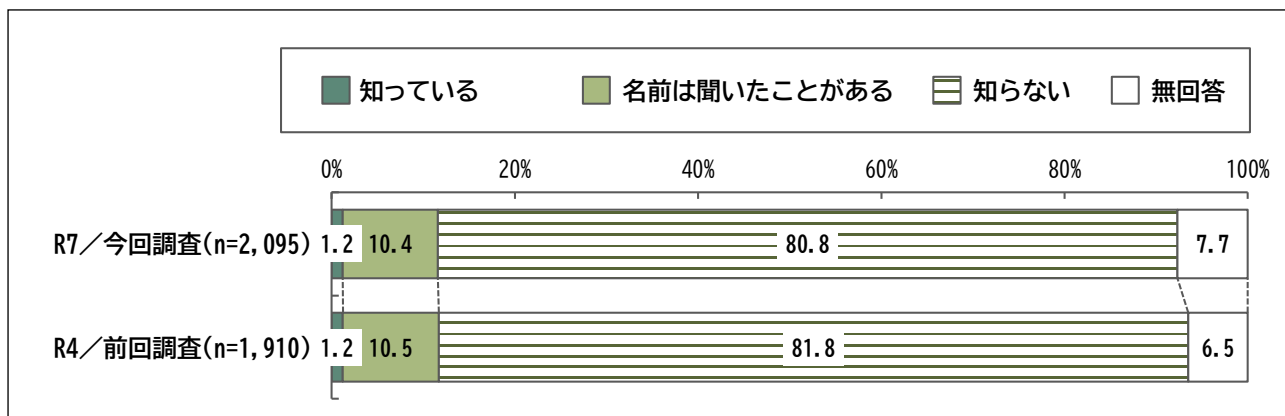
生活支援コーディネーターの認知度についてみると、「知らない」が80.8%を占めています。一方、「知っている」は1.2%にとどまり、認知度は低くなっています。

前回調査と比較すると、「知らない」が1.0ポイント減少しています。

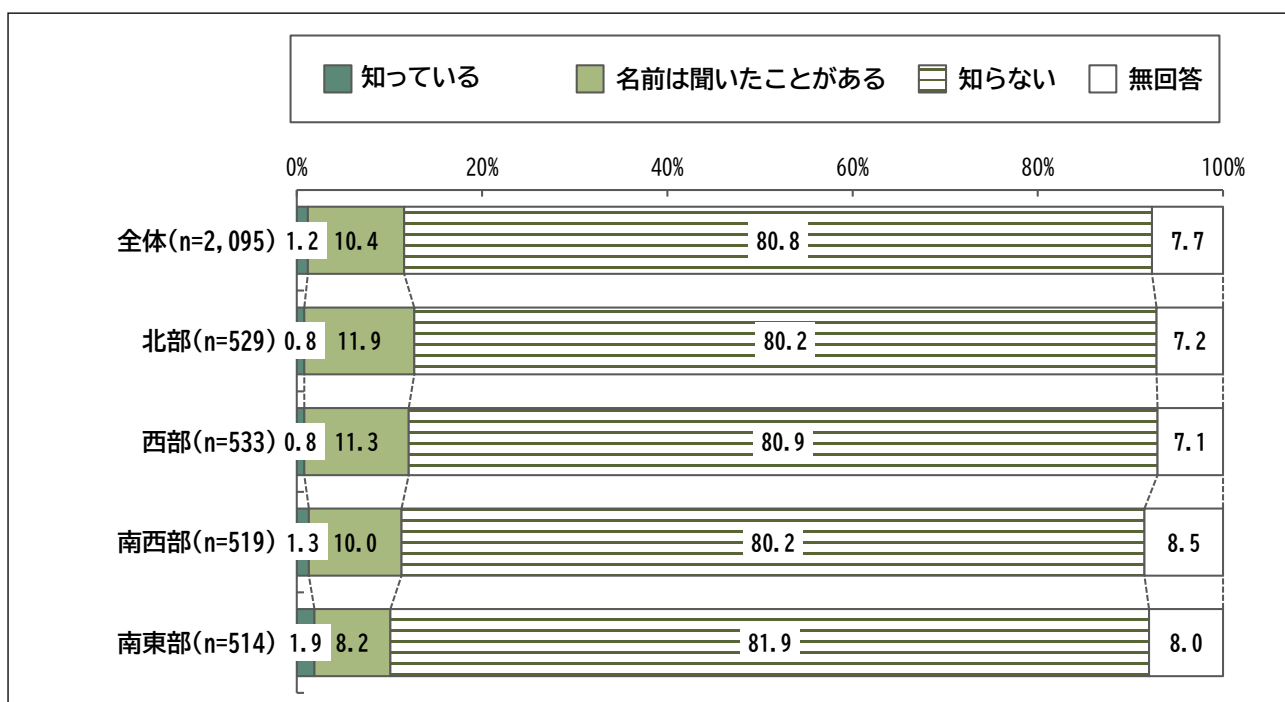
【属性別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域においても「知らない」が8割以上を占めています。

図表 122 生活支援コーディネーターの認知度（全体、前回比較）



図表 123 生活支援コーディネーターの認知度（全体、圏域別）



(3) 地域にあれば良いと思う支え合い活動について

問13 (3) あなたのお住まいの地区で、どのような住民同士の支え合い活動があればいいと思いますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

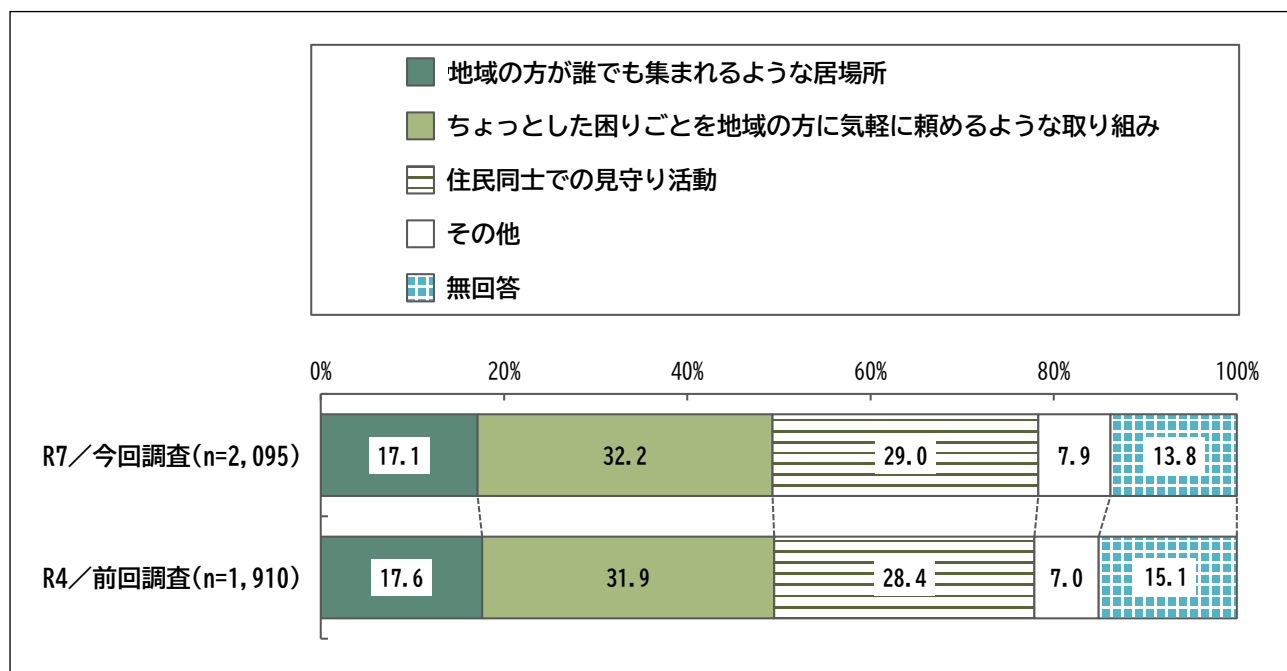
地域にあれば良いと思う支え合い活動についてみると、「ちょっとした困りごとを地域の方に気軽に頼めるような取り組み」が32.2%と最も高く、次いで「住民同士での見守り活動」(29.0%)となっています。

前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

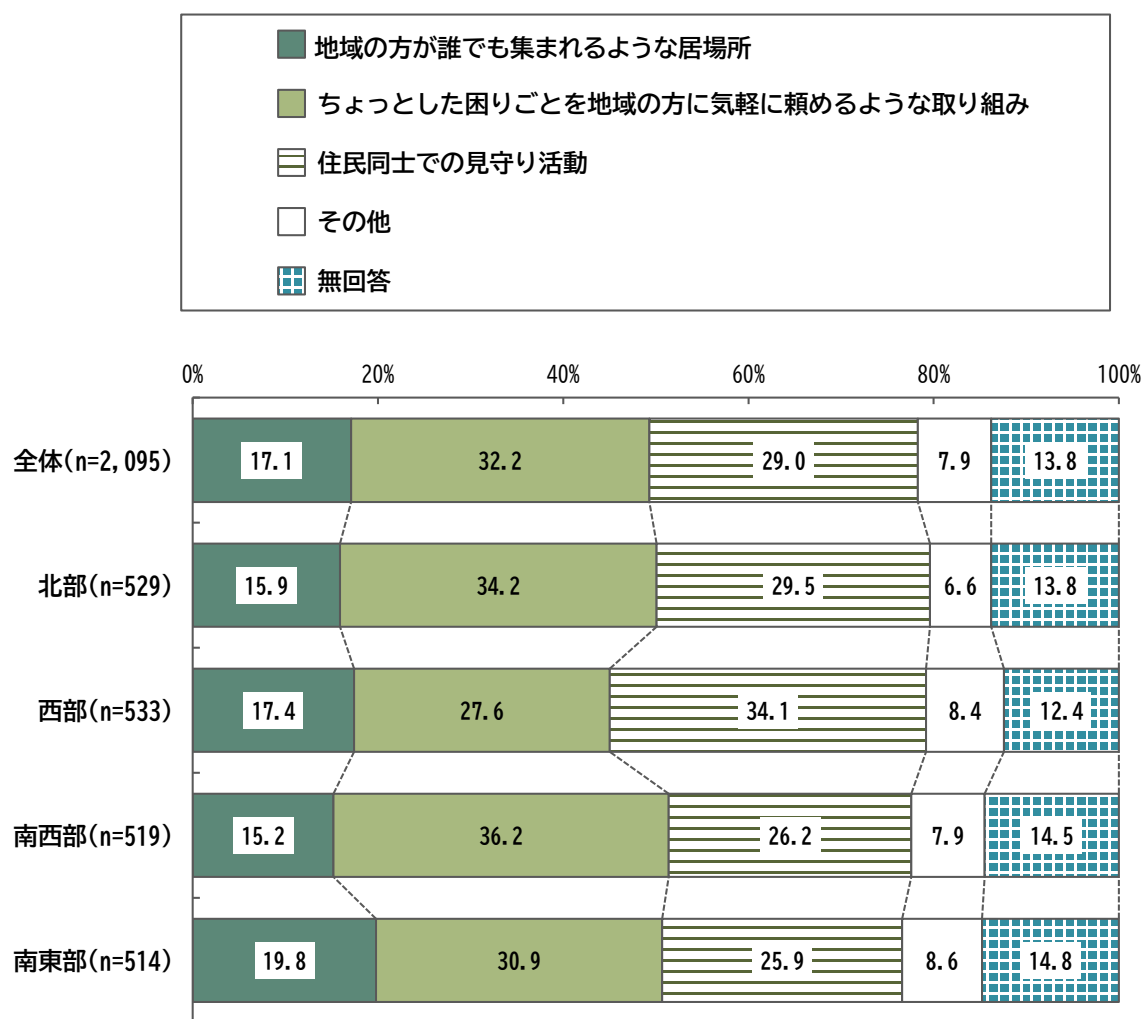
【属性別の傾向】

圏域別にみると、西部を除くすべての圏域で「ちょっとした困りごとを地域の方に気軽に頼めるような取り組み」がそれぞれ最も高くなっています。また、西部では「住民同士での見守り活動」(34.1%)が最も高くなっています。

図表 124 地域にあれば良いと思う支え合い活動（全体、前回比較）



図表 125 地域にあれば良いと思う支え合い活動（全体、圏域別）



14 終末期の療養について

(1) 終末期の療養場所について

問 14 (1) 終末期の療養はどのような場所を希望しますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

終末期における療養場所の希望をみると、「必要に応じて病院に入院しながら自宅を中心に療養したい」が32.9%と最も高く、次いで「訪問診療や介護サービスを受けながら、住み慣れた自宅で家族と過ごしたい」(20.2%)、「療養専門の病院に入院したい」(17.5%)となっています。

前回調査と比較すると、「療養専門の病院に入院したい」が2.4ポイント増加しています。

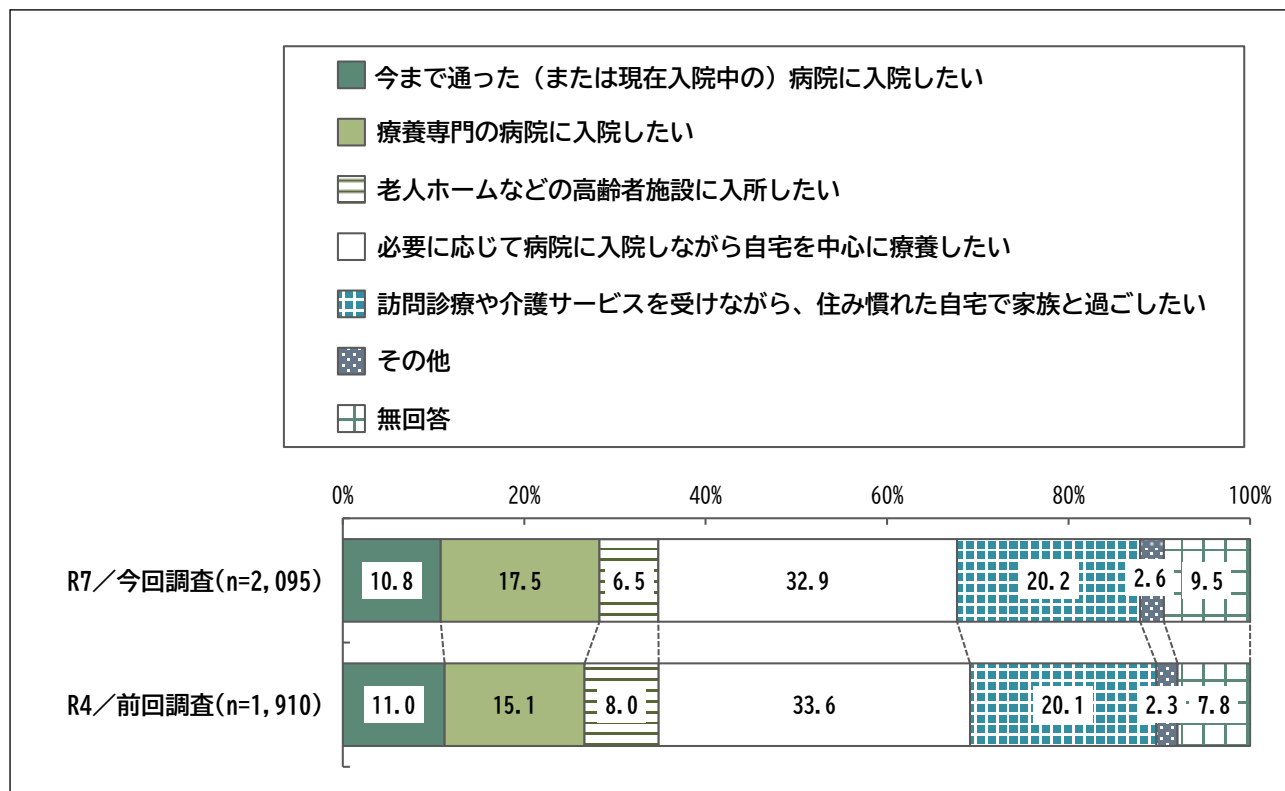
【属性別の傾向】

性別にみると、男性は「必要に応じて病院に入院しながら自宅を中心に療養したい」、「訪問診療や介護サービスを受けながら、住み慣れた自宅で家族と過ごしたい」といった自宅中心の療養を望む割合が女性よりも高くなっています。一方、女性は病院や高齢者施設を望む割合が男性よりも高くなっています。

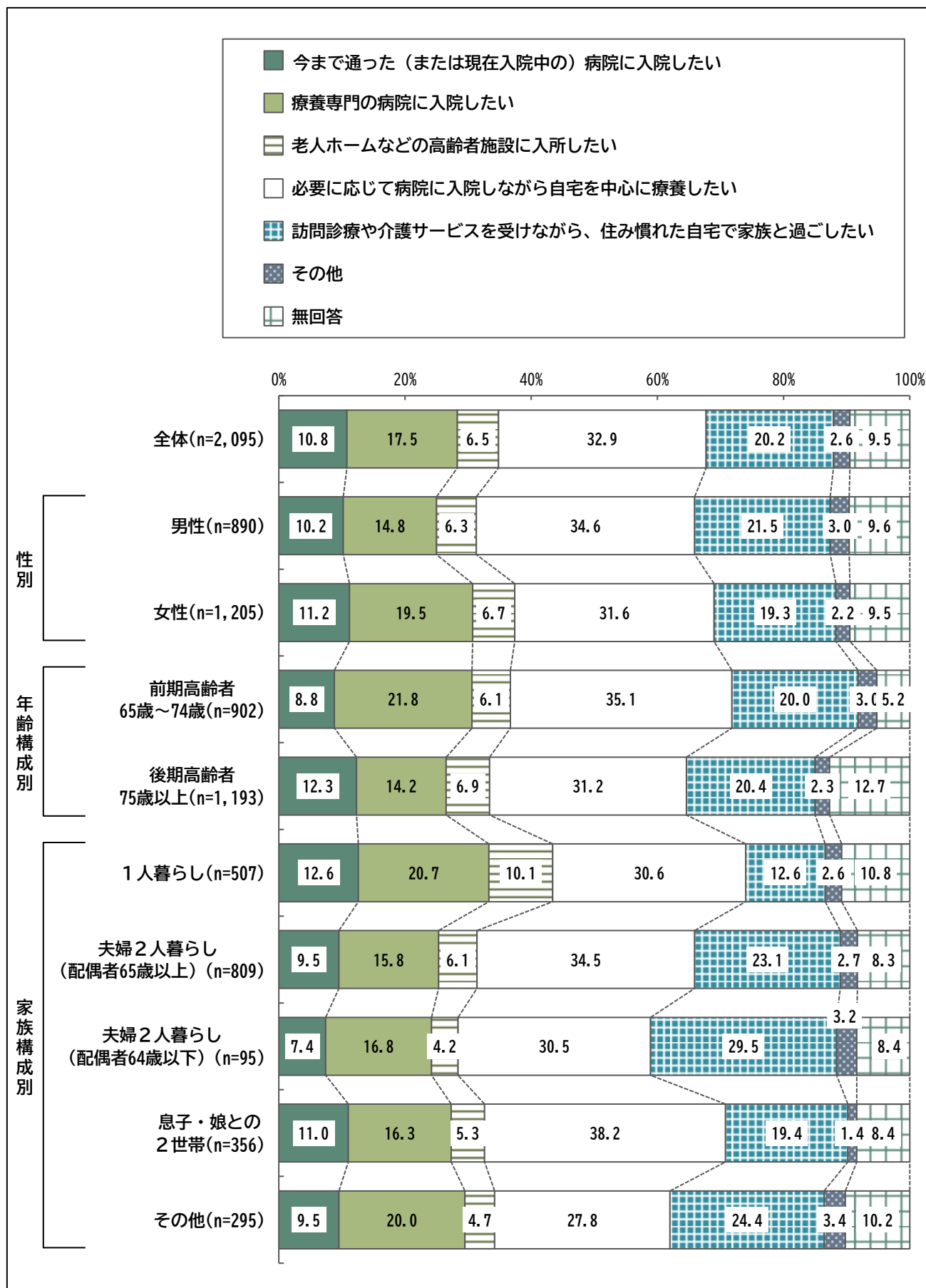
年齢構成別にみると、「療養専門の病院に入院したい」は前期高齢者(21.8%)が後期高齢者(14.2%)より7.6ポイント高くなっています。

家族構成別にみると、病院や高齢者施設を望む割合は、1人暮らしで他の家族構成に比べて高くなっています。一方、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)では自宅中心の療養を望む割合が、他の家族構成に比べて高くなっています。

図表 126 終末期における療養場所の希望(全体、前回比較)



図表 127 終末期における療養場所の希望（全体、性別、年齢構成別、家族構成別）



問 14（２）あなたやあなたの家族が、自宅で最期を迎えたいと願った時に、希望がかなえられる体制が整っていると思いますか。（１つだけ）

【全体の傾向】

自宅で最期を迎える体制が整っているかどうかをみると、「そう思わない」が 37.4%と最も高く、「ややそう思わない」（26.6%）を合計した『整っていると思わない』は 64.0%を占めています。一方、「そう思う」（5.3%）と「ややそう思う」（21.4%）を合計した『整っていると思う』は 26.7%となっています。

前回調査と比較すると、「ややそう思わない」が 2.6 ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

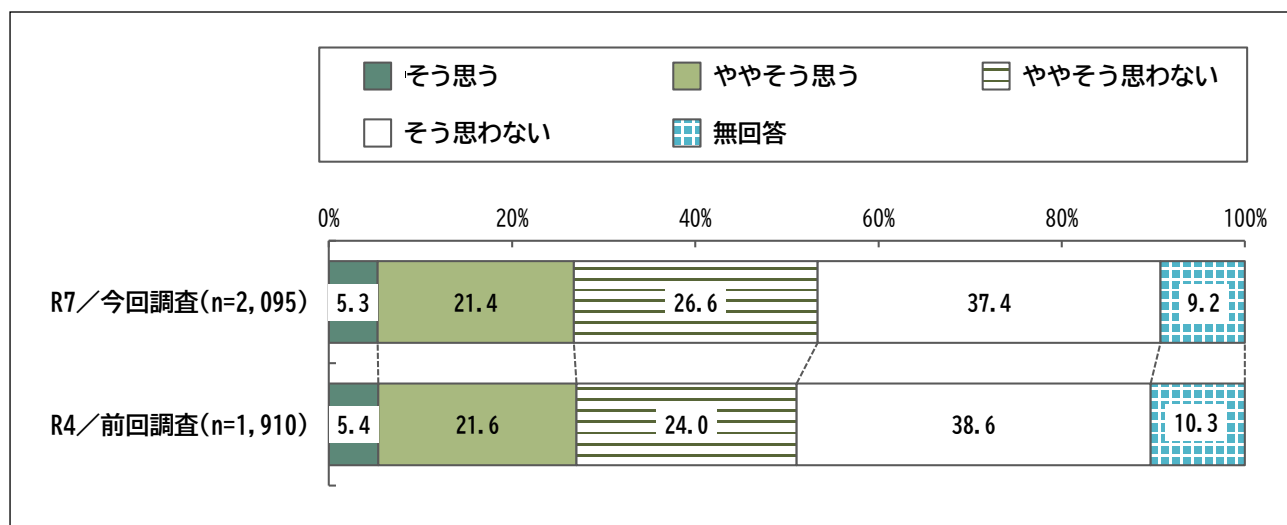
性別にみると、『整っていると思う』は男性（29.8%）が女性（24.5%）を 5.3 ポイント上回っています。

年齢構成別にみると、『整っていると思う』は後期高齢者（30.6%）が前期高齢者（21.7%）を 8.9 ポイント上回っています。

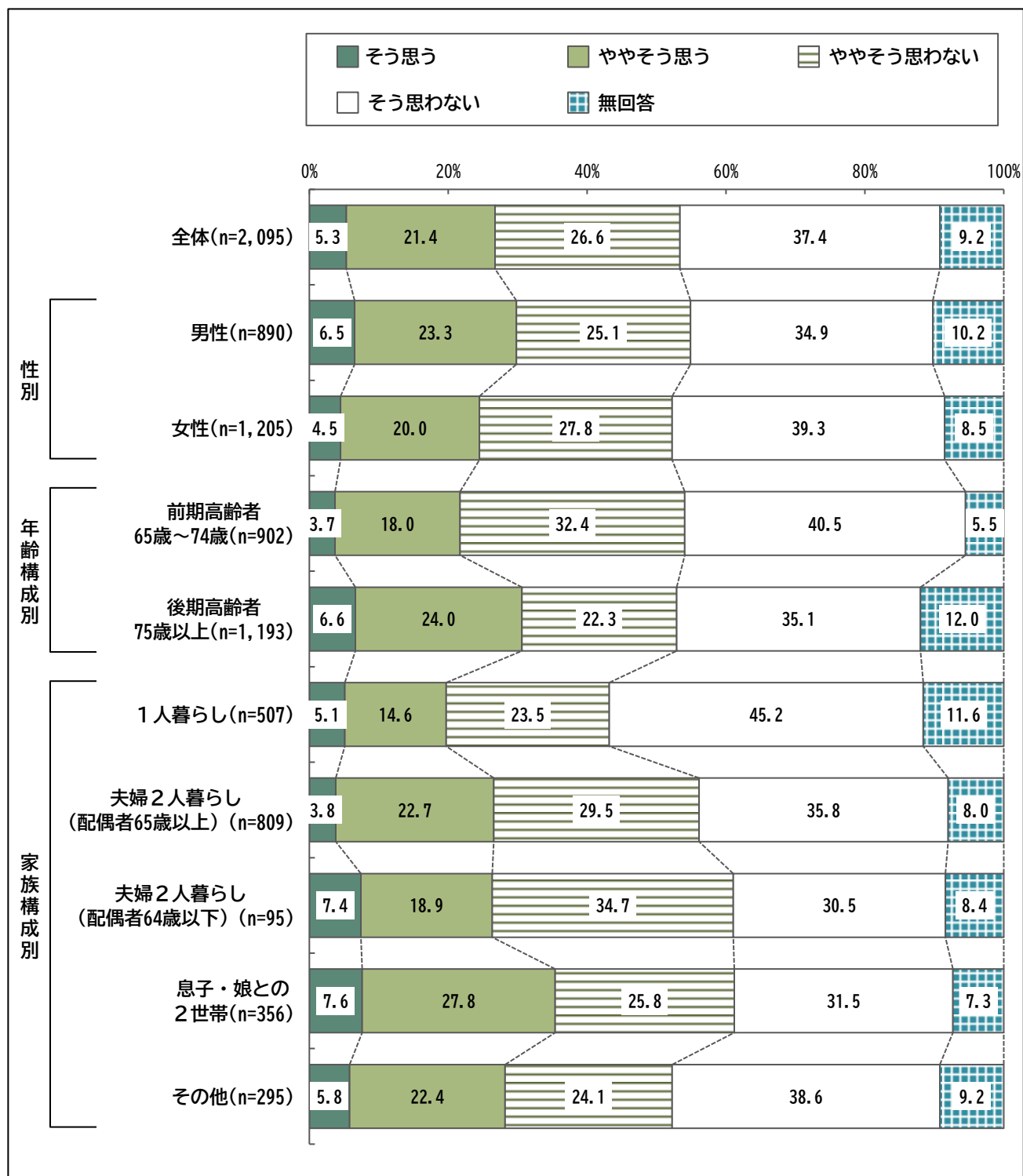
家族構成別にみると、『整っていると思う』は、息子・娘との２世帯で 35.4%と最も高くなっています。

一方、１人暮らしでは『整っていると思わない』が他の家族構成に比べて高く、68.7%となっています。

図表 128 自宅で最期を迎える体制が整っているか（全体、前回比較）



図表 129 自宅で最期を迎える体制が整っているか（全体、性別、年齢構成別、家族構成別）



※問 14（2）で「ややそう思わない」「そう思わない」と回答した方のみ

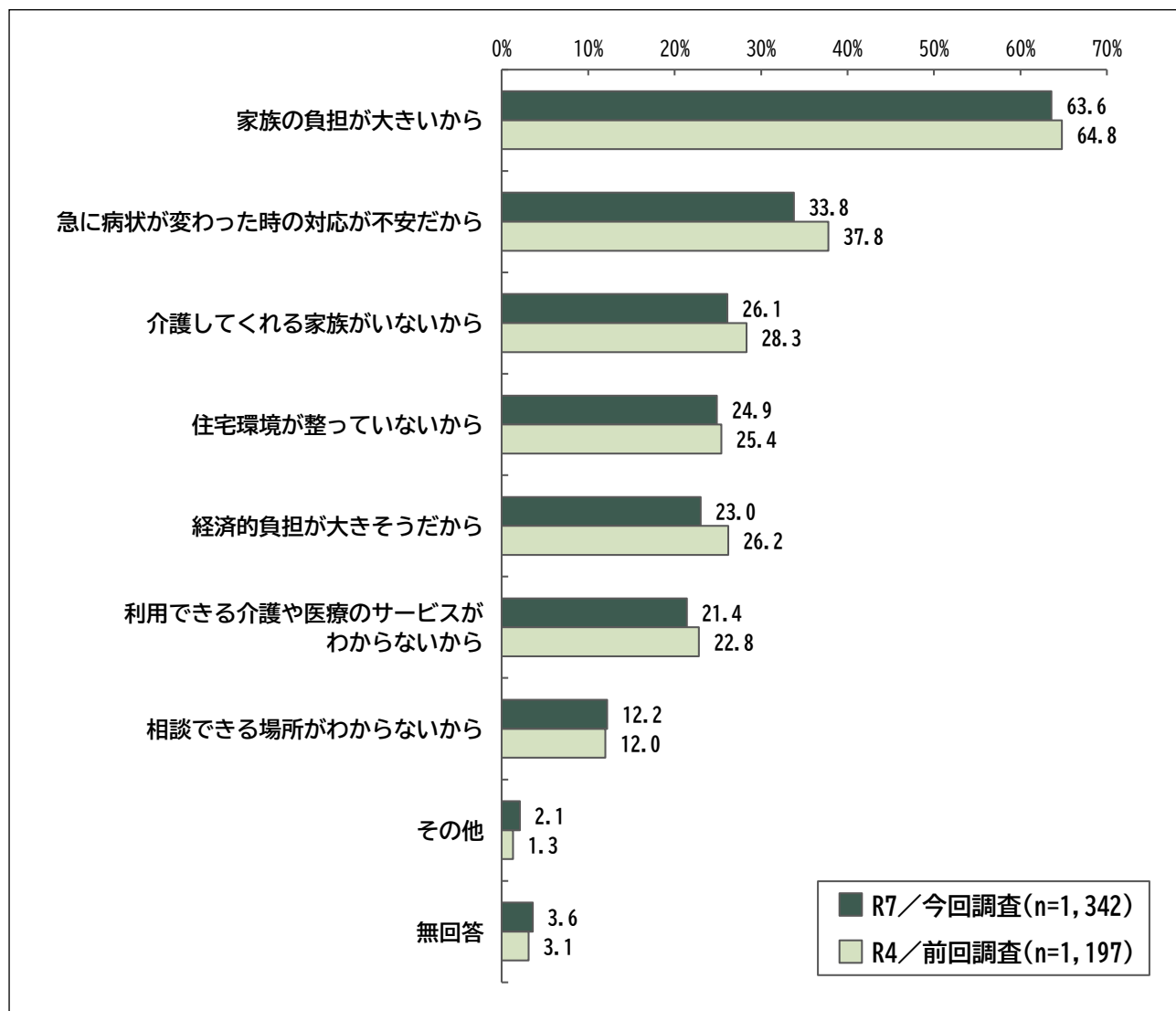
問 14（2-1）そう思わない理由は何ですか。（いくつでも）

【全体の傾向】

自宅で最期を迎える体制が整っていない理由をみると、「家族の負担が大きいから」が 63.6%と最も高く、次いで「急に病状が変わった時の対応が不安だから」（33.8%）、「介護してくれる家族がいないから」（26.1%）、「住宅環境が整っていないから」（24.9%）、「経済的負担が大きそうだから」（23.0%）となっています。

前回調査と比較すると、体制が整っていない理由として「相談できる場所がわからないから」以外の項目で減少しています。

図表 130 自宅で最期を迎える体制が整っていない理由（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、男性では「利用できる介護や医療のサービスがわからないから」、女性では「介護してくれる家族がいないから」が第3位となっており、結果に違いがみられます。

年齢構成別にみると、前期高齢者では「住宅環境が整っていないから」、後期高齢者では「介護してくれる家族がいないから」がそれぞれ上位に挙がっています。

家族構成別にみると、1人暮らしでは「介護してくれる家族がいないから」が第1位となっています。

図表 131 自宅で最期を迎える体制が整っていない理由
(全体、性別、年齢構成別、家族構成別／複数回答)

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,342)		家族の負担が大きいから 63.6	急に病状が変わった時の対応が不安だから 33.8	介護してくれる家族がいないから 26.1
性別	男性(n=534)	家族の負担が大きいから 63.3	急に病状が変わった時の対応が不安だから 30.5	利用できる介護や医療のサービスがわからないから 25.1
	女性(n=808)	家族の負担が大きいから 63.9	急に病状が変わった時の対応が不安だから 35.9	介護してくれる家族がいないから 28.6
年齢構成別	前期高齢者 65歳～74歳(n=657)	家族の負担が大きいから 67.0	急に病状が変わった時の対応が不安だから 34.9	住宅環境が整っていないから 27.7
	後期高齢者 75歳以上(n=685)	家族の負担が大きいから 60.4	急に病状が変わった時の対応が不安だから 32.7	介護してくれる家族がいないから 26.7
家族構成別	1人暮らし(n=348)	介護してくれる家族がいないから 51.1	家族の負担が大きいから 42.0	急に病状が変わった時の対応が不安だから 27.3
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=529)	家族の負担が大きいから 69.8	急に病状が変わった時の対応が不安だから 35.7	住宅環境が整っていないから／利用できる介護や医療のサービスがわからないから 24.2
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=62)	家族の負担が大きいから 66.1	急に病状が変わった時の対応が不安だから 29.0	住宅環境が整っていないから／経済的負担が大きそうだから／利用できる介護や医療のサービスがわからないから 25.8
	息子・娘との 2世帯(n=204)	家族の負担が大きいから 76.0	急に病状が変わった時の対応が不安だから 36.8	住宅環境が整っていないから 32.4
	その他(n=185)	家族の負担が大きいから 73.5	急に病状が変わった時の対応が不安だから 38.9	住宅環境が整っていないから 29.7

（２）終末期に関する話し合いについて

問 14（３）ご自身が終末期になった時にどうしたいかを誰かと話し合ったことはありますか。（１つだけ）

【全体の傾向】

終末期に関する話し合いの有無についてみると、「ある」が 31.8%、「ない」が 59.9%となっています。
前回調査と比較すると、「ない」が 1.3 ポイント増加しています。

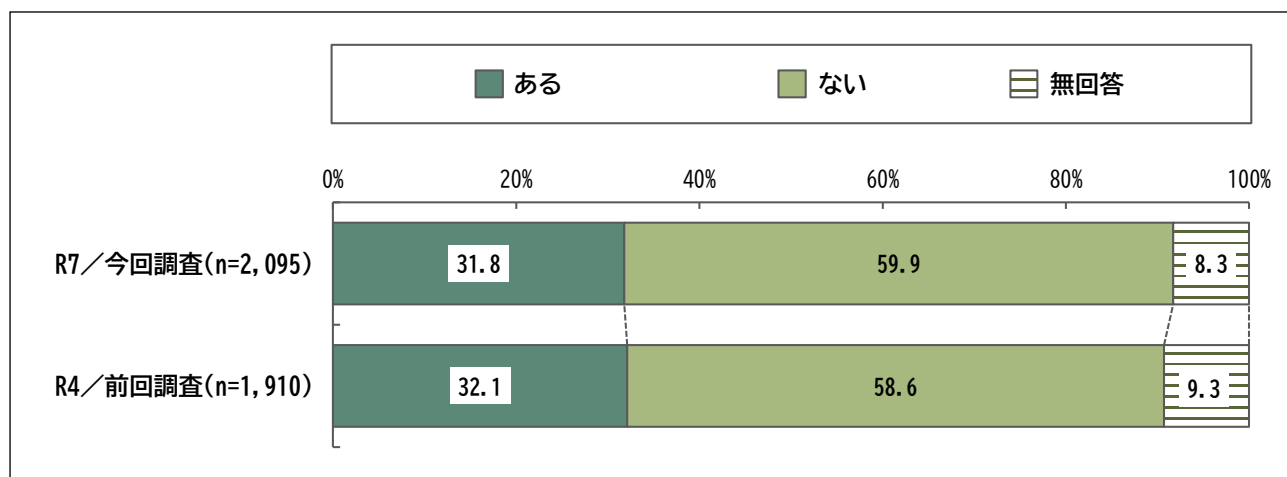
【属性別の傾向】

性別にみると、「ある」は女性（33.9%）が男性（29.1%）を 4.8 ポイント上回っています。

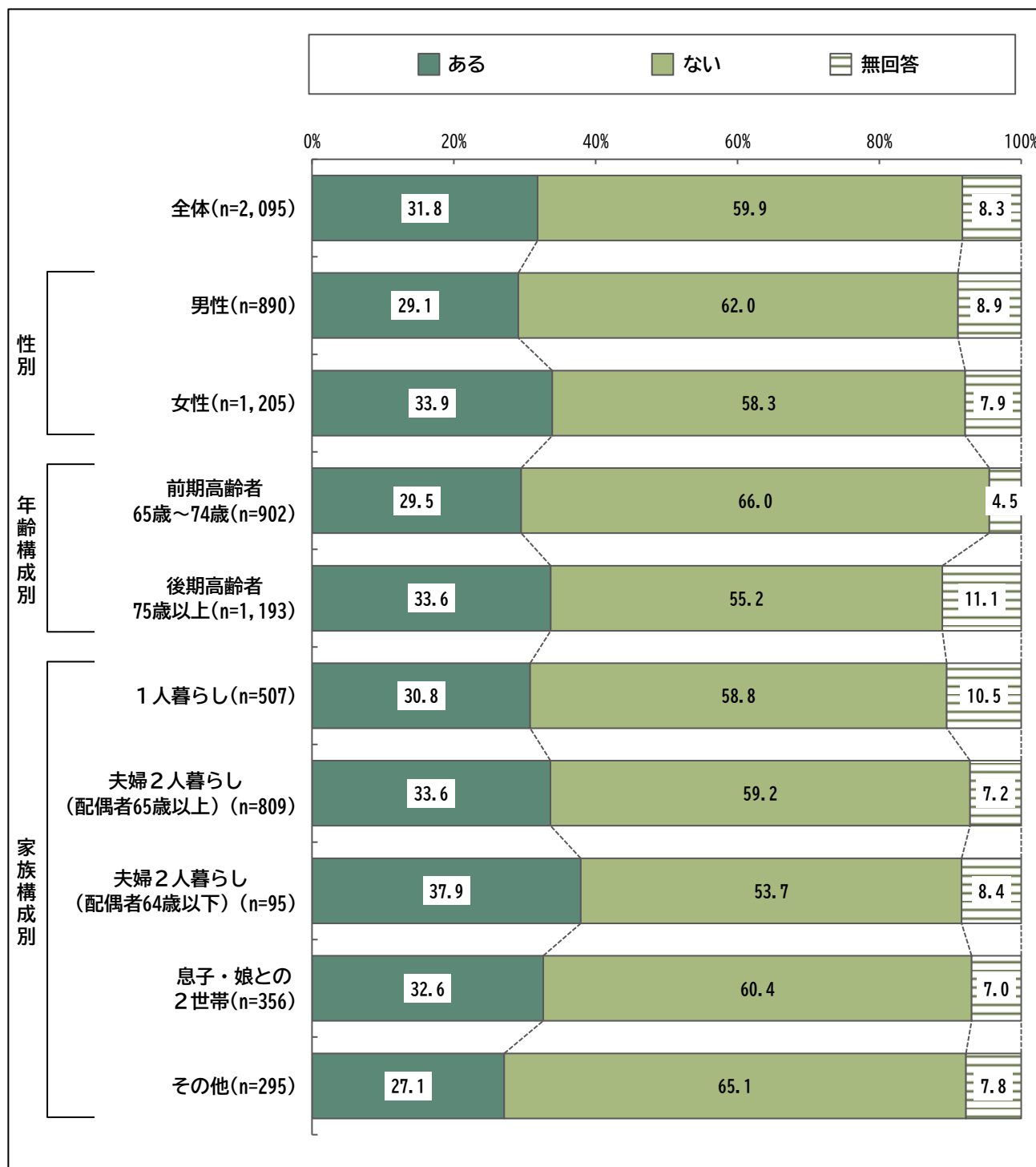
年齢構成別にみると、「ある」は後期高齢者（33.6%）が前期高齢者（29.5%）を 4.1 ポイント上回っています。

家族構成別にみると、「ある」は、夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）が 37.9%と他の家族構成に比べ高くなっています。一方、息子・娘との 2 世帯、その他では「ない」が 6 割以上を占めています。

図表 132 終末期に関する話し合いの有無（全体、前回比較）



図表 133 終末期に関する話し合いの有無（全体、性別、年齢構成別、家族構成別）



※問 14（3）で「ある」と回答した方のみ

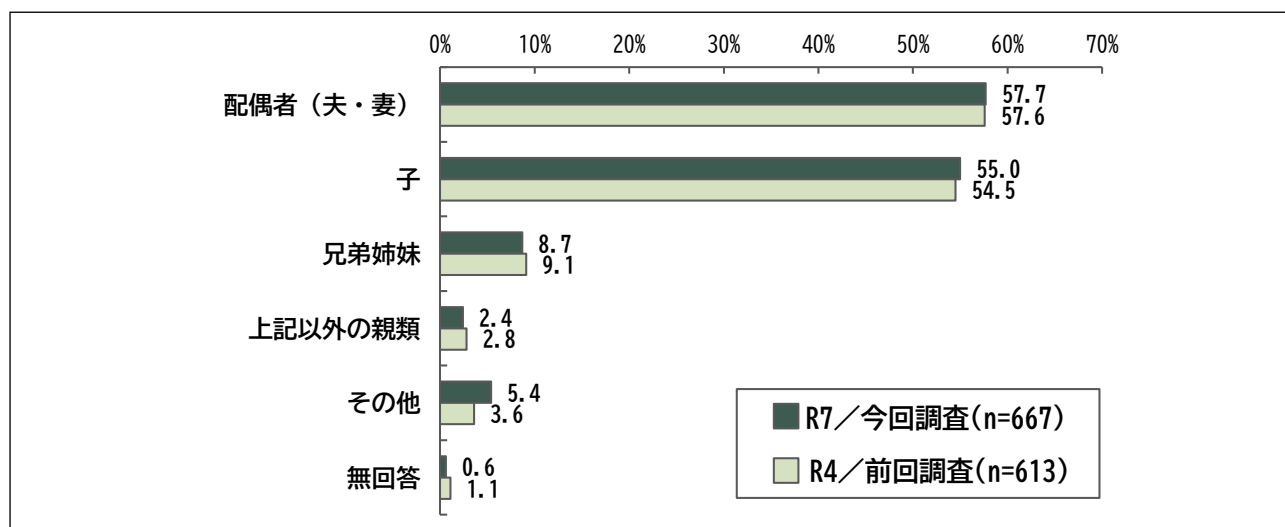
問 14（3-1）誰と話し合いましたか。（いくつでも）

【全体の傾向】

終末期に関する話し合いをした相手についてみると、「配偶者（夫・妻）」が 57.7%と最も高く、次いで「子」（55.0%）となっており、その割合は突出しています。

前回調査と比較すると、「兄弟姉妹」、「上記以外の親類」が減少しています。

図表 134 終末期に関する話し合いをした相手（全体、前回比較／複数回答）



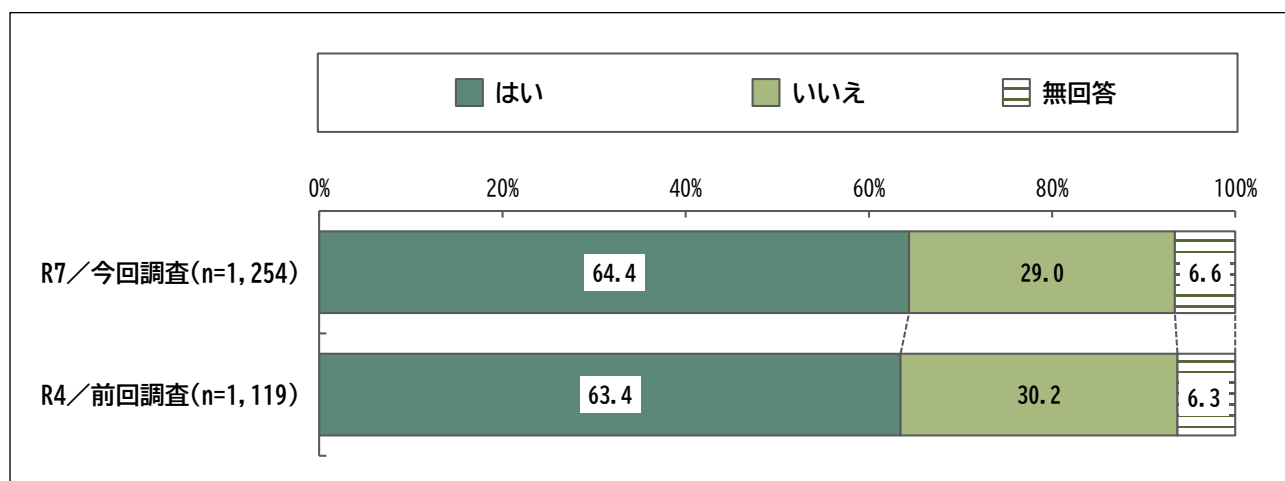
※問 14（3）で「ない」と回答した方のみ

問 14（3-2）誰かと話し合いたいと思いますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

終末期に関する話し合いをしたいと思うかについてみると、「はい」が 64.4%、「いいえ」が 29.0%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が 1.0 ポイント増加しています。

図表 135 終末期に関する話し合いをしたいと思うか（全体、前回比較）



15 介護予防事業で特に力を入れてほしい高齢者施策について

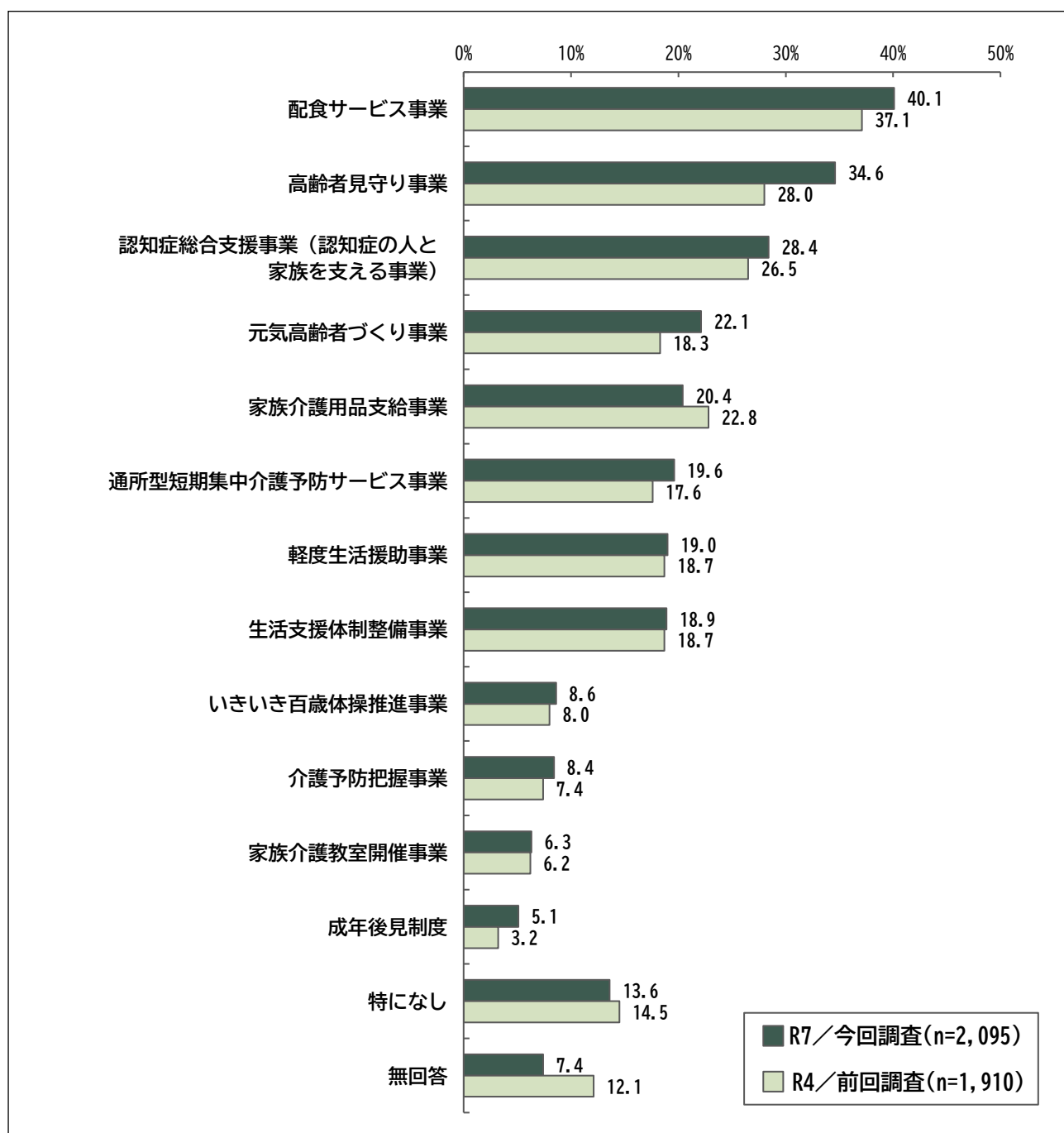
問 15（１）地域ケア推進担当の事業で今後、特に力を入れてほしい事業をお答えください。（いくつでも）

【全体の傾向】

特に力を入れてほしい地域ケア推進事業についてみると、「配食サービス事業」が40.1%と最も高く、次いで「高齢者見守り事業」（34.6%）となっています。

前回調査と比較すると、「高齢者見守り事業」が6.6 ポイント増加しています。

図表 136 充実を希望する地域ケア推進事業（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、男性では「家族介護用品支給事業」、「生活支援体制整備事業」、女性では「元気高齢者づくり事業」、「軽度生活援助事業」が上位に挙がっています。

年齢構成別にみると、前期高齢者では「家族介護用品支援事業」、「生活支援体制整備事業」、後期高齢者では「元気高齢者づくり事業」、「通所型短期集中介護予防サービス事業」が上位に挙がっています。

認定状況別にみると、総合事業対象者では「元気高齢者づくり事業」が第1位、「いきいき百歳体操推進事業」が第2位となっており、他との違いがみられます。

図表 137 充実を希望する地域ケア推進事業
(全体、性別、年齢構成別、認定状況別／複数回答)

<上位5位/単位%>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体(n=2,095)		配食サービス事業	高齢者見守り事業	認知症総合支援事業(認知症の人と家族を支える事業)	元気高齢者づくり事業	家族介護用品支給事業
		40.1	34.6	28.4	22.1	20.4
性別	男性(n=890)	配食サービス事業	高齢者見守り事業	認知症総合支援事業(認知症の人と家族を支える事業)	家族介護用品支給事業	生活支援体制整備事業
		37.9	34.0	28.1	20.8	20.4
	女性(n=1,205)	配食サービス事業	高齢者見守り事業	認知症総合支援事業(認知症の人と家族を支える事業)	元気高齢者づくり事業	軽度生活援助事業
		41.7	34.9	28.7	23.4	21.3
年齢構成別	前期高齢者 65歳～74歳(n=902)	配食サービス事業	高齢者見守り事業	認知症総合支援事業(認知症の人と家族を支える事業)	家族介護用品支給事業	生活支援体制整備事業
		44.5	35.5	33.6	26.5	23.2
	後期高齢者 75歳以上(n=1,193)	配食サービス事業	高齢者見守り事業	認知症総合支援事業(認知症の人と家族を支える事業)	元気高齢者づくり事業	通所型短期集中介護予防サービス事業
		36.8	33.9	24.6	22.0	18.4
認定状況別	一般高齢者 (n=1,925)	配食サービス事業	高齢者見守り事業	認知症総合支援事業(認知症の人と家族を支える事業)	元気高齢者づくり事業	家族介護用品支給事業
		40.3	35.1	29.3	22.6	21.1
	総合事業対象者 (n=19)	元気高齢者づくり事業	いきいき百歳体操推進事業	配食サービス事業／通所型短期集中介護予防サービス事業	高齢者見守り事業	
		42.1	36.8	31.6		26.3
	要支援1・2 (n=151)	配食サービス事業	高齢者見守り事業	認知症総合支援事業(認知症の人と家族を支える事業)／軽度生活援助事業	通所型短期集中介護予防サービス事業	
		39.1	28.5	19.9		17.2

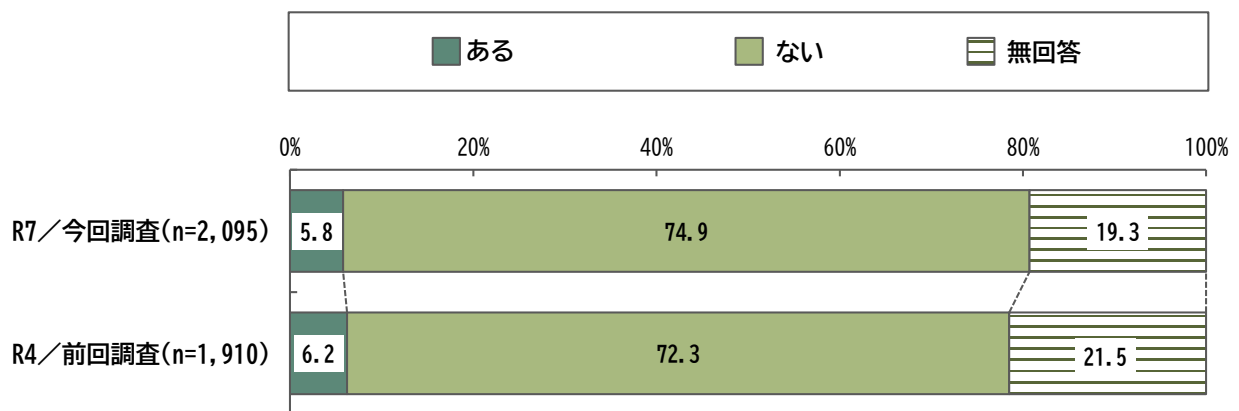
問 15（２）前問の事業以外に、介護予防に関することで力を入れてほしいことはありますか。（１つだけ）

【全体の傾向】

力を入れてほしい介護予防事業の有無についてみると、「ある」が 5.8%、「ない」が 74.9%となっています。また、「ある」と回答した方の具体的な内容としては、「医療体制の充実・健康な体づくりの講習や食育」や「交流の場や機会づくり」、「経済的支援」などが求められています。

前回調査と比較すると、「ない」が 2.6 ポイント増加しています。

図表 138 力を入れてほしい介護予防事業の有無（全体、前回比較）



介護予防に関して力を入れてほしいこと（記述）	件数
医療体制の充実・健康な体づくりの講習や食育	14
交流の場や機会づくり	10
経済的支援	9
相談窓口や情報提供の充実	9
住環境の支援（高齢者住宅、道路の整備）	9
移動支援	7
介護する家族へのサポート（会社のサポート、市のサポート）	4

16 福祉・介護予防などに関する名称、用語について

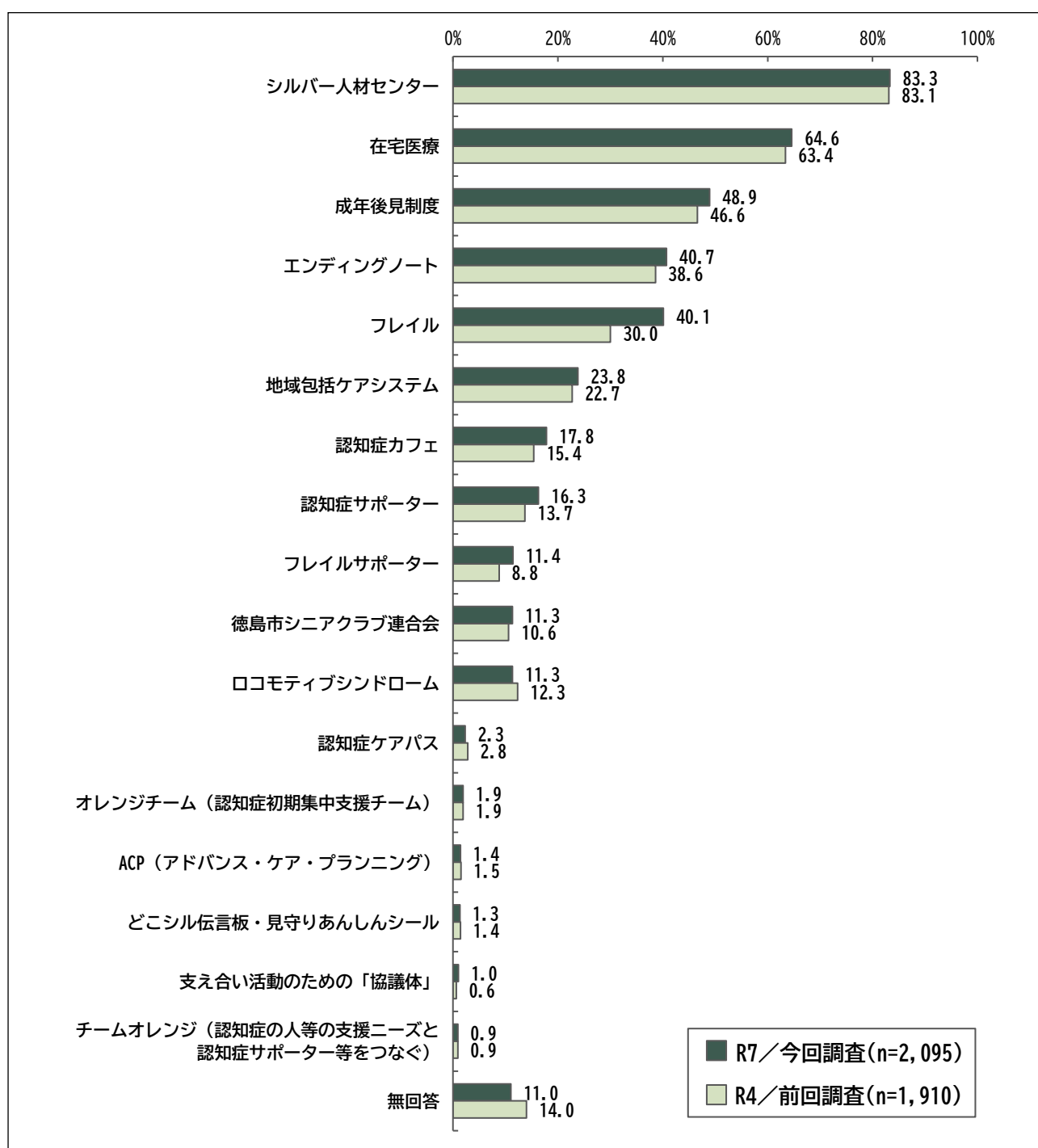
問 16（１）次の名称や用語について、知っているものを教えてください。（いくつでも）

【全体の傾向】

福祉・介護予防に関する名称・用語の認知度についてみると、「シルバー人材センター」が83.3%と最も高く、次いで「在宅医療」（64.6%）、「成年後見制度」（48.9%）、「エンディングノート」（40.7%）、「フレイル」（40.1%）となっています。

前回調査と比較すると、「フレイル」を知っている人が10.1ポイント増加しています。

図表 139 福祉・介護予防に関する名称・用語の認知度（全体、前回比較／複数回答）



17 評価項目別の判定結果

・リスク判定方法

	問NO.	質問項目	該当する選択肢
運動器の機能低下	問2（1）	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
	問2（2）	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
	問2（3）	15分位続けて歩いていますか	「3. できない」
	問2（4）	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 or 「2. 1度ある」
	問2（5）	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 or 「2. やや不安である」
転倒リスク	問2（4）	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 or 「2. 1度ある」
閉じこもり傾向	問2（6）	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 or 「2. 週1回」
低栄養状態	問3（1）	身長、体重	BMI < 18.5
	問3（7）	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
口腔機能低下	問3（2）	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
	問3（3）	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
	問3（4）	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
認知機能低下	問4（1）	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
うつ傾向	問8（4）	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
	問8（5）	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

■判定方法・・・該当する選択肢を回答した場合を1点としたときの合計点、または該当選択肢を回答した場合

- ①運動器の機能低下・・・該当：3点以上
- ②転倒リスク・・・・・・該当：該当選択肢を回答した場合
- ③閉じこもり傾向・・・・該当：該当選択肢を回答した場合
- ④低栄養状態・・・・・・該当：2点
- ⑤口腔機能低下・・・・・・該当：2点以上
- ⑥認知機能の低下・・・・該当：該当選択肢を回答した場合
- ⑦うつ傾向・・・・・・該当：1点以上

（１）運動器の機能低下

【全体の傾向】

運動器機能低下の該当者の割合は 18.6%となっています。

前回調査と比較すると、該当者が 4.2 ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、女性（21.6%）が男性（14.5%）を 7.1 ポイント上回っています。

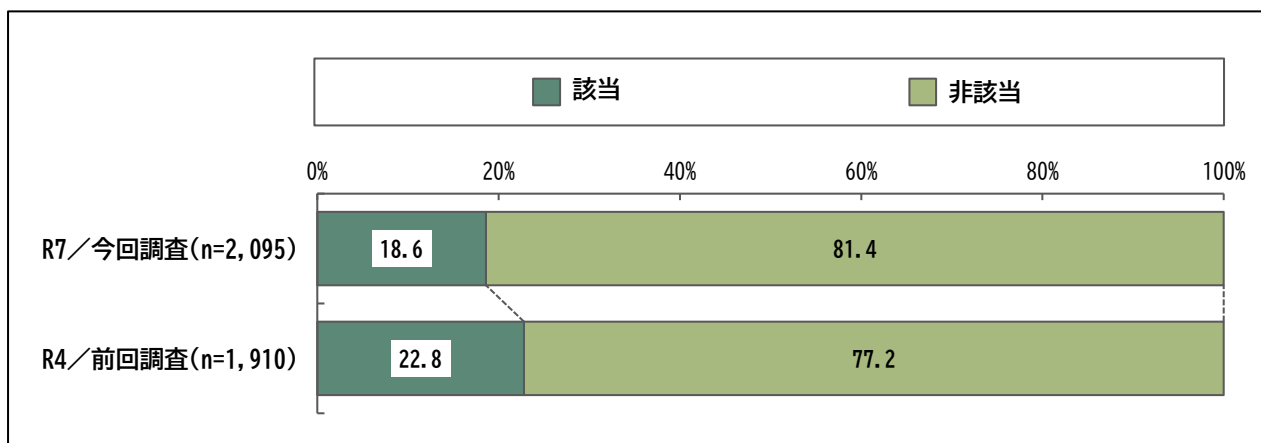
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（25.7%）が、前期高齢者（9.1%）を 16.6 ポイント上回っています。

認定状況別にみた該当者の割合は、一般高齢者（14.4%）および総合事業対象者（26.3%）と要支援 1・2（70.9%）とで大差がみられます。

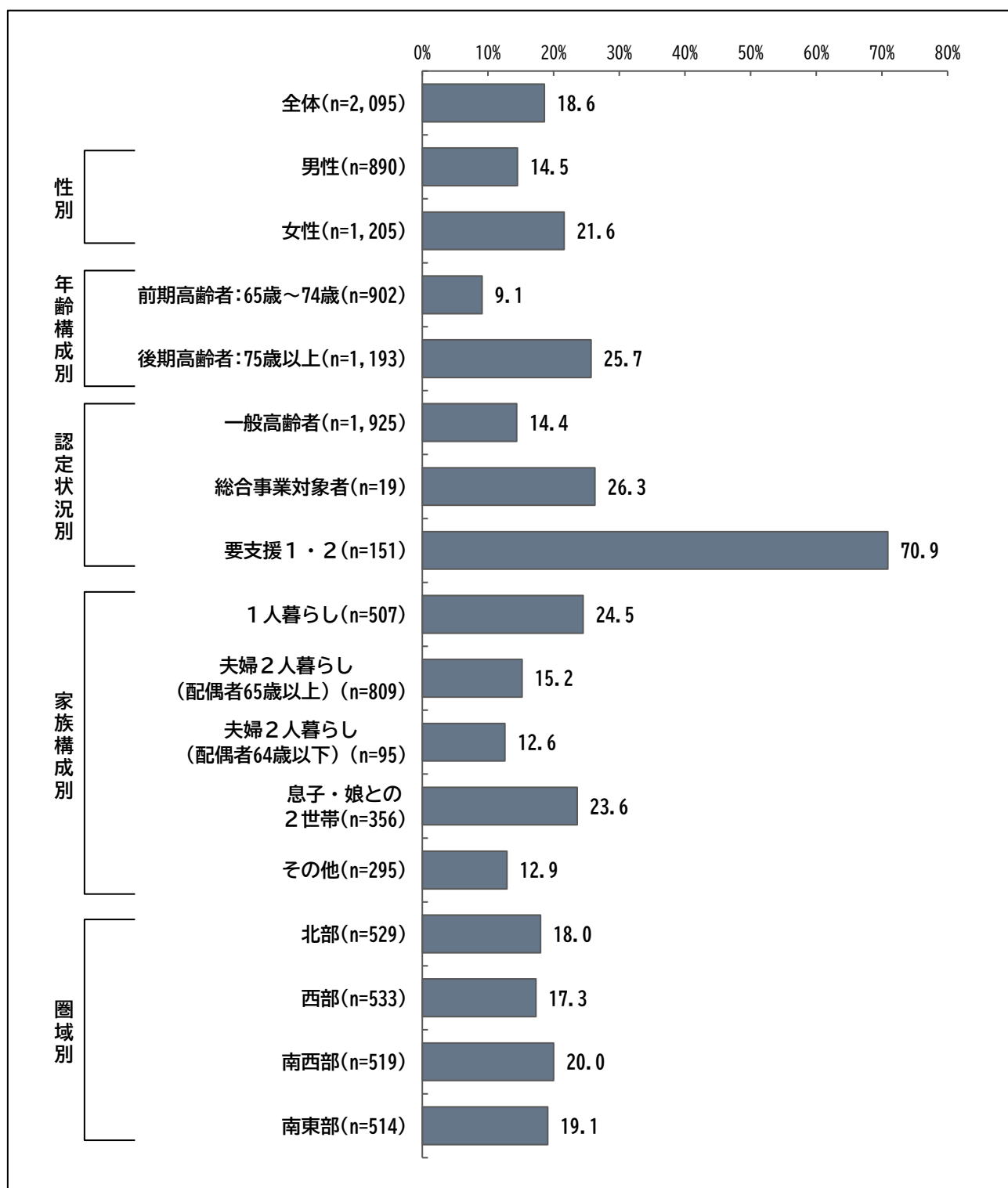
家族構成別にみた該当者の割合は、1 人暮らし、息子・娘との 2 世帯が 2 割を超えています。

圏域別にみた該当者の割合は、南西部が 20.0%と最も高くなっています。

図表 140 運動器の機能低下の該当者の割合（全体、前回比較）



図表 141 運動器の機能低下の該当者の割合
(全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



(2) 転倒リスク

【全体の傾向】

転倒リスク該当者の割合は 35.7%となっています。

前回調査と比較すると、該当者が 1.5 ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、女性（37.9%）が男性（32.7%）を 5.2 ポイント上回っています。

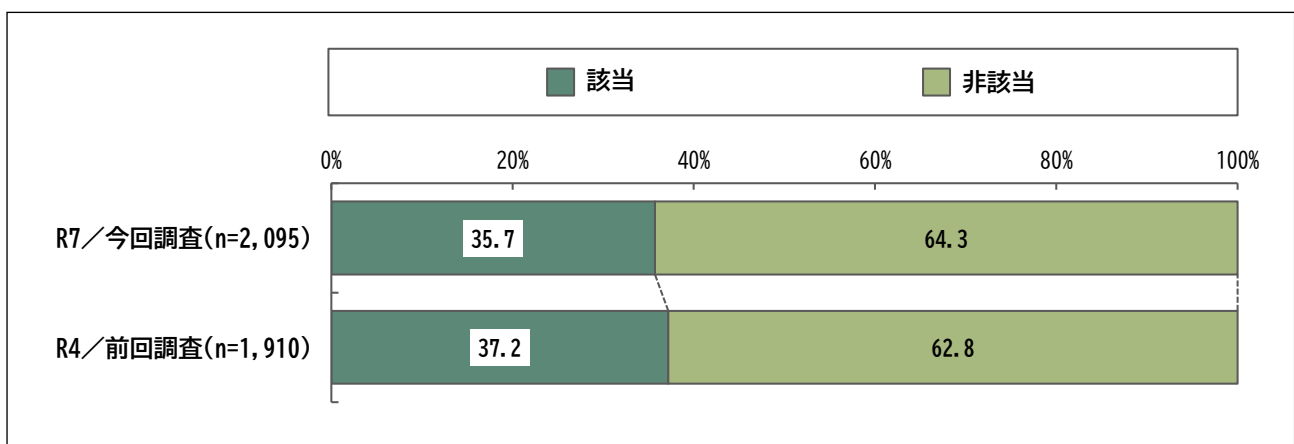
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（40.1%）が前期高齢者（29.9%）を 10.2 ポイント上回っています。

認定状況別にみた一般高齢者（33.8%）と総合事業対象者（57.9%）および要支援 1・2（57.6%）とで差がみられます。

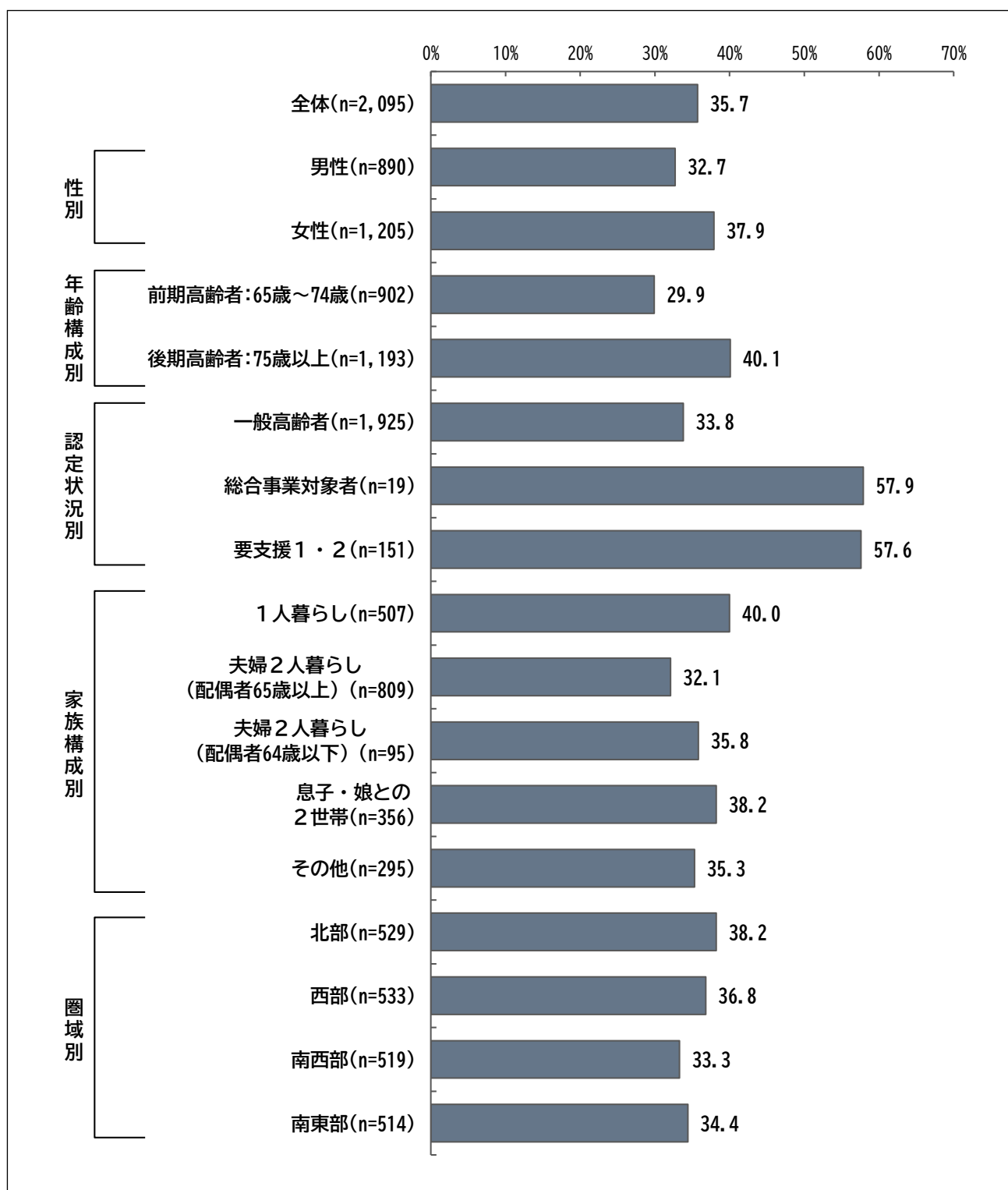
家族構成別にみた該当者の割合は、1 人暮らしが 40.0%と最も高くなっています。

圏域別にみると、北部が 38.2%と最も高くなっています。

図表 142 転倒リスク該当者の割合（全体、前回比較）



図表 143 転倒リスク該当者の割合
(全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



（３）閉じこもり傾向

【全体の傾向】

閉じこもり傾向の該当者の割合は、17.5%となっています。

前回調査と比較すると、該当者が4.4ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、女性（19.4%）が男性（14.8%）を4.6ポイント上回っています。

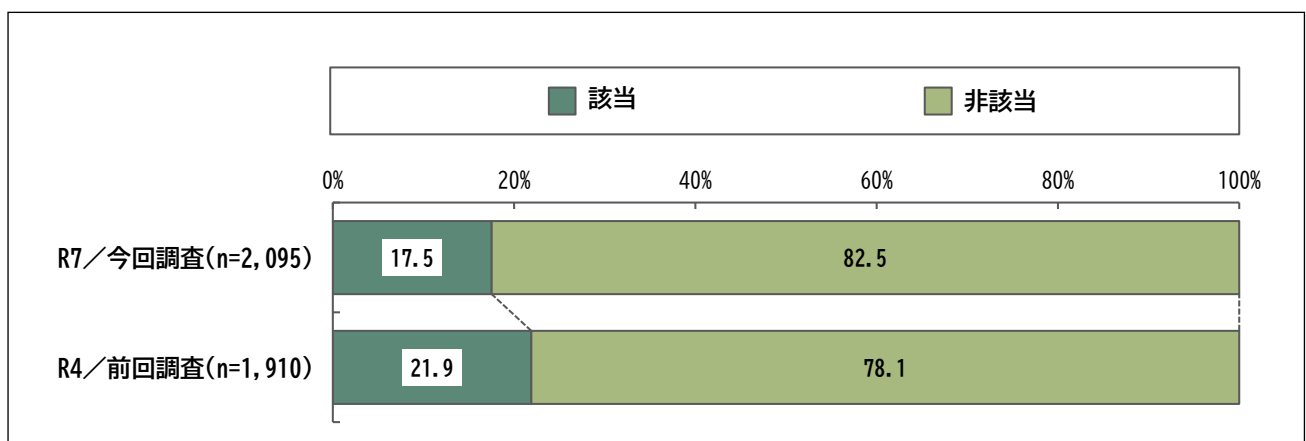
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（23.9%）が前期高齢者（9.0%）を14.9ポイント上回っています。

認定状況別にみた該当者の割合は、要支援１・２が41.1%と最も高くなっています。

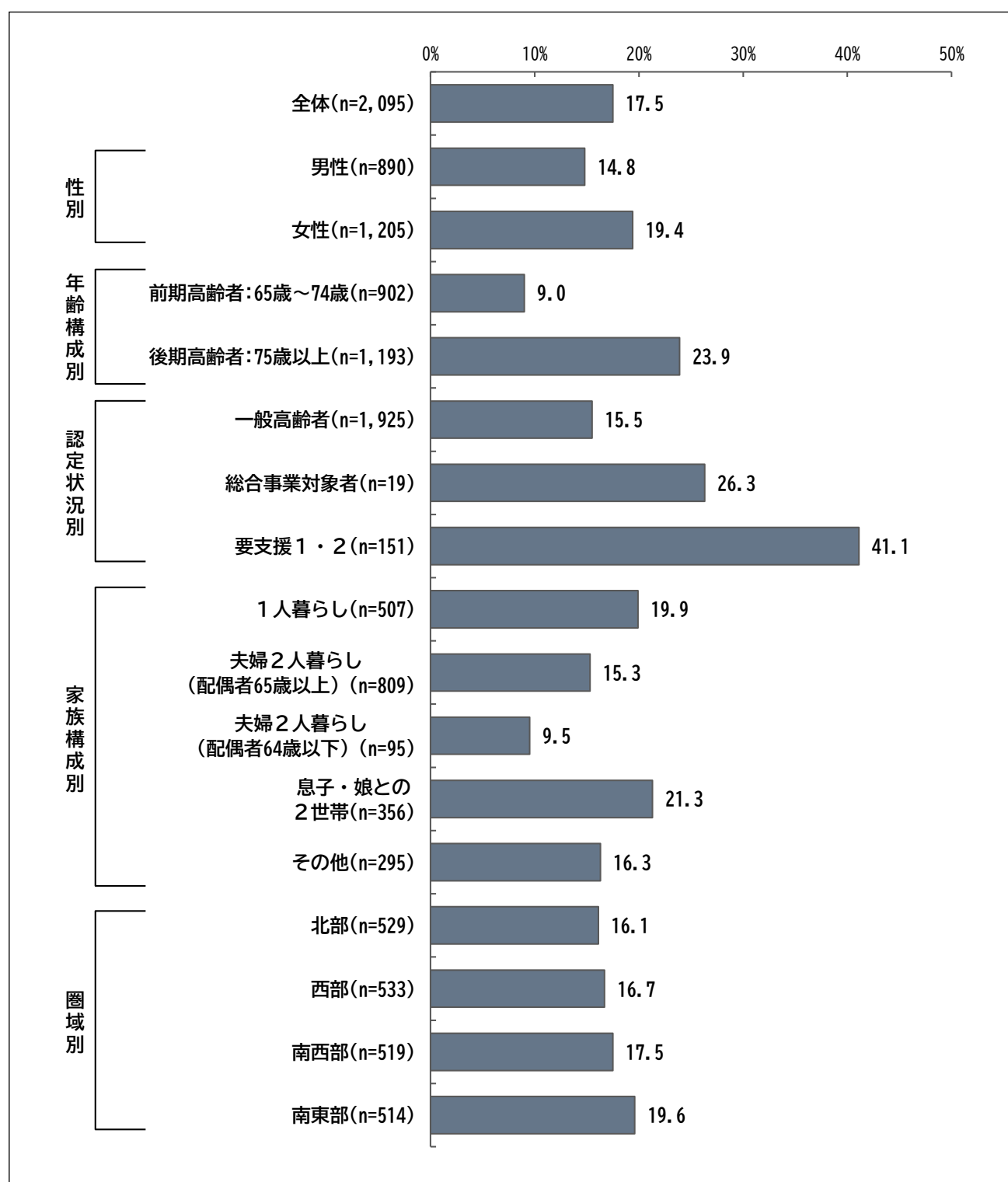
家族構成別にみた該当者の割合は、息子・娘との２世帯が21.3%と最も高くなっています。

圏域別にみた該当者の割合は、南東部が19.6%と最も高くなっています。

図表 144 閉じこもり傾向の該当者の割合（全体、前回比較）



図表 145 閉じこもり傾向の該当者の割合
(全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



（４）低栄養状態

【全体の傾向】

低栄養状態の該当者の割合は 2.0%となっています。

前回調査と比較すると、該当者が 0.2 ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、女性（2.0%）が男性（1.9%）を 0.1 ポイント上回っています。

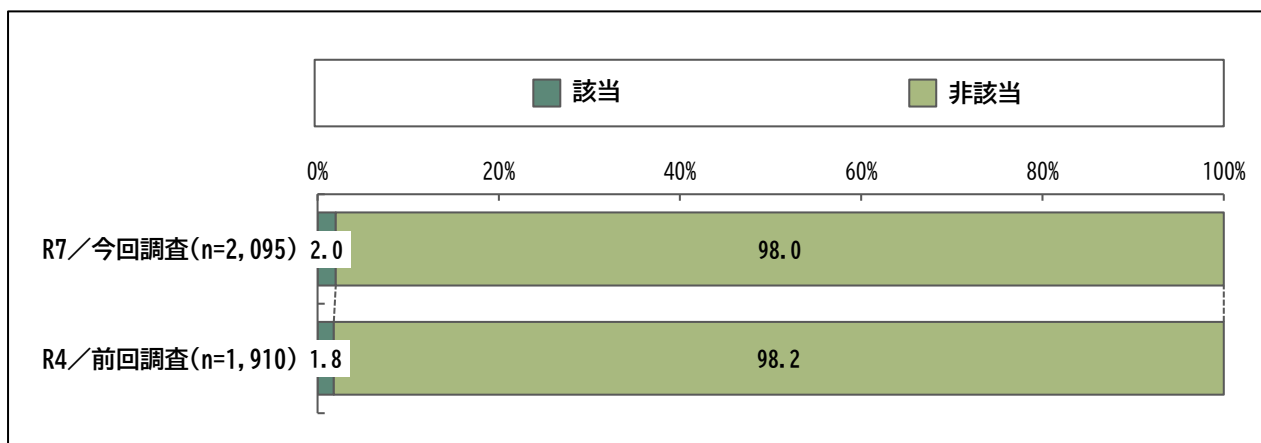
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（2.4%）が、前期高齢者（1.3%）を 1.1 ポイント上回っています。

認定状況別にみた該当者の割合は、総合事業対象者が 10.5%と最も高くなっています。

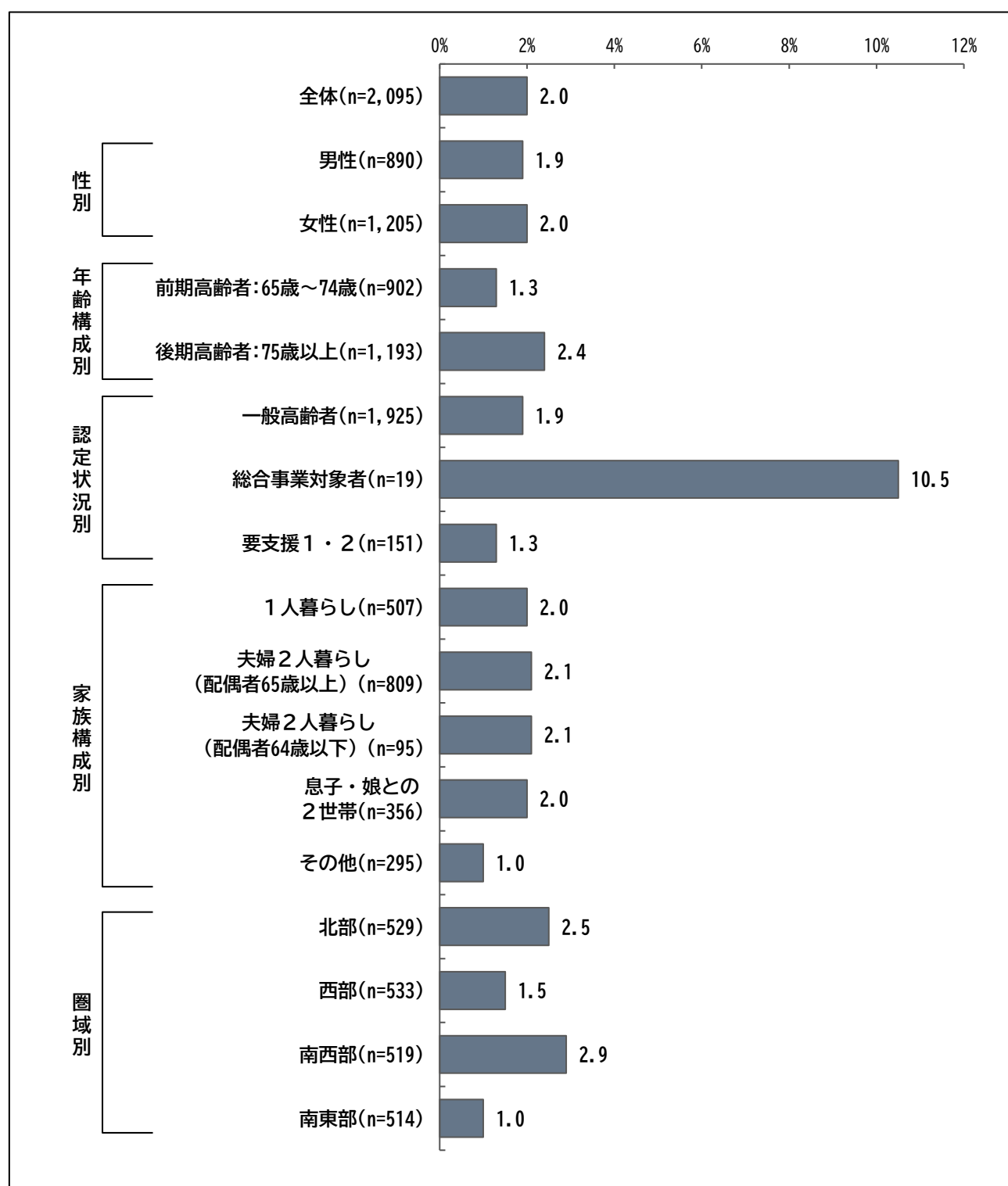
家族構成別にみた該当者の割合は、夫婦 2 人暮らしでは配偶者の年齢に関わらず 2.1%と最も高くなっています。

圏域別にみた該当者の割合は、南西部が 2.9%と最も高くなっています。

図表 146 低栄養状態の該当者の割合（全体、前回比較）



図表 147 低栄養状態の該当者の割合
(全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



（５）口腔機能低下

【全体の傾向】

口腔機能低下の該当者の割合は 29.9%となっています。

前回調査と比較すると、該当者が 2.0 ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、男性（30.3%）が女性（29.6%）を 0.7 ポイント上回っています。

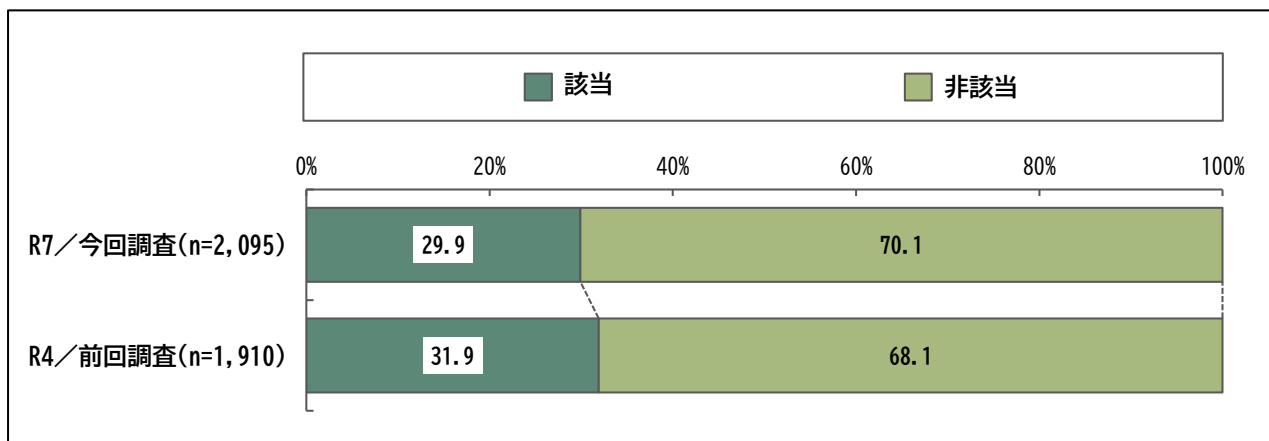
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（33.6%）が、前期高齢者（25.1%）を 8.5 ポイント上回っています。

認定状況別にみた該当者の割合は、要支援１・２が 57.6%と最も高くなっています。

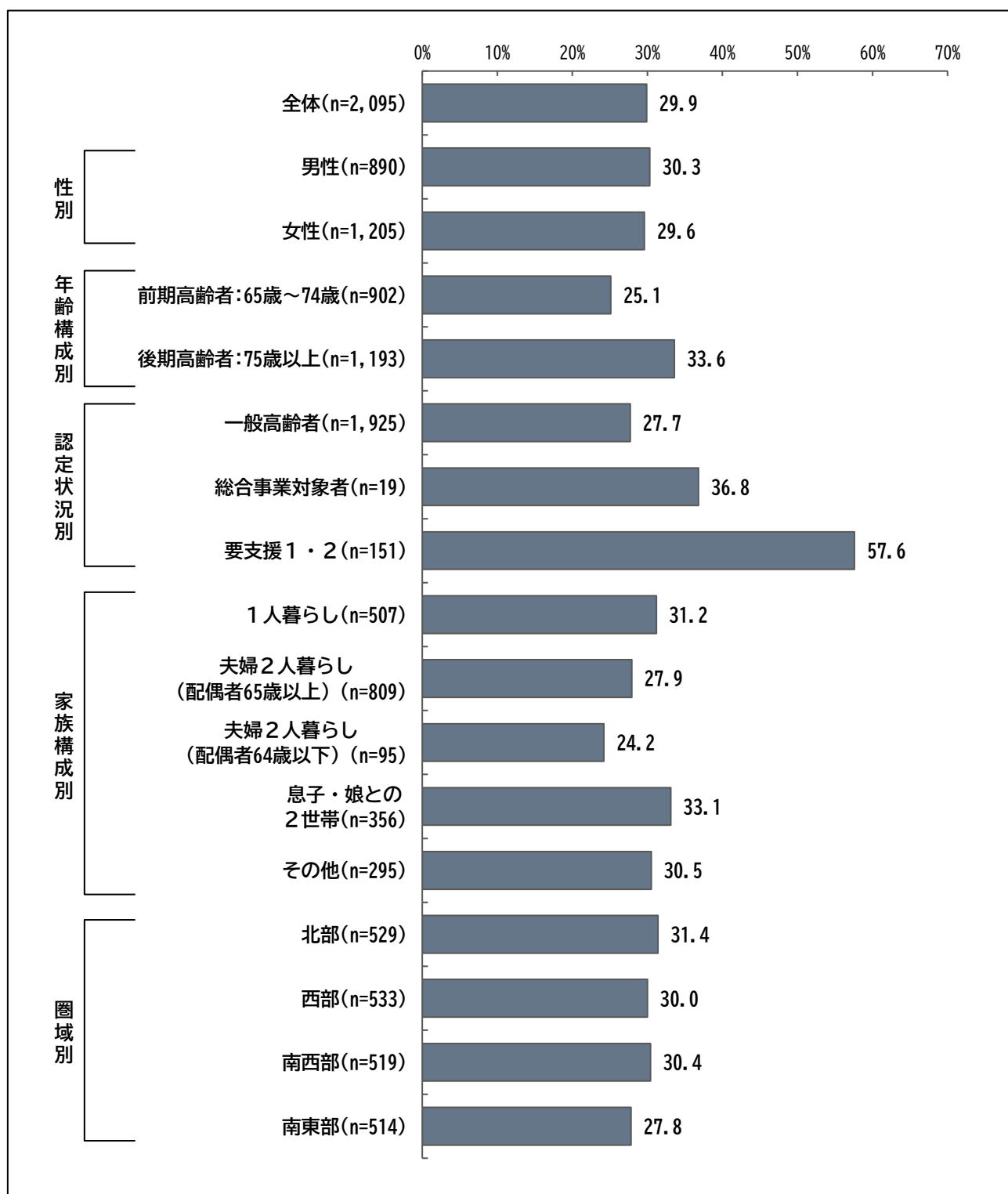
家族構成別にみた該当者の割合は、息子・娘との２世帯が 33.1%と最も高くなっています。

圏域別にみた該当者の割合は、北部が 31.4%と最も高くなっています。

図表 148 口腔機能低下の該当者の割合（全体、前回比較）



図表 149 口腔機能低下の該当者の割合
(全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



（６）認知機能の低下

【全体の傾向】

認知機能低下の該当者の割合は、48.7%となっています。

前回調査と比較すると、該当者が1.0ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、男性（49.2%）が女性（48.4%）を0.8ポイント上回っています。

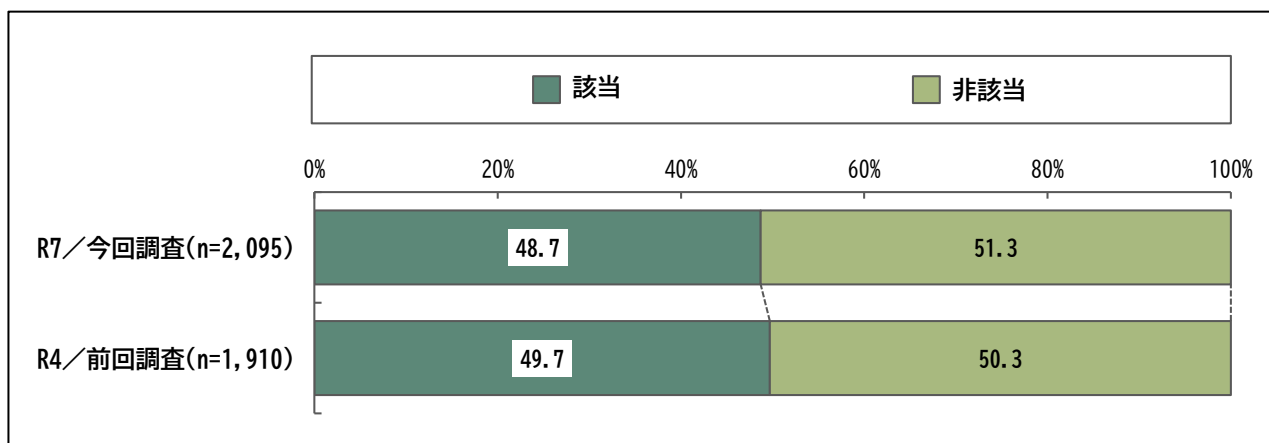
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（51.0%）が前期高齢者（45.7%）を5.3ポイント上回っています。

認定状況別にみた該当者の割合は、要支援１・２が66.9%と最も高くなっています。

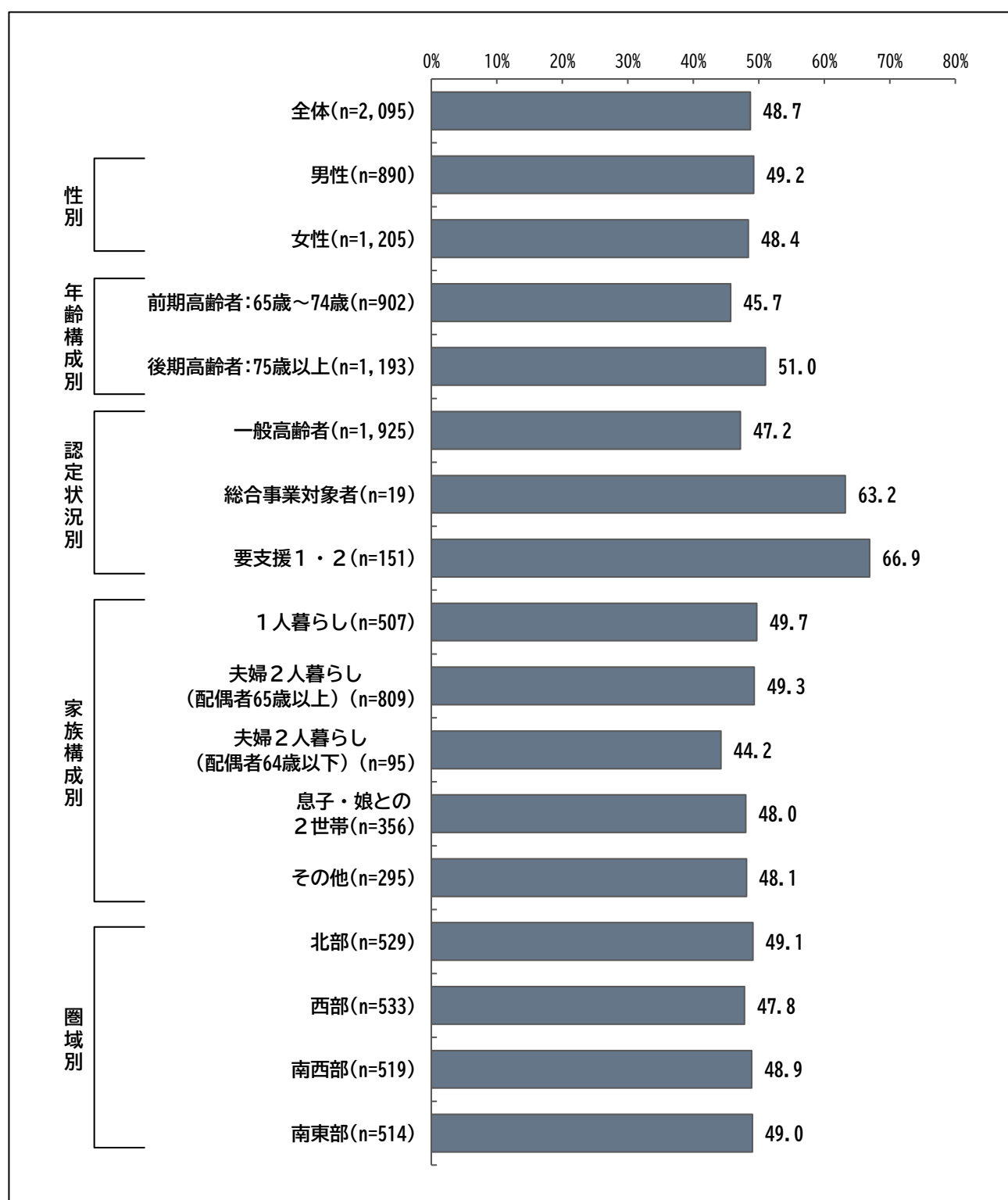
家族構成別にみた該当者の割合は、１人暮らしが49.7%と最も高くなっています。

圏域別にみた該当者の割合は、北部が49.1%と最も高くなっています。

図表 150 認知機能の低下の該当者の割合（全体、前回比較）



図表 151 認知機能の低下の該当者の割合
(全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



(7) うつ傾向

【全体の傾向】

うつ傾向の該当者の割合は、46.3%となっています。

前回調査と比較すると、該当者が0.4ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、女性（48.7%）が男性（43.0%）を5.7ポイント上回っています。

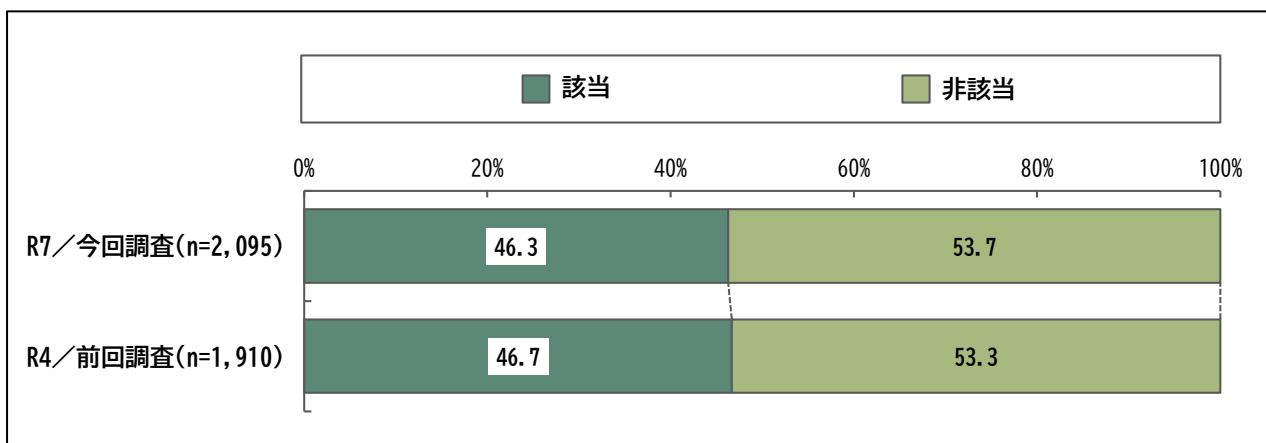
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（46.4%）が前期高齢者（46.2%）を0.2ポイント上回っています。

認定状況別にみた該当者の割合は、総合事業対象者が63.2%と最も高くなっています。

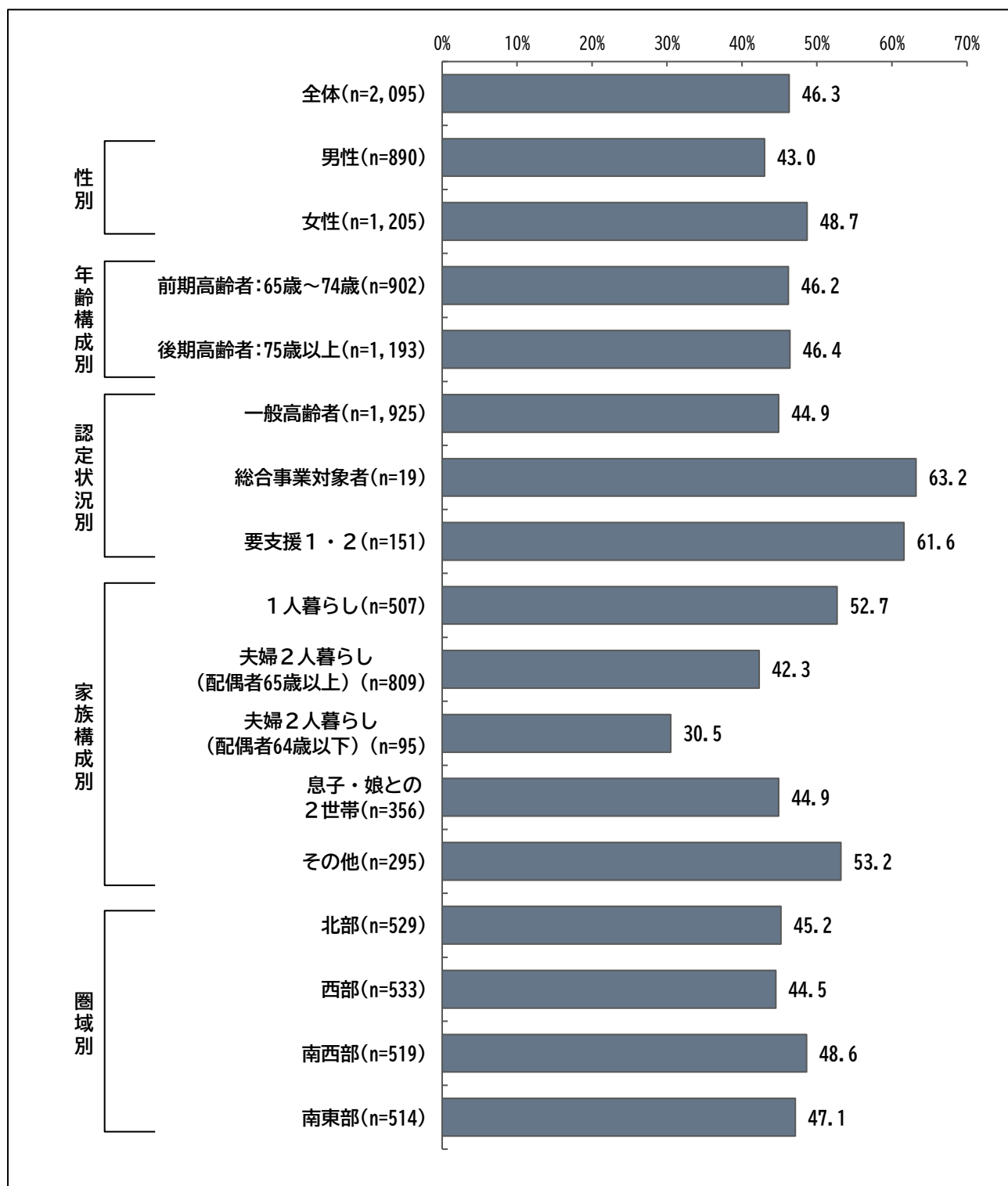
家族構成別にみた該当者の割合は、1人暮らし、その他が5割を超えています。

圏域別にみた該当者の割合は、南西部が48.6%と最も高くなっています。

図表 152 うつ傾向の該当者の割合（全体、前回比較）



図表 153 うつ傾向の該当者の割合
(全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



・判定方法（老研式活動能力指標）

① IADL（老研指標）

設問		選択肢
問4（4）	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「1. できるし、している」 or 「2. できるけどしていない」 1点
問4（5）	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問4（6）	自分で食事の用意をしていますか	
問4（7）	自分で請求書の支払いをしていますか	
問4（8）	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

○5点：高い

○4点：やや低い

○0～3点：低い

②社会参加

・知的能動性（老研指標）

設問		選択肢
問4（9）	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「1. はい」：1点
問4（10）	新聞を読んでいますか	
問4（11）	本や雑誌を読んでいますか	
問4（12）	健康についての記事や番組に関心がありますか	

○4点：高い

○3点：やや低い

○0～2点：低い

・社会的役割（老研指標）

設問		選択肢
問4（13）	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」：1点
問4（14）	家族や友人の相談にのっていますか	
問4（15）	病人を見舞うことができますか	
問4（16）	若い人に自分から話しかけることがありますか	

○4点：高い

○3点：やや低い

○0～2点：低い

(8) IADL－手段的日常生活動作

【全体の傾向】

IADLのスコアについては、「高い（５点）」が84.0%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「高い（５点）」が2.9ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

性別にみると、「高い（５点）」は、女性（86.3%）が男性（80.9%）を5.4ポイント上回っています。

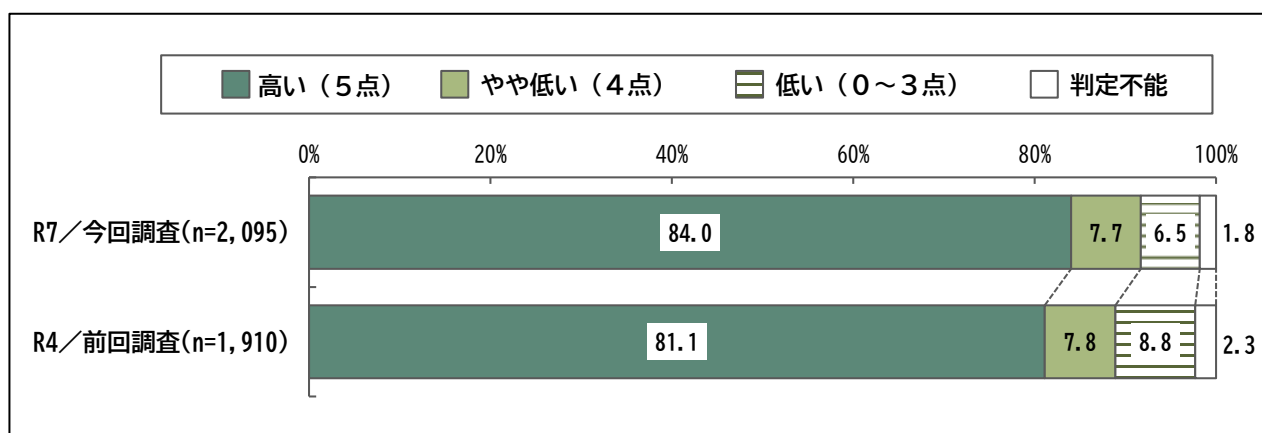
年齢構成別にみると「高い（５点）」は、前期高齢者（92.4%）が後期高齢者（77.7%）を14.7ポイント上回っています。

認定状況別にみると、「高い（５点）」は、一般高齢者が86.5%と最も高くなっています。また、「低い（０～３点）」は要支援１・２で29.8%と最も高くなっています。

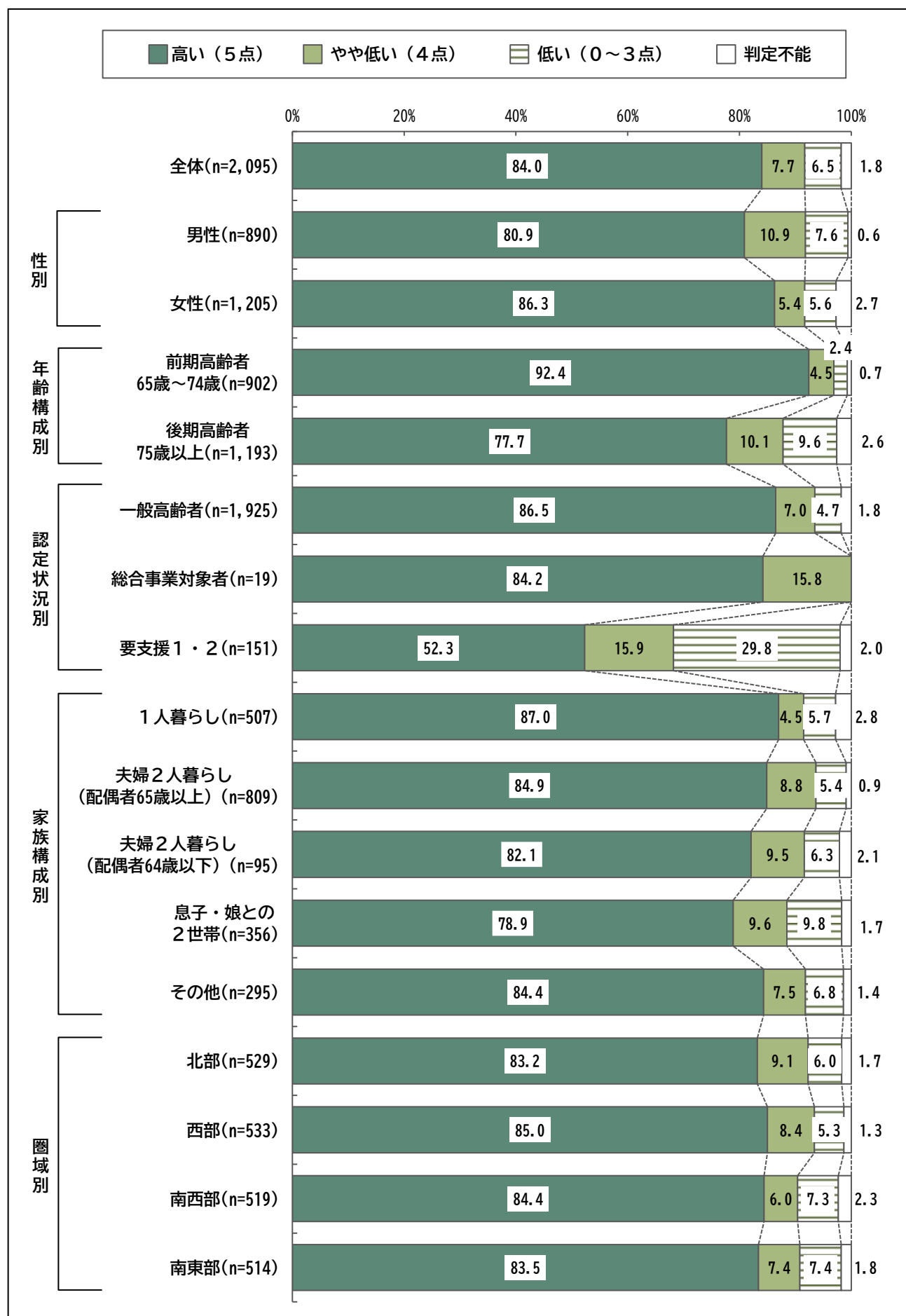
家族構成別にみると、「高い（５点）」は１人暮らしが87.0%と最も高くなっています。一方、息子・娘との２世帯では78.9%と８割を下回っています。

圏域別にみると、いずれの圏域も「高い（５点）」が８割を超えており、西部では85.0%と最も高くなっています。

図表 154 IADL（全体、前回比較）



図表 155 IADL（全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別）



(9) 知的能動性

【全体の傾向】

知的能動性のスコアについては、「高い（４点）」が 50.6%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「高い（４点）」が 3.4 ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

性別にみると、「高い（４点）」は、女性（53.0%）が男性（47.3%）を 5.7 ポイント上回っています。

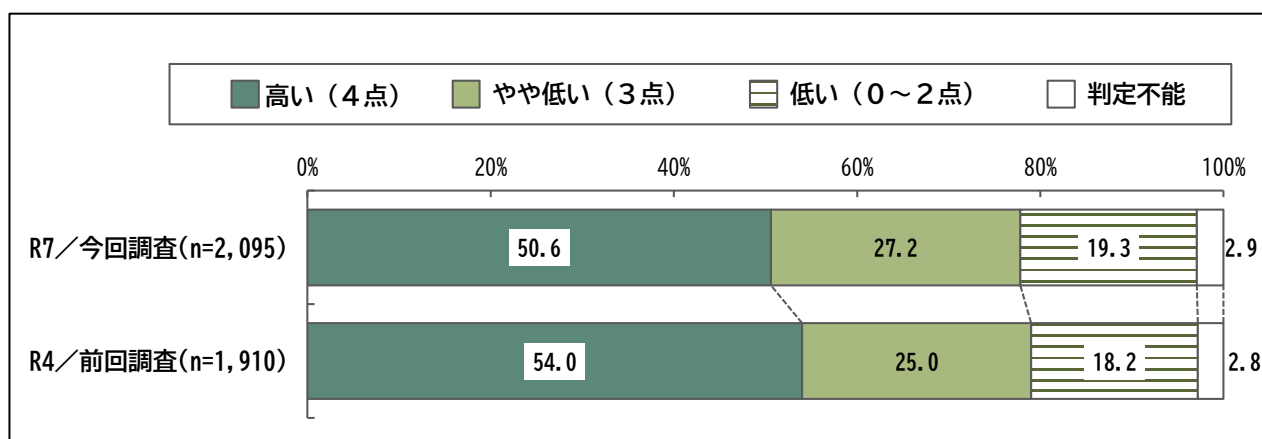
年齢構成別にみると、「高い（４点）」は、前期高齢者（52.1%）が後期高齢者（49.5%）を 2.6 ポイント上回っています。

認定状況別にみると、「高い（４点）」は、一般高齢者、総合事業対象者では５割を超えているのに対し、要支援１・２では 35.1%にとどまっています。

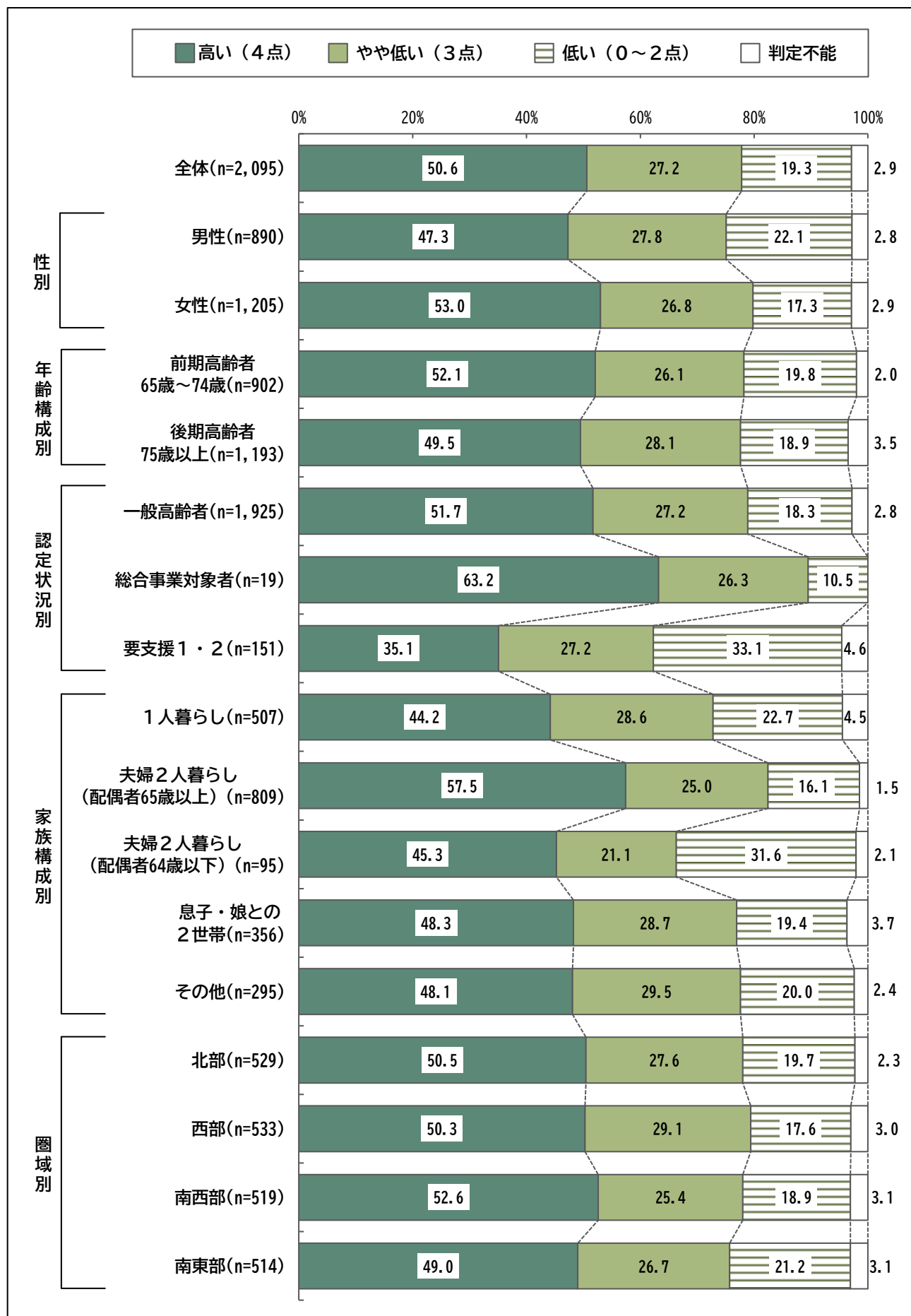
家族構成別にみると、「高い（４点）」は、夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）が 57.5%と最も高くなっています。

圏域別にみると、「高い（４点）」は、南西部が 52.6%と最も高くなっています。

図表 156 知的能動性（全体、前回比較）



図表 157 知的能動性（全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別）



(10) 社会的役割

【全体の傾向】

社会的役割のスコアについては、「低い（0～2点）」が35.9%と最も高く、次いで「高い（4点）」が30.7%、「やや低い（3点）」が29.4%となっています。

前回調査と比較すると、「高い（4点）」が0.8ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

性別にみると、男性では「低い（0～2点）」が43.1%と最も高く、女性では「高い（4点）」が36.2%最も高くなっています。

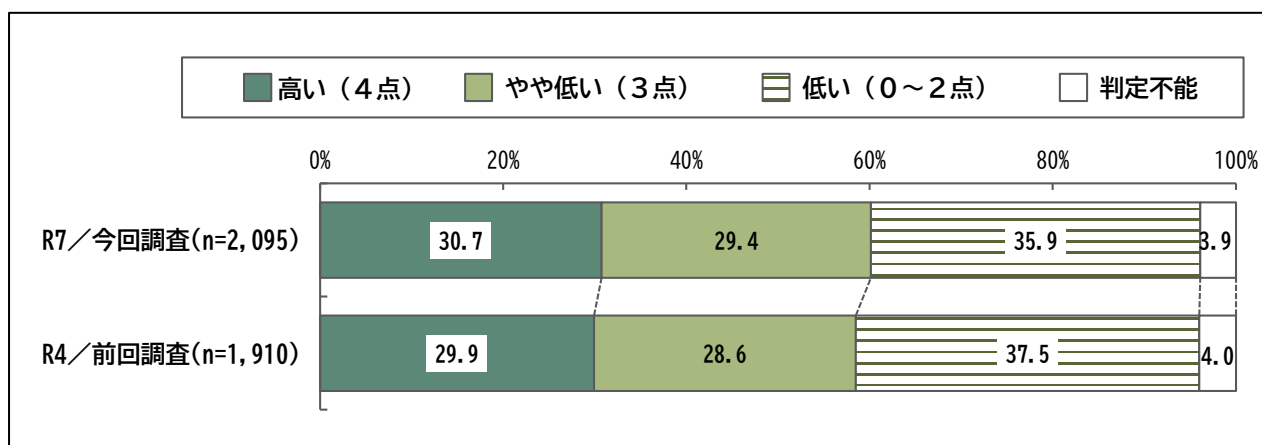
年齢構成別にみると、前期高齢者では、「高い（4点）」が34.1%と最も高く、後期高齢者では「低い（0～2点）」が39.7%と最も高くなっています。

認定状況別にみると、要支援1・2では「低い（0～2点）」が64.2%と最も高くなっています。

家族構成別にみると、1人暮らしでは「低い（0～2点）」が42.2%と最も高くなっています。

圏域別にみると、西部を除くすべての圏域で「低い（0～2点）」が最も高く、西部では「高い（4点）」が最も高くなっています。

図表 158 社会的役割（全体、前回比較）



図表 159 社会的役割（全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別）

